東北大学

ISSN 2185-6990

東北大学埋蔵文化財調査室調査報告 7

仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区 第 14 地点

第 1 分冊

仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第 14 地点（BK14）
北西から仙台市街地を望む

東北大学埋蔵文化財調査室

2019

東北大学埋蔵文化財調査室調査報告７

仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区
第14地点

第１分冊

東北大学埋蔵文化財調査室

２０１９

１．１・２区の調査終了状況全景（右が北）

２．５～７区の調査終了状況全景（右が北）

序

本報告書は、『東北大学埋蔵文化財調査室調査報告』の７冊目として、川内北キャンパスにおける川内駅前広場整備工事に伴い実施した、仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点の調査成果をまとめたものです。

今回報告する仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点の調査は、東日本大震災により調査着手が遅れ、他の調査現場と並行しながら時間をかけて実施したものです。今回の調査では、江戸時代の居住施設である建物跡のほかに、池跡や井戸跡等の生活空間を構成する様々な施設が発見されています。また、人々の生活の痕跡を示す出土遺物も、陶磁器をはじめ、漆器椀や食物残滓等の膨大な資料が発見されました。当時の生活環境を考える上で、貴重なデータが得られたものと思います。ただ、これら成果を一冊の報告書としてまとめるとなると、大部のものとなることが予想されたことから、今年度は遺構の事実記載を中心とした遺構編を刊行することとしました。来年度に、遺物編を刊行する予定です。

調査の実施から報告書の刊行まで、大学内外の関係機関の御協力を得て、滞りなく事業を進めることができました。ここに厚くお礼申し上げるとともに、本書で報告されるデータが各方面で活用されることを望むものです。

東北大学埋蔵文化財調査室

室長　藤　澤　　敦

例　言

1．本調査報告は、東北大学構内において、東北大学埋蔵文化財調査室が2011・2012・2014・2015年度に行った仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点の調査成果のうち遺構をまとめたものである。遺物及び考察については、来年度刊行の『調査報告』８にて詳述する予定である。

2．報告する遺跡と略号、調査期間、調査担当者は以下のとおりである。

遺跡と略号：仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区（BK14）

調査期間　：本　体　2011年９月１日～2012年５月31日、2015年３月１日～７月６日

関連区　2015年７月22日～11月13日

調査面積　：本体954㎡、関連区18.8㎡

調査担当者：菅野智則、柴田恵子、藤沢　敦（2011年度）、石橋　宏（2015年度）

3．調査・整理作業は、東北大学埋蔵文化財調査室が行った。

4．本報告の編集・執筆は、菅野智則・柴田恵子・石橋宏が担当した。執筆分担は下記のとおりである。

第Ⅰ章　石橋

第Ⅱ章２（５）以外、第Ⅲ章、第Ⅳ章　菅野

第Ⅱ章２（５）　柴田

5．英文要旨については、菅野智則・柴田恵子が作成した。

6．本調査区名の正式な名称は、仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点であるが、本文中では省略して武家屋敷地区第14地点と表記する。

7．これまでに、本調査の概要は『年次報告』2011・2015、「平成27年度宮城県遺跡調査成果発表会」（宮城県考古学会主催、2017年12月12日開催）にて公表してきた。それらの内容より、本報告書の内容が優先する。

8．発掘調査および整理・本報告書作成にあたっては、以下の方々や関係機関から御指導・御協力を賜った。記して感謝申しあげる（敬称略）。

仙台市教育委員会、宮城県教育委員会、東北大学大学院文学研究科考古学研究室、

阿子島香・鹿又喜隆（東北大学）、佐藤源之（東北アジア研究センター）、田中則和

9．出土遺物・調査記録は、東北大学埋蔵文化財調査室で保管・管理している。

凡　例

1．図１・２の背景の元図は、国土地理院発行の１万分の１地形図（『青葉山』）を使用した。図３－１の空中写真は、太平洋戦争末期米軍撮影偵察写真（米国国立公文書館所蔵、国土地理院提供）1945（昭和20）年５月24日撮影のものである。図３のほかの地形図と図４・５の絵図・地形図の出典は、それぞれに示した。また、図７で使用している川内北地区の地形測量図は、仙台市教育委員会作成の「仙台城跡地形図」（縮尺500分の１）を使用している。

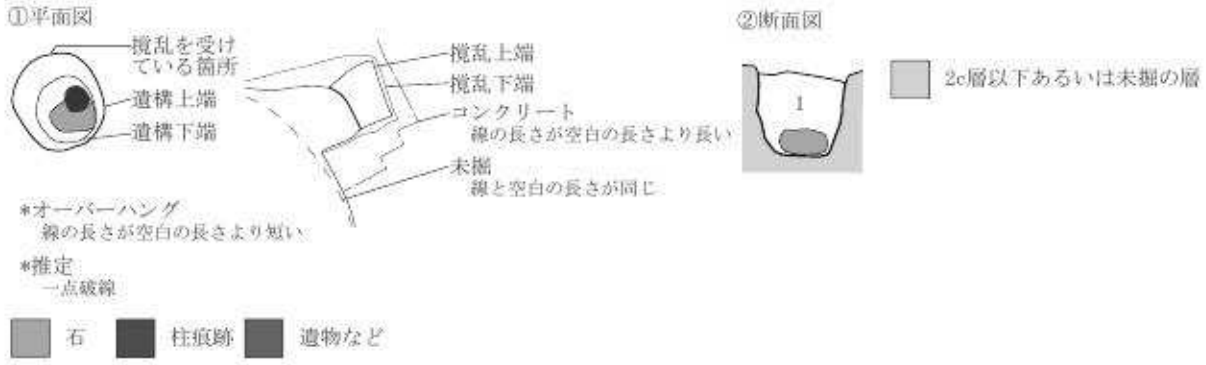
2．挿図・写真等の方位、縮尺等は、それぞれに示した。

3．引用・参考文献は、巻末にまとめた。また、本文中で当室が刊行した報告書類を引用する際には、下記のように略した。

例　『東北大学埋蔵文化財調査年報』１　…　『年報』１
『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告』2008　…　『年次報告』2008
『東北大学埋蔵文化財調査報告』１　…　『調査報告』１

4．元号と西暦の標記は、通常は「西暦（元号）年」（例えば「2015（平成27）年」）と表記する。ただし、その章で近世・近代が主体となる場合は、「元号（西暦）年」（例えば「天明６（1786）年」）と表記する。

5．挿図中の表記は、特に指示しないものについては、以下の通りである。これら以外については、それぞれに表記している。



目　次

巻頭カラー図版
序
例言
凡例
目次
図目次
表目次
写真図版目次
第Ⅰ章　仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区の立地と歴史 …… 1
　1．仙台城と周辺武家屋敷の立地 …… 1
　2．仙台城と仙台城下の武家屋敷 …… 1
　（1）仙台城の歴史 …… 1
　（2）仙台城周辺の武家屋敷の変遷 …… 5
　（3）調査区と屋敷地との対応 …… 7
　3．仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区におけるこれまでの調査 …… 10
第Ⅱ章　調査の方法と経過 …… 17
　1．調査地点の位置と調査に至る経緯 …… 17
　2．調査の方法と経過 …… 17
　（1）発掘調査の経過 …… 17
　（2）記録方法 …… 20
　（3）遺構の名称について …… 20
　（4）遺物の取り上げについて …… 21
　（5）整理作業 …… 21
第Ⅲ章　基本層序と時期区分 …… 33
　1．基本層序 …… 33
　2．遺構の時期比定と段階区分 …… 41
　3．近代以降の様相 …… 42
第Ⅳ章　検出遺構 …… 45
　1．遺構の変遷 …… 45
　2．各時期の遺構 …… 45
　（1）Ⅰ期の遺構 …… 45
　（2）Ⅰ～Ⅱb期の遺構 …… 64
　（3）Ⅰ～Ⅲ期の遺構 …… 67
　（4）Ⅱa期の遺構 …… 73
　（5）Ⅱa～Ⅱb期の遺構 …… 79
　（6）Ⅱb期の遺構 …… 79
　（7）Ⅱb～Ⅲ期の遺構 …… 87
　（8）Ⅲ期の遺構 …… 87
　（9）時期不明の遺構 …… 98
　（10）関連区の遺構 …… 98
　3．小結 …… 102
引用・参考文献 …… 103
東北大学埋蔵文化財調査室刊行報告書一覧 …… 104
英文要旨 …… 106
写真図版 …… 107
報告書抄録

図　目　次

図1　仙台城周辺の地形区分図 …… 2
図2　仙台城と二の丸の位置 …… 3
図3　川内地区周辺の地形 …… 6
図4　川内地区周辺の絵図・地図（1）…… 8
図5　川内地区周辺の絵図・地図（2）…… 9
図6　武家屋敷地区第14地点周辺の武家屋敷の変遷 …… 12
図7　川内北地区調査地点 …… 18
図8　武家屋敷地区第14地点調査区配置図 …… 19
図9　武家屋敷地区第14地点1～4区の土層断面 …… 34
図10　武家屋敷地区第14地点5・6区の土層断面 …… 35
図11　武家屋敷地区第14地点7区の土層断面 …… 36
図12　武家屋敷地区第14地点関連区 …… 37
図13　武家屋敷地区第14地点関連区の土層断面（1）…… 38
図14　武家屋敷地区第14地点関連区の土層断面（2）…… 39
図15　武家屋敷地区第14地点撹乱除去状況および層の分布 …… 40
図16　特徴的な土層 …… 41
図17　BG～BI区における遺構の変遷 …… 42
図18　近現代の建物基礎・防空壕 …… 43
図19　武家屋敷地区第14地点で確認した防空壕 …… 44
図20　1～6（西）区Ⅰ期遺構配置図 …… 46
図21　6（東）・7区Ⅰ期遺構配置図 …… 47
図22　Ⅰ期の遺構（1）…… 48
図23　Ⅰ期の遺構（2）…… 49
図24　Ⅰ期の遺構（3）…… 50
図25　Ⅰ期の遺構（4）…… 51
図26　Ⅰ期の遺構（5）…… 52
図27　Ⅰ期の遺構（6）…… 53
図28　Ⅰ期の遺構（7）…… 55
図29　Ⅰ期の遺構（8）…… 56
図30　Ⅰ期の遺構（9）…… 57
図31　Ⅰ期の遺構（10）…… 58
図32　Ⅰ期の遺構（11）…… 60
図33　Ⅰ期の遺構（12）…… 61
図34　Ⅰ期の遺構（13）…… 62
図35　Ⅰ期の遺構（14）…… 63
図36　Ⅰ～Ⅱb期の遺構（1）…… 63

図37　Ⅰ～Ⅱb期の遺構（2）……65
図38　Ⅰ～Ⅱb期の遺構（3）……66
図39　Ⅰ～Ⅲ期の遺構（1）……68
図40　Ⅰ～Ⅲ期の遺構（2）……69
図41　Ⅰ～Ⅲ期の遺構（3）……70
図42　Ⅰ～Ⅲ期の遺構（4）……71
図43　Ⅰ～Ⅲ期の遺構（5）……72
図44　Ⅰ～Ⅲ期の遺構（6）……73
図45　1～6（西）区Ⅱa期遺構配置図……74
図46　6（東）・7区Ⅱa期遺構配置図……75
図47　Ⅱa期の遺構……76
図48　Ⅱa～Ⅱb期の遺構（1）……77
図49　Ⅱa～Ⅱb期の遺構（2）……78
図50　1～6（西）区Ⅱb期遺構配置図……80
図51　6（東）・7区Ⅱb期遺構配置図……81
図52　Ⅱb期の遺構（1）……82
図53　Ⅱb期の遺構（2）……83
図54　Ⅱb期の遺構（3）……84
図55　Ⅱb期の遺構（4）……85
図56　Ⅱb～Ⅲ期の遺構……86
図57　1～6（西）区Ⅲ期遺構配置図……88
図58　6（東）・7区Ⅲ期遺構配置図……89
図59　Ⅲ期の遺構（1）……90
図60　Ⅲ期の遺構（2）……91
図61　Ⅲ期の遺構（3）……92
図62　Ⅲ期の遺構（4）……93
図63　Ⅲ期の遺構（5）……94
図64　Ⅲ期の遺構（6）……95
図65　Ⅲ期の遺構（7）……96
図66　Ⅲ期の遺構（8）……97
図67　1～6（西）区時期不明遺構配置図……99
図68　6（東）・7区時期不明遺構配置図……100
図69　時期不明の遺構……101

表　目　次

表1　仙台藩の家格……11
表2　武家屋敷地区第14地点関連絵図人名……11
表3　仙台城と仙台城周辺武家屋敷の調査一覧（1）……15
表4　仙台城と仙台城周辺武家屋敷の調査一覧（2）……16
表5　遺構名称対照表（1）……22
表6　遺構名称対照表（2）……23
表7　遺構名称対照表（3）……24
表8　遺構属性表（1）……25
表9　遺構属性表（2）……26
表10　遺構属性表（3）……27
表11　遺構属性表（4）……27
表12　ピット一覧表（1）……28
表13　ピット一覧表（2）……29
表14　ピット一覧表（3）……30
表15　ピット一覧表（4）……31
表16　その他の遺構一覧表……32
表17　遺構の時期と数……45

写　真　図　版　目　次

図版1　1・2区全景（1）……109
図版2　1・2区全景（2）……110
図版3　3区全景……111
図版4　4区全景……112
図版5　5・6区全景……113
図版6　6区全景……114
図版7　7区全景（1）……115
図版8　7区全景（2）……116
図版9　5～7区全景……117
図版10　1～4区土層断面（1）……118
図版11　1～4区土層断面（2）……119
図版12　1～4区土層断面（3）……120
図版13　5～7区土層断面（1）……121
図版14　5～7区土層断面（2）……122
図版15　5～7区土層断面（3）……123
図版16　5～7区土層断面（4）・関連調査区全景・土層断面……124
図版17　関連調査区全景・土層断面……125
図版18　1・2区の建物・柱列……126
図版19　1～5区の建物・柱列……127
図版20　5区の建物・柱列・Ⅰ期の遺構（1）……128
図版21　Ⅰ期の遺構（2）……129
図版22　Ⅰ期の遺構（3）……130
図版23　Ⅰ期の遺構（4）……131
図版24　Ⅰ期の遺構（5）……132
図版25　Ⅰ期の遺構（6）……133
図版26　Ⅰ期の遺構（7）……134
図版27　Ⅰ期の遺構（8）……135

図版28　Ⅰ期の遺構（9）……136
図版29　Ⅰ期の遺構（10）……137
図版30　Ⅰ期の遺構（11）……138
図版31　Ⅰ期の遺構（12）……139
図版32　Ⅰ期の遺構（13）……140
図版33　Ⅰ期の遺構（14）……141
図版34　Ⅰ期の遺構（15）……142
図版35　Ⅰ期の遺構（16）……143
図版36　Ⅰ期の遺構（17）……144
図版37　Ⅰ期の遺構（18）……145
図版38　Ⅰ期の遺構（19）……146
図版39　Ⅰ期の遺構（20）……147
図版40　Ⅰ期の遺構（21）……148
図版41　Ⅰ期の遺構（22）……149
図版42　Ⅰ期の遺構（23）……150
図版43　Ⅰ期の遺構（24）……151
図版44　Ⅰ～Ⅱa期の遺構（1）……152
図版45　Ⅰ～Ⅱa期の遺構（2）……153
図版46　Ⅰ～Ⅱa期の遺構（3）・Ⅰ～Ⅱb期の遺構（1）……154
図版47　Ⅰ～Ⅱb期の遺構（2）……155
図版48　Ⅰ～Ⅱb期の遺構（3）……156
図版49　Ⅰ～Ⅱb期の遺構（4）……157
図版50　Ⅰ～Ⅱb期の遺構（5）……158
図版51　Ⅰ～Ⅱb期の遺構（6）……159
図版52　Ⅰ～Ⅱb期の遺構（7）……160
図版53　Ⅰ～Ⅱb期の遺構（8）……161
図版54　Ⅰ～Ⅱb期の遺構（9）……162
図版55　Ⅰ～Ⅱb期の遺構（10）……163
図版56　Ⅰ～Ⅱb期の遺構（11）……164
図版57　Ⅰ～Ⅱb期の遺構（12）……165
図版58　Ⅰ～Ⅱb期の遺構（13）……166
図版59　Ⅰ～Ⅱb期の遺構（14）……167
図版60　Ⅰ～Ⅲ期の遺構（1）……168
図版61　Ⅰ～Ⅲ期の遺構（2）……169
図版62　Ⅰ～Ⅲ期の遺構（3）……170
図版63　Ⅰ～Ⅲ期の遺構（4）……171
図版64　Ⅰ～Ⅲ期の遺構（5）……172
図版65　Ⅰ～Ⅲ期の遺構（6）……173
図版66　Ⅰ～Ⅲ期の遺構（7）……174
図版67　Ⅰ～Ⅲ期の遺構（8）……175
図版68　Ⅰ～Ⅲ期の遺構（9）……176
図版69　Ⅰ～Ⅲ期の遺構（10）……177
図版70　Ⅰ～Ⅲ期の遺構（11）……178
図版71　Ⅰ～Ⅲ期の遺構（12）……179
図版72　Ⅰ～Ⅲ期の遺構（13）……180
図版73　Ⅰ～Ⅲ期の遺構（14）……181
図版74　Ⅰ～Ⅲ期の遺構（15）……182
図版75　Ⅱa期の遺構（1）……183
図版76　Ⅱa期の遺構（2）……184
図版77　Ⅱa期の遺構（3）・Ⅱa～Ⅱb期の遺構（1）……185
図版78　Ⅱa～Ⅱb期の遺構（2）……186
図版79　Ⅱa～Ⅱb期の遺構（3）・Ⅱb期の遺構（1）……187
図版80　Ⅱb期の遺構（2）……188
図版81　Ⅱb期の遺構（3）……189
図版82　Ⅱb期の遺構（4）……190
図版83　Ⅱb期の遺構（5）……191
図版84　Ⅱb期の遺構（6）……192
図版85　Ⅱb期の遺構（7）……193
図版86　Ⅱb～Ⅲ期の遺構（1）……194
図版87　Ⅱb～Ⅲ期の遺構（2）……195
図版88　Ⅲ期の遺構（1）……196
図版89　Ⅲ期の遺構（2）……197
図版90　Ⅲ期の遺構（3）……198
図版91　Ⅲ期の遺構（4）……199
図版92　Ⅲ期の遺構（5）……200
図版93　Ⅲ期の遺構（6）……201
図版94　Ⅲ期の遺構（7）……202
図版95　Ⅲ期の遺構（8）……203
図版96　Ⅲ期の遺構（9）……204
図版97　Ⅲ期の遺構（10）……205
図版98　Ⅲ期の遺構（11）……206
図版99　Ⅲ期の遺構（12）……207
図版100　Ⅲ期の遺構（13）……208
図版101　Ⅲ期の遺構（14）……209
図版102　Ⅲ期の遺構（15）……210
図版103　Ⅲ期の遺構（16）……211
図版104　Ⅲ期の遺構（17）……212
図版105　Ⅲ期の遺構（18）……213
図版106　Ⅲ期の遺構（19）……214
図版107　Ⅲ期の遺構（20）……215
図版108　Ⅲ期の遺構（21）・時期不明の遺構（1）……216
図版109　時期不明の遺構（2）……217
図版110　時期不明の遺構（3）……218
図版111　時期不明の遺構（4）……219
図版112　時期不明の遺構（5）……220
図版113　時期不明の遺構（6）……221
図版114　時期不明の遺構（7）……222
図版115　時期不明の遺構（8）……223
図版116　時期不明の遺構（9）……224
図版117　時期不明の遺構（10）……225
図版118　時期不明の遺構（11）……226
図版119　時期不明の遺構（12）……227
図版120　時期不明の遺構（13）……228
図版121　時期不明の遺構（14）……229
図版122　時期不明の遺構（15）……230

第Ⅰ章　仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区の立地と歴史

1．仙台城と周辺武家屋敷の立地

仙台平野は、宮城県のほぼ中央部に位置し、西は奥羽脊梁山脈とそこから派生する丘陵地帯に接し、東は仙台湾に開いた平野である。狭義では、北は仙台市域北部の丘陵地帯、南は阿武隈川によって区切られる範囲を指す。仙台平野には、奥羽脊梁山脈に源を発した河川が西から東へ流下している。北から七北田川、広瀬川、名取川である。この中の広瀬川は、丘陵地帯を抜けて仙台平野に入ると、青葉山などの丘陵地の北東麓を流下し、やがて名取川に合流し、太平洋にそそいでいる。この広瀬川の両岸には、河岸段丘が発達している。河岸段丘は、高位から台ノ原段丘・上町段丘・中町段丘・下町段丘と分けられており、河岸段丘の間は段丘崖となっている。

仙台城は、宮城県仙台市青葉区川内および荒巻に所在する。現在の仙台市街地中心部から、広瀬川を西に渡った川内・青葉山地区に位置しており、市街地西部に張り出す青葉山丘陵の東縁辺と、その裾に広がる河岸段丘上に立地している（図１）。広瀬川が青葉山などの丘陵地の北東麓を流下しているため、広瀬川の南西側にあたる川内地区の河岸段丘はさほど広くない。一方、広瀬川の北東側には、広い河岸段丘面が連なっており、その東縁は活断層である長町－利府線によって画され、沖積平野に接している。仙台城下のほとんどの範囲は、この広瀬川北東側の河岸段丘上に位置している。現在の仙台市街地中心部も、この広瀬川の河岸段丘上に立地する。

仙台城の構成は、大きく本丸・二の丸・三の丸（東丸）に分かれる（図２）。本丸は広瀬川と竜の口渓谷に囲まれた標高115～138mの、青葉山の高位段丘面（青葉山Ⅲ面）に立地している（図１）。本丸の北西側に二の丸が、北東側に三の丸が配置されているが、本丸だけは一段高い高位段丘面に位置している。本丸の東側は、60m以上の断崖となっている。現在の広瀬川は、本丸の立地する丘陵からやや離れたところを流れている。しかし江戸時代には、広瀬川は大きく蛇行して、本丸東側の崖下までせまっていた。本丸の南側は、広瀬川の支流である竜の口渓谷の急崖で画されている。本丸は防御を重視し、このような急峻な地形を利用して造られている。

本丸の北側に広がる川内地区は、広瀬川によって形成された河岸段丘の中の、上町段丘面・中町段丘面・下町段丘面にあたる。二の丸は標高54～71mの上町段丘面に、三の丸は標高40m前後の下町段丘面に立地する。周辺の武家屋敷も、西側の標高の高い部分から広瀬川に向かって順に、上町段丘面・中町段丘面・下町段丘面に立地する。東北大学の川内北地区は、東側の一段低いグラウンド部分が中町段丘面にあたり、それ以外の区域は上町段丘面に相当する。

これらの河岸段丘を開析しつつ、広瀬川の支流が、西から東へ流れている。これらの支流のひとつである千貫沢が、二の丸の北側を流れており、千貫沢をはさんで南側が二の丸地区、北側が二の丸北方武家屋敷地区となる。千貫沢は、標高差の大きい河岸段丘を横切る形で流下していることから、これらの段丘面を深く切り込んでいる。二の丸裏門から北に延びる道路が千貫沢を渡るところに造られた千貫橋付近では、段丘面の標高が57m程度、千貫沢の沢筋の標高は46m程度である。千貫橋付近の段丘面と千貫沢の標高差は11mあまりになり、深くて急峻な沢筋となっている。大橋付近を流れる広瀬川の河原の標高は22m程度で、千貫橋付近の段丘面との標高差は、およそ35mとなる。また大手門の北側にも沢筋が残っており、仙台城の造営によって改変されていると思われるが、本来は急峻な沢筋であったと考えられる。

2．仙台城と仙台城下の武家屋敷

（1）仙台城の歴史

仙台城は、1600（慶長５）年から、仙台藩初代藩主である伊達政宗によって築城が開始された近世城郭である。その後、幾たびかの改変を受けつつ、幕末まで仙台藩の中枢として機能していく。この仙台城は、本丸と二の丸の一部を除き、2003（平成15）年に国史跡に部分指定されている。

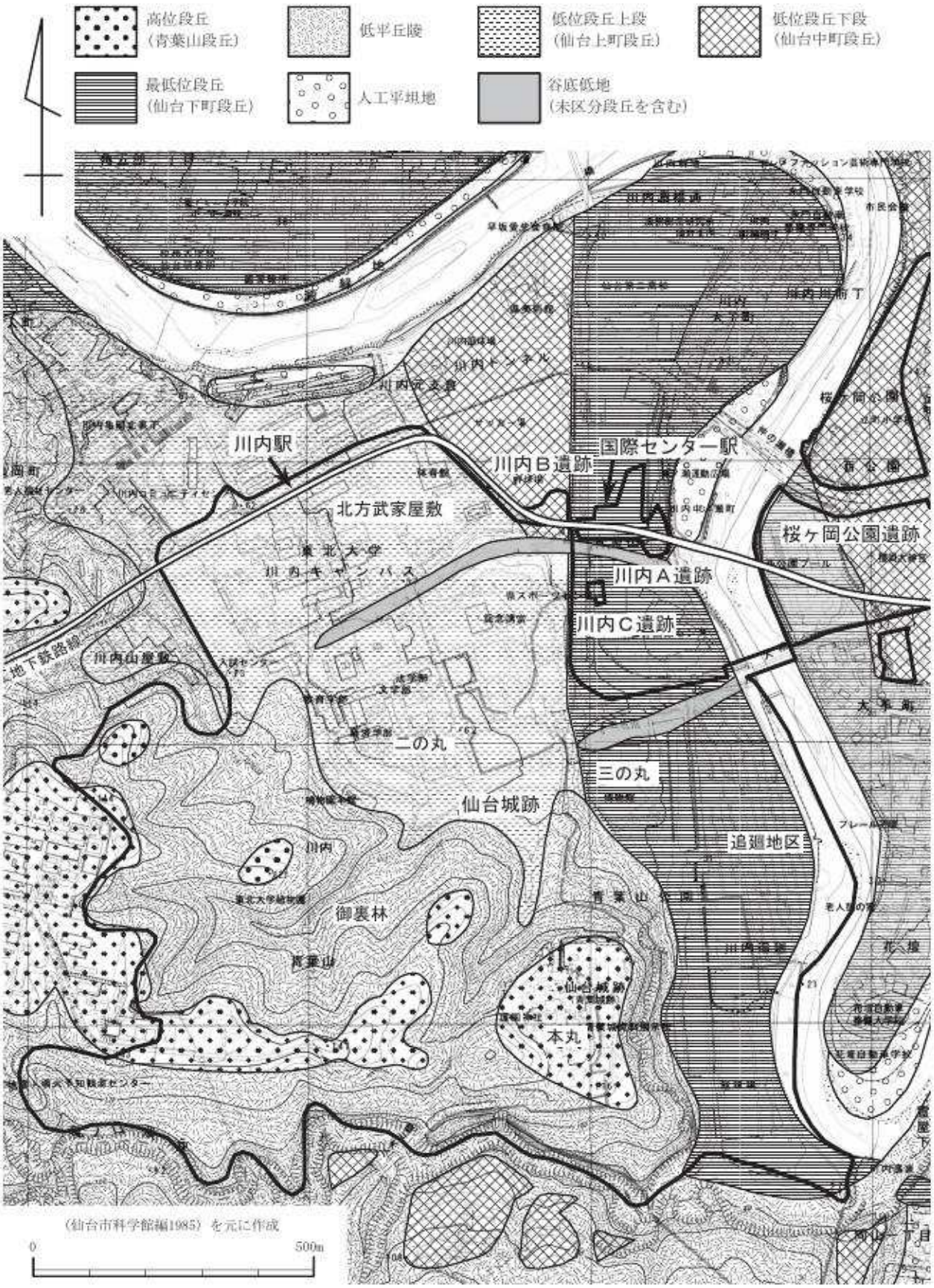


図１　仙台城周辺の地形区分図
Fig. 1　Topographical map around Sendai Castle

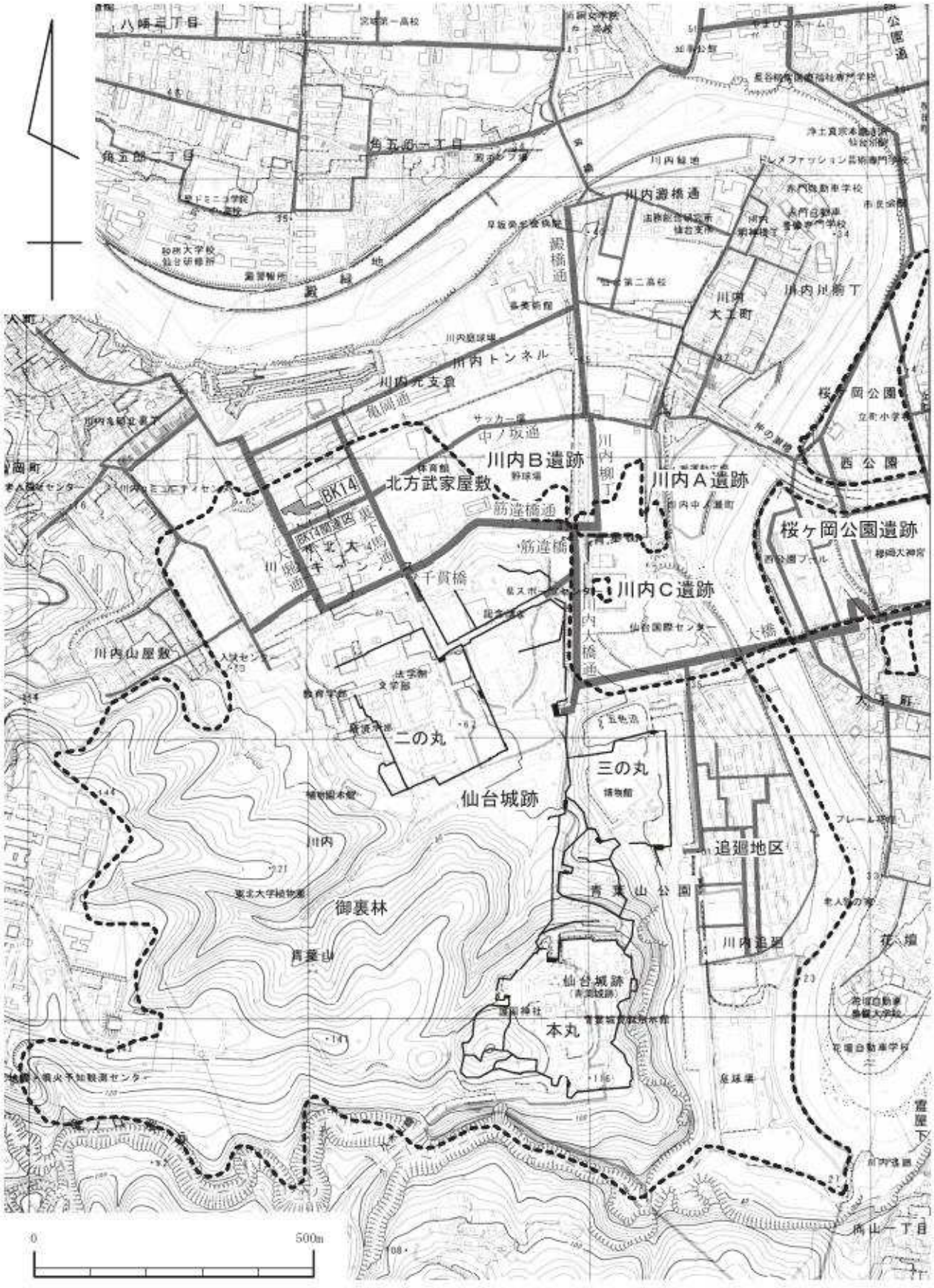


図２　仙台城と二の丸の位置
Fig. 2 Distribution of Sendai Castle

この伊達政宗による築城以前には、国分氏の千代城が存在したことが知られていたが、その実態は不明なままであった。1998（平成10）年の仙台市教育委員会による本丸石垣修復工事に伴う調査の際に、虎口・竪堀・平場・通路などの遺構が検出され、初めて国分氏の千代城の遺構の一端が明らかとなった（金森・渡部2009）。千代城は、文献記録や発掘調査成果の検討から、築城期は不明であるが、16世紀末の天正（1573～1592）年間頃に廃絶されたと考えられている。

伊達政宗によって造営された仙台城の本丸は、1602（慶長７）年には、土木工事にあたる普請がほぼ完成していたと考えられる。各種の殿舎建築は継続中であったと思われ、本丸の中心建物となる「大広間」は、1610（慶長15）年に完成したとされる。築城時に、本丸北側には石垣が築かれるが、石垣修復に伴う発掘調査によって、３時期に渡る変遷が明らかとなった。築城期のⅠ期石垣は、1616（元和２）年の地震で大きな被害を受け、Ⅱ期石垣が築かれる。Ⅱ期石垣も、1668（寛文８）年の地震で大きく崩壊し、現存するⅢ期石垣が造られたことが明らかとなっている（金森・渡部2009）。

仙台城が築城された時点での、本丸以外の施設を含めた仙台城の全体像は、必ずしも明らかではない。

後に三の丸（東丸）とされる区域では、仙台市教育委員会による発掘調査によって、政宗時代の茶室や四阿の可能性のある建物跡などが発見されている。池跡も検出されており、庭園が伴うものと推定されている（佐藤ほか1985）。本丸に付随した施設として、整備が進められていたと考えられる。

この段階では、二の丸は造られておらず、後に二の丸が造られる場所には、政宗の四男である伊達宗泰の屋敷があったとの伝承がある。しかし、この伝承を検証できる資料はない。本丸の築造が進められた慶長（1596～1615）年間には、伊達宗泰は元服前の幼少期であり、この時期に伊達宗泰の屋敷が置かれていたと想定することは難しい。伊達宗泰の屋敷が置かれていたとしても、本丸築城期より遅れる可能性もある。また、他の重臣の屋敷が置かれていた可能性を示す史料もある。文献史料に残されていない、これら以外の屋敷が置かれた可能性も検討していく必要がある。いずれにせよ、二の丸地区第９地点（NM９）などの発掘調査では、江戸時代初頭に遡る遺構が検出されており、本丸築城期から、何らかの施設が置かれていたことは確実である（『年報』８・９）。

1620（元和６）年には、伝伊達宗泰屋敷の北側に、政宗の長女五郎八（いろは）姫の居館である「西屋敷」が造られる。五郎八姫は、伊達政宗の正室愛姫との間に生まれた長女で、1599（慶長４）年に徳川家康の六男忠輝と婚約し、1606（慶長11）年に輿入れする。しかし、1616（元和２）年に忠輝が、大阪夏の陣の際の遅参・怠戦と、家臣による旗本殺害に対する不謝罪を理由に改易され、伊勢国に配流されると、五郎八姫は政宗の江戸屋敷へ帰され、さらに1620（元和６）年には仙台に移ることとなった。この五郎八姫の、仙台における居所として造られたのが「西屋敷」である。1645（正保２）年の『奥州仙台城絵図』（正保絵図）に描かれており、東西102間、南北60間であったことが記されている。東側に門が描かれ、東向きの屋敷であったことが判る。二の丸地区第５地点（NM５）の調査では、西屋敷期の礎石建物跡などが発見されており、その西側に複雑な形態の池が連なる庭園が広がっていたことが判明している（『年報』６・７）。

伊達政宗は、1627（寛永４）年、仙台城下の南東側にあたる現在の仙台市若林区古城において、若林城を造営する。「仙台屋敷構」として幕府の許可を得たものであるが、周囲に堀と土塁をめぐらした城郭である。1628（寛永５）年に若林城が完成すると、政宗は国元では若林城を居城とし、仙台城に滞在するのは、儀式など特別な場合に限られるようになる。対照的に、後の二代藩主伊達忠宗は、国元では仙台城に滞在していた。この若林城の建物が、後の二の丸造営の際に、移築されていることが仙台藩の公式記録である『義山公治家記録』（巻之ニ、平編1974）に記されている。若林城跡の第５次調査と第８次調査で調査された１号建物跡が、仙台城二の丸を描いた『御二之丸御指図』に見られる「大台所」と一致することなどが明らかとなり、若林城の建物を仙台城二の丸に移築したという文献記録を裏付けることとなった（佐藤ほか2008・2010）。

伊達政宗は1636（寛永13）年に死去し、伊達忠宗が二代藩主となる。忠宗は、1638（寛永15）年に、伝伊達宗

泰の屋敷跡に二の丸を造営する。二の丸が造られると、仙台藩の政治・諸儀式のほとんどは二の丸で行われるようになり、藩主の居所も二の丸へ移る。これ以降、二の丸が仙台城の実質的な中枢となり、この状態は幕末まで維持されていくこととなる。二の丸の造営とほぼ同じ頃に、三の丸（東丸）には、米蔵が置かれるようになったと考えられる。

1638（寛永15）年に二の丸が造営された時点では、五郎八姫の「西屋敷」が、二の丸の北隣に存続していた。五郎八姫が1661（寛文元）年に死去すると、もとの「西屋敷」は「天麟院様元御屋敷」と呼ばれ、蔵や作業所など、二の丸に附属する実務的な施設が置かれるように変化する。

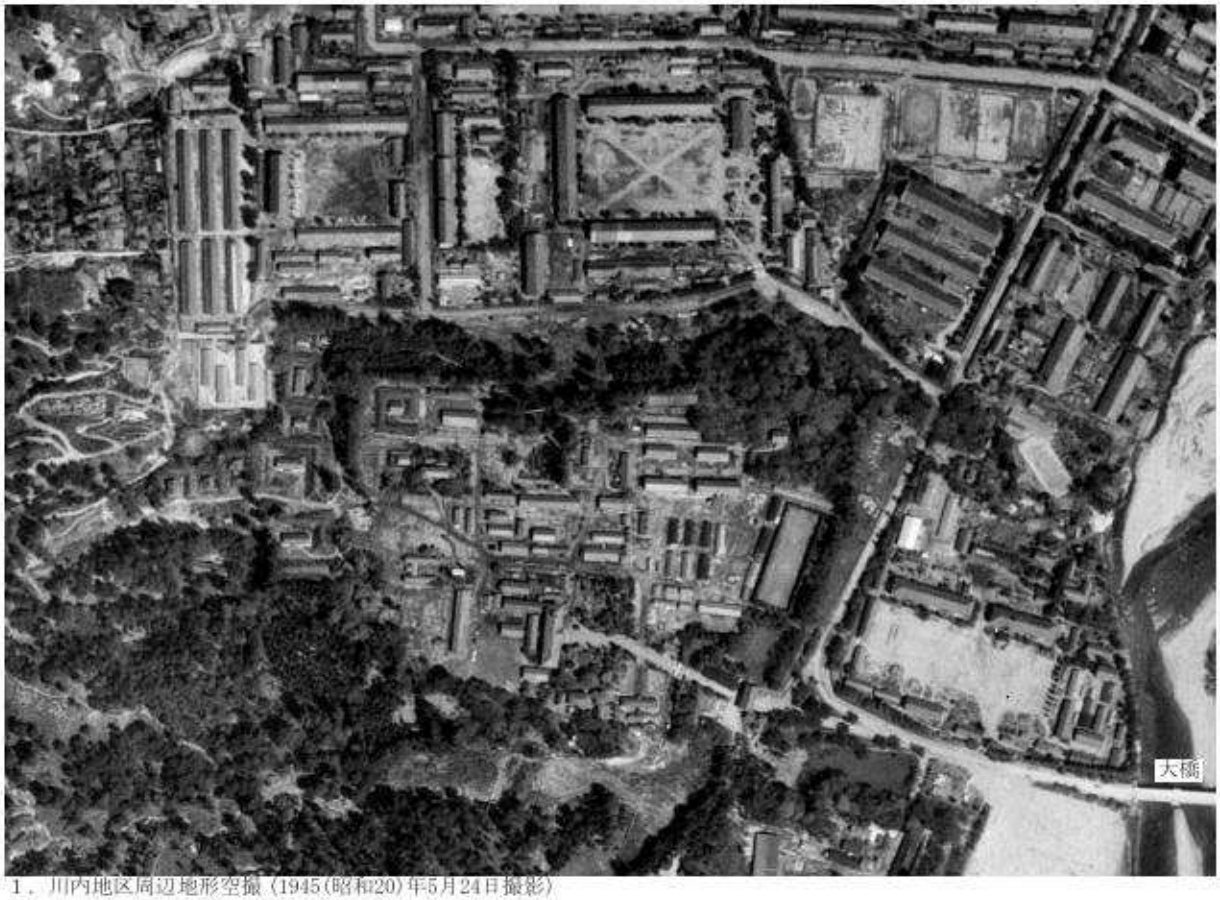
17世紀末から18世紀初頭の元禄年間には、四代藩主伊達綱村によって、二の丸は大改造が施される。その際、もとの「西屋敷」の敷地は二の丸に取り込まれ、中奥がもとの「西屋敷」の範囲に大きく拡張された。仙台城では、藩主と側室の居住の場を「中奥」と呼んでいた。この改造によって、仙台城は完成した姿を迎えた。二の丸は、1804（文化元）年の火災でほぼ全焼する被害を受けつつも、従来通り再建され、幕末まで仙台城の中枢として維持されていく。

明治維新による新政府の成立と幕藩体制の崩壊により、仙台城も大きく変化する。仙台藩は奥羽越列藩同盟の中心として新政府に対抗するが、相次ぐ軍事的敗北の中で同盟は瓦解する。仙台藩は1868（慶応４・明治元）年９月に新政府に降伏謝罪し、12月には領地・領民をいったん取り上げられた上で、28万石を新たに拝領し存続が許された。1869（明治２）年の版籍奉還により、藩主伊達宗基が仙台藩知藩事となり、二の丸には藩の統治機関たる勤政庁が置かれた。1871（明治４）年の廃藩置県後は、仙台城が明治政府の管轄下に移り、二の丸には東北鎮台（後に仙台鎮台）が置かれる。本丸の建物は、明治の早い時期に取り壊されるが、二の丸の建物は鎮台本営として引き続き利用された。しかし1882（明治15）年の火災で、二の丸建物のほとんどが焼失してしまう。そして1886（明治19）年には仙台鎮台から陸軍第二師団に改称され、1888（明治21）年には正式に師団常備軍制度が施行され、敗戦まで続くこととなる。二の丸跡には師団司令部が置かれ、三の丸跡には陸軍倉庫が置かれていた。本丸跡には、1904（明治37）年に仙台招魂社（後の護国神社）が建てられ、戦没者を祀る場所へと変わる。1905（明治38）年には地形図が作成されている（図３－２）。今回報告する調査区近辺である川内北キャンパスは、「歩兵第二十九連隊営」と記載されており、方形に大規模な建物が建てられていたことがわかる。

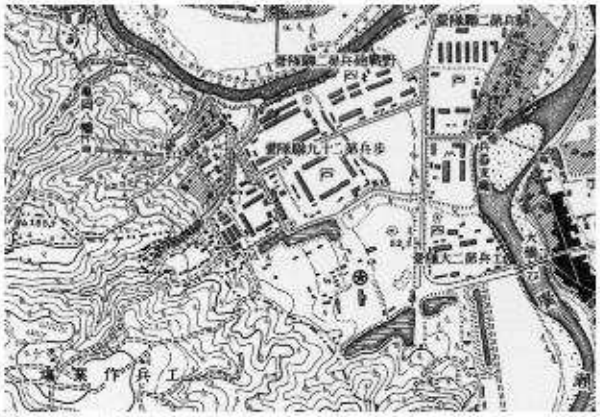
1945（昭和20）年７月21日の仙台空襲の際には、仙台城の建物として最後まで残っていた大手門・脇櫓と巽門、師団の建物等消失もする（図３－３）。図３－１に、1945（昭和20）年５月24日に米軍によって撮影された空撮写真を示した。この写真には、師団司令部を始め、第二師団の建物が明瞭に写されている。仙台空襲は、このような情報収集が念入りに行われた後に実施された。第二次大戦敗戦後は、二の丸跡をはじめとする川内地区のかつての軍用地が、米軍の駐屯地であるキャンプ・センダイとなる（図３－４）。そして、1957（昭和32）年に米軍からの返還を受け、二の丸地区のほとんどは東北大学が使用し、一部は仙台市の公園となった（図３－５）。その後、大学による開発が進められているが、現在の道路などの区割りは、米軍期に造成されたものとほぼ同じである。

（２）仙台城周辺の武家屋敷の変遷

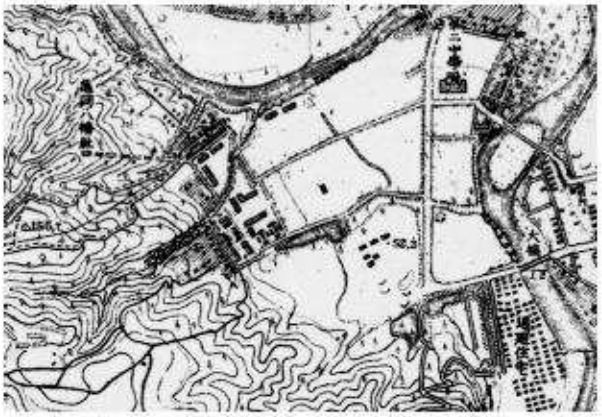
仙台城下は、仙台城の造営と併行して、その建設が進められる。1601（慶長６）年正月11日に、仙台城の普請始めが行われ、同じ日に「御城下地形ノ絵図を以テ諸士等ノ屋敷割仰付ラル。」との記録が残されている（『貞山公治家記録』巻之二十一、平編1973）。この時以降、城下の建設が進められていったものと考えられる。江戸時代の地誌である『仙台萩』（阿刀田1930）には、1602（慶長７）年「二月朔日より五月五日までに、総て侍は不及中、町人等迄、不残玉造郡岩手山の城より御在府を被移、甍をならべ城府繁昌す」と記されている。その戸数などは不明ながら、家臣団や町方をはじめ多数が移住したと見られている。仙台城下の範囲は、その後徐々に拡



1．川内地区周辺地形空撮（1945(昭和20)年5月24日撮影）



2．川内地区周辺地形図①
（1905（明治38）年測量『仙臺南部』



3．川内地区周辺地形図②
（1946（昭和21）年修正『仙台西北部』）

4．川内地区周辺地形図③
（1953（昭和28）年測量『仙台首部』）

5．川内地区周辺地形図④
（2007（平成19）年修正『青葉山』）

2～5:S=1/25,000

図３　川内地区周辺の地形

Fig.3 Topographical map around Kawauchi campus

大し、それに伴い再配置が行われる場合もあったが、基本的な構成は踏襲される。川内地区は、一部の寺社と職人屋敷を除くと、侍屋敷として使われていた。

仙台城下の様相を知ることができる基本的な資料は、城下絵図である。これらの城下絵図には、年代が近接するものもあるため、時期による変遷が判るように選択して、川内北地区周辺の部分を示したのが、図４・５である。道路の変化を見るため、明治時代の地図についても、併せて示しておいた。

仙台城下を描いた城下絵図で最も古い絵図は、1645（正保２）年の『奥州仙台城絵図』である（図４－１）。これは幕府提出用絵図のため、細かな屋敷割は記されていないが、仙台城の周辺には「侍屋敷」と記されており、この時点では武家屋敷が広がっていることが判る。これまでの川内北地区での調査でも、各所で江戸時代初頭に遡る遺構や遺物が発見されており、この区域では江戸時代初頭から屋敷地が整備されていったものと考えられる。

この正保絵図以降の藩政用絵図には、屋敷割が記され、人名が書き込まれたものが多くある。川内地区においては、大手門の周囲などに最も上級の家臣の屋敷が置かれ、それ以外の区域にも上級家臣の屋敷が多い。東北大学の川内北地区も、比較的上級の家臣の屋敷が置かれていた。川内地区全体の屋敷の様相については、『調査報告』１において、城下絵図をもとにした検討結果を掲載しているので、詳細はそちらを参照していただきたい。

仙台城下絵図で、川内地区の道路の位置を見ると、正保絵図（図４－１）以降、1882（明治15）年の地図（図５－13）に至るまで、大きくは変化がないことが判る（『調査報告』１）。

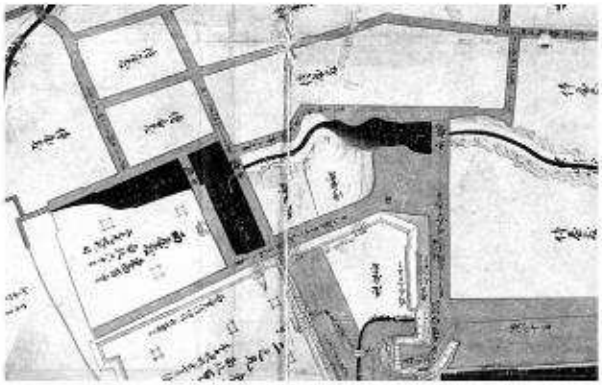
二の丸と北方武家屋敷との境には、千貫沢とそれを広げた堀がある。この千貫沢や堀沿いに「筋違橋通」が東西に走っているが、それより北側には東西方向の道路としては「中ノ坂通」と「亀岡通」の２本がある。ところが現在は、千貫沢沿いの道路の北側には、東西方向の道路は１本だけである。現在のような道路は1893（明治26）年の地図（図５－14）において、初めて見られるようになる。これと同時に、大手門から北側へ延びる道路も改変されている。大手門前から北へ延びる道路は、もともとは、千貫沢を渡る筋違橋の北側で鉤の手状に屈曲していたが、この時にまっすぐ北へ延びる道路へ変わっている。同様に、広瀬川を渡る大橋から大手門へいたる道路も、もとは大手門手前で屈曲していたのが、大橋からまっすぐ延びる形に変わっている。1889（明治22）年の広瀬川の洪水によって木橋であった大橋が流失し、第二師団の要請で鉄橋が架けられることとなり、1892（明治25）年に竣工した際に、大橋から大手門へ至る道路が直線になった。川内北地区の道路がつけ替えられたのが、大橋鉄橋架橋と同時かどうかは確認できていないが、1888（明治21）年の第二師団の設置以降、一連の過程で川内地区の整備が進められていったものと考えて良いであろう。

明治時代の地図も、初期のものは、全てを正確に測量して作成されたものではない。ある程度信頼が置けるものは、1893（明治26）年の地図以降であるが、この段階では川内北地区周辺の道路は、改変された後である。改変以前の道路を正確に測量した地図は、確認できていない。したがって、絵図や明治時代初期の地図をもとに、江戸時代の道路を正確に復元することは難しい。南北方向の道路については、ある程度復元根拠がある。しかし東西方向の道路である「中ノ坂通」と「亀岡通」については、復元根拠を欠いており、正確な位置を復元することは難しい。このような限界を踏まえて、図２では、これまでの調査・検討の成果から、江戸時代の道路の位置を、現在の地図上に推定復元している。

千貫沢の北側を東西に走るのが「筋違橋通」である。その北側を東西に走るのが「中ノ坂通」と「亀岡通」である。二の丸裏門である台所門を出て、千貫橋を渡って北に延びる道路が「裏下馬通」で、それとほぼ並行して西側にあるのが「大堀通」である。筋違橋から北へ延び「中ノ坂通」に至るのが「川内柳丁」、さらに北へ延び、澱橋へ至るのが「澱橋通」である。

（３）調査区と屋敷地との対応

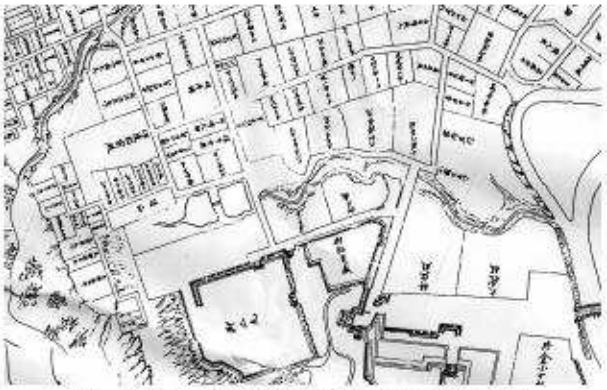
仙台藩の家格は、家格の高い順から、一門・一家・準一家・一族・宿老・着座・太刀上・召出・平士・組士・



1．正保２(1645）年 奥州仙台城絵図

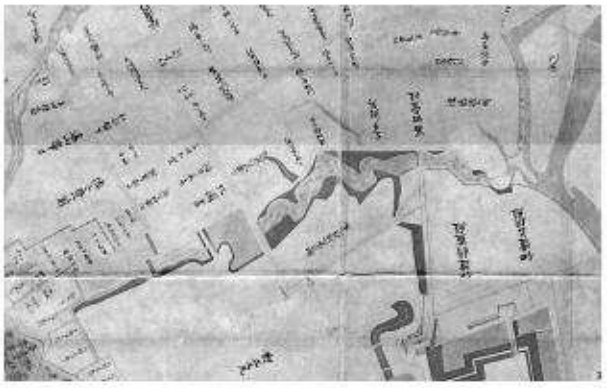
2．寛文４(1664）年 仙台城下絵図

3．寛文８・９(1668・69）年　仙台城下絵図



4．延宝６～８(1678～80)年 仙台城下大絵図

5．延宝９～天和３(1681～83）年 仙台城下絵図



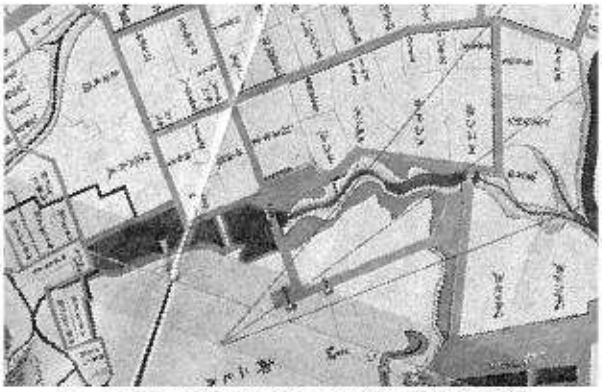
6．元禄４・５(1691・92）年 仙台城下五鑓卦絵図

7．享保９(1724)年以降 仙台城下絵図

1・2・6（小林監修1994）
3・4　　（阿刀田1976：第２版）
5・7　　（吉岡編2005）

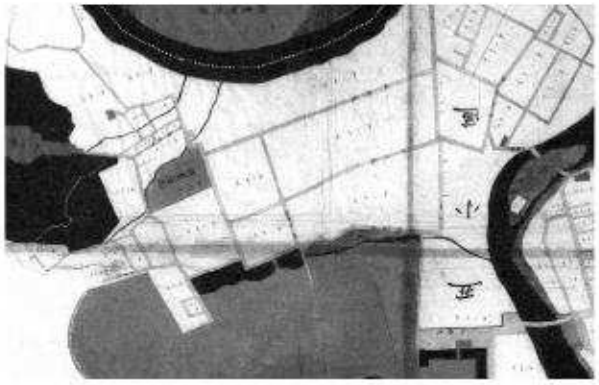
図４　川内地区周辺の絵図・地図（1）
Fig.4 Picture maps around the Kawauchi area (1)

8．宝暦10～明和3（1760～66）年 仙台城下絵図



9．天明6～寛政元（1786～89）年 仙台城下絵図

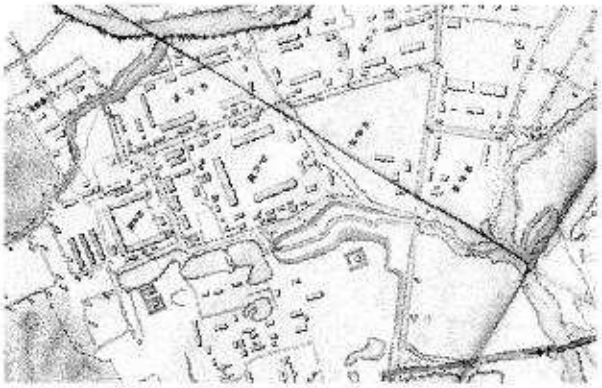
10．安政3～6（1856～59）年 安政補正改革仙府絵図



11．明治8（1875）年 宮城郡仙台町地引図

12．明治13（1880）年 宮城県仙台区全図

13．明治15（1882）年 仙台区及近傍村落之図



14．明治26（1893）年 仙台市測量全図

9・10・14（小林監修1994）
8・11～13（吉岡編2005）

図5　川内地区周辺の絵図・地図（2）
Fig.5 Picture maps around the Kawauchi area (2)

卒というように分けられていた（表１）。平士は、仙台藩家臣団の主力を構成した家臣で、多くは大番組に属する大番士であった。平士（大番士）は、登城した際に控える部屋の名前をとって、上位から虎の間番士・中の間番士・次の間番士・広間番士に分けられた。組士と卒が下級藩士となる。なお仙台藩では、生産高や知行高を、一般的な石高ではなく、戦国時代以来の貫高で表示していた。貫高と石高の換算は、寛永検地を経て、１貫（1000文）を10石に換算するように定められた。寛永検地以前の換算については、いくつかの説がある。ただし、ここで検討材料とする屋敷拝領者が記載されている藩政用絵図が、寛文４（1664）年以降のものしか存在せず、全て寛永検地より新しい時期のものとなるので、１貫を10石と換算すれば良いこととなる。

今回報告する武家屋敷地区第14地点（BK14）は、絵図との対応を図ると「中ノ坂通」と「大堀通」の交差点の東側に位置する（図２）。この場所は、「裏下馬通」と「大掘通」に東西を画され、北側は「亀岡通」、南側は「中ノ坂通」に画された方形区画の南西付近にあたる。絵図ではこの方形区画は中央で大きく東西に２分され、さらに２分された区画は南北で２ないし３区画に区分して屋敷地として使用されている（図６）。本調査区は、西半部と東半部の南側の屋敷地に該当すると推測され、さらにその北側の屋敷地もまたいでいる可能性がある。

本調査区は、北側を武家屋敷地区第７地点（『年報』19）と高速鉄道地下鉄東西線に伴う仙台市教育委員会の調査区（主濱ほか2011a）に接しており、この方形区画の大部分が該当する。渋谷（2011）の成果を元に、この区画を使用していた人名を城下絵図から拾い出し、これらの家臣の禄高や家格について整理した（図６、表２）。

西半部南側の屋敷地は、寛文４（1664）年の「佐藤三太夫」、寛文８・９（1668・1669）年の「伊藤三太夫」と変遷し、延宝６～天和３（1678～1683）年の絵図では、召出で禄高36貫文の「宮内権六」、元禄４・５（1691・1692）年は虎間藩士で禄高33貫313文の「浜田平十郎」、その後「小嶋蔵人」と変遷し、宝暦10～明和３（1760～1766）年と天明６～寛政元（1786～1789）年には虎間藩士で禄高30貫文の「市川三右衛門」「市川三治」の市川姓の一族に利用され、安政３～６（1856～1859）年の「高城兼二郎」となる。

西半部中間の屋敷地は、寛文４（1664）年から天和３（1683）年の絵図には、格式不明ながら禄高48貫612文の「中村伊右衛門」が確認され、宝暦10～明和３（1760～1766）年に虎間藩士で禄高60貫文の矢野善三郎、安政３～６（1856～1859）年に着座で禄高161貫428文の「和田常之丞」など、上級の家臣も利用している。

東半部南側は、当初記載がなく、延宝６～８（1678～1680）年に「明屋敷」、延宝９～天和３（1681～1683）年に「月畔和尚」、元禄４・５（1691・1692）年は再び記載がなく、享保９（1724）年以後西側と東側に区画され、西側は特に宝暦10～明和３（1760～1766）年に次間藩士で禄高７貫200文の「志茂伝之助」、安政３～６（1856～1859）年に虎間藩士で禄高300俵の「喜多山大吉」が屋敷地として利用している。東側はさらに南北に細分され、北側は特に宝暦10～明和３（1760～1766）年と天明６～寛政元（1786～1789）年に内科医で禄高35貫文の「松井元亮」の屋敷地として利用される。南側は享保９（1724）年に虎間藩士で禄高30貫文の「高橋丈之進」に、天明６～寛政元（1786～1789）年に広間藩士で禄高７貫47文の「藤間仲佐衛門」に屋敷地として利用され、安政３～６（1856～1859）年には南北の区画は統合され、門閥子弟の講学所である「小学校」となる。

このように調査地点がある区画は、17世紀以降30貫文以上の虎間藩士を中心に屋敷地として利用される。18世紀以降は屋敷地が小さく区分され、より家格や俸禄の低い下の家臣も、この場所に屋敷を拝領している。

３．仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区におけるこれまでの調査

仙台城の考古学的調査は、本丸・二の丸・三の丸などの各地区において実施されている（表３・４、報告書等がある場合は表に記載した）。二の丸地区については、東北大学の施設整備事業などに先立ち、東北大学によって調査が実施されてきた。三の丸地区では、仙台市博物館の建て替えに伴い、仙台市教育委員会による調査が実施されている。本丸地区では、石垣修復工事に伴う仙台市教育委員会による調査が、1997（平成９）年から実施され、多大な成果をあげるとともに、史跡指定への直接的な契機となった。2001（平成13）年度からは、文化庁

表１　仙台藩の家格

Tab.1 List of status in *Sendai-han*

家格	人数	備考
一門	11	角田石川氏・亘理伊達氏・水沢伊達氏・涌谷伊達氏・登米伊達氏・岩谷堂伊達氏・岩出山伊達氏・宮床伊達氏・川崎伊達氏・白河氏・三沢氏
一家	17	鮎貝・秋保・柴田・小梁川・塩森・大条・泉田・村田・黒木・石母田・瀬上・中村・石川・中目・亘理・梁川・片倉
準一家	10	猪苗代・天童・松前・釜名・本宮・高泉・葛西・上遠野・保土原・福原
一族	22	大立目・大町（胆沢郡）・大塚・大内・西大条・小原・西大立目・中島（江刺郡）・宮内・中島（伊具郡）・茂庭・遠藤・佐藤・畠中・片平・下郡山・沼辺・大町（宮城郡）・高城・大松沢・石母田・坂
宿老	3	着座のうち一番座の三家（遠藤・但木・後藤）
着座	28	正月等の儀式で登城し着座して藩主に挨拶する家臣
太刀上	10	正月賀礼に太刀を献上し藩主から盃を頂戴する家柄
召出一番座	38	正月宴会に召し出される家柄
召出二番座	51	正月宴会に召し出される家柄
平士（1000石以上）	6	
平士（500石以上）	68	
平士（100石以上）	994	
合計	1258	

表２　武家屋敷地区第14地点関連絵図人名

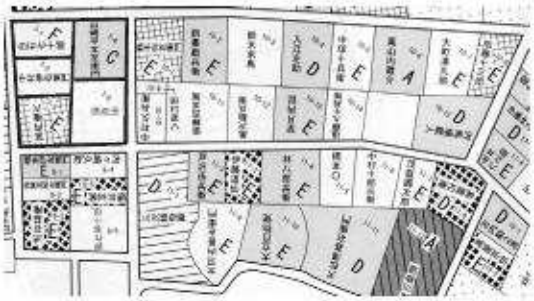
Tab.2　List of names of *samurai* lived at this location

年代（西暦）	図	西半部				東半部				
		北		中	南	北		南		
		西側	東側			西側	東側	西側	東側 南側	東側 北側
寛文４年（1664年）	図６－１	無		中村伊右衛門（48貫文612文）	佐藤三太夫	青木掃部（召出 36貫文）		無		
寛文８・９年（1668・1669年）	図６－２	無		伊藤三太夫（３両２歩４人）		青木掃部（召出 36貫文）		無		
延宝６～８年（1678～1680年）	図６－３	白石七十郎（６両４人）		中村伊右衛門（48貫文）	宮内権六（召出 36貫文）	山崎平太左衛門（虎間 108貫文）		明屋敷		
延宝９年～天和３年（1681～1683年）	図６－４	白石七郎右衛門（虎間 20貫文）		中村伊右衛門（48貫文）	宮内権六（召出 36貫文）	山崎平太左衛門（虎間 108貫文）		月畔和尚		
元禄４・５年（1691・1692年）	図６－５	無	渋谷権七郎（中間 15貫940文）	木幡修理	浜田平十郎（虎間 33貫313文）	大河内源太夫（召出 90貫文）		無		
享保９年以降（1724年～）	図６－６	渡辺伝五郎		氏家要順	小嶋蔵人	黒沢武之助	大和田源之助	新田秀哲	高橋丈之進（虎間 30貫文）	岡元友閑
宝暦10年～明和３年（1760～1766年）	図６－７	横沢軍蔵（虎間 30貫文）	イトウ左太夫	矢野善三郎（虎間 60貫文）	市川三右衛門（虎間 30貫文）	菅場衛覚		志茂伝之助（次間 ７貫200文）	小原周伯	松井元亮（内科医 35貫文）
天明６年～寛政元年（1786～1789年）	図６－８	和田内記（着座 161貫428文）		無	市川三治（虎間 30貫文）	小原勘解由（一族 50貫文）		芳賀晉人	藤間仲左衛門（広間 ７貫47文）	松井元亮（内科医 35貫文）
安政３～６年（1856～1859年）	図６－９	和田常之丞（着座 161貫428文）			高城兼二郎	久世平八郎（虎間 64貫文）		喜多山大吉（虎間 300俵）	小学校	

※漢字は原則として常用漢字を用い、変体仮名・合子などは通常の仮名に改めた。

1．寛文4(1664)年

2．寛文8・9(1668・69)年



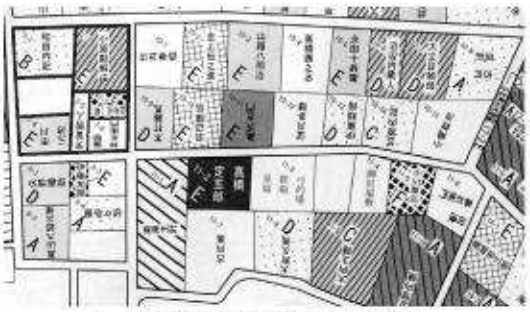
3．延宝6～8(1678～80)年

4．延宝9～天和3(1681～83)年

5．元禄4・5(1691・92)年

6．享保9(1724)年

7．宝暦10～明和3(1760～66)年



8．天明6～寛政元(1786～89)年

9．安政3～6(1856～59)年

図6　武家屋敷地区第14地点周辺の武家屋敷の変遷
Fig. 6 The change of the samurai residences around BK14

の国庫補助を受けた遺構確認調査が仙台市教育委員会によって開始されている。

1978（昭和53）年度、川内北地区のプール西側の排水管埋設工事の際、石組の井戸などが発見された。この時、東北大学の文学部考古学研究室によって緊急の調査が行われたのが、仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区における最初の考古学的調査であった。しかしこの時は、既に掘削が実施された後に、露出した遺構の記録を作成する緊急の調査であったため、ごく部分的な調査にとどまらざるをえなかった。この時には、川内北地区は周知の遺跡の範囲内ではなく、新たに周知の遺跡として登録する措置もとられていない。

東北大学に埋蔵文化財調査委員会が1983（昭和58）年に設置され、構内遺跡の組織的な調査が開始されると、川内北地区についても遺跡が広がっている可能性に配慮し、必要な措置がとられるようになった。すなわち、施設建設が計画されている場所については試掘調査を行うとともに、営繕工事に際しては、立会調査を実施してきた。その結果、いくつかの調査において、江戸時代の遺構面が残存していることが明らかとなってきた。また、1986（昭和61）年度に調査を実施した二の丸地区第８地点（NM８）は、二の丸北側に東西に延びていた堀の、北側の岸の部分の調査であった。二の丸に伴う堀の調査のため、調査地点名称は二の丸地区の名称を採用したが、調査を実施した場所は川内北地区であった。これらの調査は、川内南地区が周知の遺跡である仙台城跡の範囲内に含まれていたことから、周知の遺跡の隣接地という位置づけで、調査を実施していたものである。

これらの調査によって、川内北地区においても、江戸時代の遺構面が良好に残存していることが判明してきた。しかも、二の丸地区の遺構面から、途切れることなく、周辺の遺構面が連続して残っていることも明らかとなってきた。このような成果を受けて、仙台市教育委員会・宮城県教育委員会とも協議した結果、1993（平成５）年度に仙台城跡の範囲を拡大する措置がとられた。川内北地区に江戸時代の遺構面が良好に残存していることと、二の丸のすぐ北側に位置し、二の丸と密接に関連することから、仙台城跡の一部として扱うこととなった。これにより川内北地区のほとんどが、周知の遺跡である仙台城跡の範囲に含まれることとなった。

東北大学埋蔵文化財調査委員会に始まり、東北大学埋蔵文化財調査研究センターを経て、現在の埋蔵文化財調査室に至る、東北大学の構内遺跡調査組織による、施設整備などの工事に伴う二の丸北方武家屋敷地区における調査は、2015（平成27）年度までに第１～16地点の調査が実施されてきた（図７）。この内、1985（昭和60）年度に実施した第２地点（BK２）と第３地点（BK３）の調査は、結果的に立会調査で終了したため、欠番としている。したがって、14地点で調査が実施されていることとなる。

第１地点（BK１）は、2001（平成13）年度に調査を実施した第７地点と一部重なる区域で、1984（昭和59）年度に実施した試掘調査である。当時、課外活動施設の建設候補地であったため、江戸時代の遺構・遺物の有無を確認する目的で、２×２mの試掘調査区を３ヶ所設けて調査を行っている。その結果、東よりの調査区で、江戸時代の遺構面が残存していることが確認された。試掘調査実施後は、課外活動施設の建設場所が変更されたため、第７地点の調査が行われるまで、それ以上の調査は実施されなかった。

第４地点（BK４）は、1985（昭和60）年度に試掘調査を実施し、1994・95（平成６・７）年度に本調査を行った。試掘調査時には保健管理センターの建設予定地であったが、その後の計画見直しによって課外活動施設がこの地点に建設されることとなり、本調査を実施した。調査面積が1,143㎡となり、二の丸北方武家屋敷地区では、初めての大規模な調査となった。江戸時代の初頭から幕末に至る、多数の遺構が検出された。

第５地点（BK５）は、教養部学生実験施設（当時、現学生実験棟）にエレベーターを設置するのに伴い、1989（平成元）年度に実施した。40㎡という小規模な調査であったが、溝が検出されている。

1996（平成８）年度に実施した第６地点（BK６）は、給水管埋設に伴う調査である。調査面積は15㎡と狭いが、比較的多くの遺構が検出されている。

2001（平成13）年度に実施した第７地点（BK７）は、マルチメディア教育研究棟新営に伴う調査である。調査を行った面積が810㎡と、まとまった規模の調査としては、第４地点に続く調査となった。礎石建物・掘立柱

建物・掘立柱列や溝・井戸など、江戸時代の各時期の遺構が検出された。特筆されるものは、大規模なゴミ穴が検出され、様々な種類の遺物が大量に出土したことである。このゴミ穴からは、享保（1716～35）年間の年号が記されたものを含む、多数の荷札木簡が出土している。木簡の記載内容や、捨てられたゴミの内容から、堀をはさんだ二の丸地区のゴミが運び込まれて捨てられたものと考えられる。

第８地点（BK８）は、厚生会館前の上屋取設工事に伴い、2002（平成14）年度に調査を実施した。28.6㎡と小規模な調査であった。溝やピットなどが検出されている。

第９地点（BK９）は、課外活動施設（川内ホール）新営に伴い、2003（平成15）年度に調査を実施した。体育館西側の、グラウンドとの段差に近い区域での調査であった。363.5㎡とやや規模の大きな調査であったが、段丘崖にかかる区域での調査であったため、遺構密度はさほど高くなかった。小規模な石垣や溝、掘立柱列などが発見されている。

第10地点（BK10）は、学生実験棟改修に伴い、2006（平成18）年度に調査を実施した。建物の東側と、中庭の２ヶ所で調査を行った。建物東側の調査区は、第５地点の調査区に隣接し、溝・井戸などが検出されている。中庭の調査区では、道路側溝の可能性のある石垣が発見されている。

第11地点（BK11）と第12地点（BK12）は、仙台市高速鉄道東西線（以下、地下鉄東西線と略する）機能補償に関係する調査である。第11地点は、サブアリーナ棟新営に伴うもので、調査面積は1,401㎡で、大規模な調査となった。掘立柱建物・溝・井戸や大規模に掘り込まれた遺構など、多数の遺構が検出された。第12地点は、屋外給排水管設備の迂回工事に伴うもので、遺構面まで掘削が及ぶ区域のみを調査したため、59.6㎡と小規模な調査であった。

第13地点（BK13）は、厚生会館増改築に伴う調査である。2008（平成20）年度に増築建物本体部分（774.8㎡）、翌2009（平成21）年度に付帯工事部分（44.85㎡）の調査を実施した。「筋違橋通」と「裏下馬通」の交差点の北東側に位置し、千貫沢の支流の沢や掘立柱建物・柱列・ピット・溝などが確認された。

第14地点（BK14）は、地下鉄東西線川内駅の駅前整備に伴う調査である。本書で報告する調査である。2011（平成23）年度から調査を開始し、2012（平成24）年も一部を継続して調査を実施したが、次の第15地点の調査を先行して実施することが必要となったため、調査途中で一時中断した。この段階で全体の調査面積954㎡の内、508.5㎡の調査が終了した。2015（平成27）年３月から調査を再開し、残りの調査区（445.5㎡）を調査した。柱列・ピット・溝・井戸・池など多数の遺構が検出されている。特に池跡は、内部を区画する際の盛土上に敷いた筵（むしろ）状の敷物が遺存していた。盛土が崩れないよう工夫したと推定される。

第15地点（BK15）は、課外活動施設新営に伴う調査で、2012（平成24）年度から調査を実施している。震災復旧工事に伴う調査を最優先としながらその合間をぬって2013・14（平成25・26）年度と継続して調査を実施した。1,455㎡と、東北大学が実施した北方武家屋敷地区の調査では、最大規模の調査となっている。北東側の段丘崖下へ流れる沢や、溝、柱列などが検出された。

第16地点（BK16）は学生支援センター新設に伴い、2013（平成25）年度に調査を実施した。その調査面積は1,200㎡となった。調査地点は、千貫橋の北西側に位置し、堀の北岸と石組井戸を検出した。二の丸北側の堀は千貫沢の地形を利用したもので、江戸時代の絵図とも対応する。なお二の丸地区第８地点（NM８）の調査の際に同様に堀の北岸が確認されている。

一方、仙台市教育委員会による調査も、地下鉄東西線建設に伴う調査を中心に、多数実施された。地下鉄東西線関係の本調査に先立ち、2004～2006（平成16～18）年度にかけて試掘調査が行われた。本調査と併行して、2007（平成19）年度にも東北大学のグラウンド部分で試掘調査が行われている。

なお川内北地区の中でももっとも東側のグラウンドについては、それまで実施した立会調査によって、確実に江戸時代に遡る遺構面が残存している場所は確認できていなかった。またこのグラウンド部分は、二の丸地区が

立地する段丘面より、一段低い段丘面であったため（図１）、1993（平成５）年の仙台城跡の範囲拡大にあたって、グラウンドの区域やその周辺域は含まれなかった。

これらの試掘調査は、武家屋敷地区だけではなく、その東側の東北大学のグラウンド部分と仙台商業高等学校グラウンド跡地の区域、広瀬川を渡った対岸の西公園の区域でも、試掘調査が行われている。

これらの試掘調査の結果、仙台商業高等学校グラウンド跡地の一部が川内A遺跡、東北大学グラウンドの一部が川内B遺跡、広瀬川を渡った対岸の西公園部分が桜ヶ岡公園遺跡として、新たに周知の遺跡として遺跡登録がなされ、記録保存のための調査が行われるようになった。

仙台市教育委員会による地下鉄東西線建設に先立つ調査は、2005（平成17）年度の川内A遺跡から始まり、二の丸北方武家屋敷地区では2006～2009（平成18～21）年度にかけて、川内B遺跡では2008・2009（平成20・21）年度に調査が行われている。桜ヶ岡公園遺跡では、2007・2008（平成19・20）年度に調査が行われている。

これら、地下鉄東西線建設に伴う調査以外にも、仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区では雨水幹線の移設工事、桜ヶ岡公園遺跡では西公園の再整備に伴い、事前調査が行われている。2014（平成26）年度には市の施設建設に伴う試掘調査が川内A遺跡の南側で行われ、新たに川内C遺跡として遺跡登録された。

仙台城三の丸地区の東側の追廻地区は、重臣を含む家臣の屋敷地や、馬場やそれに付随する施設などが置かれていた区域である。この追廻地区は、青葉山公園整備計画の対象区域となっており、公園便益施設や庭園などを設置する計画で検討が進められている。公園整備事業の推進にあたって、埋蔵文化財の確認を目的として、2006～2008（平成18～20）年度に、遺構確認調査が実施されている。これらの確認調査を踏まえて、2012（平成24）年度から2013（平成25）年度にかけて追廻公園センター建築計画に伴う調査も行われた。

これらの調査が行われてきた結果、川内地区は、仙台城下の武家屋敷の中では、もっとも広い範囲で考古学的調査が実施されてきた地区となっている。特に、川内北地区の二の丸北方武家屋敷地区は、もっとも高い密度で考古学的調査が実施されている区域となってきていると言える。

表３　仙台城と仙台城周辺武家屋敷の調査一覧（１）

Tab.3 List of excavations of Sendai Castle and Samurai Residences around Sendai Castle (1)

年度		仙台市調査		東北大学構内		仙台市調査（周辺武家屋敷）	
		国庫補助確認調査以外	国庫補助重要遺跡遺構確認調査	二の丸地区	二の丸北方武家屋敷地区	二の丸北方武家屋敷地区	その他の周辺武家屋敷
1974	昭和49			文系厚生施設緊急調査（仙台市教委）			
1978	昭和53				プール脇排水管緊急調査（考古学研究室）		
1982	昭和57			第１地点試掘			
1983	昭和58	三の丸博物館新築（76集）		第１地点（『年報』１） 第２地点（『年報』１） 第３地点（『年報』１）			
1984	昭和59			第４地点（1987年度継続）	第１地点試掘		
1985	昭和60			第５地点試掘 第６地点（『年報』３）	第４地点試掘		
1986	昭和61			第７地点（『年報』４） 第８地点（『年報』４）			
1987	昭和62			第４地点（『年報』５） 第５地点（翌年度継続）			
1988	昭和63			第５地点（『年報』６）			
1989	平成１			第５地点付帯部（『年報』７） 第９地点試掘	第５地点（『年報』７）		
1990	平成２			第９地点（『年報』８）			
1991	平成３			第10地点（『年報』９）			
1992	平成４			第11地点試掘 第12地点試掘 第13地点（『年報』10）			
1993	平成５			第12地点（『年報』11） 第14地点（『年報』11）			
1994	平成６			第15地点（『年報』12）	第４地点（翌年度継続）		
1995	平成７			第11地点（『年報』13）	第４地点（『年報』13）		
1996	平成８	本丸１次石垣修復確認調査		第６地点（『年報』14）			
1997	平成９	本丸１次石垣修復確認調査（翌年度継続）		第16地点（『年報』15）			
1998	平成10	本丸１次石垣修復確認調査（翌年度継続）		第17地点試掘			

＊仙台市教育委員会が刊行した報告書は、『仙台市文化財調査報告書』のシリーズ番号で示した。

表４　仙台城と仙台城周辺武家屋敷の調査一覧（２）

Tab.4 List of excavations of Sendai Castle and Samurai Residences around Sendai Castle (2)

年度		仙台市調査		東北大学構内		仙台市調査（周辺武家屋敷）	
		国庫補助確認調査以外	国庫補助重要遺跡遺構確認調査	二の丸地区	二の丸北方武家屋敷地区	二の丸北方武家屋敷地区	その他の周辺武家屋敷
1999	平成11	本丸１次石垣修復確認調査（翌年度継続）					
2000	平成12	本丸１次石垣修復確認調査（翌年度継続）					
2001	平成13	本丸１次石垣修復確認調査（翌年度継続）	第１次大広間１次 第２次清水門（259集）		第７地点（『年報』19）		
2002	平成14	本丸１次石垣修復確認調査（翌年度継続）	第３次大番士土手態 第４次巽櫓 第５次本丸大広間２次（264集）		第８地点（『年報』20）		
2003	平成15	本丸１次石垣修復確認調査（275・282・298・349集）	第６次全域分布（271集） 第７次大広間３次 第８次登城路 第９次広瀬川護岸石垣（270集）		第９地点（『年報』21）		
2004	平成16	中門・清水門復旧整備（299集）	第10次大広間４次 第11次広瀬川護岸・沢曲輪態石垣（285集）			東西線試掘（289集）	川内A・桜ヶ岡公園東西線試掘（289集）
2005	平成17	清水門周辺復旧整備（299集） 登城路１次（300集）	第12次大広間５次 第13次三の丸１次 第14次広瀬川護岸・中門石垣（297集）			東西線試掘（302集）	川内A周辺・桜ヶ岡公園東西線試掘（302集） 川内A遺跡東西線（312集）
2006	平成18		第15次大広間６次 第16次三の丸２次（309集）		第10地点（『年報』24） 第11地点（翌年度継続）	東西線（亀岡トンネル開削部・342集）	川内A周辺・川内B東西線試掘（316集） 追廻遺構確認１次（350集）
2007	平成19		第17次大広間７次 第18次三の丸３次 第19次本丸北西石垣（330集）		第11地点（『調査報告』１） 第12地点（『調査報告』１）	東西線（川内駅部・立坑部・386集）	川内B東西線試掘東西線桜ヶ岡公園（広瀬川高架橋部・公園駅部他・384集・402集） 桜ヶ岡公園２次（西公園再整備・318集） 追廻遺構確認２次（350集）
2008	平成20		第20次大広間８次 第21次造酒屋敷１次 第22次本丸北西石垣（348集）		第13地点（本体部分・『調査報告』２）	東西線（扇坂トンネル部・402集）	東西線川内A（広瀬川右岸橋梁部・402集）・川内B（扇坂トンネル部・385集）・桜ヶ岡公園（公園駅部他・384集） 桜ヶ岡公園３次（西公園再整備・335集） 追廻遺構確認３次（350集）
2009	平成21	登城路２次（354集）	第23次造酒屋敷２次 第24次大広間追加 第25次広瀬川護岸石垣（374集）		第13地点（付帯工事・『調査報告』２）	東西線（扇坂トンネル・亀岡トンネル開削部・402集） 第２次雨水幹線（356集）	東西線川内A（広瀬川右岸橋梁部・402集） 桜ヶ岡公園（広瀬川高架橋部・402集）
2010	平成22		第26次造酒屋敷３次（395集）			東西線（亀岡トンネル開削部・401集）	東西線川内B（扇坂トンネル部・401集） 追廻コート周辺試掘 桜ヶ岡公園４次（西公園再整備・378集 桜ヶ岡公園広瀬川高架橋部・402集）
2011	平成23				第14地点（翌年度継続）		
2012	平成24	大手門北側石垣土塀・中門北側石垣本丸北西石垣（震災復旧）			第14地点（調査途中で中断） 第15地点（翌年度継続）		追廻青葉山公園センター（翌年度継続）
2013	平成25	平成24年度継続（震災復旧・451集）		第18地点（翌年度継続）	第15地点（翌年度継続） 第16地点（『調査報告』５）	歩行者通路試掘（扇坂斜面・427集）	追廻青葉山公園センター（翌年度継続） 川内C遺跡第１次（427集）
2014	平成26	本丸北西石垣北側・清水門石垣（震災復旧・451集）		第18地点（『調査報告６）	第14地点（翌年度継続） 第15地点		追廻青葉山公園センター（444集）
2015	平成27				**第14地点（『調査報告』７：本報告）**		
2016	平成28		第27次造酒屋敷４次（461集）				
2017	平成29		第28次造酒屋敷５次				

＊仙台市教育委員会が刊行した報告書は、『仙台市文化財調査報告書』のシリーズ番号で示した。

第Ⅱ章　調査の方法と経過

1．調査地点の位置と調査に至る経緯

本調査は、仙台市高速鉄道（地下鉄）東西線の川内駅の、駅前広場を整備する工事に伴うものである。地下鉄東西線は、川内北キャンパスの北端に沿って路線が計画され、平成27（2015）年度の開業を目指して建設工事が進められた。この地下鉄東西線では、川内駅がマルチメディア総合研究棟の西側に予定されており、東北大学では、この川内駅の出入り口として駅前広場の整備を行うこととなった（図７）。この場所は、マルチメディア総合研究棟の途中に大きな段差があり、東側の低い部分の高さに合わせる形で、研究棟西側と南側の一段高い部分が削平されることとなった。マルチメディア総合研究棟の新営に伴う調査（武家屋敷地区第７地点･BK７）では、段差の低い部分においては江戸時代の遺構面は既に削平されているが、段差の上側では江戸時代の遺構面が保存されていることが明らかとなっている（『調査年報』19）。そのため、工事で削平される高い部分を事前調査の対象とした。

当初は、2011年度の早い時期に調査を開始する予定で準備を進めていた。しかし、東日本大震災による学内施設の被害に関して、施設部をはじめ関係部局が対応に追われていたため、調査の準備が行えない状況が続いていた。緊急の対応が一段落し、準備が整った2011年９月から、ようやく調査を開始することが可能となった。

また、調査予定範囲には、北側の地下鉄東西線の工事区域を横断するための歩行者や自転車用の通路があり、この通路につながる形で各方向へ通路が延びている。これらの通路を確保しながら、発掘調査を実施する必要があった。そのため、調査区を１～７区に分けて（図８）、通路を移設して確保しながら、順次調査を実施することとなった。

2．調査の方法と経過

（1）発掘調査の経過

2011年９月から開始し、12月末までに１・２区の調査を完了し、３区の調査にとりかかった。厳寒期の１・２月は、図面作成など補足的な調査を行うにとどめ、それ以外の作業は実施していない。2012年３月１日より、３区の本格的な調査を再開した。３区の調査は３月22日で終了し、31日までに隣接する４区の調査に備えて埋め戻した。2011年度には、１～３区の412.4㎡分の調査を終了したこととなる。

2012年５月より、課外活動施設新営に伴う武家屋敷地区第15地点（『年次報告』2015・BK15）の調査を開始することとなったため、第14地点については、４月に４区の調査を実施し、それ以降は調査を中断することとなった。４区は３区の東側に隣接する区域で、斜面部分を含む96.1㎡である。３区を埋め戻して通路を移設した後に重機で掘削し、直ちに精査を行った。精査は４月末で終了し、５月に一部の図面作成など残っていた作業を行った後、埋め戻しと通路の復旧作業などを行った。これらの作業が終了した５月末をもって、第14地点の調査は一旦中断することとなった。１～４区の合計調査終了面積は508.5㎡となった。

2015年３月から残りの５～７区を同時に調査することとした。調査した合計面積は445.5㎡である。３月初めの重機掘削の際に、７区南側と東側に関して大規模な撹乱が認められたことから、その部分については調査しないこととした。３月中には撹乱掘り上げ等を行い、４月から精査を行った。当初は、西側を主体的に精査していたが、東側で池跡と考えられる大規模な遺構が確認できたことから、調査期間の見通しをつけるために、東側の精査に移った。撹乱により確認できた断面から池状遺構の埋土には有機物が多数認められることから、池状遺構埋土に関しては水洗篩による遺物の回収を目指した。５月には池状遺構を含め７区と６区東側については精査が完了した。残り５区と６区西側については、６月中に精査を行った。６月後半に擁壁建築のための掘削箇所が当初の計画から外れていることが判明し、新たな拡張区の調査を６月26日から７月６日までに終了させた。ここま

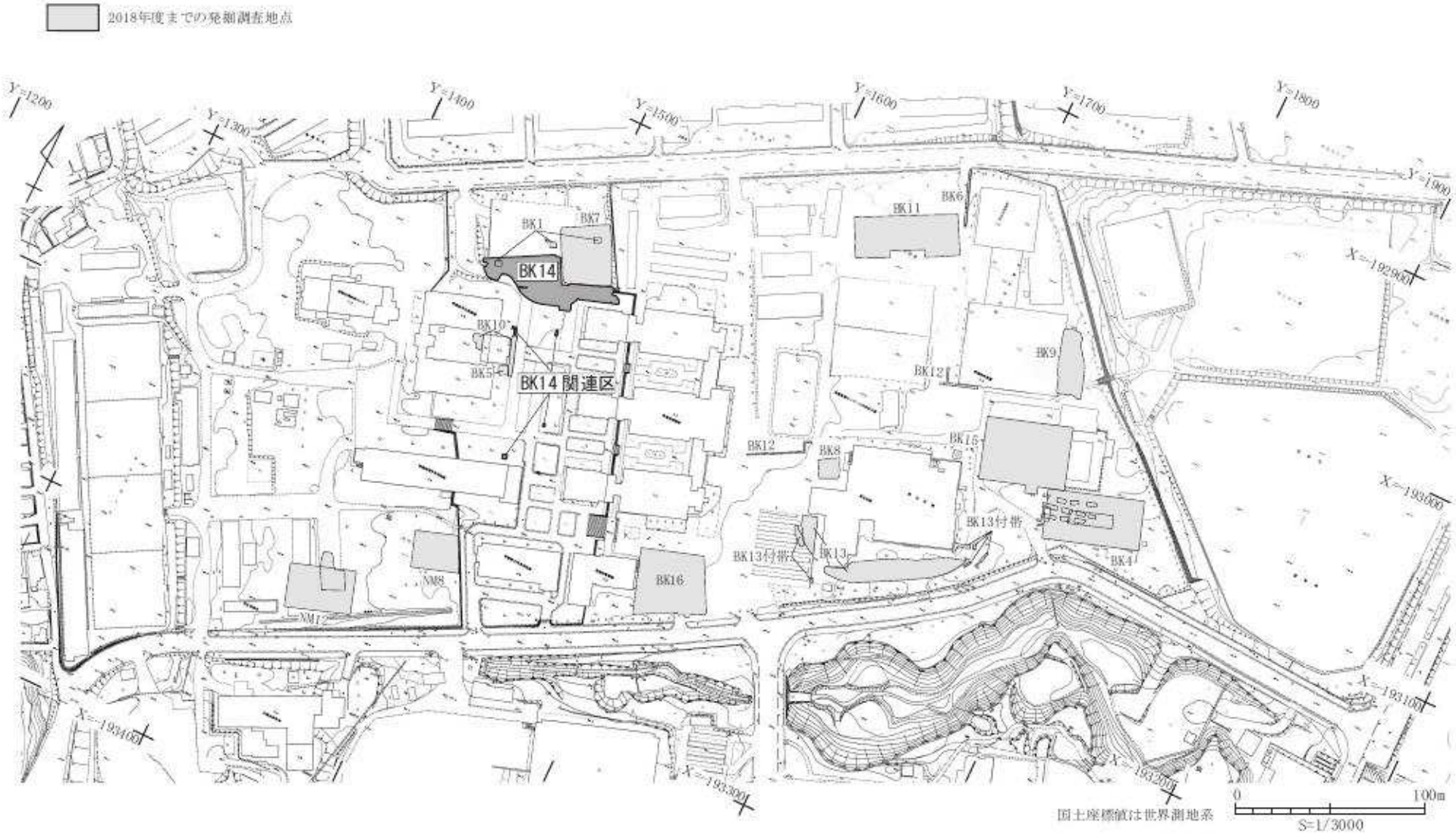
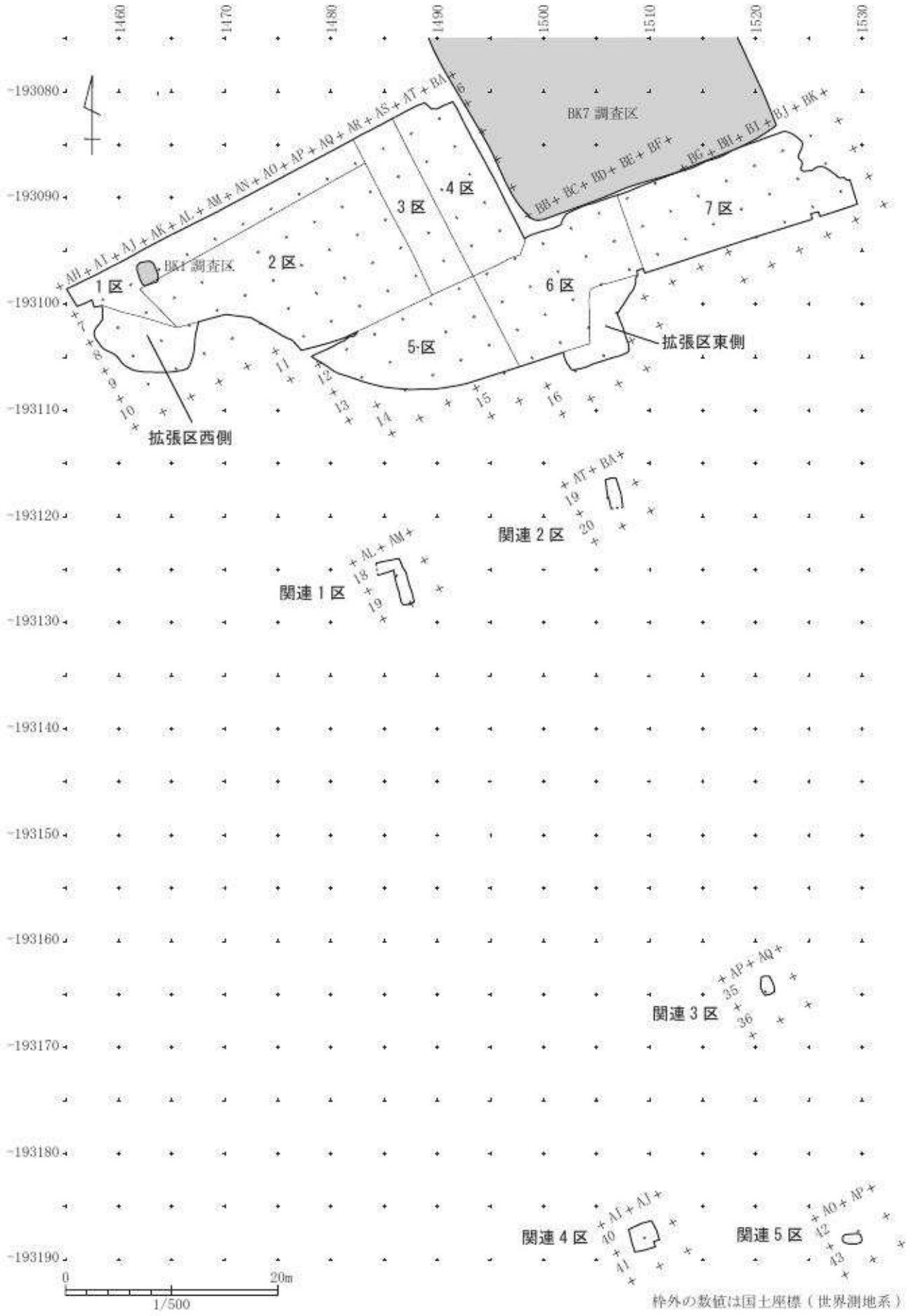


図7　川内北地区調査地点

Fig. 7 Location of excavations at Kawauchi-kita campus (NM i.e. Secondary Citadel)



枠外の数値は国土座標（世界測地系）

図８　武家屋敷地区第14地点調査区配置図

Fig.8 Location of excavations at BK14

での調査面積は、954㎡となった。

また、周辺の環境整備に伴う工事（『年次報告』2015：2015－14）については、2015年７月22日から11月13日にかけて断続的に立会調査を実施した。その掘削地点の大部分は、近代以降の盛土の範囲内に収まっていたが、部分的に遺構埋土と考えられる土層も確認した。面積が狭いため遺構の形状や正確な時期等は判断できなかったが、記録を作成した（関連１～５区）。特に、川内北合同研究棟北東側に位置する電気ハンドホール部１箇所（関連４区）では、時期不明の遺構１基が確認できたことから、９月16・17日に精査を実施した。これら関連区の精査部の面積は、18.8㎡である。この関連区の調査をもって、本工事に伴う全ての調査を終了した。

（２）記録方法

本調査では、当室で学内に設置していた下記測量基準点（日本測地系）を使用して測量をした。平面直角座標系は、X系である。なお、国土地理院から提供されている「H23年東北地方太平洋沖地震に伴う標高補正」、「H26、28年標高改定（ジオイド・モデル改定に伴う補正）」を用いて変換した値も示した。

NO.15A	日本測地系	X=-193,115.345	Y=1,436.681	Z=64.682
	世界測地系	X=-192,806.6138	Y=1,136.8011	Z=64.682
	補正値	X=-192,807.4775	Y=1,139.9160	Z=64.389
NO.16A	日本測地系	X=-193,060.413	Y=1,576.506	Z=57.666
	世界測地系	X=-192,751.6826	Y=1,276.6225	Z=57.666
	補正値	X=-192,752.5485	Y=1,279.7421	Z=57.372

また、調査にあたっては、第７地点調査区（BK７）のグリッド配置を延長する形で調査グリッドを設定した（図８）。このグリッドは、北で28° 18′ 18″西偏している。第７地点調査区のグリッドは東西方向が西からＡ～Ｊと命名されていたが、本調査時には、それぞれ頭にBを付け加え、BA ～ BJ区とした。そして、本調査区は、基準点No.15Aの東側のグリッドからAA区とし、精査範囲をAH ～ AT区とし、BA区に接続した。

また、2011年度調査では全て手作業で各種図面を作成していたが、2015年度調査では株式会社CUBIC製遺構実測支援システム「遺構くん」を導入し、土層断面図作成、簡略的な平面図作成に利用した。2011年11月９日、12月７日、2015年６月24日には、国際文化財株式会社に委託して、空中写真測量と空撮写真による写真測量を行った。

記録写真は、35mmフィルムによるカラーリバーサルとモノクロを基本として使用し、デジタル写真も同じカットで撮影した。空中写真撮影では、６×６のカラーリバーサルとモノクロ写真を撮影し、デジタル写真も同じカットで撮影している。

（３）遺構の名称について

近世遺跡の調査においては、多種多様な遺構が検出される。その際、井戸のように遺構の詳しい機能まで判明する場合もある一方で、そのほとんどは形状のみしか判明しない遺構もある。さらに、今回の調査地点では撹乱が著しく、全体の形状さえも不明な遺構が多数存在した。そのため、調査現場では井戸以外には、主に形状と規模から「遺構」、「溝」、「ピット」という名称を使用し、調査を進めた。また、礎石と考えられる石に関しては、「石」と名称を付けたが、一例のみであった。そのほかの遺構には、「杭」があった。

「遺構」は、比較的大きい掘り方を有するもので、その形状は様々である。従来「土坑」としてきた遺構も、この「遺構」の範疇に含めた。柱穴と想定できるような土坑を「ピット」と呼称した。今回の調査では、当初は「遺構」として調査を進めたが、柱痕跡が明瞭に認められ、その後の整理段階で建物の柱を構成する場合もあった。このような場合は、整理の段階で「ピット」に命名し直している。また、逆の場合もあった。

この「ピット」については、建物や柱列を構成することが調査時に判明している場合でも、ピット番号として各区で通し番号を現地で付けた。川内地区での調査の場合、遺構が複雑に重なり合うと、現場での検討では、組み合う全ての柱穴を確認できない場合が多い。調査後の図面整理の過程で、建物跡や柱列を確認している場合が多数を占める。現地で組み合うことが判明したものについて柱番号を付すと、その後に同じ建物跡などを構成することが判明したピットの番号と、柱番号が前後する場合が生じる。整理後に柱番号を付け直すと、現地での呼称との間で混乱をきたしかねない。そのため、現地で付ける遺構名称は、ピット番号に統一し、建物跡や柱列を構成するピットについては、図面整理後に柱番号を新たに付けた。 また、これまでの報告では、建物・柱列などを構成しないピットに関しては、一覧表での提示や全体図での図示のみであったが、本報告ではそれらのピットに関しては参考として写真図版にて提示した。

今回、調査現場や整理作業において使用した遺構名称は、表５～７に示した通りである。遺物注記等の作業は、「現場名称」で行っており、その後の整理作業の段階には「整理名称」を使用し、本報告にあたり「確定名称」へと変更した。これらの遺構の属性等は表８～16にまとめた。

（4）遺物の取り上げについて

当調査室の調査では、江戸時代に遡る可能性がある遺物については、全て採集することを基本方針としている。また、瓦については、一定の基準を設けて現地で選別を行った。瓦は、江戸時代のものと、明治以降のものを識別することが、破片の場合ほとんど不可能なものも多い。そこで、１層・撹乱出土の瓦については、長さと幅の判明するもの、軒瓦、刻印や線刻のあるもの、その他特殊なものについては採集するという基準を設けている。刻印や線刻の有無などについては、土壌が付着したままでは判別が難しいので、現地で土壌をおおよそ落とした上で、上記の基準に当てはまる資料のみを収集している。

（5）整理作業

当調査室での整理作業と報告書刊行については、経費は全学的基盤経費として、毎年度ほぼ一定した額が措置されている。調査の事業量は年度により多寡があるため、大きな滞りをきたすことなく調査報告書を作成できるよう、各年度に実施する整理作業を平均化して計画的に実施することとしている。そのため、特定の年度だけ報告書の頁数が増大し、印刷費が大きくなることは、他の事業費を圧迫することとなり難しい。そこで、武家屋敷地区第14地点に関する報告は、２分冊に分け、第１分冊を遺構の事実記載を中心とした遺構編とし2018年度に刊行することとした。2019年度には、第２分冊遺物・考察編として刊行する予定である。

武家屋敷地区第14地点の出土遺物は、整理作業前の段階で79箱であった。整理作業は、当室の発掘調査全てが終了した2015年度から５ヶ年の整理作業期間を設定し、実施している。2015年度は遺物の洗浄・注記作業、2016・2017年度は種類ごとの分類・接合・集計・抽出作業を行った。2018年度以降は、遺構編作成のため基礎作業のほか、各遺物の実測図作成とデジタルトレース作業・観察表作成・写真撮影などを行っている。

木製品・漆塗製品については、調査の一時中断期間に状態悪化が懸念されることから、調査前半期間に出土したものは、調査終了を待たずに2012年度に洗浄・分類・集計・抽出・観察表作成作業を行った。その上で、すべての漆塗製品と抽出木製品は水漬で冷蔵庫保管し、抽出しない木製品は保存処理作業を進めている。また、その他の金属製品等の保存処理が必要な遺物についても、当調査室にて保存処理作業を実施している。

遺構の検討段階で、遺構名・層名が変更になった遺物は、対照表を作成して調査時名称と報告名称を照会できるようにしているが、遺物に書かれた注記は調査時の名称とした。

これらの遺物の整理作業の経過・内容等の詳細については、次年度刊行の『調査報告』８にて報告したい。

表５　遺構名称対照表（１）

Tab.5　List of the features name which are collated（1）

現場名称	整理名称	確定名称	段階
なし	個別ピット番号	１号建物	Ⅰ
なし	個別ピット番号	２号建物	Ⅰ-Ⅲ
なし	個別ピット番号	３号建物	Ⅰ
なし	個別ピット番号	４号建物	Ⅰ
なし	個別ピット番号	５号建物	Ⅰ-Ⅲ
なし	個別ピット番号	６号建物	Ⅲ
なし	個別ピット番号	７号建物	Ⅰ-Ⅲ
なし	個別ピット番号	１号柱列	Ⅱb
なし	個別ピット番号	２号柱列	Ⅱb
なし	個別ピット番号	３号柱列	不明
なし	個別ピット番号	４号柱列	Ⅰ-Ⅲ
なし	個別ピット番号	５号柱列	Ⅰ
なし	個別ピット番号	６号柱列	Ⅰ
なし	個別ピット番号	７号柱列	Ⅰ-Ⅲ
なし	個別ピット番号	８号柱列	Ⅰ
なし	個別ピット番号	９号柱列	Ⅲ
なし	個別ピット番号	10号柱列	Ⅰ
１号遺構	６号井戸に変更	６号井戸	Ⅱa-Ⅱb（埋没）
２号遺構	２号遺構	２号遺構	Ⅲ
３号遺構	ピット288に変更	３号建物柱15	Ⅰ
４号遺構	４号遺構	４号遺構	Ⅱb
５号遺構	５号遺構	５号遺構	Ⅱb-Ⅲ
６号遺構	６号遺構	６号遺構	Ⅰ
７号遺構	７号遺構	７号遺構	Ⅰ-Ⅲ
８号遺構	５号遺構に統合	-	-
９号遺構	９号遺構	９号遺構	Ⅱa-Ⅱb
10号遺構	10号遺構	10号遺構	Ⅰ
11号遺構	欠番	-	-
12号遺構	12号遺構	12号遺構	Ⅰ
13号遺構	13号遺構	13号遺構	Ⅱb
14号遺構	14号遺構	14号遺構	Ⅲ
15号遺構	15号遺構	15号遺構	Ⅰ-Ⅱb
16号遺構	16号遺構	16号遺構	Ⅰ-Ⅱb
17号遺構	17号遺構	１号池状遺構	Ⅱb
18号遺構	18号遺構	18号遺構	Ⅱa
19号遺構	19号遺構	２号池状遺構	Ⅰ
20号遺構	20号遺構	20号遺構	Ⅲ
21号遺構	21号遺構	21号遺構	Ⅲ
22号遺構	22号遺構	３号池状遺構	Ⅱa
23号遺構	23号遺構	23号遺構	Ⅲ
24号遺構	24号遺構	４号池状遺構	Ⅰ
25号遺構	25号遺構	25号遺構	Ⅲ
26号遺構	26号遺構	26号遺構	Ⅰ-Ⅱb
27号遺構	ピット289に変更	５号建物柱１	Ⅰ-Ⅲ
28号遺構	28号遺構	28号遺構	Ⅰ-Ⅲ
29号遺構	欠番	-	-
30号遺構	30号遺構	30号遺構	Ⅲ
31号遺構	31号遺構	31号遺構	Ⅲ
32号遺構	30号遺構に統合	-	-
33号遺構	ピット287に変更	ピット287	Ⅲ
34号遺構	34号遺構	34号遺構	Ⅲ
35号遺構	35号遺構	35号遺構	Ⅰ-Ⅱb
36号遺構	ピット291に変更	ピット291	Ⅲ
37号遺構	37号遺構	37号遺構	Ⅰ
38号遺構	ピット294に変更	ピット294	Ⅰ-Ⅱa
39号遺構	39号遺構	39号遺構	Ⅰ
40号遺構	40号遺構	40号遺構	Ⅰ
41号遺構	41号遺構	41号遺構	Ⅲ
42号遺構	42号遺構	42号遺構	Ⅰ
43号遺構	ピット216に統合	-	-
44号遺構	44号遺構	44号遺構	Ⅲ
45号遺構	ピット290に変更	６号建物柱５	Ⅲ
46号遺構	46号遺構	46号遺構	Ⅰ-Ⅱb
47号遺構	47号遺構	47号遺構	Ⅰ-Ⅱb
48号遺構	48号遺構	48号遺構	Ⅲ
49号遺構	６号溝に統合	-	-
50号遺構	50号遺構	50号遺構	Ⅱb-Ⅲ
51号遺構	51号遺構	51号遺構	Ⅲ
52号遺構	ピット293に変更	８号柱列柱１	Ⅰ
53号遺構	ピット292に変更	ピット292	Ⅲ
54号遺構	ピット292に統合	-	-
55号遺構	55号遺構	55号遺構	不明
56号遺構	56号遺構	56号遺構	不明
57号遺構	57号遺構	57号遺構	Ⅰ
58号遺構	58号遺構	58号遺構	Ⅰ-Ⅱb
59号遺構	59号遺構	59号遺構	Ⅰ-Ⅱb

現場名称	整理名称	確定名称	段階
60号遺構	60号遺構	60号遺構	Ⅲ
61号遺構	61号遺構	61号遺構	Ⅰ
62号遺構	62号遺構	62号遺構	Ⅲ
63号遺構	63号遺構	63号遺構	Ⅲ
64号遺構	64号遺構	64号遺構	Ⅰ
１号溝	１号溝	１号溝	Ⅰ
２号溝	２号溝	２号溝	
３号溝	３号溝	３号溝	Ⅰ
４号溝	４号溝	４号溝	Ⅲ
５号溝	５号溝	５号溝	Ⅱa
６号溝	６号溝	６号溝	Ⅲ
７号溝	７号溝	７号溝	Ⅰ-Ⅱb
８号溝	71号遺構に変更	71号遺構	Ⅲ
９号溝	欠番	-	-
10号溝	70号遺構に変更	70号遺構	Ⅲ
１号井戸	１号井戸	１号井戸	Ⅰ-Ⅲ
２号井戸	２号井戸	２号井戸	Ⅱa-Ⅱb
３号井戸	欠番	-	-
４号井戸	４号井戸	４号井戸	Ⅲ（埋没）
５号井戸	５号井戸	５号井戸	Ⅰ
１号焼土遺構	75号遺構に変更	75号遺構	Ⅰ-Ⅲ
集石遺構	72号遺構に変更	72号遺構	Ⅰ-Ⅱb
ピット１	ピット１	３号建物柱17	Ⅰ
ピット２	ピット２	６号柱列柱３	Ⅰ
ピット３	ピット３	７号柱列柱１	Ⅰ-Ⅲ
ピット４	ピット６に統合	-	-
ピット５	ピット５	４号建物柱５	Ⅰ
ピット６	ピット６	３号建物柱11	Ⅰ
ピット７	ピット７	ピット７	不明
ピット８	ピット８	３号建物柱１	Ⅰ
ピット９	ピット９	３号建物柱２	Ⅰ
ピット10	ピット10	ピット10	不明
ピット11	ピット11	ピット11	不明
ピット12	ピット12	ピット12	不明
ピット13	ピット13	ピット13	Ⅰ-Ⅲ
ピット14	ピット14	ピット14	不明
ピット15	ピット15	ピット15	Ⅰ-Ⅱa
ピット16	ピット16	３号建物柱16	Ⅰ
ピット17	ピット17	ピット17	Ⅰ-Ⅲ
ピット18	ピット18	２号建物柱５	Ⅰ-Ⅲ
ピット19	ピット19	ピット19	不明
ピット20	ピット20	３号建物柱14	Ⅰ
ピット21	ピット21	ピット21	不明
ピット22	ピット22	２号建物柱４	Ⅰ-Ⅲ
ピット23	ピット23	２号建物柱３	Ⅰ-Ⅲ
ピット24	ピット24	７号建物柱４	Ⅰ-Ⅲ
ピット25	ピット25	ピット25	Ⅲ
ピット26	ピット26	７号建物柱３	Ⅰ-Ⅲ
ピット27	ピット27	６号柱列柱１	Ⅰ
ピット28	ピット28	ピット28	不明
ピット29	ピット29	ピット29	不明
ピット30	ピット30	４号柱列柱６	Ⅰ-Ⅲ
ピット31	ピット31	４号柱列柱４	Ⅰ-Ⅲ
ピット32	ピット32	６号柱列柱２	Ⅰ
ピット33	ピット33	４号柱列柱５	Ⅰ-Ⅲ
ピット34	ピット34	ピット34	不明
ピット35	ピット35	ピット35	不明
ピット36	ピット36	ピット36	Ⅰ-Ⅲ
ピット37	ピット37	７号建物柱２	Ⅰ-Ⅲ
ピット38	ピット38	ピット38	Ⅰ-Ⅱb
ピット39	ピット39	ピット39	不明
ピット40	ピット40	ピット40	Ⅰ-Ⅱb
ピット41	ピット41	ピット41	不明
ピット42	ピット42	７号建物柱５	Ⅰ-Ⅲ
ピット43	ピット43	２号建物柱２	Ⅰ-Ⅲ
ピット44	ピット44	４号柱列柱３	Ⅰ-Ⅲ
ピット45	ピット45	ピット45	不明
ピット46	ピット46	７号建物柱１	Ⅰ-Ⅲ
ピット47	ピット47	４号柱列柱２	Ⅰ-Ⅲ
ピット48	ピット48	４号柱列柱１	Ⅰ-Ⅲ
ピット49	ピット49	ピット49	Ⅱb-Ⅲ
ピット50	ピット50	４号建物柱１	Ⅰ
ピット51	ピット51	４号建物柱６	Ⅰ
ピット52	ピット52	ピット52	不明
ピット53	ピット53	１号建物柱２	Ⅰ
ピット54	ピット54	ピット54	不明

表６　遺構名称対照表（２）

Tab.6　List of the features name which are collated (2)

現場名称	整理名称	確定名称	段階
ピット55	ピット55	４号建物柱３	Ⅰ
ピット56	ピット56	１号建物柱１	Ⅰ
ピット57	ピット57	ピット57	不明
ピット58	ピット58	ピット58	不明
ピット59	ピット59	２号建物柱１	Ⅰ-Ⅲ
ピット60	ピット60	４号建物柱４	Ⅰ
ピット61	ピット61	４号建物柱２	Ⅰ
ピット62	ピット62	ピット62	Ⅰ-Ⅲ
ピット63	３号遺構に統合	－	－
ピット64	ピット64	ピット64	Ⅰ
ピット65	ピット65	ピット65	不明
ピット66	ピット66	ピット66	不明
ピット67	ピット67	ピット67	不明
ピット68	ピット68	ピット68	不明
ピット69	ピット69	ピット69	不明
ピット70	ピット70	ピット70	Ⅰ
ピット71	ピット71	３号建物柱12	Ⅰ
ピット72	ピット72	ピット72	不明
ピット73	ピット73	３号建物柱13	Ⅰ
ピット74	ピット74	ピット74	Ⅰ
ピット75	ピット75	３号建物柱３	Ⅰ
ピット76	ピット76	３号建物柱６	Ⅰ
ピット77	ピット77	ピット77	Ⅰ-Ⅱa
ピット78	ピット78	３号建物柱４	Ⅰ
ピット79	ピット79	ピット79	Ⅰ-Ⅲ
ピット80	ピット80	３号建物柱５	Ⅰ
ピット81	ピット81	ピット81	Ⅰ-Ⅲ
ピット82	ピット82	ピット82	不明
ピット83	ピット83	ピット83	Ⅰ-Ⅲ
ピット84	ピット84	ピット84	Ⅰ
ピット85	ピット85	ピット85	Ⅰ-Ⅲ
ピット86	65号遺構に変更	65号遺構	Ⅱb-Ⅲ
ピット87	66号遺構に変更	66号遺構	Ⅲ
ピット88	ピット88	ピット88	Ⅰ-Ⅲ
ピット89	ピット89	７号柱列柱２	Ⅰ-Ⅲ
ピット90	ピット90	ピット90	Ⅰ-Ⅲ
ピット91	73号遺構に変更	73号遺構	不明
ピット92	ピット92	ピット92	Ⅰ
ピット93	ピット93	ピット93	不明
ピット94	ピット94	ピット94	不明
ピット95	ピット95	ピット95	Ⅰ-Ⅲ
ピット96	ピット96	７号柱列柱３	Ⅰ-Ⅲ
ピット97	ピット97	ピット97	不明
ピット98	ピット98	ピット98	不明
ピット99	ピット99	３号建物柱10	Ⅰ
ピット100	ピット100	ピット100	Ⅰ-Ⅲ
ピット101	ピット101	３号建物柱９	Ⅰ
ピット102	ピット102	ピット102	Ⅰ
ピット103	67号遺構に変更	67号遺構	不明
ピット104	ピット104	ピット104	Ⅰ-Ⅲ
ピット105	ピット105	３号建物柱８	Ⅰ
ピット106	ピット106	３号建物柱７	Ⅰ
ピット107	ピット107	ピット107	Ⅰ
ピット108	ピット108	ピット108	不明
ピット109	ピット109	ピット109	不明
ピット110	ピット110	ピット110	不明
ピット111	68号遺構に変更	68号遺構	Ⅰ-Ⅱb
ピット112	ピット112	ピット112	不明
ピット113	ピット113	ピット113	Ⅱb-Ⅲ
ピット114	69号遺構に変更	69号遺構	Ⅱa-Ⅱb
ピット115	欠番	－	－
ピット116	ピット116	ピット116	Ⅰ-Ⅱb
ピット117	ピット117	９号柱列柱２	Ⅲ
ピット118	ピット118	９号柱列柱３	Ⅲ
ピット119	ピット119	ピット119	不明
ピット120	ピット120	５号柱列柱３	Ⅰ
ピット121	ピット121	５号柱列柱２	Ⅰ
ピット122	ピット122	ピット122	不明
ピット123	ピット123	ピット123	Ⅲ
ピット124	ピット124	ピット124	不明
ピット125	ピット125	ピット125	Ⅰ-Ⅲ
ピット126	ピット126	ピット126	Ⅰ-Ⅲ
ピット127	ピット127	ピット127	不明
ピット128	ピット128	ピット128	Ⅰ-Ⅲ
ピット129	ピット129	ピット129	Ⅲ
ピット130	ピット130	ピット130	Ⅰ-Ⅲ

現場名称	整理名称	確定名称	段階
ピット131	ピット131	６号建物柱１	Ⅲ
ピット132	ピット132	６号建物柱６	Ⅲ
ピット133	ピット133	５号建物柱３	Ⅰ-Ⅲ
ピット134	ピット134	ピット134	Ⅰ-Ⅲ
ピット135	ピット135	ピット135	不明
ピット136	ピット136	ピット136	Ⅲ
ピット137	ピット137	６号建物柱２	Ⅲ
ピット138	ピット138	ピット138	Ⅲ
ピット139	ピット139	ピット139	不明
ピット140	ピット140	５号建物柱２	Ⅰ-Ⅲ
ピット141	ピット141	ピット141	不明
ピット142	ピット142	ピット142	Ⅰ-Ⅲ
ピット143	ピット143	ピット143	Ⅰ-Ⅱb
ピット144	ピット144	ピット144	Ⅰ-Ⅲ
ピット145	ピット145	ピット145	Ⅰ-Ⅲ
ピット146	ピット146	ピット146	Ⅰ-Ⅲ
ピット147	ピット147	ピット147	不明
ピット148	ピット148	ピット148	不明
ピット149	ピット149	１号柱列柱２	Ⅱb
ピット150	ピット150	１号柱列柱１	Ⅱb
ピット151	ピット151	ピット151	Ⅱb
ピット152	ピット152	ピット152	Ⅲ
ピット153	ピット153	１号柱列柱５	Ⅱb
ピット154	ピット154	１号柱列柱４	Ⅱb
ピット155	ピット155	１号柱列柱３	Ⅱb
ピット156	ピット156	ピット156	Ⅱb
ピット157	ピット157	２号柱列柱２	Ⅱb
ピット158	ピット158	２号柱列柱１	Ⅱb
ピット159	ピット159	ピット159	Ⅱb
ピット160	ピット160	ピット160	Ⅱb
ピット161	ピット161	ピット161	Ⅱb
ピット162	ピット162	ピット162	Ⅰ-Ⅱa
ピット163	ピット163	10号柱列柱２	Ⅰ
ピット164	ピット164	ピット164	Ⅰ-Ⅱa
ピット165	ピット165	ピット165	Ⅰ-Ⅱa
ピット166	ピット166	ピット166	Ⅰ-Ⅱa
ピット167	ピット167	ピット167	不明
ピット168	ピット168	ピット168	不明
ピット169	ピット220に統合	－	－
ピット170	ピット170	ピット170	Ⅰ-Ⅱa
ピット171	ピット171	ピット171	Ⅲ
ピット172	欠番	－	－
ピット173	ピット173	ピット173	Ⅲ
ピット174	ピット174	ピット174	Ⅲ
ピット175	ピット175	ピット175	Ⅲ
ピット176	欠番	－	－
ピット177	ピット177	ピット177	Ⅲ
ピット178	ピット178	ピット178	Ⅲ
ピット179	ピット179	ピット179	Ⅰ-Ⅲ
ピット180	ピット180	ピット180	Ⅰ-Ⅱb
ピット181	ピット181	ピット181	Ⅰ-Ⅱb
ピット182	ピット182	10号柱列柱１	Ⅰ
ピット183	ピット183	ピット183	Ⅲ
ピット184	ピット184	ピット184	Ⅰ-Ⅲ
ピット185	ピット185	ピット185	Ⅰ-Ⅱb
ピット186	ピット186	ピット186	Ⅲ
ピット187	ピット187	ピット187	不明
ピット188	ピット188	ピット188	Ⅰ-Ⅱa
ピット189	ピット189	ピット189	Ⅰ-Ⅱb
ピット190	ピット190	ピット190	Ⅰ-Ⅲ
ピット191	ピット191	ピット191	Ⅰ-Ⅱb
ピット192	ピット192	ピット192	Ⅲ
ピット193	ピット193	ピット193	Ⅲ
ピット194	ピット194	５号柱列柱１	Ⅰ
ピット195	ピット195	ピット195	Ⅰ-Ⅱb
ピット196	杭43に変更	杭43	Ⅰ-Ⅱb
ピット197	ピット197	ピット197	Ⅲ
ピット198	ピット198	ピット198	Ⅲ
ピット199	ピット199	ピット199	Ⅲ
ピット200	ピット200	ピット200	Ⅰ
ピット201	ピット201	ピット201	Ⅰ-Ⅱb
ピット202	ピット202	ピット202	Ⅰ-Ⅱb
ピット203	ピット203	ピット203	Ⅰ-Ⅲ
ピット204	ピット204	ピット204	Ⅰ-Ⅱb
ピット205	ピット205	ピット205	Ⅰ
ピット206	ピット206	ピット206	不明

表7　遺構名称対照表（3）

Tab.7　List of the features name which are collated（3）

現場名称	整理名称	確定名称	段階
ピット207	欠番	－	－
ピット208	ピット208	1号建物柱4	1
ピット209	ピット209	ピット209	不明
ピット210	ピット210	1号建物柱3	1
ピット211	ピット211	ピット211	不明
ピット212	欠番	－	－
ピット213	ピット213	ピット213	1
ピット214	ピット214	ピット214	Ⅲ
ピット215	ピット215	ピット215	Ⅰ－Ⅱb
ピット216	ピット216	8号柱列柱2	1
ピット217	ピット217	ピット217	1
ピット218	ピット218	ピット218	Ⅰ－Ⅱb
ピット219	ピット219	ピット219	Ⅲ
ピット220	ピット220	6号建物柱7	Ⅲ
ピット221	ピット221	ピット221	Ⅲ
ピット222	ピット222	ピット222	Ⅲ
ピット223	ピット223	ピット223	Ⅱb－Ⅲ
ピット224	ピット224	ピット224	Ⅰ－Ⅲ
ピット225	ピット225	ピット225	Ⅰ－Ⅱb
ピット226	ピット226	ピット226	Ⅱa－Ⅱb
ピット227	ピット227	ピット227	Ⅰ－Ⅱb
ピット228	ピット228	6号建物柱4	Ⅲ
ピット229	ピット229	6号建物柱3	Ⅲ
ピット230	ピット230	ピット230	Ⅲ
ピット231	ピット231	6号建物柱8	Ⅲ
ピット232	欠番	－	－
ピット233	ピット233	ピット233	Ⅲ
ピット234	杭33に変更	杭33	Ⅲ
ピット235	ピット235	9号柱列柱1	Ⅲ
ピット236	ピット236	ピット236	1
ピット237	ピット237	ピット237	Ⅰ－Ⅱb
ピット238	ピット238	ピット238	Ⅰ－Ⅲ
ピット239	ピット239	ピット239	1
ピット240	ピット240	ピット240	Ⅰ－Ⅱb
ピット241	ピット241	3号柱列柱2	不明
ピット242	ピット242	3号柱列柱1	不明
ピット243	ピット243	3号柱列柱3	不明
ピット244	ピット244	ピット244	Ⅰ－Ⅲ
ピット245	ピット245	ピット245	1
ピット246	ピット246	ピット246	Ⅲ
ピット247	ピット261に統合	－	－
ピット248	ピット248	ピット248	1
ピット249	欠番	－	－
ピット250	ピット250	ピット250	1
ピット251	ピット251	ピット251	Ⅰ－Ⅱb
ピット252	ピット167に統合	－	－
ピット253	ピット253	ピット253	不明
ピット254	ピット254	ピット254	Ⅰ－Ⅱb
ピット255	欠番	－	－
ピット256	ピット256	ピット256	Ⅰ－Ⅱb
ピット257	ピット257	ピット257	Ⅰ－Ⅱb
ピット258	ピット258	ピット258	Ⅰ－Ⅱb
ピット259	ピット259	ピット259	Ⅲ
ピット260	ピット260	ピット260	Ⅰ－Ⅱb
ピット261	ピット261	ピット261	Ⅲ
ピット262	ピット262	ピット262	不明
ピット263	ピット263	ピット263	Ⅲ
ピット264	杭57に変更	杭57	1
ピット265	ピット265	ピット265	Ⅰ－Ⅱb
ピット266	ピット266	ピット266	1
ピット267	74号遺構に変更	74号遺構	Ⅰ－Ⅱb
ピット268	ピット268	8号柱列柱3	1
ピット269	ピット269	ピット269	Ⅲ
ピット270	ピット270	ピット270	Ⅲ
ピット271	ピット271	ピット271	Ⅲ
ピット272	ピット272	ピット272	Ⅲ
ピット273	25号遺構に統合	－	－
ピット274	ピット274	ピット274	Ⅰ－Ⅱb
ピット275	ピット275	ピット275	Ⅰ－Ⅱb
ピット276	ピット276	ピット276	Ⅰ－Ⅱb
ピット277	ピット277	ピット277	Ⅰ－Ⅱb
ピット278	ピット292に統合	－	－
ピット279	ピット279	ピット279	Ⅰ－Ⅱb
ピット280	ピット280	ピット280	Ⅲ
ピット281	ピット281	ピット281	Ⅰ－Ⅱb
ピット282	ピット282	ピット282	Ⅰ－Ⅱb

現場名称	整理名称	確定名称	段階
ピット283	ピット283	ピット283	Ⅰ－Ⅱb
ピット284	ピット284	ピット284	Ⅰ
ピット285	ピット285	ピット285	Ⅰ－Ⅱb
ピット286	60号遺構に統合	－	－
石1	石	石	不明
石2	欠番	－	－
杭1	杭1	杭1	不明
杭2	杭2	杭2	不明
杭3	杭3	杭3	不明
杭4	杭4	杭4	不明
杭5	杭5	杭5	不明
杭6	杭6	杭6	不明
杭7	杭7	杭7	不明
杭8	杭8	杭8	不明
杭9	杭9	杭9	不明
杭10	杭10	杭10	不明
杭11	杭11	杭11	Ⅰ－Ⅲ
杭12	杭12	杭12	不明
杭13	杭13	杭13	不明
杭14	杭14	杭14	Ⅰ－Ⅱb
杭15	欠番	－	－
杭16	杭16	杭16	不明
杭17	杭17	杭17	不明
杭18	杭18	杭18	Ⅱa－Ⅲ
杭19	杭19	杭19	Ⅱa－Ⅲ
杭20	杭20	杭20	Ⅱa－Ⅲ
杭21	杭21	杭21	Ⅰ－Ⅱb
杭22	欠番	－	－
杭23	杭23	杭23	Ⅲ
杭24	欠番	－	－
杭25	杭25	杭25	Ⅲ
杭26	杭26	杭26	Ⅰ
杭27	杭27	杭27	Ⅰ
杭28	杭28	杭28	Ⅰ
杭29	杭29	杭29	Ⅰ
杭30	杭30	杭30	Ⅰ－Ⅱb
杭31	杭31	杭31	Ⅰ－Ⅱb
杭32	杭32	杭32	Ⅰ－Ⅱb
杭34	杭34	杭34	不明
杭35	杭35	杭35	不明
杭36	杭36	杭36	Ⅰ－Ⅱb
杭37	杭37	杭37	Ⅲ
杭38	杭38	杭38	Ⅲ
杭39	杭39	杭39	Ⅲ
杭40	杭40	杭40	Ⅰ－Ⅱb
杭41	杭41	杭41	Ⅰ－Ⅱb
杭42	杭42	杭42	Ⅰ－Ⅱb
杭44	杭44	杭44	不明
杭45	杭45	杭45	不明
杭46	杭46	杭46	不明
杭47	杭47	杭47	不明
杭48	杭48	杭48	不明
杭49	杭49	杭49	不明
杭50	杭50	杭50	不明
杭51	杭51	杭51	不明
杭52	杭52	杭52	不明
杭53	杭53	杭53	Ⅰ
杭54	杭54	杭54	不明
杭55	欠番	－	－
杭56	杭56	杭56	Ⅲ
－	－	杭58	Ⅲ以降
汚水1区遺構	関連1区遺構	関連1区遺構	不明
外灯3区溝	関連2区溝	関連2区溝	Ⅲ
ハンドホール遺構	関連4区遺構	関連4区遺構	Ⅰ
外灯1区遺構	関連5区遺構	関連5区遺構	不明

表8　遺構属性表（1）

Tab.8　Attributes of remains (1)

名称	区名	確認面	形状	規模			時期	段階	重複する遺構の新古	
				面積(㎡)	長軸(m)	短軸(m)			古い	新しい
1号池状遺構	BD-12・13、BE-11～13、BF-12・13	2b層	不整方形	18.34	6.4	5.2	18世紀中葉	Ⅱb	ピット188、40号遺構	18号遺構、杭18・19
2号池状遺構	BG・BH-12・13	2b層	方形	17.62	4.7	3.8	17世紀	Ⅰ	40号遺構	1号柱列柱1・2、ピット151、18号遺構、杭26
3号池状遺構	BD・BF-12・13	17号遺構底面	楕円形	9.9	3.6	3.2	17世紀末葉～18世紀前半	Ⅱa	ピット164	ピット294
4号池状遺構	BD・BE-12・13	17号遺構底面	長方形	6.94	3.7	3.4	17世紀	Ⅰ		ピット164・294
2号遺構	AP・AQ-9	2c層	円形	1.44	径1.4		19世紀前葉～中葉	Ⅲ	ピット13・62	
4号遺構	AR-7	3a層	円形	0.71	径1.2		18世紀末葉～19世紀初頭	Ⅱb		
5号遺構	AR・AS-9	2a層	円形	5.86	径3.1		19世紀～近代	Ⅱb-Ⅲ	3号建物柱4、7号柱列柱2、ピット83・85・88、9号遺構	
6号遺構	AQ・AR-8	2a層	不明	0.38	1.3	0.3	17世紀初頭以前	Ⅰ		6号柱列柱2
7号遺構	AI・AJ-7・8	4層	不整円形	7.32	4.3	3.6	近世	Ⅰ-Ⅲ		
9号遺構	AR-8・9	3a層	不整楕円形	1.41	1.6	1.1	18世紀	Ⅱa-Ⅱb	10号遺構	5号遺構
10号遺構	AR・AS-8・9	75号遺構底面	不明	0.56	1.5	0.4	17世紀	Ⅰ	ピット92	9・75号遺構
12号遺構	AT-8	2b層	不明	0.75	1.6	1.0	17世紀後葉?	Ⅰ		13号遺構
13号遺構	AT・BA-8	2b層	長方形	0.72	1.5	0.6	18世紀後半	Ⅱb	ピット116、12・68号遺構	ピット113
14号遺構	AS・AT-8	4層	長方形?	1.51	2.2	1.1	19世紀中葉～後葉	Ⅲ		
15号遺構	AS・AT-7	2b層	長方形	0.66	1.2	1.0	17世紀後葉～18世紀	Ⅰ-Ⅱb	5号井戸	
16号遺構	AQ・AR-13・14	2b層	円形	6.5	径4.3		18世紀後葉以前（未掘）	Ⅰ-Ⅱb	ピット254・256・267、46・47・58号遺構、7号溝	9号柱列柱1・柱2
18号遺構	BF-12	2b層	不明	0.87	1.4	0.8	18世紀前葉～中葉	Ⅱa	17・19号遺構	杭20
20号遺構	BH・BI-13	2a-2層	楕円形	1.04	1.4	1.0	近代	Ⅲ	21号遺構、5号溝	
21号遺構	BH・BI-13	2a-2層	楕円形	0.58	1.1	0.6	19世紀前葉～中葉	Ⅲ	3号溝	20号遺構
23号遺構	BA・BB-13	2a-2層	方形?	0.63	1.0	0.8	19世紀前葉以後	Ⅲ	10号柱列柱1、35号遺構	
25号遺構	BB-13・14	2a-2層	不明	0.41	0.8	0.6	19世紀前葉?	Ⅲ	ピット200	
26号遺構	BA・BB-13・14	4号溝底面	不明	0.89	1.1	0.8	17世紀末葉～18世紀	Ⅰ-Ⅱb	10号柱列柱2、杭30・31	4号溝
28号遺構	AO-12	2b層	楕円形	0.57	0.9	0.7	近世	Ⅰ-Ⅲ	ピット184	
30号遺構	AS・AT-14	2a-2層	長方形	1.12	1.3	0.9	19世紀前葉	Ⅲ	ピット179・183・192・268、44号遺構	ピット291
31号遺構	AS-12・13	2a-2層	楕円形	1.16	1.6	0.8	19世紀前葉～中葉	Ⅲ	6号建物柱3・8、ピット236・239、51号遺構、杭36	
34号遺構	AR・AS-14	2a-2層	長方形?	0.34	0.8	0.8	19世紀前葉以後	Ⅲ		
35号遺構	BB-13	2b層	楕円形	0.4	0.9	0.6	18世紀後半以前	Ⅰ-Ⅱb		23号遺構・4号溝
37号遺構	BB-13	2b層	楕円形	0.14	0.6	0.4	17世紀	Ⅰ		4号溝
39号遺構	BB-12	2b層	楕円形	0.89	1.4	0.7	17世紀以前	Ⅰ		4号溝
40号遺構	BE・BF-12・13	2b層	長方形	5.37	2.9	2.0	16世紀末葉	Ⅰ		17・19号遺構
41号遺構	AT-14	2a-2層	楕円形	0.1	0.5	0.2	19世紀前葉以後	Ⅲ	ピット291	
42号遺構	AT-12	2b層	楕円形	0.88	1.4	0.7	17世紀初頭	Ⅰ	ピット250	6号建物柱5、ピット173・195・239
44号遺構	AS-14	2a-2層	長方形?	0.21	0.9	0.8	19世紀前葉	Ⅲ		ピット192・291、30号遺構、杭23・25
46号遺構	AR-14	2b層	不明	0.13	0.7	0.4	18世紀後葉以前	Ⅰ-Ⅱb	ピット254、59号遺構	16号遺構
47号遺構	AR-14	2b層	楕円形	0.15	0.6	0.3	18世紀後葉以前	Ⅰ-Ⅱb	ピット256・257、58号遺構	16号遺構
48号遺構	AS-12	2b層	不整円形	0.42	1.0	0.5	19世紀中葉	Ⅲ	ピット238	
50号遺構	AS-13	2a-2層	不明	0.38	1.0	0.4	19世紀	Ⅱb-Ⅲ		
51号遺構	AS-12・13	2a-2層	楕円形?	0.25	1.0	0.8	19世紀前葉～中葉	Ⅲ	8号柱列柱1、ピット236	6号建物柱8、ピット287、31号遺構
55号遺構	BA-14	4層	不明	0.1	0.5	0.3	不明	不明		
56号遺構	BA-13	4層	不明	0.13	0.6	0.5	不明	不明		

＊「形状」と「規模」は残存部位から判断・計測した

表９　遺構属性表（２）

Tab.9　Attributes of remains (2)

名称	区名	確認面	形状	規模			時期	段階	重複する遺構の新古	
				面積(㎡)	長軸(m)	短軸(m)			古い	新しい
57号遺構	AS・AT-12・13	2b層	不整形	0.64	1.5	0.6	17世紀初頭	Ⅰ		６号掘物柱５、６号溝
58号遺構	AR-14	2b層	不明	0.15	0.5	0.3	18世紀後葉以前	Ⅰ-Ⅱb		ピット219、16・47号遺構
59号遺構	AR・AS-14	2b層	円形?	0.23	0.6	0.6	18世紀後葉以前	Ⅰ-Ⅱb	ピット256・257	46号遺構
60号遺構	BA・BB-14・15	2a-2層	楕円形	0.13	1.0	0.2	19世紀前葉以後	Ⅲ	70号遺構	
61号遺構	AP・AQ-14	2b層	長方形	0.28	1.0	0.6	17世紀前葉以前	Ⅰ		ピット217・258
62号遺構	BB-14・15	2a-2層	楕円形	0.5	1.1	0.5	19世紀前葉以後	Ⅲ		
63号遺構	BB-15	2a-2層	円形?	0.81	1.3	0.9	19世紀前葉	Ⅲ	ピット284,64号遺構	
64号遺構	BB-15・16	2b層	不明	0.79	1.3	1.0	17世紀後半	Ⅰ	ピット284	63号遺構
65号遺構	AR・AS-6・7	3a層	方形	1.19	1.2	1.0	18世紀末葉～19世紀中葉	Ⅱb-Ⅲ	ピット90	
66号遺構	AS-6・7	3a層	長方形	2.05	2.1	1.7	19世紀前葉～中葉	Ⅲ		
67号遺構	AT-9	2b層	不整形	0.19	0.6	0.5	不明	不明	杭13	杭12
68号遺構	AT-8・9	2b層	円形?	0.7	1.0	0.8	18世紀後半以前	Ⅰ-Ⅱb		13号遺構、杭11
69号遺構	BA-8・9	2b層	円形?	0.39	0.8	0.6	18世紀	Ⅱa-Ⅱb		
70号遺構	BB-14	2a-2層	長方形	0.15	0.6	0.5	19世紀前葉以後	Ⅲ	ピット261	60号遺構
71号遺構	AS-14	2a-2層	楕円形	0.23	0.7	0.5	19世紀前葉以後	Ⅲ	ピット218	ピット177
72号遺構	BC-12	2b層	楕円形	0.08	0.5	0.2	19世紀初頭以前	Ⅰ-Ⅱb		
73号遺構	AR・AS-6	3a層	長方形?	0.49	1.5	0.4	不明	不明		
74号遺構	AQ・AR-13	2b層	不明	0.18	0.6	0.5	18世紀後葉以前	Ⅰ-Ⅱb		16号遺構
75号遺構	AS-8・9	2b層	長方形	0.32	0.9	0.4	17世紀以後	Ⅰ-Ⅲ	ピット92、10号遺構	
関連１区遺構	AL・AM-18・19	4層相当	不明	2.69	-	-	不明	不明		
関連２区遺構	AT・AU-19・20	2a層	不明	0.59	-	-	18世紀後葉～19世紀前葉	Ⅲ		
関連４区遺構	AI・AJ-40・41	4層相当	不明	1.71	-	-	17世紀前半	Ⅰ		
関連５区遺構	AO-42・43	不明	不明	0.46	-	-	不明	不明		
１号井戸	AQ・AR-9	2a層	円形	3.33	径2.0		17世紀初頭～19世紀中葉	Ⅰ-Ⅲ	６号柱列柱３	
２号井戸	AQ・AR-6・7	3a層	円形	4.32	径2.4		18世紀	Ⅱa-Ⅱb	ピット40	
４号井戸	AT-10・11	2b層	円形	5.48	径2.9		19世紀前葉に埋没	Ⅲ(埋没)		
５号井戸	AT-6・7	2b層	楕円形	5.5	3.0	2.5	17世紀初頭～後葉	Ⅰ		15号遺構
６号井戸	AK・AL-7	4層	円形	3.94	径2.4		18世紀に埋没	Ⅱa-Ⅱb(埋没)		

＊「形状」と「規模」は残存部位から判断・計測した

表10　遺構属性表（3）
Tab.10 Attributes of remains (3)

名称	区名	確認面	規模			軸角度	時期	段階	重複する遺構の新古	
			面積(㎡)	最大長(m)	最大幅(m)				古い	新しい
1号溝（南北）	AN・AO-9・10	3a層	2.64	0.90	1.32	24.4	17世紀前葉～末葉以前	Ⅰ	ピット64	4号建物柱2・3
1号溝（東西）				2.40	0.75	114.5				
2号溝	AM～AP-11	3a層	3.78	8.28	0.78	116.4	近代		ピット25	
3号溝	BH-12・13	2b層	4.70	4.62	1.32	27.6	17世紀中葉～後葉	Ⅰ	杭27・28・29	1号柱列柱3、ピット156、21号遺構
4号溝	BB-12～14	2a-2層	1.96	5.34	0.66	25.9	19世紀前葉	Ⅲ	8号柱列柱1、ピット185・189・191・202・259・260、26・35・37・39号遺構、杭32	
5号溝	BI-13・14	2b層	3.87	3.24	1.86	22.6	18世紀中葉	Ⅱa	ピット162・165・166	1号柱列柱5、2号柱列柱1・2、ピット152・159・160・161・170、20号遺構
6号溝	AT-12～14	2a-2層	0.95	2.94	0.66	27.5	19世紀前葉～中葉	Ⅲ	6号建物柱5、ピット173・195・204、57号遺構、杭40・43	ピット171
7号溝	AR-12～14	2b層	1.18	5.67	0.54	26.2	17世紀前葉～18世紀後葉	Ⅰ-Ⅱb	ピット205・258	5号建物柱2・3、ピット128・130・143・203、16号遺構

＊「規模」は残存部位から計測した
＊「軸角度」は、南北方向の西側への傾きで示した。従来の表記だとN-角度-Wとなる。

表11　遺構属性表（4）
Tab.11 Attributes of remains (4)

名称	区名	確認面	時期	段階	軸角度	間数（南北×東西）	間尺	重複する遺構の新古	
								古い	新しい
1号建物	AN-10、AO-10～13	3a層	17世紀初頭	Ⅰ	26.9	3×1	6尺5寸	ピット213	
2号建物	AO-8・9、AP-8～10	3a層	17世紀以後	Ⅰ-Ⅲ	26.6	2×1.5	6尺3寸		ピット17
3号建物	AP-9～11、AQ-9・11、AR～AT-9～10	2a層	17世紀前葉～末葉	Ⅰ	27.5	2×6	6尺3寸	4号建物柱5、ピット74・84・107	ピット70・79・100・104、5号遺構
4号建物	AN～AP-10	3a層	17世紀前葉～末葉	Ⅰ	28.2	1×5	6尺3寸	1号溝	3号建物柱11
5号建物	AP-12、AQ-12・13	2b層	17世紀前葉以後	Ⅰ-Ⅲ	23.9	1×1	6尺3寸	ピット143、7号溝	ピット128
6号建物	AR～AT-12・13	2a-2層	19世紀前葉～中葉	Ⅲ	24.6	0.5×3	6尺3寸	8号柱列柱1、ピット197・230、42・51・57号遺構	ピット136・138・214、31号遺構、6号溝
7号建物	AO～AQ-7・8	3a層	17世紀～18世紀以後	Ⅰ-Ⅲ	27.7	2×3	6尺	ピット38	ピット36
1号柱列	BG～BI-13	2b層	18世紀後半～19世紀初頭	Ⅱb	116.4（26.4）	4	4尺	19号遺構、3・5号溝	
2号柱列	BI-13	2b層	18世紀後半～19世紀初頭	Ⅱb	27.6	1	4尺	ピット161、5号溝	ピット152・160
3号柱列	BA-12・13	4層	不明	不明	16.5	2	4尺		
4号柱列	AN～AP-6	3a層	近世	Ⅰ-Ⅲ	115.9（25.9）	6	4尺		
5号柱列	AP-12～14	2b層	17世紀	Ⅰ	24.8	2	3尺		
6号柱列	AQ-7～9	2a層	17世紀初頭	Ⅰ	26.2	2	6尺5寸	6号遺構	1号井戸
7号柱列	AQ～AS-9	2b層	19世紀～近代以前	Ⅰ-Ⅲ	110.9（20.9）	4	7尺		5号遺構
8号柱列	AS-12～14、AT-14	2b層	16世紀末葉～17世紀初頭	Ⅰ	29.6	3	3尺		6号建物柱8、ピット183・291、30・51号遺構
9号柱列	AP～AR-14	2b層	19世紀前葉～後葉（近代）	Ⅲ	116.7（26.7）	3	6尺	ピット244・258、16号遺構	ピット123
10号柱列	BB-13・14	2b層	17世紀後半	Ⅰ	24.6	1	6尺		23・26号遺構、4号溝

＊「軸角度」は、南北方向の西側への傾きで示した。従来の表記だとN-角度-Wとなる。
＊東西に伸びる柱列に関しては、それに直行する南北軸を想定し、その角度も提示した。その際の表記は、「南北軸角度（東西軸角度）」と表記する。

表12　ピット一覧表（1）
Tab.12　Pit list (1)

名称	区名	確認面	時期	段階	重複する遺構の新古	
					古い	新しい
3号建物柱17	AQ-11	2b層	17世紀前葉～末葉	Ⅰ		
6号柱列柱3	AQ-9	2a層	17世紀初頭	Ⅰ		1号井戸
7号柱列柱1	AQ-9	2c層	19世紀～近代以前	Ⅰ-Ⅲ		
4号建物柱5	AP-10	2c層	17世紀前葉～末葉	Ⅰ		3号建物柱11
3号建物柱11	AP-10	2c層	17世紀前葉～末葉	Ⅰ	4号建物柱5	
ピット7	AQ-10	2b層	不明	不明		
3号建物柱1	AP-9	2c層	17世紀前葉～末葉	Ⅰ		
3号建物柱2	AQ-9	2c層	17世紀前葉～末葉	Ⅰ		
ピット10	AK-8	4層	不明	不明		
ピット11	AP-11	3a層	不明	不明		
ピット12	AQ-10	2b層	不明	不明		
ピット13	AP-9	3a層	19世紀前葉～中葉以前	Ⅰ-Ⅲ		2号遺構
ピット14	AQ-10	2b層	不明	不明		
ピット15	AQ-10	2b層	17世紀末葉～18世紀初頭	Ⅰ-Ⅱa		
3号建物柱16	AQ-11	2b層	17世紀前葉～末葉	Ⅰ		
ピット17	AP-10	2c層	17世紀以後	Ⅰ-Ⅲ	2号建物柱5	
2号建物柱5	AP-10	2c層	17世紀以後	Ⅰ-Ⅲ		ピット17
ピット19	AQ-10	2b層	不明	不明		
3号建物柱14	AP-11	3a層	17世紀前葉～末葉	Ⅰ		
ピット21	AR-10	2b層	不明	不明		
2号建物柱4	AP-9	2c層	17世紀以後	Ⅰ-Ⅲ		
2号建物柱3	AO-9	2c層	17世紀以後	Ⅰ-Ⅲ		
7号建物柱4	AQ-7・8	3a層	17世紀～18世紀以後	Ⅰ-Ⅲ		
ピット25	AP-11	3a層	近代	Ⅲ		2号溝
7号建物柱3	AQ-7	3a層	17世紀～18世紀以後	Ⅰ-Ⅲ		
6号柱列柱1	AQ-7・8	3a層	17世紀初頭	Ⅰ		
ピット28	AO-6	3a層	不明	不明		
ピット29	AQ-8	3a層	不明	不明		
4号柱列柱6	AP-6	3a層	近世	Ⅰ-Ⅲ		
4号柱列柱4	AP-6	3a層	近世	Ⅰ-Ⅲ		
6号柱列柱2	AQ-8	3a層	17世紀初頭	Ⅰ	6号遺構	
4号柱列柱5	AP-6	3a層	近世	Ⅰ-Ⅲ		
ピット34	AR-11	2b層	不明	不明		
ピット35	AQ-11	2b層	不明	不明		
ピット36	AO・AP-7	3a層	17世紀～18世紀以後	Ⅰ-Ⅲ	7号建物柱2	
7号建物柱2	AO・AP-7	3a層	17世紀～18世紀以後	Ⅰ-Ⅲ	ピット38	ピット36
ピット38	AO-7	3a層	17世紀～18世紀	Ⅰ-Ⅱb		7号建物柱2
ピット39	AP・AQ-6	3a層	不明	不明		
ピット40	AQ-6	3a層	18世紀以前	Ⅰ-Ⅱb		2号井戸
ピット41	AP-6	3a層	不明	不明		
7号建物柱5	AP-8	3a層	17世紀～18世紀以後	Ⅰ-Ⅲ		
2号建物柱2	AP-8・9	3a層	17世紀以後	Ⅰ-Ⅲ		
4号柱列柱3	AO-6	3a層	近世	Ⅰ-Ⅲ		
ピット45	AO-7	3a層	不明	不明		
7号建物柱1	AO-7	3a層	17世紀～18世紀以後	Ⅰ-Ⅲ		
4号柱列柱2	AN-6	3b層	近世	Ⅰ-Ⅲ		
4号柱列柱1	AN-6	3a層	近世	Ⅰ-Ⅲ		
ピット49	AN-8	3b層	18世紀後葉～19世紀	Ⅱb-Ⅲ		
4号建物柱1	AM-10	3b層	17世紀前葉～末葉	Ⅰ		
4号建物柱6	AN-10	3b層	17世紀前葉～末葉	Ⅰ		
ピット52	AL-6・7	4層	不明	不明		
1号建物柱2	AO-10・11	3a層	17世紀初頭	Ⅰ		
ピット54	AO-10	3a層	不明	不明		
4号建物柱3	AO-10	3a層	17世紀前葉～末葉	Ⅰ	1号溝	
1号建物柱1	AN-10	3a層	17世紀初頭	Ⅰ		
ピット57	AJ-8	4層	不明	不明		
ピット58	AO-11	3b層	不明	不明		
2号建物柱1	AO-8・9	3a層	17世紀以後	Ⅰ-Ⅲ		
4号建物柱4	AN-10	3a層	17世紀前葉～末葉	Ⅰ		
4号建物柱2	AN-10	3a層	17世紀前葉～末葉	Ⅰ	1号溝	
ピット62	AP・AQ-9	2c層	19世紀前葉～中葉以前	Ⅰ-Ⅲ		2号遺構
ピット64	AN-9	1号溝底面	17世紀前葉～末葉以前	Ⅰ		1号溝
ピット65	AS-10	2a層	不明	不明		
ピット66	AR-10	2a層	不明	不明	ピット67	
ピット67	AR-10	2a層	不明	不明		ピット66
ピット68	AR-11	2a層	不明	不明		
ピット69	AR-10	2a層	不明	不明		
ピット70	AR-10	2a層	17世紀前葉～末葉	Ⅰ	3号建物柱12	
3号建物柱12	AR-10	2a層	17世紀前葉～末葉	Ⅰ		ピット70

表13　ピット一覧表（2）
Tab.13　Pit list (2)

名称	区名	確認面	時期	段階	重複する遺構の新古	
					古い	新しい
ピット72	AS-10	2a層	不明	不明		
3号建物柱13	AR・AS-10	2a層	17世紀前葉～末葉	Ⅰ	ピット74	
ピット74	AR-10	2a層	17世紀以前	Ⅰ		3号建物柱13
3号建物柱3	AR-9	2a層	17世紀前葉～末葉	Ⅰ		
3号建物柱6	AS-9・10	2a層	17世紀前葉～末葉	Ⅰ	ピット84	
ピット77	AS-9	2a層	17世紀前葉～18世紀前葉	Ⅰ-Ⅱa		
3号建物柱4	AR-9	2a層	17世紀前葉～末葉	Ⅰ		5号遺構
ピット79	AR-9	2a層	17世紀前葉～末葉以後	Ⅰ-Ⅲ	ピット80	
3号建物柱5	AR・AS-9	2a層	17世紀前葉～末葉	Ⅰ		ピット79
ピット81	AS-9	2a層	近世	Ⅰ-Ⅲ		
ピット82	AS-9	2a層	不明	不明		
ピット83	AS-9	2a層	19世紀～近代以前	Ⅰ-Ⅲ	7号柱列柱3	5号遺構
ピット84	AS-10	2a層	17世紀以前	Ⅰ		3号建物柱6
ピット85	AR-9	2a層	19世紀～近代以前	Ⅰ-Ⅲ		5号遺構
ピット88	AR-9	5号遺構底面	19世紀～近代以前	Ⅰ-Ⅲ		5号遺構
7号柱列柱2	AR-9	3a層	19世紀～近代以前	Ⅰ-Ⅲ		5号遺構
ピット90	AR・AS-7	3a層	18世紀末葉～19世紀中葉以前	Ⅰ-Ⅲ		65号遺構
ピット92	AS-8・9	2b層	17世紀以前	Ⅰ		10・75号遺構
ピット93	AS-7	3a層	不明	不明		
ピット94	AS-7	地山	不明	不明		
ピット95	AS-9	5号遺構底面	19世紀～近代以前	Ⅰ-Ⅲ		ピット83
7号柱列柱3	AS-9	2b層	19世紀～近代以前	Ⅰ-Ⅲ		
ピット97	AT-6	2b層	不明	不明		
ピット98	AS-10	2b層	不明	不明		
3号建物柱10	AT-10	2b層	17世紀前葉～末葉	Ⅰ		
ピット100	AT-10	2b層	17世紀前葉～末葉以後	Ⅰ-Ⅲ	3号建物柱8	
3号建物柱9	AS・AT-10	2b層	17世紀前葉～末葉	Ⅰ		
ピット102	AS-9・10	2b層	17世紀	Ⅰ		
ピット104	AT-9	2b層	17世紀前葉～末葉以後	Ⅰ-Ⅲ	3号建物柱7・8	
3号建物柱8	AT-9・10	2b層	17世紀前葉～末葉	Ⅰ		ピット100・104
3号建物柱7	AS・AT-9・10	2b層	17世紀前葉～末葉	Ⅰ	ピット107	ピット104
ピット107	AS-9・10	2b層	17世紀前葉～末葉以前	Ⅰ		3号建物柱7
ピット108	AS-8・9	2b層	不明	不明		
ピット109	AS-9	2b層	不明	不明		
ピット110	AS-9	2b層	不明	不明		
ピット112	AT・BA-9	4層	不明	不明		
ピット113	BA-8	13号遺構埋土	18世紀後半以後	Ⅱb-Ⅲ	13号遺構	
ピット116	AT-8	13号遺構底面	18世紀後半以前	Ⅰ-Ⅱb		13号遺構
9号柱列柱2	AR-14	16号遺構埋土	19世紀前葉～後葉（近代）	Ⅲ	16号遺構	
9号柱列柱3	AR-14	16号遺構埋土	19世紀前葉～後葉（近代）	Ⅲ	16号遺構	
ピット119	AQ-14	2b層	不明	不明	ピット258	
5号柱列柱3	AP-14	2b層	17世紀	Ⅰ		
5号柱列柱2	AP-13	2b層	17世紀	Ⅰ		
ピット122	AS-13	2b層	不明	不明		
ピット123	AQ-14	2b層	19世紀前葉～後葉（近代）	Ⅲ	9号柱列柱1，ピット244・258、61号遺構	ピット217
ピット124	AP-14	2b層	不明	不明		
ピット125	AR-13	2b層	近世	Ⅰ-Ⅲ		
ピット126	AS-13	2b層	近世	Ⅰ-Ⅲ		
ピット127	AS-13	2b層	不明	不明		
ピット128	AQ-13	2b層	17世紀前葉～18世紀以後	Ⅰ-Ⅲ	5号建物柱3、7号溝	
ピット129	AS-14	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ	ピット186	ピット178
ピット130	AQ-13	2b層	17世紀前葉～18世紀後葉以後	Ⅰ-Ⅲ	7号溝	
6号建物柱1	AR-12	3a層	19世紀前葉～中葉	Ⅲ		
6号建物柱6	AR-13	3a層	19世紀前葉～中葉	Ⅲ		
5号建物柱3	AQ-13	2b層	17世紀前葉以後	Ⅰ-Ⅲ	ピット143、7号溝	ピット128
ピット134	AR-12	2b層	近世	Ⅰ-Ⅲ		
ピット135	AQ・AR-12	2b層	不明	不明		
ピット136	AR-12・13	2b層	19世紀前葉～中葉	Ⅲ	6号建物柱2	
6号建物柱2	AR-12	2b層	19世紀前葉～中葉	Ⅲ		ピット136・138
ピット138	AR・AS-12	2b層	19世紀前葉～中葉以後	Ⅲ	6号建物柱2	
ピット139	AS-12・13	2b層	不明	不明		
5号建物柱2	AQ-12	2b層	17世紀前葉以後	Ⅰ-Ⅲ	7号溝	
ピット141	AT-12	3a層	不明	不明		
ピット142	AT-12	3a層	近世	Ⅰ-Ⅲ	ピット145	
ピット143	AP・AQ-13	2b層	17世紀前葉～18世紀	Ⅰ-Ⅱb	7号溝	5号建物柱3
ピット144	AQ-12	2b層	近世	Ⅰ-Ⅲ	ピット190	
ピット145	AS・AT-12	2b層	近世	Ⅰ-Ⅲ	ピット146	ピット142
ピット146	AS・AT-12	2b層	近世	Ⅰ-Ⅲ		ピット145
ピット147	AR-12	2b層	不明	不明		

表14　ピット一覧表（3）
Tab.14　Pit list (3)

名称	区名	確認面	時期	段階	重複する遺構の新古	
					古い	新しい
ピット148	BD-12・13	2b層	不明	不明		
1号柱列柱2	BG-13	19号遺構埋土	18世紀後半～19世紀初頭	Ⅱb	19号遺構	
1号柱列柱1	BH-13	19号遺構埋土	18世紀後半～19世紀初頭	Ⅱb	19号遺構	
ピット151	BG-13	19号遺構埋土	18世紀後半～19世紀初頭	Ⅱb	19号遺構	
ピット152	BI-13	2a-2層	19世紀前葉	Ⅲ	2号柱列柱2、ピット159・161・162・165、5号溝	
1号柱列柱5	BI-13	5号溝埋土	18世紀後半～19世紀初頭	Ⅱb	5号溝	
1号柱列柱4	BH・BI-13	2b層	18世紀後半～19世紀初頭	Ⅱb		
1号柱列柱3	BH-13	3号溝埋土	18世紀後半～19世紀初頭	Ⅱb	3号溝	
ピット156	BH-13	3号溝埋土	19世紀初頭	Ⅱb	3号溝	
2号柱列柱2	BI-13	2b層	18世紀後半～19世紀初頭	Ⅱb	5号溝	ピット152・160
2号柱列柱1	BI-13	2b層	18世紀後半～19世紀初頭	Ⅱb	ピット161、5号溝	
ピット159	BI-13	2b層	18世紀後半～19世紀初頭	Ⅱb	2号柱列柱2、ピット160・162、5号溝	ピット152
ピット160	BI-13	2b層	18世紀後半～19世紀初頭	Ⅱb	5号溝、ピット157	ピット159
ピット161	BI-13	2b層	18世紀後半～19世紀初頭	Ⅱb	5号溝	2号柱列柱1、ピット152
ピット162	BI-13	2b層	17世紀～18世紀前葉	Ⅰ-Ⅱa	ピット166	2号柱列柱2、ピット152・159、5号溝
10号柱列柱2	BB-13・14	26号遺構埋土	17世紀後半	Ⅰ		26号遺構
ピット164	BE-12	22号遺構底面	17世紀～18世紀前半	Ⅰ-Ⅱa	24号遺構	22号遺構
ピット165	BI-13	5号溝底面	17世紀～18世紀前葉	Ⅰ-Ⅱa		ピット152、5号溝
ピット166	BI-13・14	5号溝底面	17世紀～18世紀前葉	Ⅰ-Ⅱa		ピット162、5号溝
ピット167	AP-13	2b層	不明	不明	ピット168	
ピット168	AP-13	2b層	不明	不明		ピット167
ピット170	BI-13	5号溝底面	17世紀～18世紀前葉	Ⅰ-Ⅱa		5号溝
ピット171	AT-13	6号溝埋土	19世紀前葉～中葉以後	Ⅲ	6号溝	
ピット173	AT-12	42号遺構埋土	19世紀前葉～中葉	Ⅲ	ピット250、42号遺構	6号溝
ピット174	AT-14	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ	ピット291	
ピット175	AT-14	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ	ピット291	
ピット177	AS-14	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ	ピット178、71号遺構	
ピット178	AS-14	ピット177底面	19世紀前葉以後	Ⅲ	ピット129・186	ピット177
ピット179	AS-14	30号遺構底面	19世紀前葉以前	Ⅰ-Ⅲ		30号遺構
ピット180	BB-12	2b層	19世紀初頭以前	Ⅰ-Ⅱb	ピット215	
ピット181	BB-12	2b層	19世紀初頭以前	Ⅰ-Ⅱb		
10号柱列柱1	BB-13	2b層	17世紀後半	Ⅰ		23号遺構、4号溝
ピット183	AS-14	2a-2層	19世紀前葉	Ⅲ	ピット268	30号遺構
ピット184	AO-12	2b層	近世	Ⅰ-Ⅲ		28号遺構
ピット185	BB-12	4号溝底面	19世紀初頭以前	Ⅰ-Ⅱb		4号溝
ピット186	AS-14	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ		ピット129・178
ピット187	BB-12	3a層	不明	不明		
ピット188	BD-12・13	17号遺構底面	17世紀末葉～18世紀中葉	Ⅰ-Ⅱa	ピット294	17号遺構
ピット189	BB-12	2b層	19世紀初頭以前	Ⅰ-Ⅱb		4号溝
ピット190	AP・AQ-12	2b層	近世	Ⅰ-Ⅲ		ピット144
ピット191	BB-13・14	4号溝底面	19世紀初頭以前	Ⅰ-Ⅱb		4号溝
ピット192	AT-14	2a-2層	19世紀前葉	Ⅲ	44号遺構	30号遺構
ピット193	AS-14	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ		
5号柱列柱1	AP-12	2b層	17世紀	Ⅰ		
ピット195	AT-12	42号遺構埋土	17世紀初頭～19世紀初頭	Ⅰ-Ⅱb	ピット250、42号遺構	6号溝
ピット197	AT-13	2a-2層	19世紀前葉～中葉	Ⅲ		6号建物柱5
ピット198	AS-14	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ		
ピット199	AS-14	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ		
ピット200	BB-13・14	2b層	17世紀	Ⅰ		25号遺構
ピット201	BB-13	2b層	19世紀初頭以前	Ⅰ-Ⅱb		
ピット202	BB-13・14	4号溝底面	17世紀後半～18世紀以前	Ⅰ-Ⅱb		ピット260、4号溝、杭21
ピット203	AQ-14	7号溝埋土	17世紀前葉～18世紀後葉以後	Ⅰ-Ⅲ	7号溝	
ピット204	AT-13	6号溝底面	19世紀初頭以前	Ⅰ-Ⅱb		6号溝
ピット205	AQ-13・14	2b層	17世紀前葉	Ⅰ	ピット217	7号溝
ピット206	AR-12	2b層	不明	不明		
1号建物柱4	AO-12・13	3a層	17世紀初頭	Ⅰ	ピット213	
ピット209	AS-12	2b層	不明	不明		
1号建物柱3	AO-12	3a層	17世紀初頭	Ⅰ		
ピット211	AS-12	2b層	不明	不明		
ピット213	AO-12・13	3a層	17世紀初頭	Ⅰ		1号建物柱4
ピット214	AS-13	2a-2層	19世紀前葉～中葉以後	Ⅲ	6号建物柱7	
ピット215	BB-12	2b層	19世紀初頭以前	Ⅰ-Ⅱb		ピット180
8号柱列柱2	AS-14	2b層	16世紀末葉～17世紀初頭	Ⅰ		ピット291
ピット217	AP・AQ-13・14	2b層	17世紀前葉以前	Ⅰ	ピット123、61号遺構	ピット205
ピット218	AS-14	2b層	19世紀初頭?以前	Ⅰ-Ⅱb		71号遺構

表15　ピット一覧表（4）
Tab.15　Pit list（4）

名称	区名	確認面	時期	段階	重複する遺構の新古	
					古い	新しい
6号建物柱7	AS-13	2a-2層	19世紀前葉～中葉	Ⅲ	ピット230	ピット214
ピット221	AT-13	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ		
ピット222	AS・AT-13	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ		
ピット223	BA-14	2b層	19世紀初頭以後	Ⅱb-Ⅲ		
ピット224	AT・BA-14	2b層	17世紀後半～18世紀後半以後	Ⅰ-Ⅲ	ピット240	
ピット225	AT・BA-14	2b層	17世紀～18世紀	Ⅰ-Ⅱb		
ピット226	AT・BA-15	2b層	18世紀～19世紀初頭	Ⅱa-Ⅱb		
ピット227	AT-14	2b層	19世紀初頭以前	Ⅰ-Ⅱb		
6号建物柱4	AS・AT-12・13	2a-2層	19世紀前葉～中葉	Ⅲ		
6号建物柱3	AS-12	31号遺構底面	19世紀前葉～中葉	Ⅲ		31号遺構
ピット230	AS-13	2a-2層	19世紀前葉～中葉	Ⅲ	6号建物柱7	ピット233
6号建物柱8	AS-13	51号遺構底面	19世紀前葉～中葉	Ⅲ	8号柱列柱1、51号遺構	31号遺構
ピット233	AS-12・13	2a-2層	19世紀前葉～中葉以後	Ⅲ	ピット230	
9号柱列柱1	AP・AQ-14	2b層	19世紀前葉～後葉（近代）	Ⅲ	ピット244・258	ピット123
ピット236	AS-12・13	51号遺構底部	16世紀末葉～17世紀初頭	Ⅰ		8号柱列柱1、51号遺構
ピット237	AT-14	2b層	19世紀初頭以前	Ⅰ-Ⅱb		
ピット238	AS-12	2b層	19世紀中葉以前	Ⅰ-Ⅲ		48号遺構
ピット239	AS・AT-12	2b層	17世紀初頭	Ⅰ	ピット248・250、42・57号遺構	31号遺構
ピット240	AT-14	2b層	17世紀後半～18世紀後半	Ⅰ-Ⅱb		ピット224
3号柱列柱2	BA-12	4層	不明	不明		
3号柱列柱1	BA-12	4層	不明	不明		
3号柱列柱3	BA-13	4層	不明	不明		
ピット244	AP・AQ-14	2b層	17世紀前葉～19世紀後葉	Ⅰ-Ⅲ	ピット258	9号柱列柱1、ピット123
ピット245	AT-14・15	2b層	17世紀前葉	Ⅰ		
ピット246	AT-12	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ		
ピット248	AS-12	ピット239底面	17世紀初頭以前	Ⅰ		ピット239
ピット250	AT-12	42号遺構底面	17世紀初頭	Ⅰ		ピット173・195・239、42号遺構、杭40・43
ピット251	BA・BB-13	2b層	19世紀初頭以前	Ⅰ-Ⅱb		
ピット253	AP-12	2b層	不明	不明		
ピット254	AR-14	46号遺構底面	18世紀後葉以前	Ⅰ-Ⅱb		16・46号遺構
ピット256	AR-14	2b層	18世紀後葉以前	Ⅰ-Ⅱb		16・47・59号遺構
ピット257	AR-14	2b層	18世紀後葉以前	Ⅰ-Ⅱb		47・59号遺構
ピット258	AP・AQ-14	61号遺構埋土	17世紀前葉～18世紀後葉以前	Ⅰ-Ⅱb	61号遺構	9号柱列柱1、ピット119・123・244、7号溝
ピット259	BB-13	2a-2層	19世紀前葉	Ⅲ		4号溝
ピット260	BB-13・14	2b層	17世紀後半～18世紀	Ⅰ-Ⅱb	ピット202・265	4号溝
ピット261	BB-14	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ	ピット292、70号遺構	
ピット262	AN-12	3a層	不明	不明		
ピット263	BB-14	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ		
ピット265	BB-13	2b層	17世紀後半～18世紀以前	Ⅰ-Ⅱb		ピット260
ピット266	AQ-12	2b層	17世紀前半	Ⅰ		
8号柱列柱3	AS・AT-14	2b層	16世紀末葉～17世紀初頭	Ⅰ		ピット183、30号遺構
ピット269	BB-15	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ		
ピット270	BB-15	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ	ピット271・280・281	
ピット271	BB-15	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ	ピット279・281	ピット270
ピット272	BB-15	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ		
ピット274	BB-14	2b層	19世紀初頭以前	Ⅰ-Ⅱb		
ピット275	BB-14	2b層	19世紀初頭以前	Ⅰ-Ⅱb		
ピット276	BB-14	2b層	19世紀初頭以前	Ⅰ-Ⅱb		
ピット277	BB-14	2b層	19世紀初頭以前	Ⅰ-Ⅱb	ピット292	
ピット279	BB-15	2b層	17世紀後葉～18世紀後葉	Ⅰ-Ⅱb		ピット271
ピット280	BB-15	2a-2層	19世紀前葉	Ⅲ		ピット270
ピット281	BB-15	2b層	19世紀初頭以前	Ⅰ-Ⅱb		ピット270・271
ピット282	BB-14	2b層	19世紀初頭以前	Ⅰ-Ⅱb		
ピット283	BB-14	2b層	19世紀初頭以前	Ⅰ-Ⅱb		
ピット284	BB-15	2b層	17世紀後半以前	Ⅰ		63・64号遺構
ピット285	BB-14	2b層	19世紀初頭以前	Ⅰ-Ⅱb		
ピット287	AS・AT-13	2a-2層	19世紀前葉～中葉以後	Ⅲ	51号遺構	
3号建物柱15	AQ-11	2b層	17世紀前葉～末葉	Ⅰ		
5号建物柱1	AP-12	2b層	17世紀前葉以降	Ⅰ-Ⅲ		
6号建物柱5	AT-12・13	42号遺構埋土	19世紀前葉～中葉	Ⅲ	ピット197、42・57号遺構	6号溝
ピット291	AS・AT-14	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ	30・43・44号遺構	ピット174・175、41号遺構
ピット292	BB-14	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ	ピット277、70号遺構	ピット261
8号柱列柱1	AS-12・13	51号遺構底面	16世紀末葉～17世紀初頭	Ⅰ	ピット236	6号建物柱8、51号遺構
ピット294	BD-12	ピット188底面	17世紀末葉～18世紀中葉	Ⅰ-Ⅱa	22・24号遺構	ピット188

表16　その他の遺構一覧表
Tab.16　Other remains list

名称	区名	確認面	時期	段階	重複する遺構の新古	
					古い	新しい
石	AS-9	2b層	不明	不明		
杭1	AT-10	2b層	不明	不明		
杭2	AT-9	2b層	不明	不明	67号遺構	
杭3	AT-9	2b層	不明	不明		
杭4	AT-9	2b層	不明	不明		
杭5	AS-9	2b層	不明	不明		
杭6	AS-9	2b層	不明	不明		
杭7	AS-9	2b層	不明	不明		
杭8	AS-9	2b層	不明	不明		
杭9	AS-9	2b層	不明	不明		
杭10	AS-9	2b層	不明	不明		
杭11	AT-9	2b層	近世	1-Ⅲ	68号遺構	
杭12	BA-9	2b層	不明	不明		
杭13	AT-9	67号遺構底面	不明	不明		67号遺構
杭14	AT-8	13号遺構底面	18世紀後半以前	1-Ⅱb		13号遺構
杭16	BE-13	不明	不明	不明		
杭17	AR-12	3a層	不明	不明		
杭18	BE-13	17号遺構埋土	18世紀中葉以後	Ⅱa-Ⅲ	17号遺構	
杭19	BE-12	17号遺構埋土	18世紀中葉以後	Ⅱa-Ⅲ	17号遺構	
杭20	BF-12	18号遺構埋土	18世紀前葉～中葉以後	Ⅱa-Ⅲ	18号遺構	
杭21	BB-13	4号溝底面	19世紀初頭以前	1-Ⅱb	ピット202	
杭23	AT-14	44号遺構埋土	19世紀前葉以後	Ⅲ	44号遺構	
杭25	AT-14	44号遺構埋土	19世紀前葉以後	Ⅲ	44号遺構	
杭26	BF-13	19号遺構底面	17世紀以前	1	19号遺構	
杭27	BH-13	3号溝底面	17世紀中葉～後葉以前	1		3号溝
杭28	BH-13	3号溝底面	17世紀中葉～後葉以前	1		3号溝
杭29	BH-13	3号溝底面	17世紀中葉～後葉以前	1		3号溝
杭30	BA-13	26号遺構底面	17世紀末葉～18世紀以前	1-Ⅱb		26号遺構
杭31	BB-13	26号遺構底面	17世紀末葉～18世紀以前	1-Ⅱb		26号遺構
杭32	BB-13	4号溝底面	19世紀初頭以前	1-Ⅱb		4号溝
杭34	AS-13	2b層	不明	不明		
杭35	AS-13	2b層	不明	不明		
杭36	AS-12	31号遺構底面	19世紀初頭以前	1-Ⅱb		31号遺構
杭37	BB-13	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ		
杭38	AT-13	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ		
杭39	AT-13	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ		
杭40	AT-12	42号遺構埋土	19世紀初頭以前	1-Ⅱb	ピット250	6号溝
杭41	BB-13	2b層	19世紀初頭以前	1-Ⅱb		
杭42	BB-13	4号溝底部	19世紀初頭以前	1-Ⅱb		
杭44	AO-13	2b層	不明	不明		
杭45	AO-13	2b層	不明	不明		
杭46	AP-13	2b層	不明	不明		
杭47	AP-13	2b層	不明	不明		
杭48	AP-13	2b層	不明	不明		
杭49	AP-12	2b層	不明	不明		
杭50	AP-12	2b層	不明	不明		
杭51	AP-12	2b層	不明	不明		
杭52	AN-12	3a層	不明	不明		
杭53	BB-13	2b層	17世紀以前	1	杭57	
杭54	AQ-12	2b層	不明	不明		
杭56	BB-15	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ		
杭57	BB-13	2b層	17世紀	1		杭53
杭58	AT-13	6号溝埋土	19世紀前葉～中葉以降	Ⅲ以降	6号溝	

第Ⅲ章　基本層序と時期区分

1．基本層序（図９～16）

調査区の基本層序は、南西側に隣接する武家屋敷地区第７地点と、おおむね共通する。

１層：陸軍第二師団期以降、現在に至る時期の整地層・表土層である。掘削は重機で行っている。

２層：基本的にはやや明るい褐色を基調とするシルト質土で、本調査区における主要な遺構検出面である。調査時には、その特徴から2a層～2d層に細分したが、検討の結果、2a層は2b層、2c・2d層は3a層の変色したものと捉えることができた。これらの土壌は全体的に明るく、地点によっては灰色を呈する。これは、土壌の溶脱作用によるものと推定される。この溶脱作用の強弱によって、色が大きく変わり、別の層と認識したともの と考える。

・2a層　2b層より明度がかなり明るく、AQ ～ AS-９・10区のみに認められた。当初は、その色調から2b層より上位にある独立する土層と考えたが、その土質が、ほぼ2b層と同様であることから、2b層が部分的に変色したものと捉えた。

・2a-2層　2b層の上位にあり、2a層とも土質がかなり異なることから、2a-2層として区分した。その土質は、炭化物や小石が多く混ざる土層である。地点によってその混在の様相が異なる。今回の遺構検出面のひとつである。

・2b層　灰黄褐色のシルト質土であり、夾雑物が非常に少ない均質な土質である。今回の主要な遺構検出面である。面的に広がっていたようであるが、削平を受けている部分もある。

・2b-2層　2b層の下位にあるが、土質は2b層と類似し、3a層とは全く異なる。2b層より、やや夾雑物が多い。BH・BI-13区近辺に部分的に残存していた。

・2c・d層　3a層に層の特徴が類似するが、部分的に灰褐色等を呈していたため、当初２層に含めた。しかし、調査の経過により、3a層が変色したものと捉えられることが判明した。

３層：3a層と3b層に細分した。基本的に茶褐色を呈し、黄色のパミスを多く含み、非常に硬い。3b層は、粘土で構成される４層への漸移層として捉えた。遺物・遺構は確認できなかった。今回は、確認のため部分的に3a層を掘り下げたが、それ以外では3a層上面で調査を終了した。

４層：粘土層であり、地山層として捉えた。これより下位は、粘土と砂の互層によるもので、水性堆積層と考えられる。

調査区西端では、１層直下から3a層あるいは地山層が確認され、２層は削平され存在していなかった。遺構も深く掘り込まれた遺構のみが検出されたにとどまる。この地点では、近代以降に削平がなされ、3a層～４層上面で様々な活動がなされた痕跡が認められた。

図16-①では、４層上面から建物基礎を設置あるいは撤去した際に、４層の土壌が圧縮されて動いている状況を示している。動いている土壌の土質自体は４層そのものであるが、コンクリートが４層に押し込まれることにより、その周辺の土壌が歪む。平面で検出する際には、土質自体は変わりがないため、判断が難しい。

図16-②は、AN-10区で確認した3a層の一部である。通常の3a層は茶褐色であるが、この地点の3a層は脱色され、やや明るく灰色に近い色となっている。そして、それが斑状となり、その間隙に3b～４層で見られる黄褐色の粘土層が認められる。調査時当初は、何らかの遺構の埋土か、基本層とは別の層と想定していた。しかし、この地点の周囲が撹乱を受けていることから、断面でも確認したところ、遺構埋土等とは異なる基本土層であることが判明した。原因は不明であるが、この土層は、3a層が後の何らかの影響により変化したものと捉えた。

これらの事例では、近世の遺構は直接関係していなかったが、川内キャンパスでは近代以降の第二師団や米軍の造成により、近世の遺構が後に様々な影響を受けることに注意したい。

また、中央部から西部にかけては、２層が堆積し、遺構等も多く確認することができた。その中でも、最も残

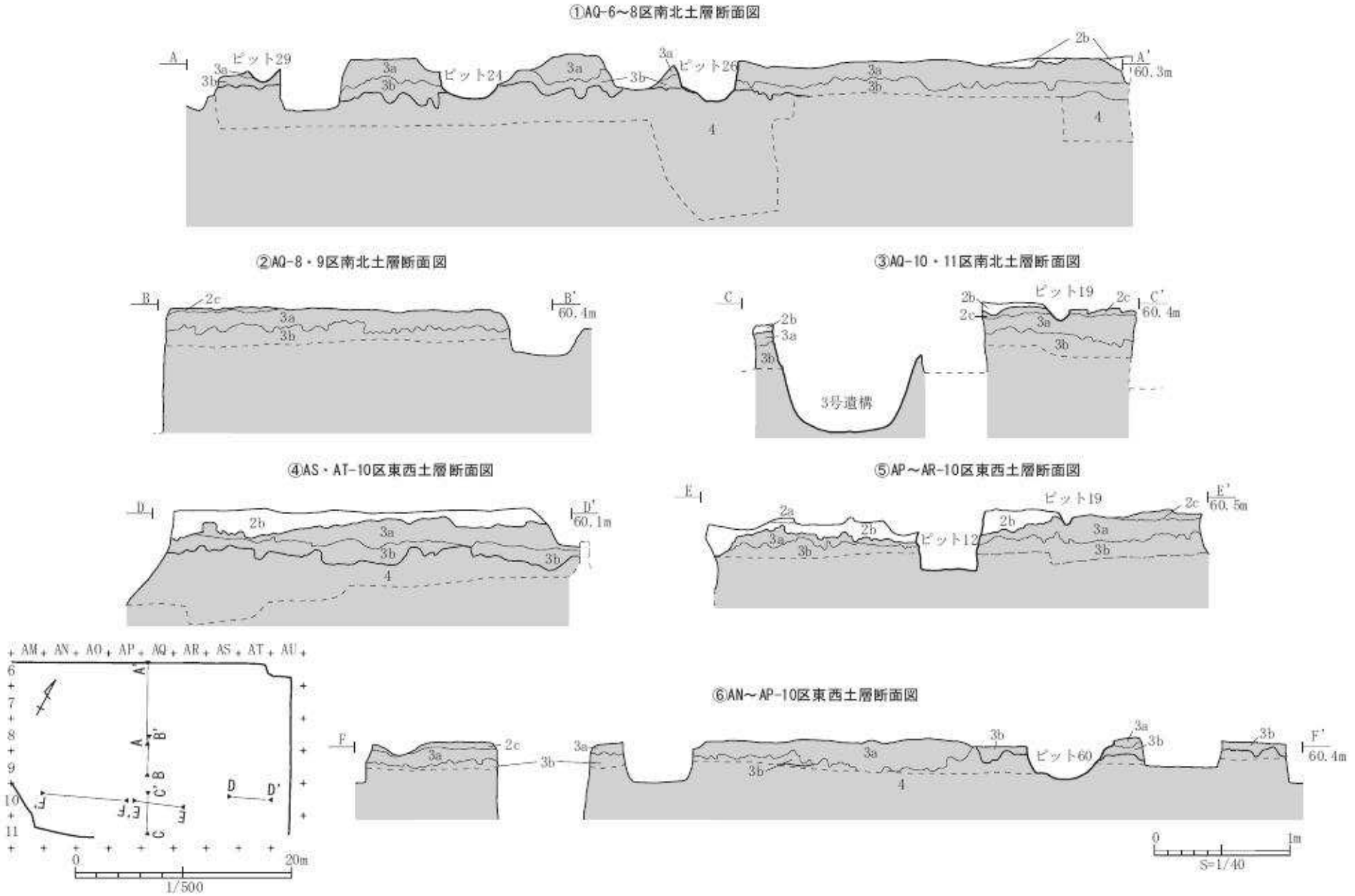


図９　武家屋敷地区第14地点１～４区の土層断面

Fig. 9 Cross section of area 1-4 at BK14

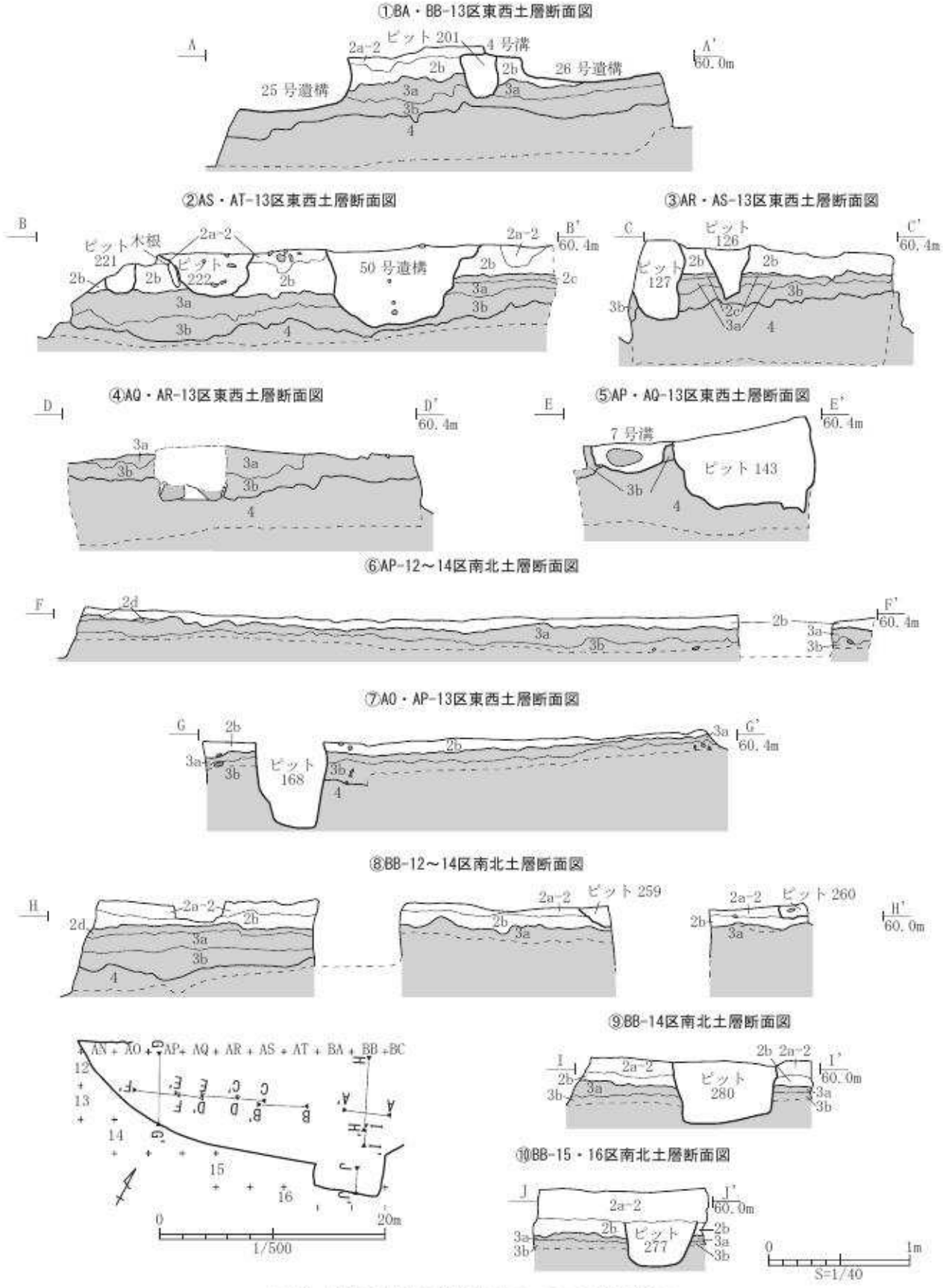
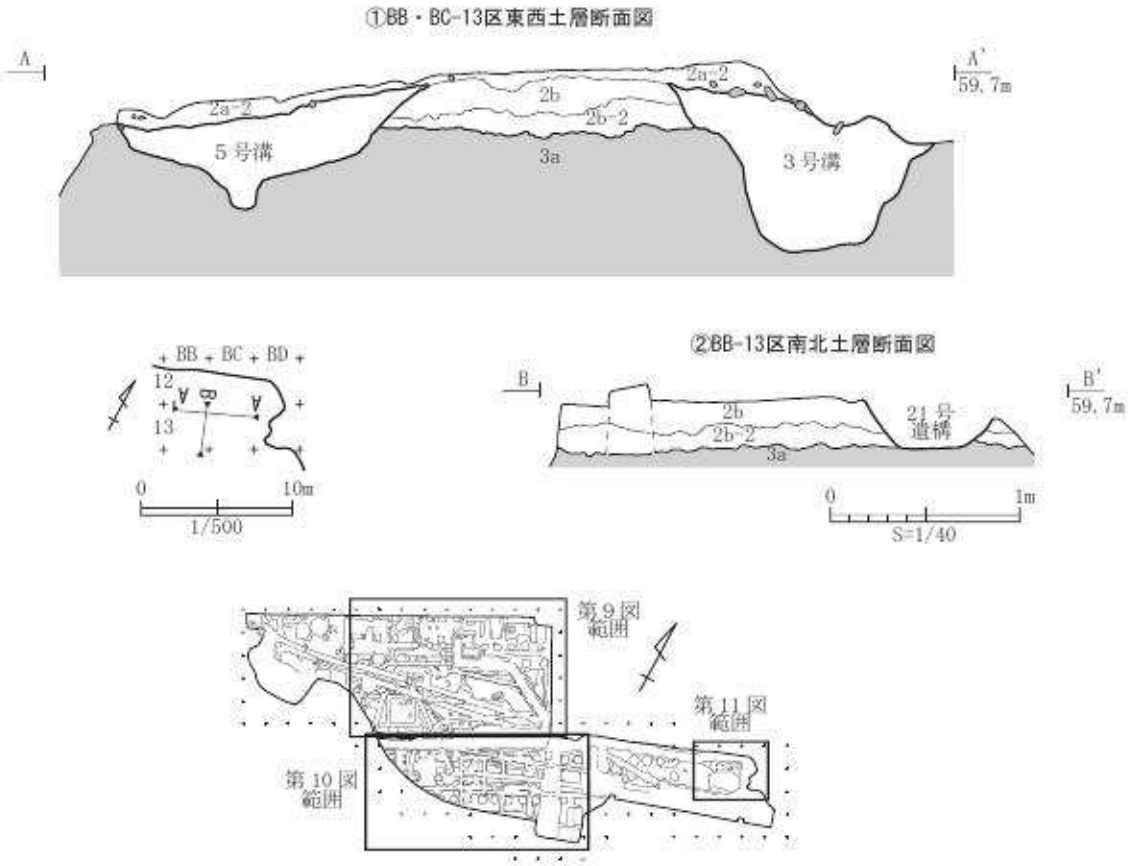


図10　武家屋敷地区第14地点５・６区の土層断面

Fig.10 Cross section of area 5･6 at BK14



基本層

1層
現代の盛土や撹乱土など

2a層
5Y3/2オリーブ黒色　粘土質シルト　粘性中・しまり強　径3-5mm程度の炭化物を　僅かに含む　白色土粒を多く含む　黄色土粒を僅かに含む

2a-2層
10YR3/2黒褐色 シルト 粘性中・しまり中　径0.5-2cmの炭化物を多く含む　明黄褐色粘土ブロックを含む　白色土粒、黄色土粒、径1-2cmの礫を含む

2b層
10YR3/1黒褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中　鉄分を多く斑に含む

2b-2層
7.5Y3/3暗褐色 粘土質シルト 粘性中・しまりやや強　褐色土を僅かに含む　白色土粒、黄色土粒、鉄分を僅かに含む

2c層
10YR3/2黒褐色　シルト　粘性弱・しまり中　白色土粒をやや多く含む　径0.5-1cm程度の黄褐色のパミスをやや多く含む　鉄分を含む

2d層
10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱・しまり強　黄色パミスを少量含む

3a層
10YR3/2黒褐色　粘土質シルト　粘性やや強・しまり強　径0.2-1cm程度の白色、黄色のパミスを多く含む　マンガンを含む　鉄分を多く含む

3b層
10YR4/3にぶい黄褐色　粘土　粘性強・しまり強　径2-5mm程度の白色、黄色のパミスを僅かに含む　鉄分を僅かに含む　マンガンを含む

4層
10YR5/4にぶい黄褐色　粘土　粘性強・しまり強　鉄分、マンガンを含む　径2-5mm程度の白色、黄色のパミスを僅かに含む

図11　武家屋敷地区第14地点７区の土層断面
Fig.11 Cross section of area 7 at BK14

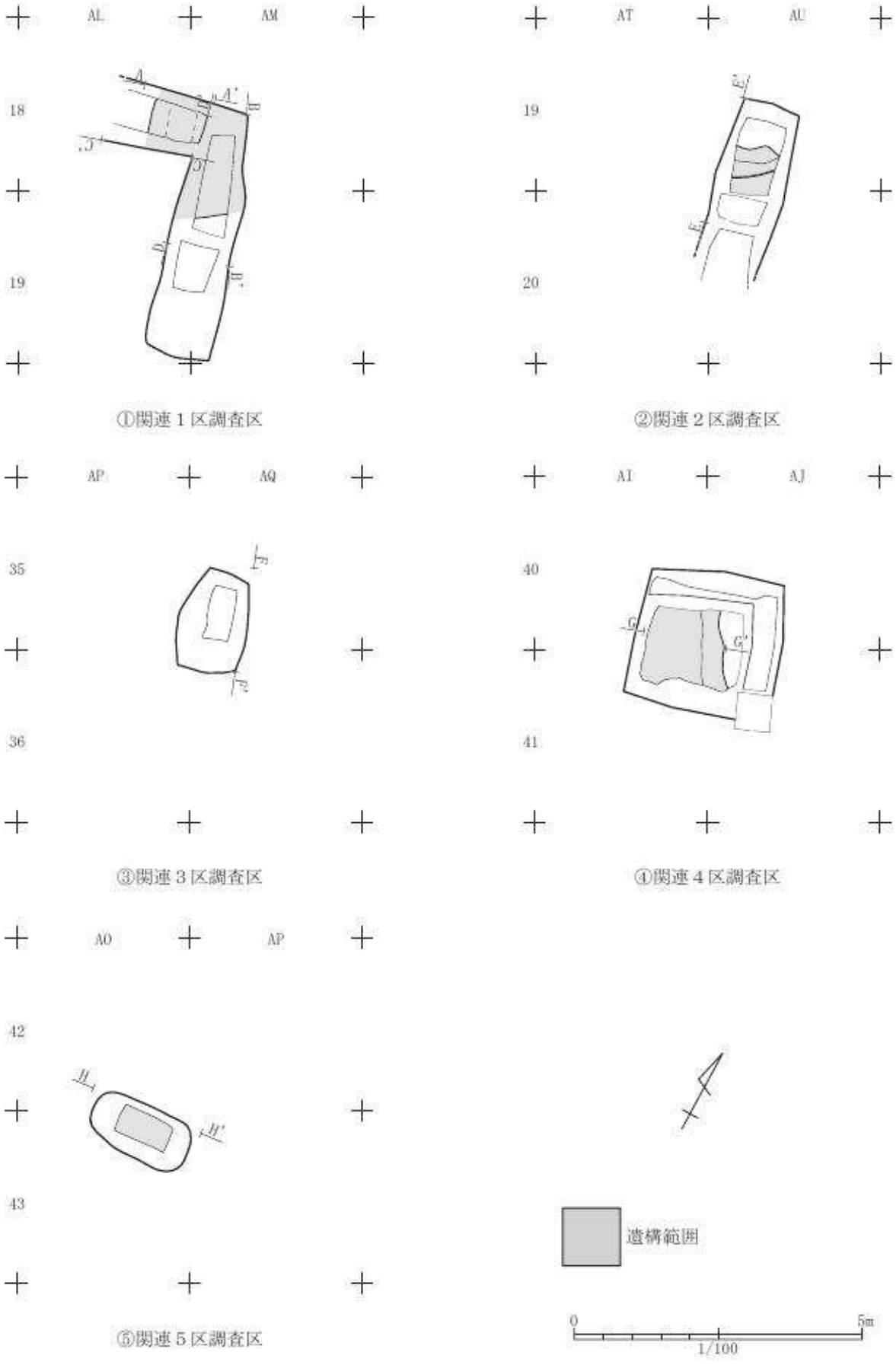


図12　武家屋敷地区第14地点関連区

Fig. 12 Excavations related area at BK14

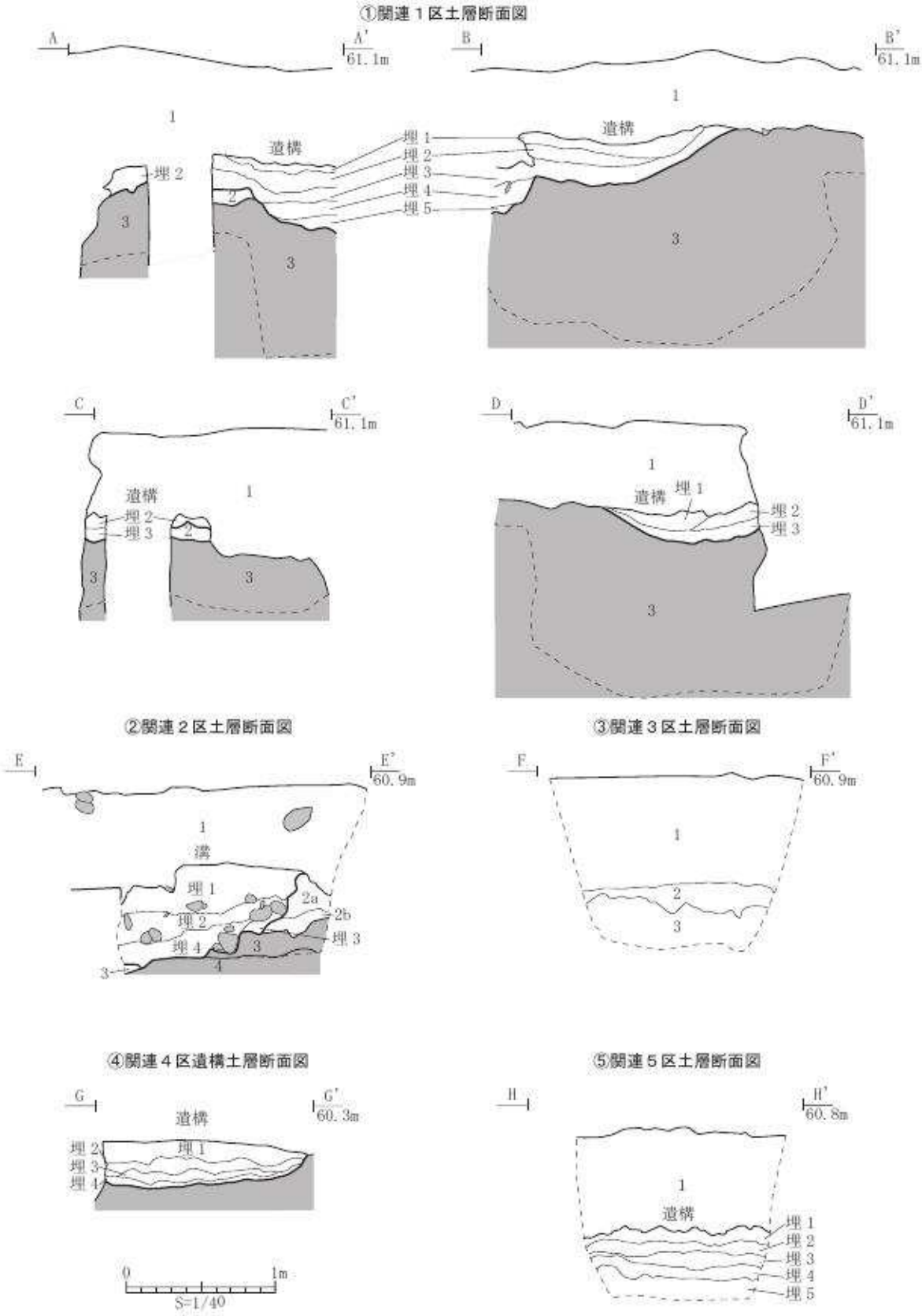


図13　武家屋敷地区第14地点関連区の土層断面（１）
Fig.13 Cross section of related area at BK14 (1)

関連１区
基本層
　１層　現代の盛土等
　２層　10YR4/2灰黄褐色 粘土 粘性強・しまり強　径0.5-1cm程度の黄色パミスをやや多く含む　本調査区3a層に対応
　３層　10YR6/3にぶい黄橙色 粘土 粘性中・しまり強　地山土　黄褐色砂をラミナ状に含む　地山層
遺構
　埋土１層　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性弱・しまり強　斑状に黒色粘土層を少し含む　白色・黄色土粒を僅かに含む　径3-5mm程度の３層由来の炭化物を少量含む
　埋土２層　10YR2/1黒色 砂質シルト 粘性弱・しまり強　炭化物、黄色粘土が斑状に多く混じる　炭化物は材の形状を成しているものが多い
　埋土３層　10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性弱・しまり強　径0.5-2cmほどの円礫が少量混じる　白色土粒を少量含む
　埋土４層　10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性中・しまり強　径1-3cm程度の円礫を少量含む　パミス粒を少量含む
　埋土５層　10YR5/2灰黄褐色 粘土 粘性強・しまり強　基本層３層に灰褐色粘土が混じった土質

関連２区
基本層
　１層　現代の盛土等
　2a層　10YR4/6褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり強　径1-3mmの炭化物を少量含む　径1-2cmの礫を少量含む　本調査区2a-2層に対応
　2b層　10YR3/3暗褐色 粘土 粘性強・しまり強　下部には径3-5mm程度のパミスを少量含む　径2mm程度の炭化物を少量含む 本調査区2b層に対応
　３層　10YR5/6黄褐色 粘土 粘性強・しまり強　白色粒を含む　マンガン粒を少量含む　本調査区3b層に対応
　４層　10YR5/4にぶい黄褐色 粘土 粘性強・しまり強　白色・橙色の粒を含む　マンガン粒を多く含む 地山層
溝
　埋土１層　10YR3/2黒褐色 砂質シルト 粘性強・しまり強　径1-3mm程度の炭化物と白色粒を少量含む　下部はやや茶色味が強くなり径3-10cmの円礫を含む
　埋土２層　10YR3/4暗褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり中　褐色砂をまばらに含む　径3-10cmの円礫をやや多く含む
　埋土３層　10YR4/6褐色 粘土 粘性強・しまり強　径1-3mmの炭化物を少量含む　白色粒を少量含む　基本層2a層に類似し、その崩落土層と考えられる
　埋土４層　10YR4/2灰黄褐色　粘土　粘性強・しまり弱　10YR5/6黄褐色　砂　粘性弱・しまり弱　粘土と砂の互層となる溝床面上は粘土層　砂の部分には径1-15cm程度の円礫を多く含む

関連３区
　１層　現代の盛土等
　２層　7.5Y3/1オリーブ黒色 砂質シルト 粘性弱・しまり強　白色土粒を多く含む　径2-5cmの礫、木質、鉄分を多く含む
　３層　2.5Y4/4オリーブ褐色 砂 粘性なし・しまりなし　極めて均質　2・3層は遺構の埋土か

関連４区
遺構
　埋土１層　5Y3/1オリーブ黒色 砂質シルト 粘性弱・しまり中　白色土粒を多く含む　黄色土粒、径2-3mmの炭化物、オリーブ灰色土小ブロック、黒褐色土小ブロックを僅かに含む　明治期の層か
　埋土２層　7/5Y3/2オリーブ黒色 シルト 粘性弱・しまり中　白色土粒を多く含む　黄色土粒を僅かに含む
　埋土３層　10YR4/6褐色 砂 粘性なし・しまり極めて弱　径2-3cmの風化した礫、にぶい黄橙色粘土小ブロックを含む
　埋土４層　5Y2/1黒色 粘土 粘性強・しまり中　白色土粒を僅かに含む　砂を僅かにラミナ状に含む
　埋土５層　10YR4/3にぶい黄褐色 粘土 粘性強・しまり強　白色土粒を多く含む　鉄分を多く含む　上部は一部グライ化

関連５区
基本層
　１層　現代の盛土等
遺構
　埋土１層　10YR5/1褐灰色 シルト 粘性弱・しまり弱　径1-2cm程度の礫を中量、径2-3cmの黄白色粘土ブロックを中量、白色粒子を多量に含む　マンガンを全体的に含む　瓦などの遺物を含む
　埋土２層　10YR5/1褐灰色 粘土質シルト 粘性強・しまりやや強　2-5cm程度の黄白色粘土ブロックを多量に含む　径1cm程度の白色粘土ブロックを少量含む　全体的にマンガンを含む
　埋土３層　10YR4/1褐灰色 粘土質シルト 粘性強・しまり強　5mm程度の白色粘土粒を少量含む　全体的にマンガンを含む
　埋土４層　5YR5/6明赤褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強　地山の崩落土にマンガンが付着した層
　埋土５層　10YR6/4にぶい黄橙色 粘土質シルト 粘性強・しまり強　一部砂質の部分あり　黒色の粒子を少量含む

図14　武家屋敷地区第14地点関連区の土層断面（２）
Fig.14 Cross section of related area at BK14 (2)

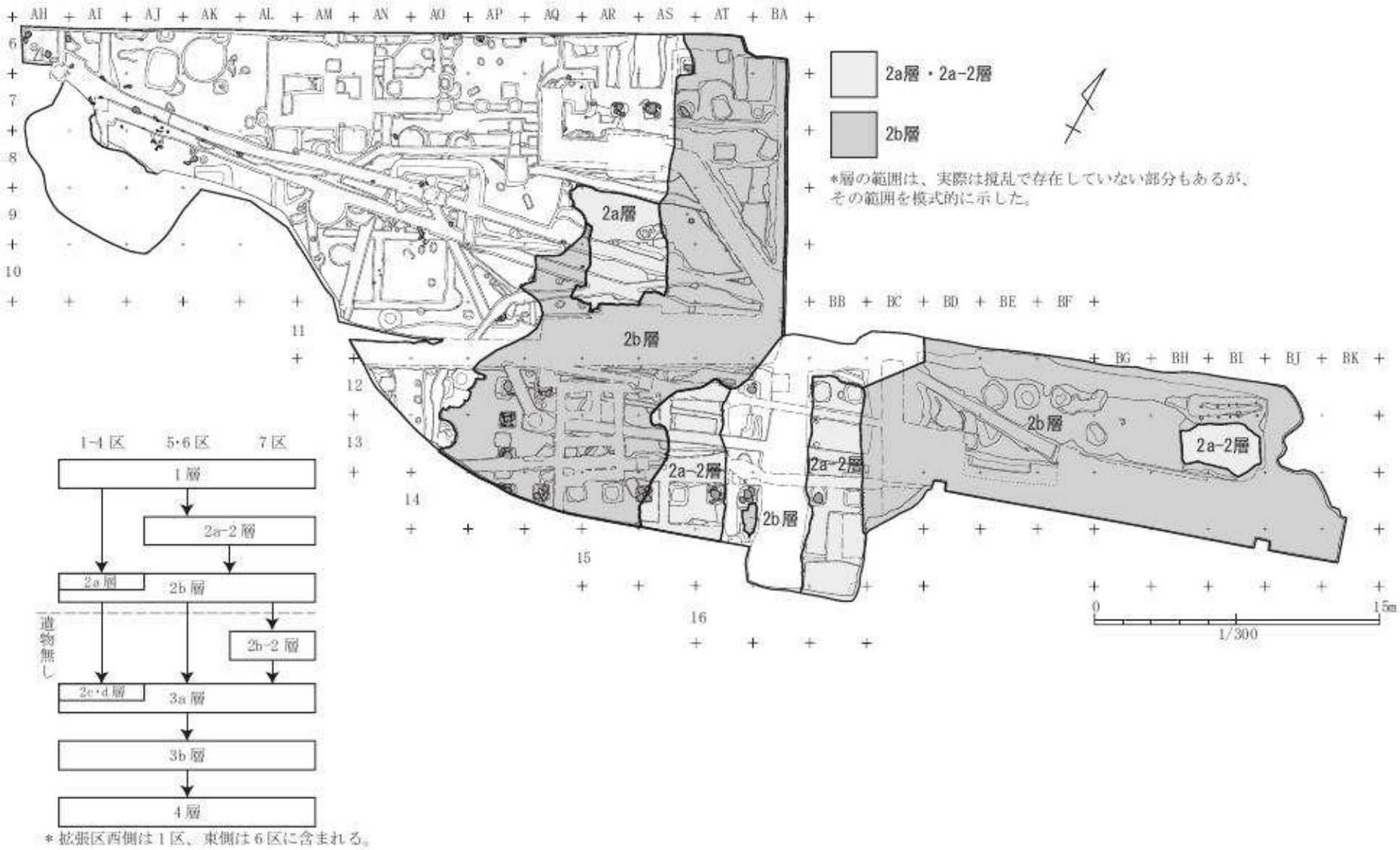
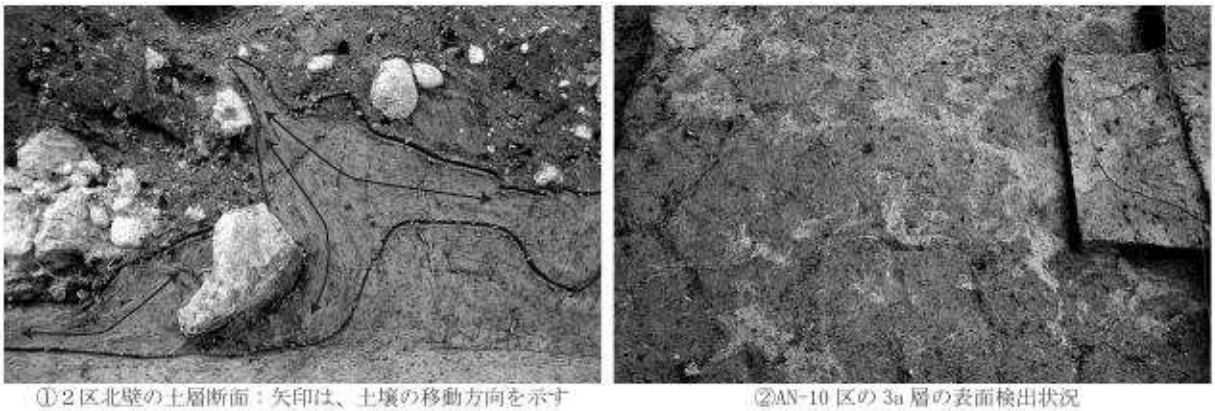


図15　武家屋敷地区第14地点撹乱除去状況および層の分布

Fig. 15 The map of the removed disturbance layer and the distribution of the other layer at BK14



①２区北壁の土層断面：矢印は、土壌の移動方向を示す　　②AN-10 区の 3a 層の表面検出状況

図16　特徴的な土層

Fig.16 Characteristic soil layer

りが良い地点では、2a-2層と2b層の堆積が認められる。

２．遺構の時期比定と段階区分（図17）

今回の調査では、撹乱が著しく、上層が削平されたため3a ～４層上面で検出した遺構も多く、遺物が出土しない場合は、細かな時期を比定することは難しい。一方で、2a-2層・2b層が遺存していた地区では、遺構の層序関係を把握することができる。

本調査区で時期区分の基準となるのが、BH・BI-13区の状況である。この区は遺存状態が良く、2a-2層と2b層が残り、それぞれの層の上面で検出した遺構がある。さらに2b層検出の遺構には、重複関係が認められた。これらの重複・層序関係と、出土遺物から、下記のような段階を設定した。最古段階のⅠ期と最新段階のⅢ期に挟まれるⅡ期は、重複関係からⅡa・Ⅱb期に細分した。

Ⅰ期（図17－①）：遺構検出面2b層、３号溝が確認され、５号溝より下のピット群が含まれる可能性がある。

Ⅱa期（図17－②）：遺構検出面2b層、５号溝が確認された。

Ⅱb期（図17－③）：遺構検出面2b層、３・５号溝より新しい柱列１・２等のピット群が確認できる。

Ⅲ期（図17－④）：遺構検出面2a-2層。20・21号遺構が確認された。

Ⅰ～Ⅱb期は、2b層を検出面とするもので、重複関係から段階の設定をした。Ⅰ期の遺構では、３号溝の埋土３層から17世紀中葉～後葉の磁器が出土している。Ⅱa期の遺構では、５号溝から18世紀の遺物が出土している。Ⅱb期の遺構では、１号・２号柱列の柱埋土から18世紀後半代の遺物が多く見つかっている。Ⅲ期の遺構では、21号遺構から19世紀前葉～中葉の遺物が確認されている。これらの遺物出土状況や、今回の調査における他の遺構からの出土遺物から、それぞれの時期を主体とする下記の様に比定した。

Ⅰ期：16世紀末葉を含む17世紀。

Ⅱa期：18世紀初頭～中葉。

Ⅱb期：18世紀後葉～19世紀初頭。

Ⅲ期：19世紀前葉～後葉。一部近代を含んでいる。

基本的に、遺物による時期比定は、埋土最下層の遺物を重視して判断した。ただし、他の遺構あるいは近現代の撹乱により、埋土に新しい時期の遺物が混入している場合もある。このような場合は、遺物の出土層位、遺構の写真・断面図等を参照しながら、遺構の時期を比定していった。また、井戸に関しては、安全上の理由から底面まで掘りきっていない。そのため、井戸の時期比定は重複関係等のほか、掘り方からの出土遺物を重視して時期を判断した。井戸内部埋土からしか遺物が出土していない場合は、井戸としての機能が終了した埋没時の年代を示すものと判断した。

本調査区の層位・時期を武家屋敷地区第７地点（BK７）と比較すると、Ⅱ期が前・後半の時期（Ⅱa・Ⅱb期）に細分されることとなる。同様に、隣接地である仙台市教育委員会が2007年度に調査した地点（主濱ほか2011b）における時期区分と比較すると、おおむね対応するようである。これらの点の詳細を含め、周辺の調査区の遺構との関係等については、来年度刊行の『調査報告』８にて考察したい。

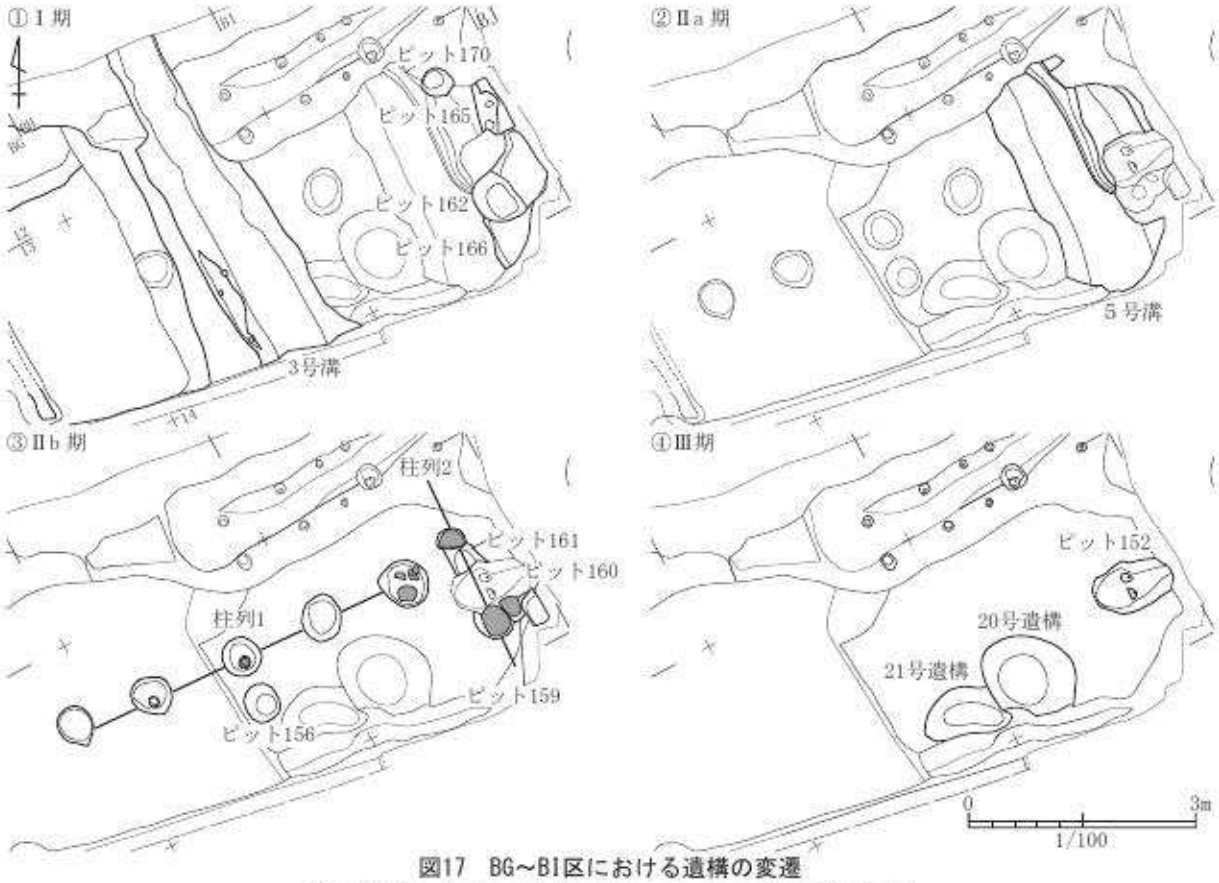


図17　BG～BI区における遺構の変遷

Fig.17 The change of features at area from BG to BI

３．近代以降の様相（図18・19）

本報告では、Ⅲ期として19世紀前葉～後葉以降の時期を設定しているが、明らかな明治時代以降の遺構も認められる。第Ⅰ章で述べているように、本調査地点は近代に陸軍第二師団が入り、第二次大戦後に米軍が進駐した場所となる。図18には、調査時に確認できた第二師団期、米軍期の建物痕跡等について表示した。

建物１は、コンクリートの布基礎を有する。その構造や重複関係からすると米軍期の建物と考えられる。建物４・５は１間が３mとなる。その方形の掘込みには、長軸方向を上下とした川原石を隙間なく詰め込み、その隙間には山砂を充填する。そして、中央に巨大な礎石を据える。残存している場所では、中央の礎石は２段以上重ねられていたようである。建物４・５は、これまでの調査事例からしても、第二師団期の建物と考えて間違いない。建物２・３は１間が３mとなり、方形のコンクリート基礎を有する。図16-①で提示した基礎も、この建物３の基礎である。同様の建物基礎は、武家屋敷地区第16地点（『調査報告』５）における第二師団期（Ⅲb期）の大規模な建物の基礎にもみられた。このようなことから、建物２・３も第二師団期の建物跡と考えられる。

また、防空壕が２基確認できた（図19）。防空壕１は、「己」状に細い通路が走る。途中にやや広い空間があったようであるが、現代の樹によって壊されている。防空壕２は、防空壕の待避所本体と推定される。

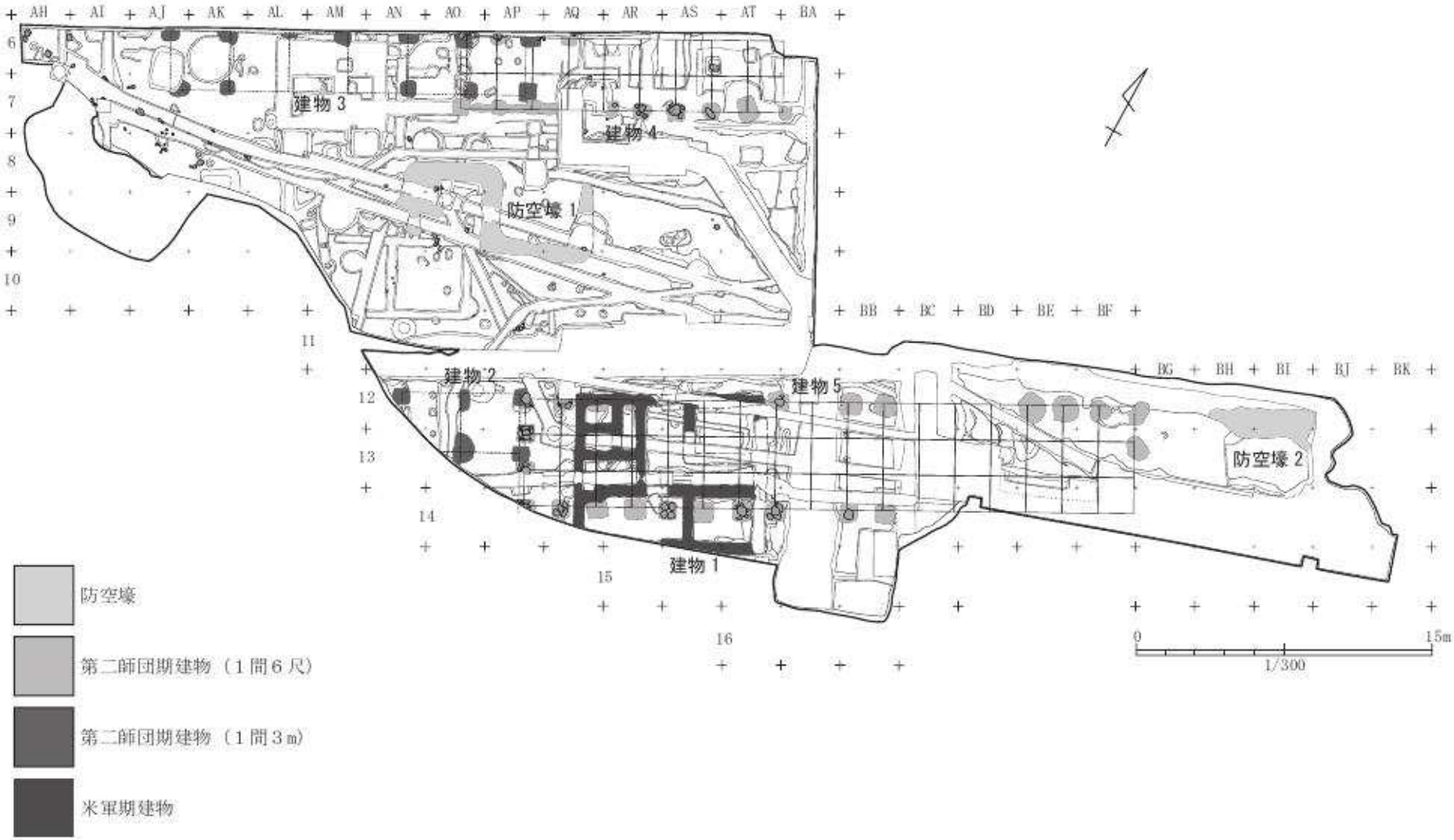
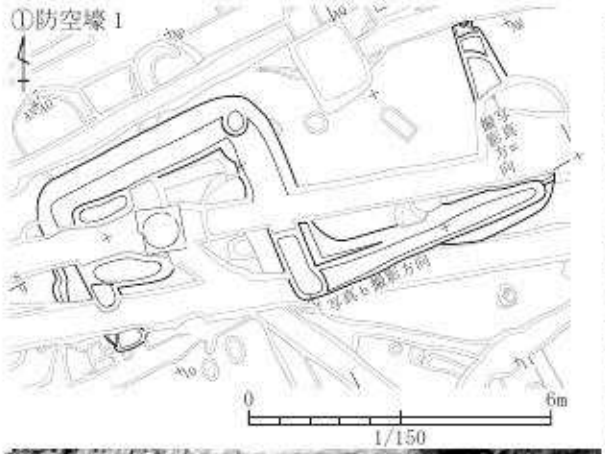


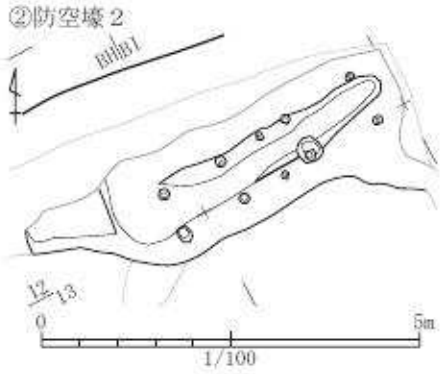
図18　近現代の建物基礎・防空壕

Fig. 18 Building foundations and air-raid shelter of the modern era

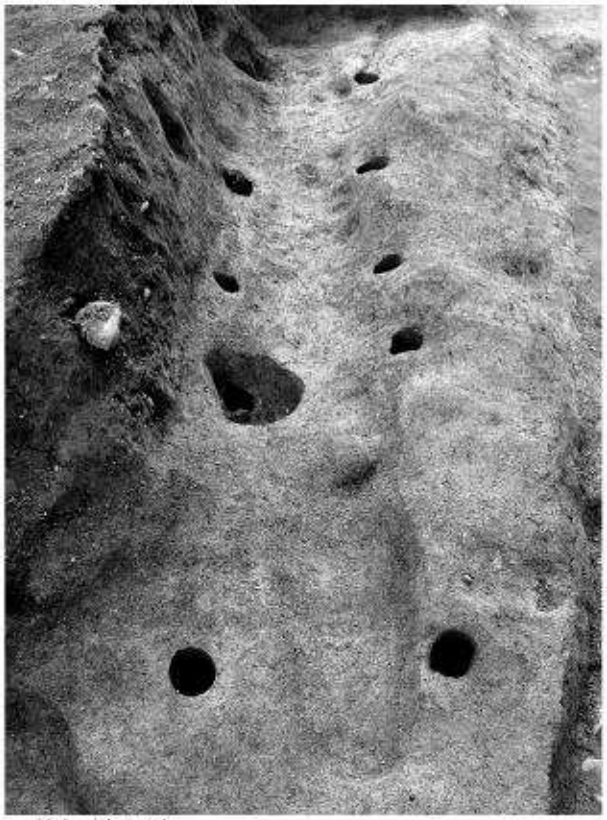


a. 階段（南から）

b. 通路（南から）



a. 全景（北から）



b. 拡大（東から）

図19　武家屋敷地区第14地点で確認した防空壕
Fig. 19 The Bombproof shelter at BK14

第Ⅳ章　検出遺構

1．遺構の変遷

本調査で確認された遺構は、総数332基である（表17）。そのうち時期を限定的に決めることができたのは、Ⅰ期47基、Ⅱa期３基、Ⅱb期10基、Ⅲ期71基の合計131基（39.5％）である。Ⅱa・Ⅱb期（18世紀初頭～19世紀初頭）の遺構が特に少ないことが、本調査区の特徴となる。その他の遺構の時期は、複数の時期にまたがるものである。それらの遺構は、実際に複数の時期に渡って機能していた可能性もあるが、その理由は、堆積層の削平により検出層位が３・４層となってしまっている、あるいは出土遺物がないことにより、遺構の重複関係のみにより時期を判断したため、時期が限定できないことによるものである。

表17　遺構の時期と数
Tab.17　Phase and the number of features

		建物	柱列	池状遺構	遺構	溝	井戸	ピット	杭	石	総計
時期	Ⅰ	3	4	2	11	2	1	18	6		47
	Ⅰ-Ⅱa							9			9
	Ⅰ-Ⅱb				11	1		35	10		57
	Ⅰ-Ⅲ	3	2		3		1	29	1		39
	Ⅱa			1	1	1					3
	Ⅱa-Ⅱb				2		1（1）	1			5
	Ⅱa-Ⅲ								3		3
	Ⅱb		2	1	2			5			10
	Ⅱb-Ⅲ				3			3			6
	Ⅲ	1	1		20	4	（1）	37	7		71
	不明		1		4			50	26	1	82
総計		7	10	4	57	8	5	187	53	1	332

「ピット」には、建物・柱列を構成するピットは含まない。
「井戸」の（ ）は、埋没した時期を示す。

遺構数では、ピットが遺構全体の半数以上（187基）を占める。これに含まれていない建物７棟、柱列10条を構成するピットは、それぞれ48、33基であったため、ピット総数は268基となる。建物・柱列として組めたピットの割合は30.2％となる。本調査区より西側に約150m離れた武家式地区第11地点調査区（『調査報告』１：BK11）では、全ピット769基のうち347基（45.1％）を建物・柱列として組むことができた。この割合と比べると本調査区での割合は低い。その理由としては、今回の調査区では、武家屋敷地区第11地点調査区と比べ、近現代の撹乱が数多くかつ細かく入っていることから、連続にピットを組むことができなかったことによるものと考えられる。今回、全体図・写真図版に提示したが、組むことができなかったピット187基の中には、礎板石や柱痕跡を有するものも多数ある。そのピットのあり方からすると、今回復元はできなかったが、より多くの建物・柱列が存在していたものと推定される。

また、建物等を構成すると考えられる礎石として、１基（図版122－８）のみ確認したが、他に組む礎石は確認できなかった。その他に特徴的な遺構としては、４基の池状遺構がある。これらの池状遺構は、調査区東半部に位置し、Ⅰ～Ⅱb期に存在している特徴的な遺構である。この池状遺構の一部は、武家屋敷地区第７地点（BK７）調査区内にも伸びている。

2．各時期の遺構

（1）Ⅰ期の遺構（図20・21）

【１号建物】（図22）　AN-10、AO-10～13区に位置する３×１間（南北方向×東西方向で表記する。以下同様）の建物である。その１間の寸法は、６尺５寸である。この寸法からⅠ期（17世紀初頭）に比定した（『調査報告』１）。その南北の軸角度は、26.9度西偏する（註）。調査区西端の方に位置し、西あるいは南側に伸びる可能性はある。確認できた柱穴のうち２基には礎板石を有する。その柱穴の規模はいずれも小さい。遺物は出土していない。

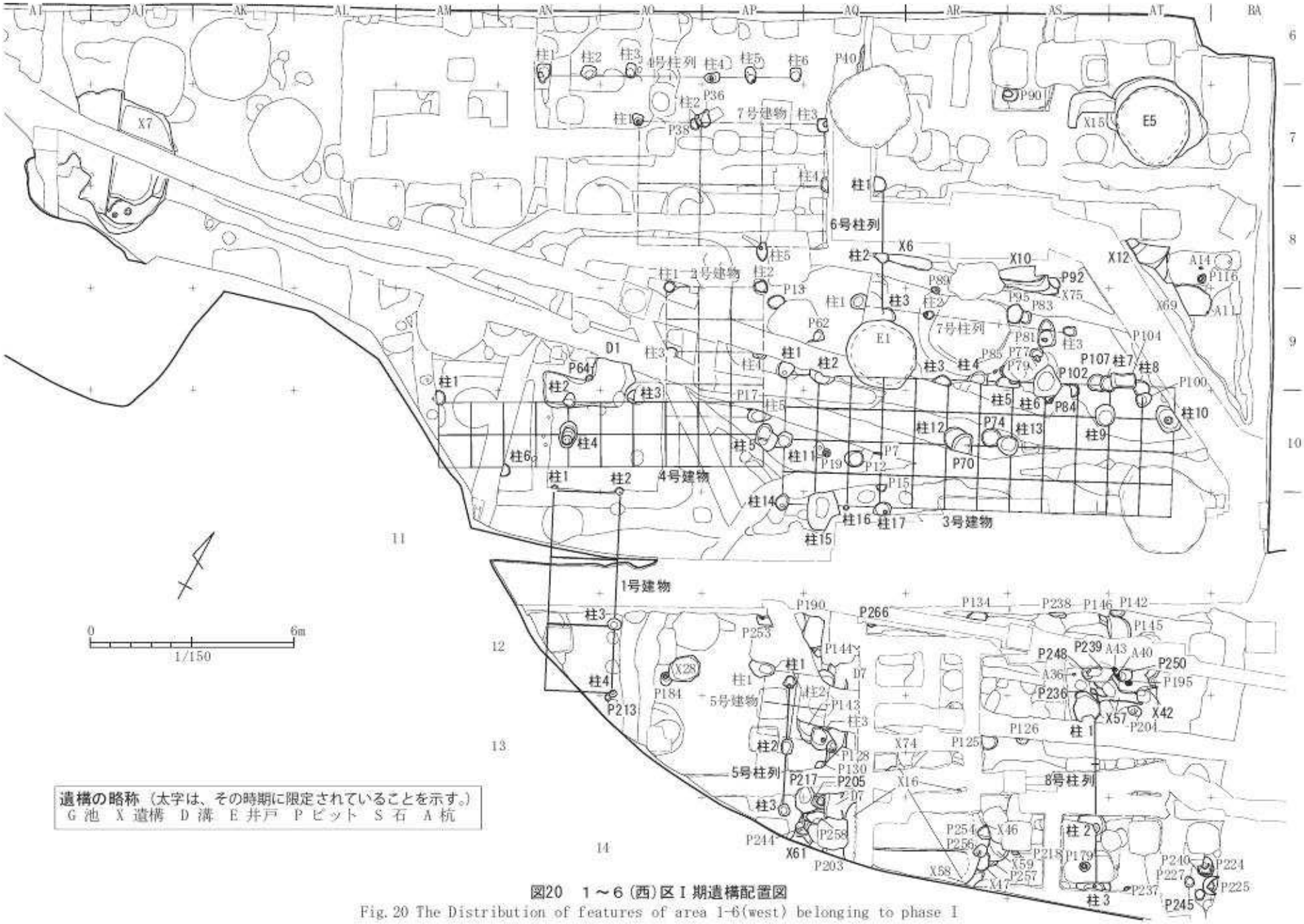
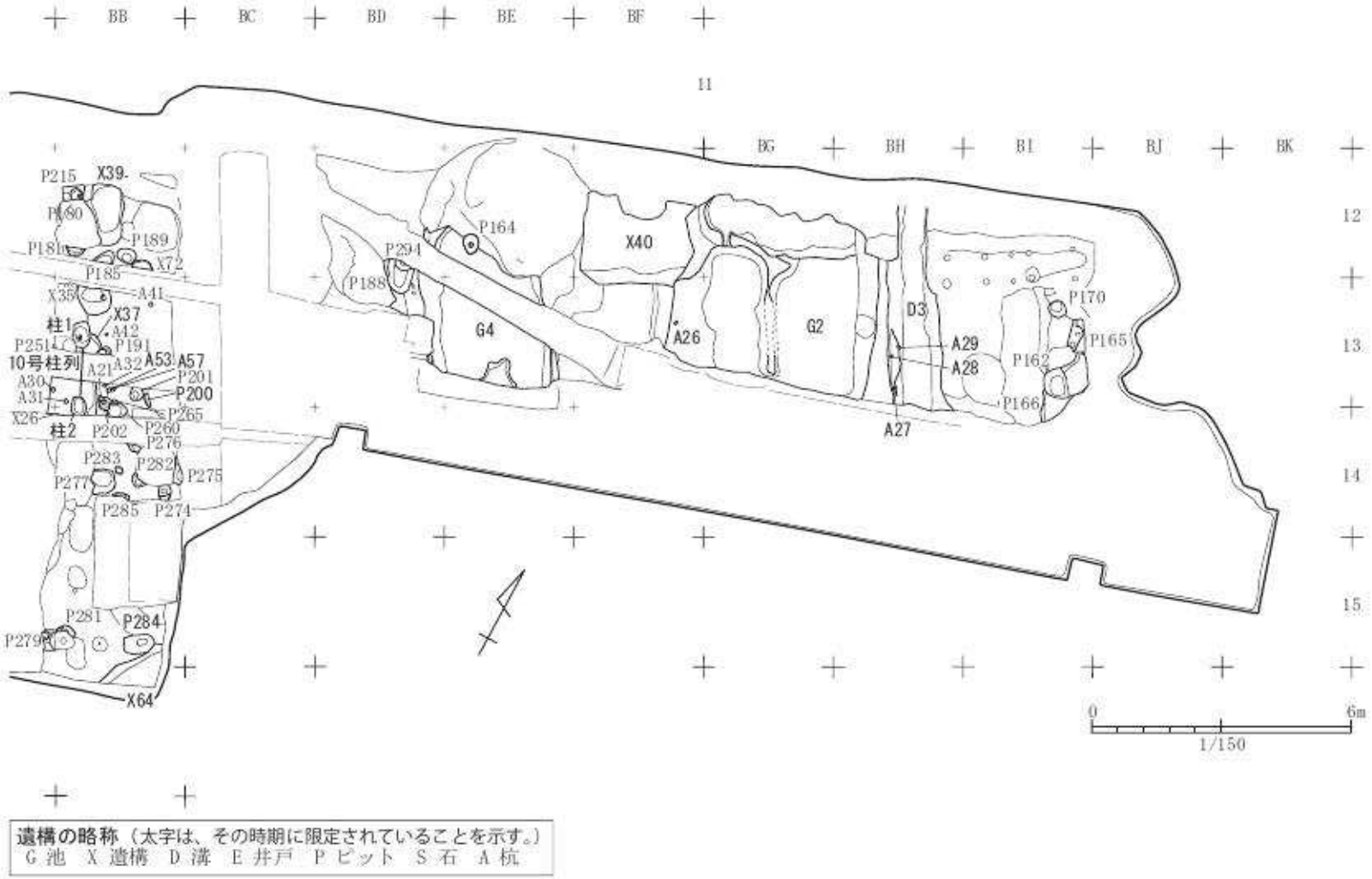


図20　1～6（西）区Ⅰ期遺構配置図

Fig. 20 The Distribution of features of area 1-6(west) belonging to phase I



遺構の略称（太字は、その時期に限定されていることを示す。）
G 池　X 遺構　D 溝　E 井戸　P ピット　S 石　A 杭

図21　6（東）・7区Ⅰ期遺構配置図
Fig. 21 The Distribution of features of area 6(west)·7 belonging to phase I

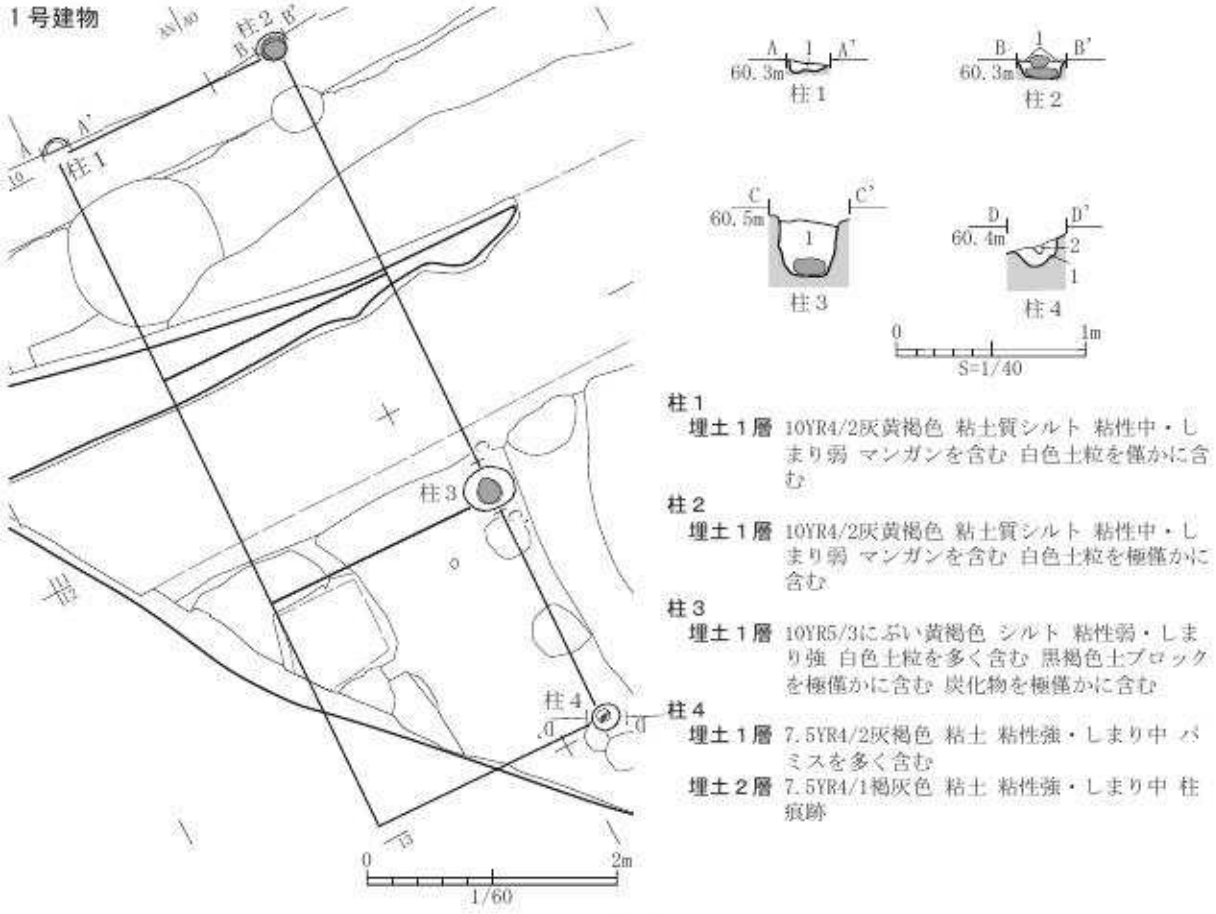


図22　Ⅰ期の遺構（1）
Fig.22 Features belonging to phase I(1)

【3号建物】（図23～25）　AP-9～11、AQ-9～11、AR～AT-9・10区に位置する2×6間の建物であり、今回確認できた建物の中では最も規模が大きい。1間の寸法は、6尺3寸である。軸角度は、27.5度西偏する。2号建物の東側に位置する。柱穴にはおおむね柱痕跡が残る。礎板石については東半部の柱穴6基から確認されている。柱15等のように、礎板石はないが柱痕跡が明瞭に残るものもある。柱6の埋土の中位から下部にかけて、礫や材等が廃棄されたような状況で確認されている（図23）。その上部には柱痕跡が認められている。その関係性は不明であるが、柱の入れ替え等を行ったことも想定できる。また、この柱6埋土中より17世紀と考えられる陶器が出土していることから、Ⅰ期（17世紀前葉～末葉）に比定した。

【4号建物】（図26）　AN～AP-10区に位置する1×5間の建物である。1間の寸法は6尺3寸である。軸角度は、28.2度西偏する。その東側において2号建物と重複し、1号・3号建物とは近接する。柱4・5で認められるように抜取り痕も認められる。組めた柱穴が少なく、その様相は判然としない。遺物も出土していないが、3号建物を構成する柱穴との重複関係から、Ⅰ期（17世紀前葉～末葉）とした。

【5号柱列】（図27）　AP-12～14区に位置する。柱穴3基のみの柱列である。1間の寸法は3尺で、軸角度は24.8度西偏する。柱痕跡や礎板石も認められる。他の建物や柱列よりこの軸角度が小さい。柱1の埋土から17世紀の陶器が出土していることから、Ⅰ期（17世紀）とした。

【6号柱列】（図27）　AQ-7～9区に位置する。これも柱穴3基のみの柱列である。1間の寸法は6尺5寸であり、軸角度は26.2度西偏する。その特徴は1号建物と類似しており、実際は建物を構成していた可能性もある。全て

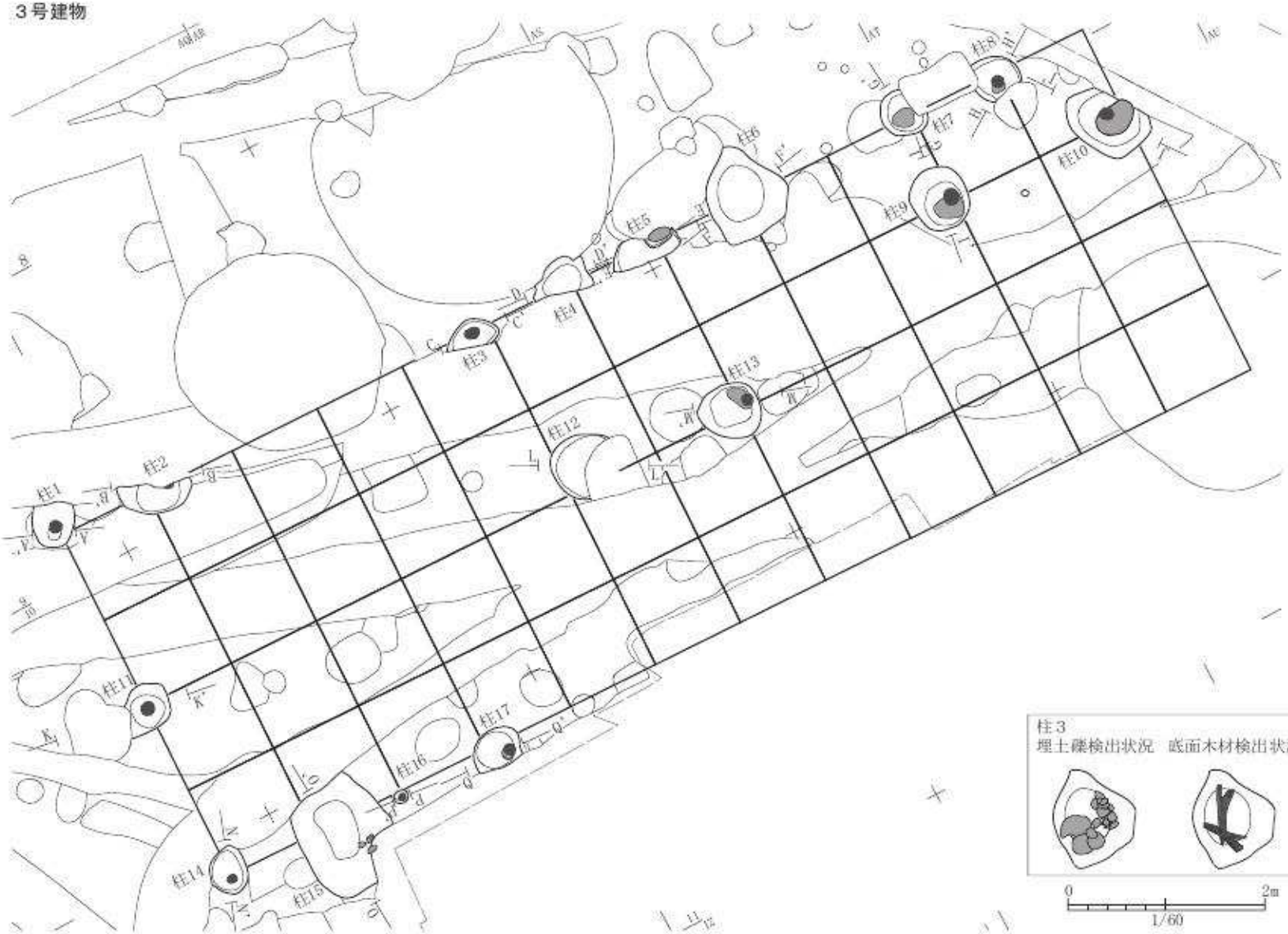
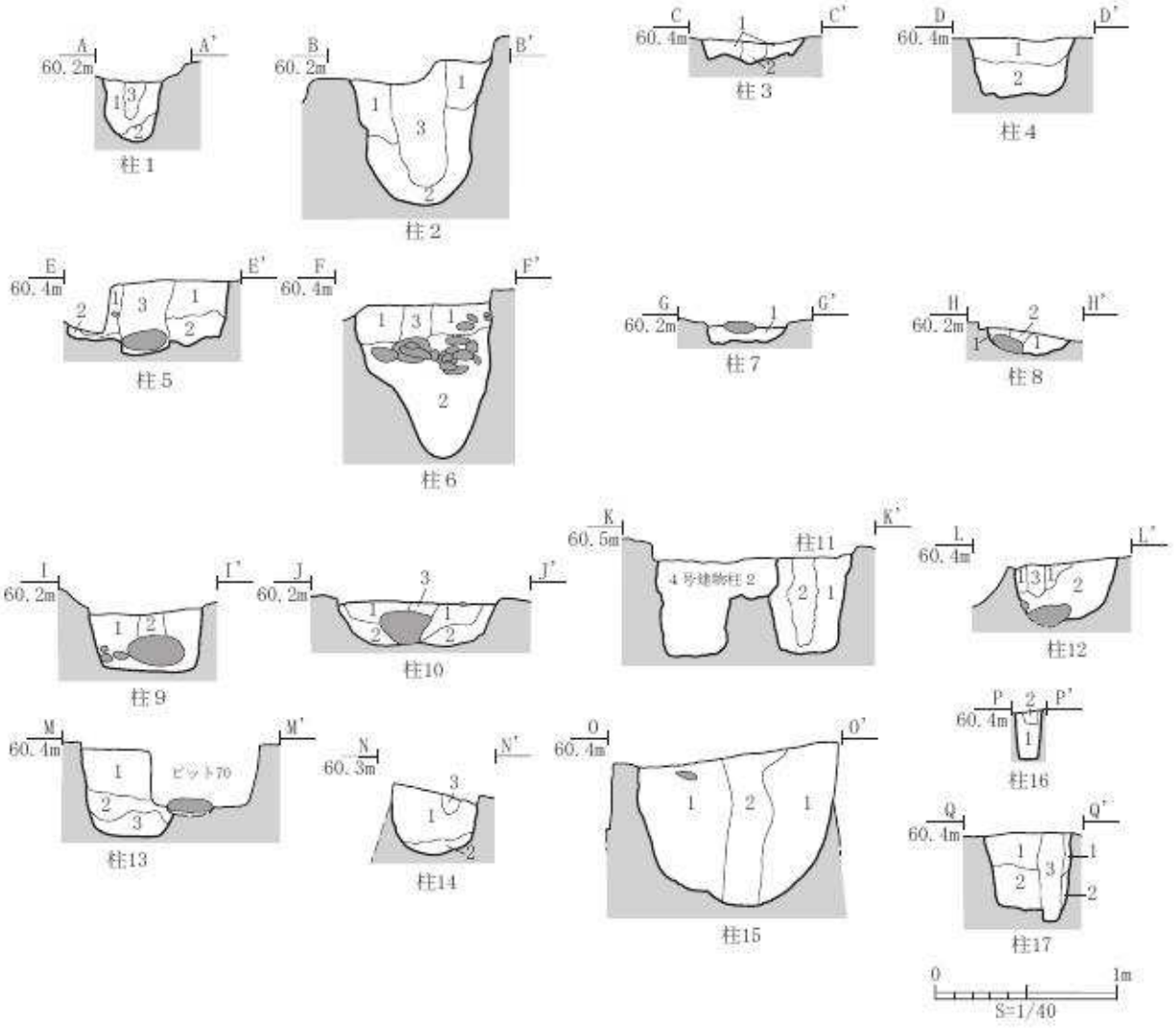


図23　Ⅰ期の遺構（２）

Fig.23 Features belonging to phase I(2)



柱１

埋土１層 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 暗褐色土・黄褐色粘土ブロックを斑に含む 白色・黄色土粒、鉄分を含む

埋土２層 10YR4/6 褐色 シルト 粘性弱・しまり弱 黄色・白色土粒、鉄分を含む

埋土３層 10YR4/2 灰黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 黄褐色土小ブロック、白色・黄色土流を僅かに含む 鉄分を含む 柱痕跡

柱２

埋土１層 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 黒褐色土ブロックを全体に含む 下部で明黄褐色土ブロックを僅かに含む 白色・黄色土粒を含む

埋土２層 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 黒褐色・黄褐色土ブロックを斑に含む 白色・黄色土粒を含む

埋土３層 10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり弱 明黄褐色・褐灰色土を斑に含む 柱痕跡

柱３

埋土１層 H10YR2/3 黒褐色 赤色土粒と炭化物を僅かに含む 褐色の土を多く含む

埋土２層 H10YR2/1 黒 炭化物・鉄分を少量含む 柱痕跡

柱４

埋土１層 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 白色土粒、鉄分を含む 黄色土粒、明黄褐色・黒褐色土小ブロックを僅かに含む

埋土２層 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 鉄分をやや多く含む 白色・黄色土粒、マンガン、黄褐色粘土ブロックを含む

柱５

埋土１層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり強 白色・黄色土粒、鉄分、暗褐色土をブロック状に含む 径1-2mmの炭化物を僅かに含む

埋土２層 10YR3/3 暗褐色 粘土 粘性強・しまり強 白色・黄色土粒、鉄分を含む 黒褐色土をブロック状に僅かに含む

埋土３層 2.5Y4/2 暗灰黄 シルト 粘性中・しまり強 上部に黒褐色粘土を層状に含む 径3-5mmの炭化物を含む 白色・黄色土粒、鉄分、黄褐色土小ブロックを含む 柱痕跡

図24　Ⅰ期の遺構（３）

Fig.24 Features belonging to phase I(3)

柱６
埋土１層 2.5Y4/2 暗灰黄 粘土質シルト 粘性中・しまり中 褐色粘土ブロックを含む 白色・黄色土粒、鉄分を含む
埋土２層 10YR4/2 灰黄褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 白色・黄色土粒、鉄分を含む
埋土３層 2.5Y4/2 暗灰黄 粘土質シルト 粘性強・しまり強 黄褐色・黒褐色土粘土ブロック、白色・黄色土粒を含む 径1-2mmの炭化物を僅かに含む 柱痕跡

柱７
埋土１層 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性中・しまり中 明黄褐色粘土小ブロック、白色・黄色土粒、鉄分を含む 径1-2mmの炭化物を極僅かに含む

柱８
埋土１層 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性中・しまり中 明黄褐色粘土小ブロック、白色・黄色土粒、径0.5-1cm程度の炭化物を僅かに含む 鉄分をやや多く含む
埋土２層 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 白色・黄色土粒、径2mm程度の炭化物を極僅かに含む 鉄分を僅かに含む 柱痕跡

柱９
埋土１層 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性中・しまり中 鉄分、黄褐色粘土ブロック、径5mm程度の炭化物を含む 白色土粒をやや多く含む 黄色土粒、握り拳大の礫を僅かに含む
埋土２層 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性中・しまり中 黄褐色粘土小ブロック、白色・黄色土粒を含む 径5mm程度の炭化物を僅かに含む 柱痕跡

柱10
埋土１層 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 黄褐色粘土小ブロック、白色土粒を多く含む 鉄分、黄色土粒を含む 径3-5mm程度の炭化物を僅かに含む
埋土２層 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性中・しまり中 白色・黄色土粒を僅かに含む 鉄分を含む 黄褐色粘土ブロック、径3-5mm程度の炭化物を極僅かに含む

柱11
埋土１層 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 黒褐色粘土小ブロック、黄色土粒、鉄分を僅かに含む 白色土粒を多く含む
埋土２層 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性やや強・しまり弱 白色・黄色土粒を含む

柱12
埋土１層 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 白色・黄色土粒、鉄分を含む 径2-5mmの炭化物、灰白色土小ブロックを僅かに含む
埋土２層 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 にぶい黄褐色粘土ブロックを多く含む 白色・黄色土粒を含む
埋土３層 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性中・しまり中 黒褐色土ブロック、白色・黄色土粒、鉄分、マンガンを含む

柱13
埋土１層 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性中・しまり中 黒褐色土ブロック、鉄分、白色・黄色土粒を含む
埋土２層 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 径0.5-2cmの炭化物を僅かに含む 白色・黄色土粒、鉄分を含む 径2-3cm程度の礫を極僅かに含む
埋土３層 10YR4/4 褐色 シルト 粘性弱・しまり中 黒褐色粘土小ブロックを僅かに含む 白色・黄色土粒を含む 柱痕跡

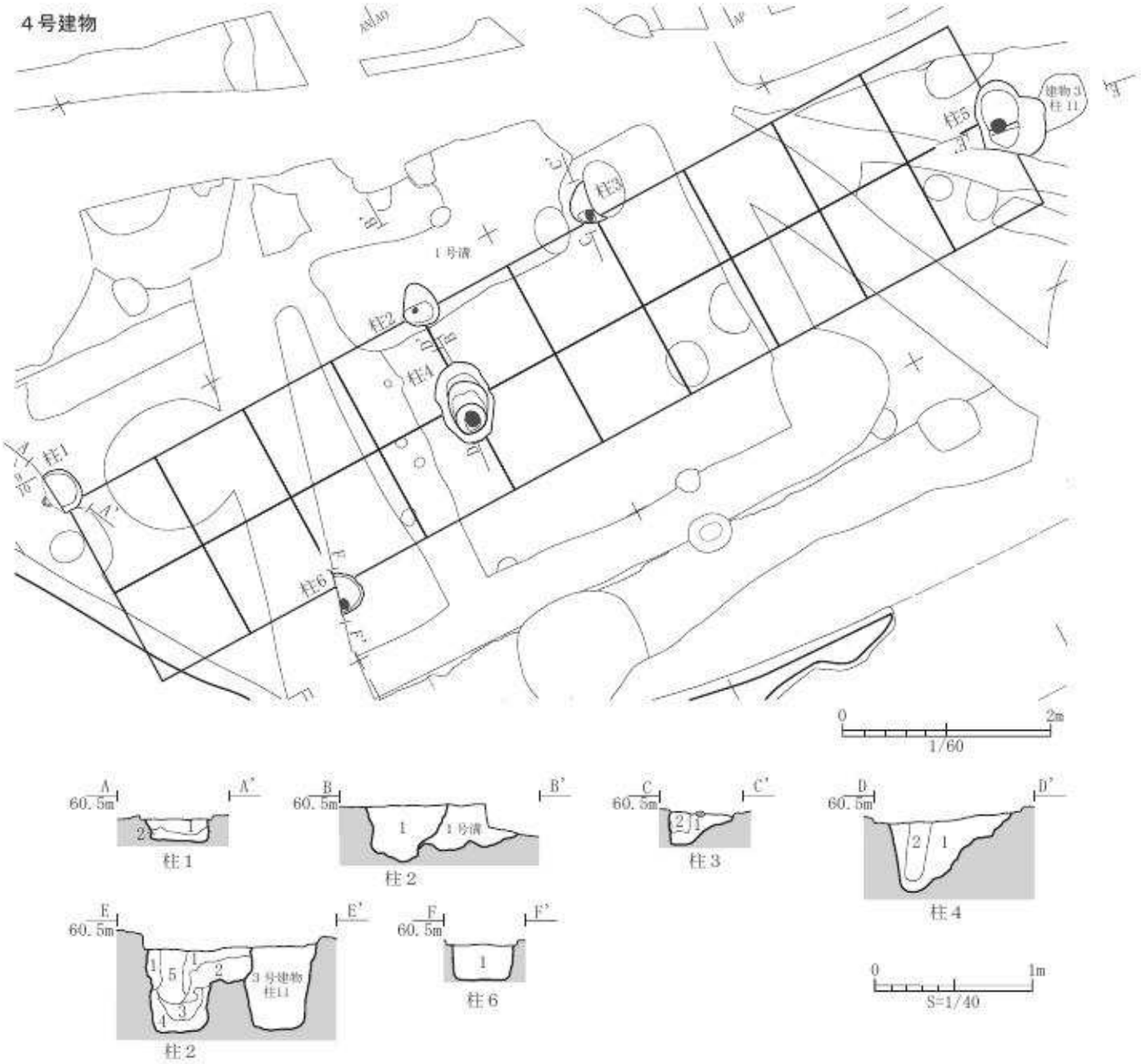
柱14
埋土１層 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性中・しまり中 黒褐色・黄褐色粘土ブロックを斑に含む 白色・黄色土粒、鉄分を含む
埋土２層 10YR4/6 粘土質シルト 粘性中・しまり弱 黒褐色・黄褐色粘土小ブロック、黄色土粒を僅かに含む
埋土３層 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性中・しまり中 黒褐色粘土ブロックを含む 白色土粒、黄色土粒を僅かに含む 柱痕跡

柱15
埋土１層 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 黄褐色・にぶい黄橙土粘土ブロックを斑に含む 黄色・白色土粒を全体に僅かに含む 鉄分をやや多く含む
埋土２層 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性中・しまり弱 径0.5-2cm程度の炭化物、鉄分を含む 明黄褐色粘土ブロック、白色土粒を僅かに含む

柱16
埋土１層 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり中 白色・黄色土粒、鉄分を含む 径1cm程度の礫を極僅かに含む
埋土２層 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 白色・黄色土粒を極僅かに含む褐灰色土小ブロックを僅かに含む 柱痕跡

柱17
埋土１層 10YR4/2 灰黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 径0.5-1cm程度の炭化物、白色・黄色土粒を含む 鉄分を多く含む 黒褐色土小ブロックを全体に斑に含む
埋土２層 10YR3/1 黒褐色 粘土 粘性強・しまり中 径1cm程度の炭化物、黄褐色土小ブロックを僅かに含む 灰黄褐色粘土小ブロックを全体に斑に含む 鉄分をやや含む
埋土３層 2.5Y3/2 黒褐色 粘土 粘性強・しまり弱 白色土粒を含む 径2-3mm程度の炭化物を極僅かに含む 柱痕跡

図25　Ⅰ期の遺構（４）
Fig.25 Features belonging to phase Ⅰ(4)



柱１
　埋土１層　10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 径1cm程の炭化物を極僅かに含む 黄橙土粘土小ブロックを僅かに含む
　埋土２層　10YR4/6 褐色 粘土 粘性強・しまり強 にぶい黄橙土小ブロックを僅かに含む

柱２
　埋土１層　10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 径3-5mm程度の炭化物をやや多く含む　黄褐色土ブロックを全体に斑に含む

柱３
　埋土１層　10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性強 ・しまり強 白色・黄色土粒、径1-2mmの炭化物を含む　浅黄橙色粘土小ブロックを僅かに含む
　埋土２層　10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱・しまり中 白色土粒、マンガンを含む 赤色土粒を極僅かに含む 柱痕跡

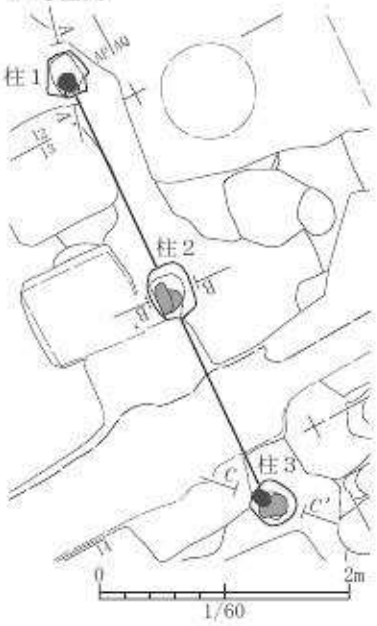
柱４
　埋土１層　10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 黄褐色粘土ブロックを全体にまだらに含む　径2-3mmの炭化物を僅かに含む
　埋土２層　10YR4/4 褐色 シルト 粘性中・しまり弱 明黄褐色粘土ブロック・白色土粒を含む

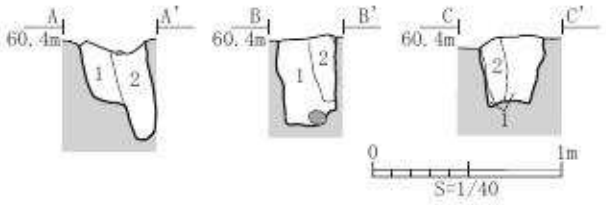
柱５
　埋土１層　10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 黒褐色粘土小ブロック・黄色土粒、鉄分を僅かに含む 白色土粒を多く含む
　埋土２層　10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性やや強・しまり弱 白色・黄色土粒を含む 柱痕跡

柱６
　埋土１層　10YR4/1褐灰色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 明黄褐色粘土小ブロックを全体に斑に含む 炭化物，暗褐色土ブロックを含む

図26　Ⅰ期の遺構（５）
Fig.26 Features belonging to phase Ⅰ(5)

５号柱列



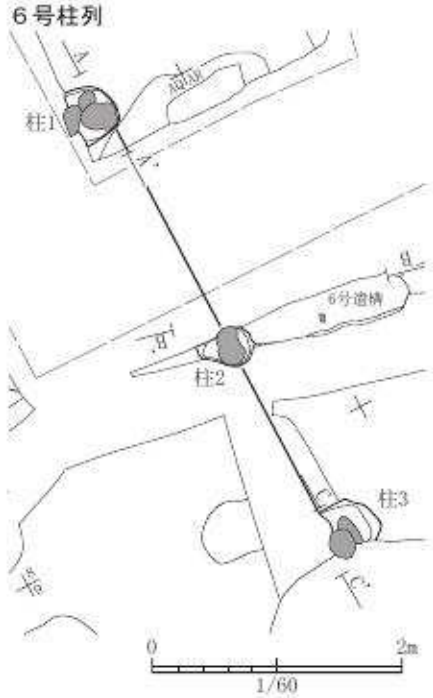


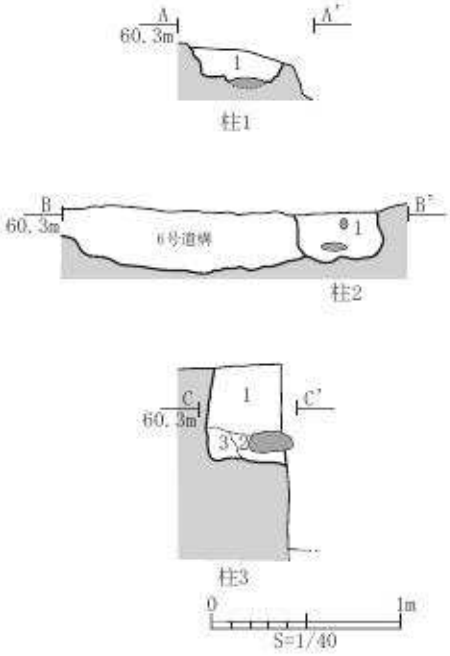
柱１
　埋土１層 10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり強 明黄褐色粘土ブロックを斑状に含む 鉄分、白色・黄色土粒を多く含む
　埋土２層 10YR4/4褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 明黄褐色粘土小ブロックを斑状に多く含む 径1-3㎜の炭化物、白色土粒を僅かに含む 柱痕跡

柱２
　埋土１層 10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり強 にぶい黄橙色暗褐色土ブロックを斑状に含む 白色土粒、マンガン、鉄分を多く含む
　埋土２層 10YR4/2灰黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり強 明黄褐色土小ブロック、径5㎜の炭化物を含む 柱痕跡

柱３
　埋土１層 10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり強 鉄分、マンガンを多く含む 白色土粒、パミスを含む 明黄褐色土小ブロックを僅かに含む
　埋土２層 10YR3/2黒褐色 シルト 粘性弱・しまり強 明黄褐色土ブロックを斑状に含む 白色土粒を含む 径5㎜程度の炭化物を僅かに含む マンガンを多く含む 柱痕跡

６号柱列





柱１
　埋土１層 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 にぶい黄褐色粘土ブロックをまだらに多く含む 鉄分、白色・黄色土粒を含む マンガンを極僅かに含む

柱２
　埋土１層 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 明黄褐色粘土小ブロックを全体にまだらに含む 径2-3㎜の炭化物を僅かに含む 鉄分を全体に含む 白色土粒をやや多く含む

柱３
　埋土１層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり中 径2-3㎜程度の炭化物を含む 白色土粒をやや多く含む 黄色土粒・にぶい黄色の粘土ブロックを僅かに含む
　埋土２層 2.5Y3/1 黒褐色 粘土質シルト 粘性やや強・しまり中 黄色土粒・鉄分を含む 白色土粒をやや多く含む
　埋土３層 2.5Y4/3 オリーブ褐色 粘土 粘性強・しまり強 黒褐色土をブロック状に含む 黄色土粒を含む 白色土粒・炭化物を極僅かに含む

図27　Ⅰ期の遺構（６）
Fig.27 Features belonging to phase Ⅰ(6)

の柱穴に礎板石を有する。遺物は出土していないが、1号建物との類似性を踏まえてⅠ期（17世紀初頭）とした。

【8号柱列】（図28） AS-12～14、AT-14区に位置する。確認できた柱穴は3基である。1間の寸法は3尺である。軸角度は29.6度西偏する。検出面は基本層2b層で、上に基本層2a-2層が被る。当初、それぞれの柱穴を遺構として認識していたほど、通常のピットに比べて大きい。柱1では柱痕跡が認められた。柱2では、柱痕跡などは認められなかったが、底面から一段凹んだ場所に柱痕跡等を確認することができた。柱3でも床面にて凹みが認められた。また、柱2の埋土からは、16世紀末葉～17世紀初頭の陶磁器が確認されている。このようなことからⅠ期（16世紀末葉～17世紀初頭）とした。

【10号柱列】（図28） BB-13･14区に位置する。柱穴2基のみで組んだ。これらの軸線上には、類似する形状のピットも存在するが、組み合わない。1間の寸法は6尺で、軸角度は24.6度である。5号柱列の軸角度と近似する。柱痕跡も明瞭に残る。礎板石はない。埋土からは、17世紀後半の陶器が出土しているため、Ⅰ期（17世紀後半）とした。

【2号池状遺構】（図29・30） BG・BH-12・13区に位置する大型の池状遺構である。この遺構は3箇所に区切られる。それぞれ北部、西部、東部と呼称する。底面が一番高いのは東部で、次に西部、最後に北部となる。この北部と西部の間には、狭い排水部が作られている。また、西部と東部の間には区切るような高まりがあり、その上部に盛土によって土手を形成していた。この土手は、東部と西部を区切る土手としては高さが低いことから、遺存していた土手の上部に更に盛土がなされ、東部と西部を区切る機能があったことが推測される。

この土手の上面にて、筵状の敷物（筵状敷物と呼称）が被せられていた状況を検出した（図版30－5）。おそらく、この筵状敷物は土手を整形するための土留の意図があったものと推察される。似たような状況は、東京都汐留遺跡の事例にも見受けられる（土留め堤状遺構：小林ほか2000）。調査の際には、この土手の部分をウレタンで固め、土ごと切り取り、調査室に持ち帰ってから精査と保存処理を施している。また、この筵状敷物より上部は、通常の埋土であったことから、その上部に存在したと考えられる盛土部分はすでに崩れていたものと推測できる。

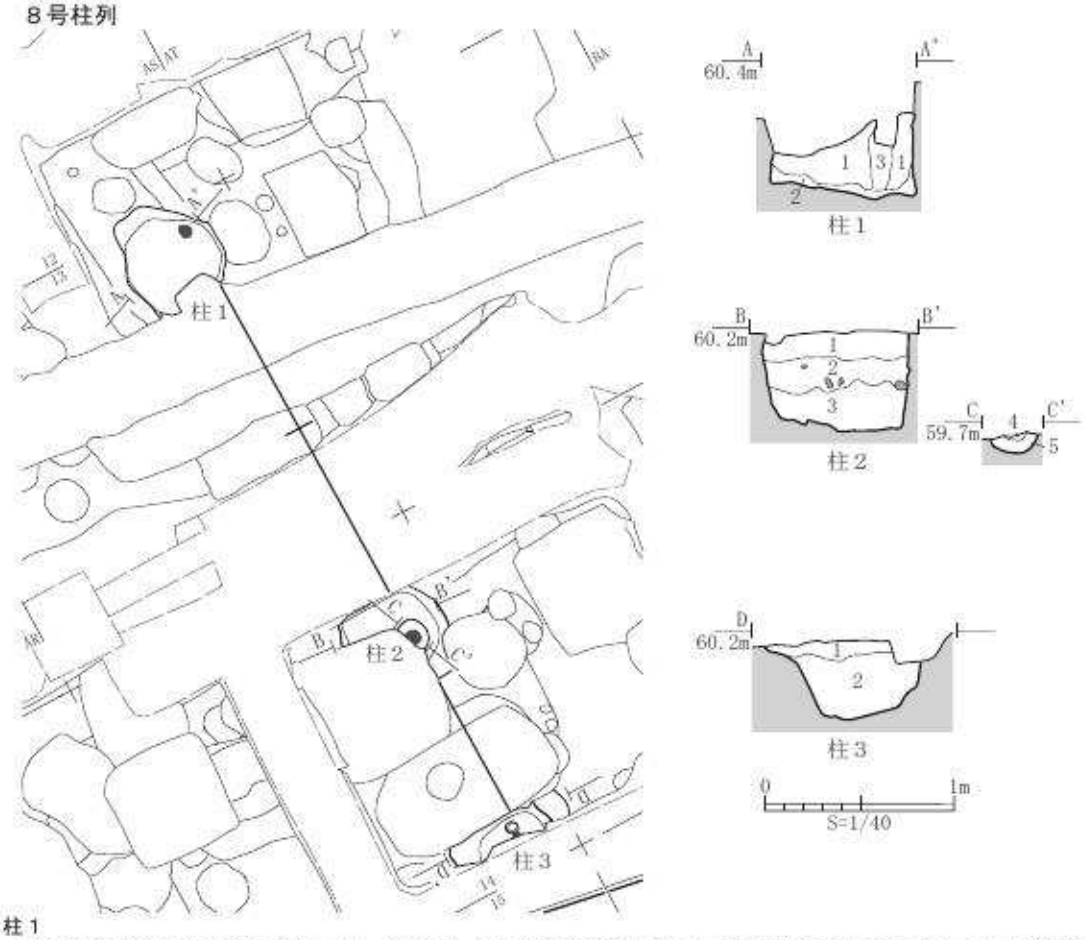
西部と東部を繋ぐ排水部は、撹乱で破壊されており明瞭ではないが、土手が確認できない南端部近辺と考えられる。このような状況からすると、東部から西部へ、そして北部へと水が流れるような構造となっていたものと推察される。

埋土は大きく5枚に分かれるが、その主体は粘土層である。2･3層からは多くの有機質遺物が出土している。2層は有機物も多量に混ざるが、砂もラミナ状に多く混ざる。3・4層は黒色を呈する緻密な粘土層であり、ラミナ状に入る砂層は極少数認められるが、非常に薄い。このような状況からすると、3･4層が堆積する頃には、静かに泥が堆積するような水が停滞していた様相、つまり実際に園庭における池のような景観が想定できる。そして、その後に、砂などが混じるような水の流れが生じていたことが想定できる。なお、5層は地山粘土を含む層であることから、この池が機能し始めた頃の埋土であろう。

最下層の埋土5層から、17世紀の磁器が出土していることから、Ⅰ期（17世紀）には機能していたと考えられる。埋土からは、多くの有機質遺物や自然遺物が確認されている。調査の際には、1層以外の埋土を水洗し微細な遺物も回収している。先述の筵状敷物の検出状況を含めた遺物内容については、来年度刊行する『調査報告』8で詳述したい。

【4号池状遺構】（図30・31） BD・BE-12・13区に位置する大型の池状の遺構である。2号池状遺構とは異なり、その内部を区切るような施設はない。また、その壁高は高く、西側の壁面下部が抉られている。埋土下層から17世紀代の陶器が出土し、明らかな18世紀代の遺物は含まれないことからⅠ期に比定した。南側に位置するⅡa期の3号池状遺構と接続し、Ⅱb期の17号遺構に覆われる。3号池状遺構と接続することから、Ⅱa期の段階まで機能していたものと考えられる。その意味では、当遺構の帰属時期は正確にはⅠ～Ⅱa期ではあるが、出土遺物

８号柱列

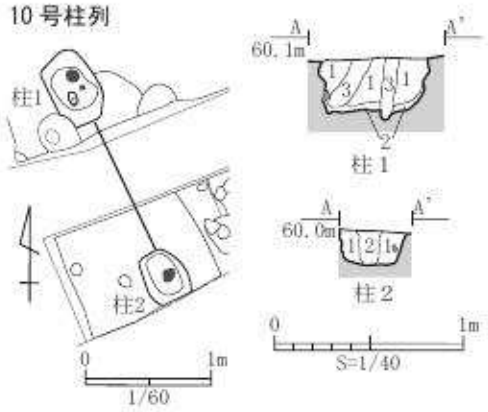


柱１
- **埋土１層** 10YR4/2灰黄色 砂質シルト 粘性弱・しまり強 黄色粘土ブロックを斑状に少し含む 径1cmの円礫を含む
- **埋土２層** 10YR5/6黄褐色 粘土 粘性強・しまり弱　灰色粘土を斑状に少量含む
- **埋土３層** 10YR3/2黒褐色 粘土 粘性強・しまり弱 褐色シルト土を上部に斑状に含む 柱痕跡

柱２
- **埋土１層** 10YR7/2にぶい黄橙色 シルト 粘性なし・しまり強 全体的にマンガンを含む 径2-3mmの白色粘土粒を少量含む 黄色粘土粒を少量含む 径5-10mmの炭化物を中量含む
- **埋土２層** 10YR5/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり強 径5mm前後の白色粘土粒を多量に含む 径0.5-1cm前後の炭化物を多量に含む 径2-4mmの黄色粘土粒を少量含む 全体的にマンガンを含む 径5cm前後の小礫を含む
- **埋土３層** 10YR5/1褐灰色 粘土質シルト 粘性中・しまり強 径5-10cmの黄色粘土ブロックを中量含む 径2mm前後の炭化物、径5mm前後の白色粘土粒、径2-3cmの小礫を少量含む
- **埋土４層** 10YR3/2黒褐色 粘土 粘性強・しまり強 径1-3mmの炭化物を少量含む 中央部に黄色粘土ブロックを斑状に含む
- **埋土５層** 10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり強 径0.5-1cmの炭化物を少量含む 径3-5cmの黄色粘土ブロックをやや多く含む 白色土粒を多く含む

柱３
- **埋土１層** 10YR4/3にぶい黄褐色 粘土 小ブロックを斑状に含む 径5mm程度の炭化物を僅かに含む 白色・黄色土粒を多く含む
- **埋土２層** 10YR4/3にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 明黄褐色粘土小ブロックを僅かに含む 鉄分、白色・黄色土粒を多く含む

10 号柱列



柱１
- **埋土１層** 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱・しまり中 明褐色土を多く含む 白色土粒、パミスを含む
- **埋土２層** 7.5YR5/6明褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 径2-3mmの炭化物、パミスを僅かに含む
- **埋土３層** 10YR3/2黒褐色 粘土 粘性強・しまり中 径1-2mmの炭化物、白色土粒を極僅かに含む 柱痕跡1
- **埋土４層** 10YR4/2灰黄褐色 砂質シルト 粘性ほぼなし・しまり弱 径2-3cmの小礫、白色土粒を極僅かに含む 柱痕跡2

柱２
- **埋土１層** 10YR4/1褐灰色 シルト質粘土 粘性中・しまり強 径5mm以下の炭化物を少量含む 径2cmの白色粘土粒を中量含む　とくに上部に酸化鉄を含む
- **埋土２層** 柱痕跡

図28　Ⅰ期の遺構（７）
Fig. 28 Features belonging to phase I(7)

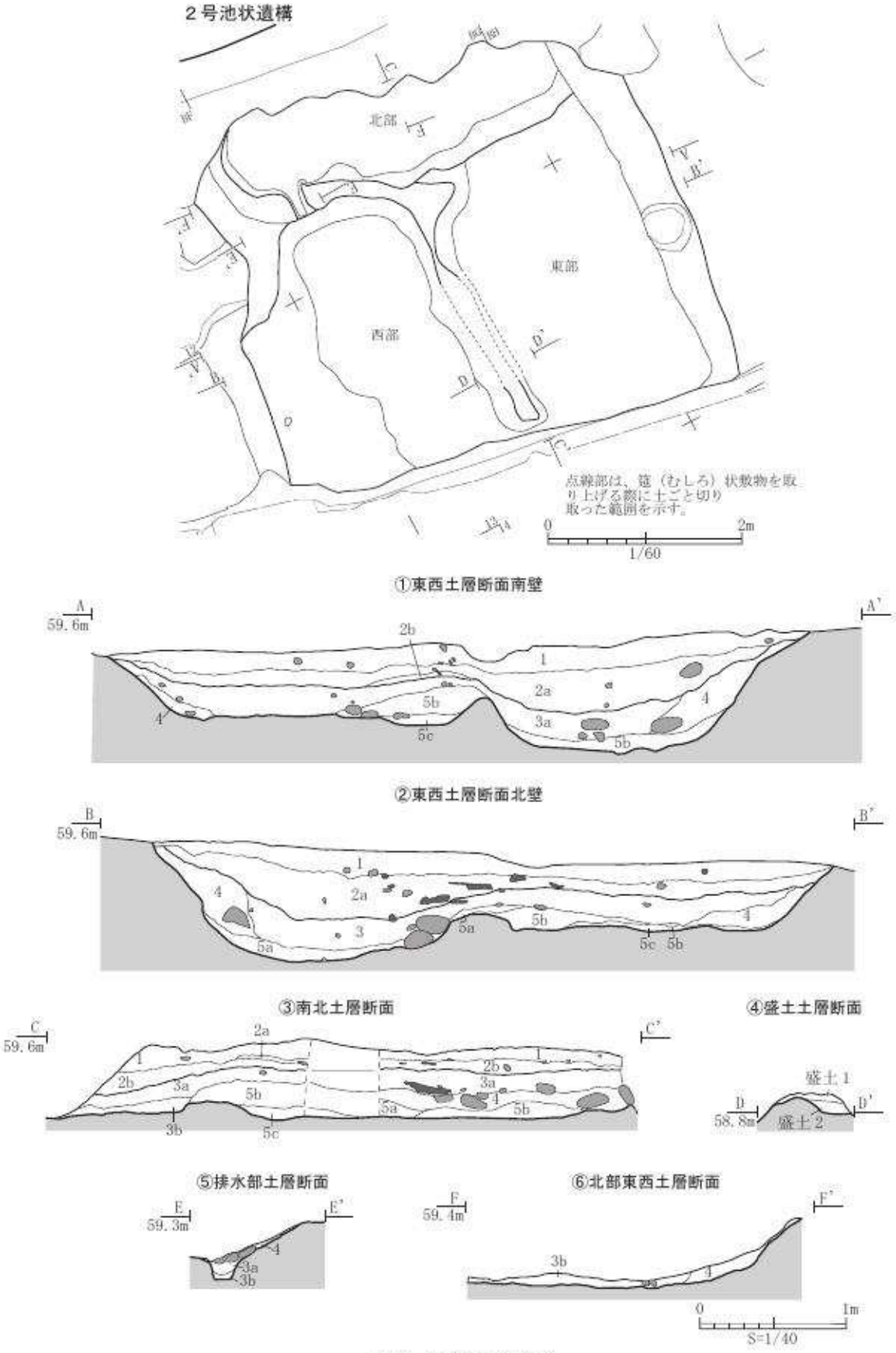


図29　Ⅰ期の遺構（8）
Fig.29 Features belonging to phase I(8)

２号池状遺構

埋土１層 10YR4/2灰黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり強 径0.5-1cmの炭化物をやや多く含む 白色・黄色土粒，鉄分を含む

埋土2a層 10YR3/2黒褐色 粘土 粘性強・しまり強 径0.5-1cmの炭化物を中量含む とくに西側に有機物をラミナ状に多量に含む 径2-3mm程度の白色・黄色粘土粒を中量含む

埋土2b層 10YR3/2黒褐色 粘土 粘性強・しまり強 径5mm程度の炭化物を多く含む 有機質遺物を多量に含む

埋土3a層 2.5Y2/1黒色 粘土 粘性強・しまり強 とくに西側に径10cm前後の礫を少量含む 有機質遺物等、黄色粘土粒を少量含む

埋土3b層 10YR3/2黒褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 にぶい黄橙色粘土小ブロックを含む 鉄分、白色・黄色土粒を多く含む 径2-3mmの炭化物を僅かに含む

埋土４層 2.5Y2/1黒色 粘土 粘性強・しまり中 埋土3a層より黄灰色粘土粒を多量に含む 全体的にマンガンを多く含む

埋土5a層 2.5Y3/1黒褐色 粘土 粘性強・しまり中 オリーブ灰色粘土を斑状に含む

埋土5b層 2.5Y3/1黒褐色 粘土 粘性強・しまり強 5-10cm前後の灰黄褐色粘土ブロックを全体的に多く含む 径2mm前後の白色粘土粒を多量に含む 全体的にマンガンを含む

埋土5c層 7.5Y7/1灰白色 粘土 僅かに黒色土ブロックを含む 径5mm程度の白色粘土粒を少量含む マンガンを全体的に少し含む 僅かな落ち込みの堆積土

盛土１層 10YR5/4にぶい黄褐色 砂質シルト 粘性強・しまり中 黒色シルト質土を層状に含む 黄色砂質シルト土も層状に含む

盛土２層 10Y5/1灰色 粘土 粘性強・しまり中 砂質シルトを斑状に少量含む 地山の黄色粘土がグライ化したもの

４号池状遺構

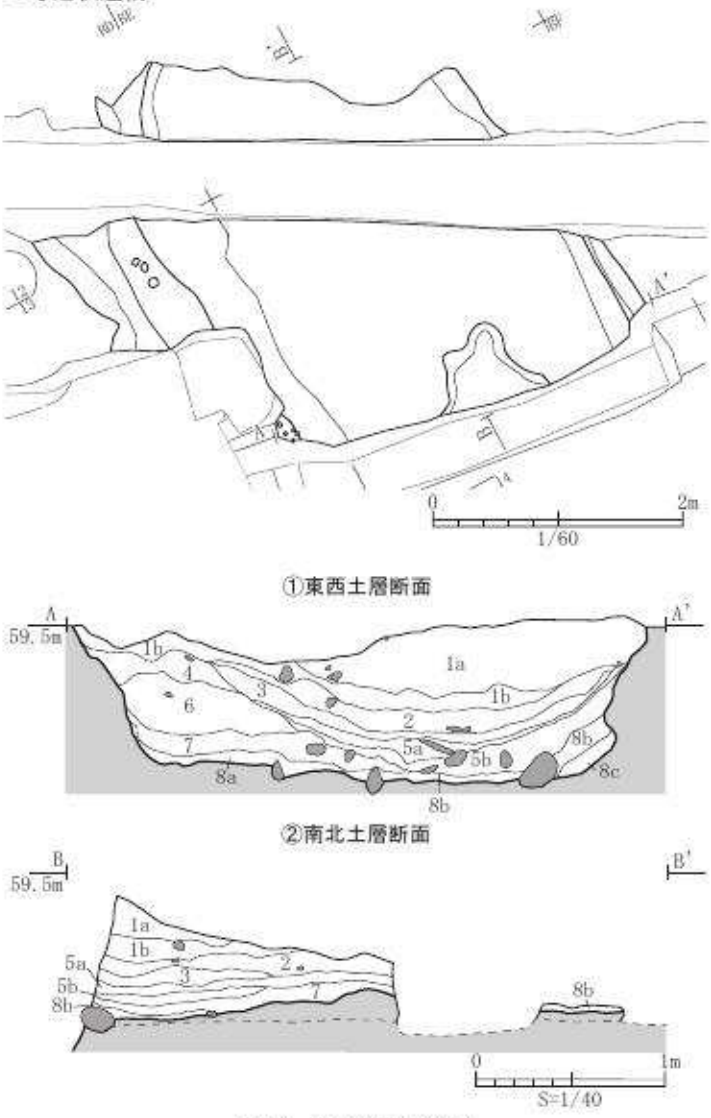


図30　Ⅰ期の遺構（９）

Fig.30 Features belonging to phase I(9)

４号池状遺構

埋土1a層 10YR5/3にぶい黄褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり強 径1-3cm程度の円礫、径5mm程度の炭化物を少量含む 黄色粘土ブロックを斑状にやや多く含む

埋土1b層 10YR4/3にぶい黄褐色 砂質シルト 径3cm程度の礫、径5mmの炭化物を少量含む 白色粘土ブロックを斑状に少量含む 1a層より夾雑物が少ない。

埋土２層 10YR3/3暗褐色 粘土 粘性中・しまり強 木質の遺存体をやや多く含む 白色粘土ブロックを斑状にやや多く含む 黄色砂を少量斑状に含む

埋土３層 10YR3/2黒褐色 粘土 粘性中・しまり中 黄色砂がラミナ状に混ざる 径5mm程度の炭化物を少量含む 東側では木質遺存体を多く含む

埋土４層 10YR3/1黒褐色 シルト 粘性弱・しまり強 白色粘土ブロックを斑状に少量含む 径1-3cm程度の円礫を少量含む 褐色砂を極少量含む 層状は1b層に類似する。

埋土5a層 10YR2/1黒色 粘土 粘性強・しまり弱 上部に木質遺存体を含む

埋土5b層 10YR1.7/1黒色 5aより黒い 粘土 粘性強・しまり弱 径5mm程度の礫を少量含む

埋土６層 10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり強 白色砂質シルト土、木質遺存体をラミナ状に含む 径1-5mm程度の礫、径5mmの炭化物を少量含む

埋土７層 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱・しまり強 木質遺存体を多量にラミナ状に含む 径5mm程度の炭化物を少量含む

埋土8a層 10YR4/1褐灰色 粘土 粘性弱・しまり中 同色の砂をラミナ状に少量含む 下部には地山土（黄色粘土ブロック）を少量含む

埋土8b層 10YR2/1黒色 粘土 粘性中・しまり弱 径5mm程度の炭化物を少量含む

埋土8c層 10YR4/1褐灰色 粘土 粘性中・しまり弱 径5mm程度の炭化物、褐色砂を少量含む

６号遺構

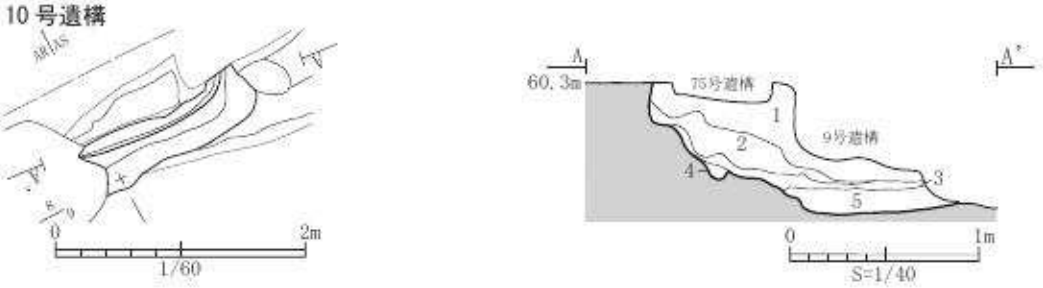
埋土１層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 径0.5-1cmの炭化物、径5cm程度の円礫、黄色土粒を僅かに含む 白色土粒を含む 鉄分を全体に僅かに含む

埋土２層 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中 径2-3mmの炭化物、黄色土粒を僅かに含む 白色土粒を含む 全体に鉄分を多く含む

埋土３層 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中 径2-3mmの炭化物を僅かに含む 白色土粒をやや多く含む 黄色土粒、鉄分を含む

埋土４層 7.5YR3/2 黒褐色 粘土 粘性強 しまり強 白色・黄色土粒をやや多く含む 鉄分を含む

10 号遺構



埋土１層 5Y4/1 灰 粘土質シルト 粘性強 しまり強 明黄褐色粘土ブロックを多く含む 白色・黄色土粒、鉄分を含む 径2-5mm程度の炭化物を僅かに含む 径2-3cm程度の円礫を極僅かに含む

埋土２層 2.5Y4/2 灰オリーブ 粘土 粘性強 しまり強 白色・土粒、粘土小ブロック、径3cm程度の礫を僅かに含む 径0.5-1cm程度の炭化物を含む

埋土３層 炭層 一部に灰オリーブ色粘土を含む

埋土４層 5Y5/3 灰オリーブ 粘土 粘性強 しまり中 白色土粒、オリーブ黒色粘土、鉄分を僅かに含む

埋土５層 5.5Y5/2 灰オリーブ 粘土 粘性強 しまり中 白色・黄色土粒、オリーブ黒色粘土を僅かに含む

図31　Ⅰ期の遺構(10)

Fig.31 Features belonging to phase I(10)

の状況からⅠ期とした。また、床面のレベルは、やや南側の方が高い。次の段階には北側の３号池状遺構と接続し、そちらに向かって排水していることは明らかであるが、１期の４号池状遺構は、南側に排水していた可能性も想定しておきたい。

埋土は、大きく８層に区分できた。最上層の１層は、様々な粘土ブロックを斑状に含む層である。２～７層はシルトあるいは粘土を主体とする層であり、すでに土壌化し茶色粘土となっている木質遺存体を多く含む層もある。８層は、黒色の粘土層であり、砂をラミナ状に含んでいる。

【６号遺構】（図31） AQ・AR-８区に位置する。南北両端を撹乱によって削平されているため、詳細は不明である。遺物は出土していないが、重複関係から６号柱列より古いため、Ⅰ期（17世紀初頭以前）とした。なお、北側が断層のようにずれている。北側にある米軍期の共同溝設置の際に生じたものと考えられる。

【10号遺構】（図31） AR・AS-８・９区に位置する。６号遺構の東側に位置し、６号遺構と同様に南北両端に撹乱を受けている。やや深めの遺構で、その上位に75号遺構、９号遺構が位置する。埋土２層出土磁器からⅠ期（17世紀）に比定した。

【12号遺構】（図32） AT-８区に位置する。東側に位置する13号遺構より古い。三方に撹乱を受けるため、詳細は不明である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋土最下層の６層より17世紀後葉～18世紀中葉と推定される磁器が出土している。13号遺構の時期がⅡb期であることもあり、より古い時期の１期（17世紀後葉?）と時期比定したが、Ⅱa期の可能性もある。

【37号遺構】（図32） BB-13区に位置する。基本層2a-2層下の基本層2b層で確認した。楕円形を呈するようであるが、削平が著しいため判然としない。埋土は１枚のみであり、そこから17世紀の磁器が出土しており、層位と遺物の時期からⅠ期（17世紀）に比定した。

【39号遺構】（図32） BB-12区に位置する楕円形の遺構である。基本層2a-2層の下の基本層2b層で確認した。やや深い遺構で、埋土は３層に区分できた。それらの埋土は、基本層2b層に類似する層で、大型の礫や粘土ブロックが斑状に混ざる。底面にて板状の敷物を確認した（図版35－６）。非常に脆いため取り上げることはできなかったが、その範囲のみ図32に記載した。層序や埋土３層出土の陶磁器等から、Ⅰ期（17世紀以前）の遺構とした。

【40号遺構】（図33） BE・BF-12・13区に位置する、やや大型の長方形の遺構である。重複関係から２号池状遺構より古い。埋土は３枚確認でき、その埋土２層から16世紀末の陶器が出土している。これらのことからⅠ期でも最古段階の16世紀末葉の遺構と判断した。底面は平たく、１・２層に砂を斑状に含んでいることから、池状遺構との関係も想定されるが、不明である。

【42号遺構】（図33） AT-12区に位置する、楕円形の遺構である。底面付近でピット250に属する大型の礫を確認している。重複関係では６号建物より古い。埋土は１層のみで、そこから17世紀の陶器が出土している。重複関係や遺物の時期から、Ⅰ期（17世紀初頭）に時期比定した。

【57号遺構】（図33） AS・AT-12・13区に位置する不整形な遺構であり、埋土も薄い。埋土からは17世紀初頭の陶器が出土している。この遺物の存在や、42号遺構や６号建物より古いことから、Ⅰ期（17世紀初頭）に時期比定した。形状や状態からすると何らかの遺構の残滓であろう。

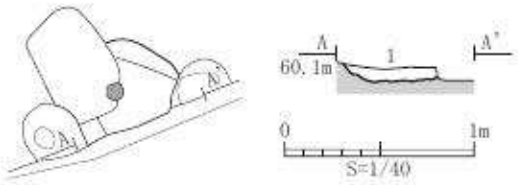
【61号遺構】（図33） AP･AQ-14区に位置する長方形の遺構である。形状からすると溝の可能性もあるが、撹乱・重複が著しく不明である。埋土は３枚あり、その１・２層は黄色パミスを含み、基本層3a層に類似する。ピット217・258より古く、そのピット217は17世紀前葉の遺構と考えられるピット205より古いことから、本遺構もⅠ期（17世紀前葉以前）に時期比定した。

【64号遺構】（図34） 調査区南端のBB-15・16区、基本層2a-2層下の基本層2b層上面で確認した。深さはなく、薄い遺構で壁は緩やかに立ち上がる。検出範囲以外は、調査区外の南・東側に広がる。周辺のピット284、63号遺構より古い。埋土１層出土磁器から、１期（17世紀後半）に時期比定した。

12号遺構

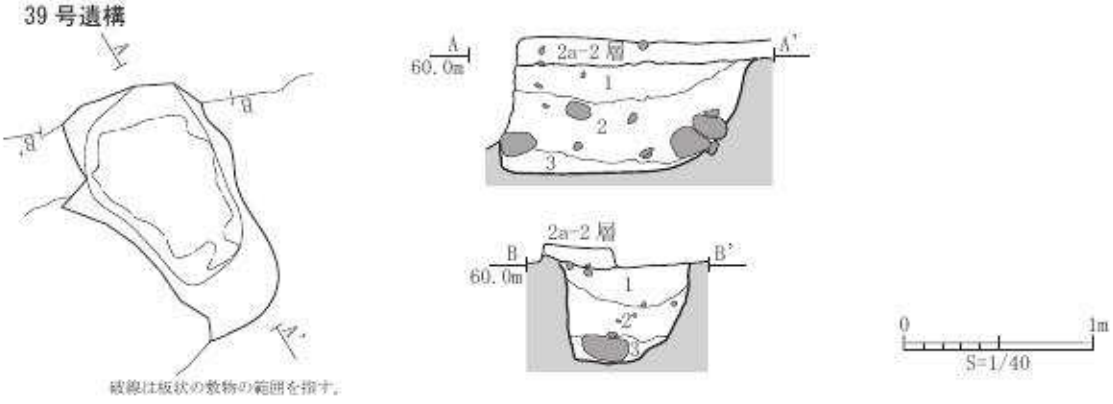
埋土１層 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 径0.5-1㎝程度の炭化物をやや多く含む 白色・黄色土粒、径1-3㎝程度の礫を含む 明黄褐色土ブロックを僅かに含む
埋土２層 10YR2/1 黒 シルト 粘性中 しまり中 径1㎝程度の炭化物を多く含む 径1-3㎝程度の礫を含む 赤色土粒を僅かに含む
埋土３層 10YR3/3 暗褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱 にぶい黄橙土粘土小ブロック、径0.5-1㎝程度の炭化物を僅かに含む 白色土粒を含む
埋土４層 10YR3/2 黒褐色 粘土 粘性強 しまり弱 径0.5-1㎝程度の炭化物、白色土粒、にぶい黄橙粘土小ブロック、径1-3㎝程度の礫を僅かに含む 有機質の遺物を含む
埋土５層 2.5Y3/1 黒褐色 粘土 粘性強 しまり中 白色土粒、灰オリーブ色粘土小ブロックを僅かに含む
埋土６層 2.5Y2/1 黒 粘土 粘性強 しまり中 埋土下部に灰オリーブ色粘土をラミナ状に含む 白色土粒を極僅かに含む

37号遺構



埋土１層 10YR3/3暗褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり中 径1㎝程度の炭化物を非常に多く含む 明黄褐色土小ブロックを斑状に含む

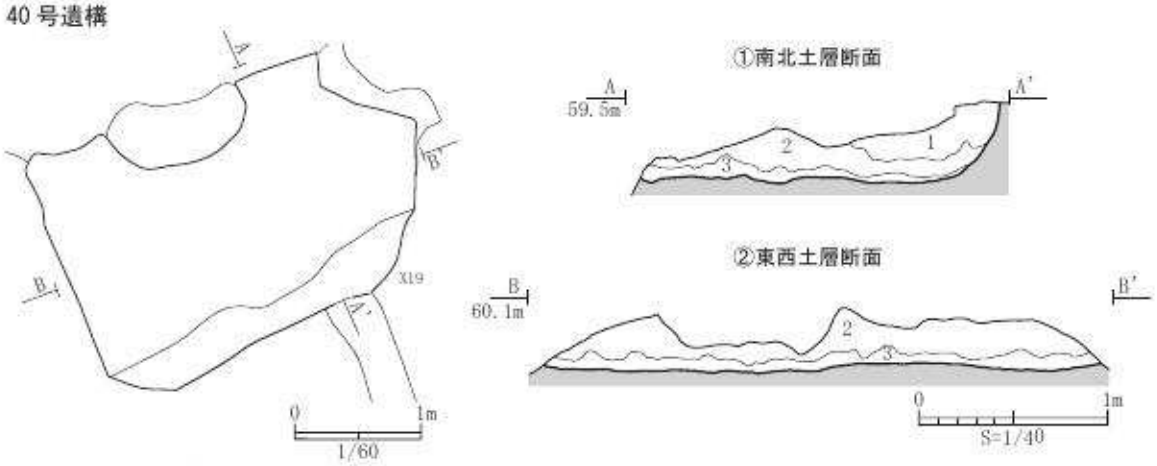
39号遺構



埋土１層 10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり強 黒褐色土を極僅かに含む パミスをやや多く含む 黄褐色土を斑状に含む
埋土２層 10YR4/3にぶい黄褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり中 白色・黄色土粒を多く含む 径2-3㎝の礫、黄褐色土小ブロックを僅かに含む 径5㎜程度の炭化物を極僅かに含む
埋土３層 10YR3/2黒褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり中 黄褐色土小ブロック、径5㎜程度の炭化物を極僅かに含む

図32　Ⅰ期の遺構(11)
Fig.32 Features belonging to phase Ⅰ(11)

40 号遺構

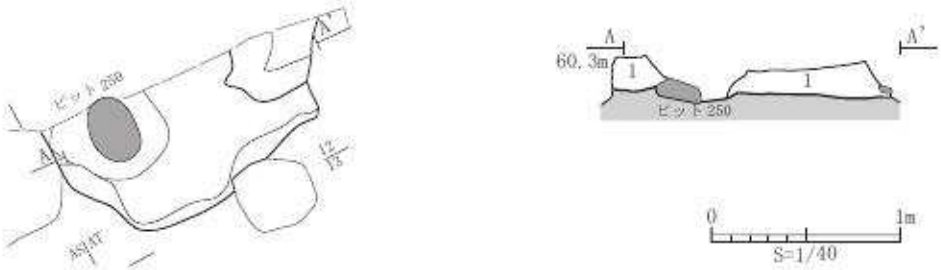


埋土１層 10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性弱・しまり強 褐色砂を斑状に含む 径1-5cmの円礫を少量含む 径5mm程度の白色土粒をやや多く含む

埋土２層 10YR4/3にぶい黄褐色 粘土 粘性強・しまり強 南側壁際には径1-5cmの黄色粘土を斑状に含む 中央部西側上部のみに埋土1層に含まれる褐色砂を斑状に含む

埋土３層 10YR5/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 埋土2層の灰色土を斑状に含む

42 号遺構

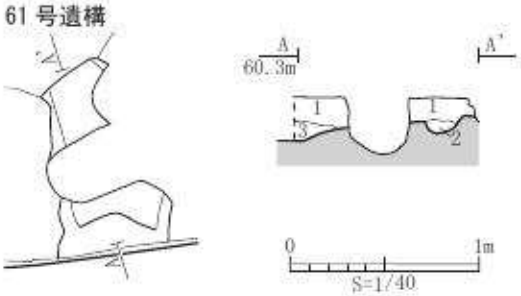


埋土１層 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性弱・しまり強 径 1-3 mm程度の炭化物を多量に含む 白色土粒を少し含む

57 号遺構

埋土１層 褐灰色 砂質シルト 粘性弱・しまり強 径 1-3 cmの炭化物、土師質土器の小破片をやや多く含む 径 0.5-1 cmの円礫を少量含む

61 号遺構



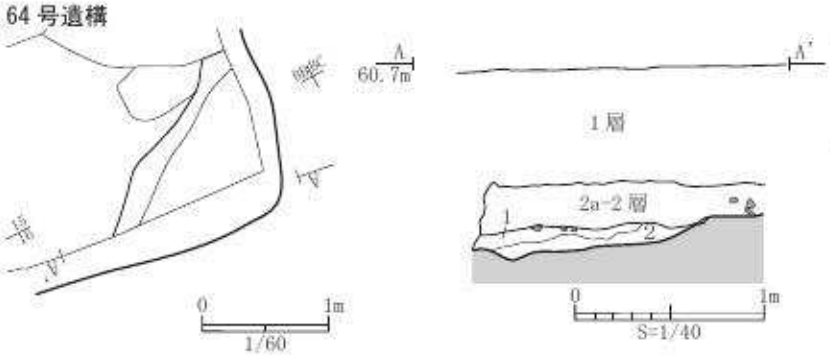
埋土１層 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり強 径 1-5 cmの礫をやや多く含む 基本層の 3a 層に類似し南部において同色粘土を多く含む

埋土２層 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中・しまり中 黄色パミスをやや多く含む 3b 層に類似する層

埋土３層 10YR5/4 にぶい黄褐色 粘土 粘性強・しまり中 黄褐色砂、径 1-2 mm程度の炭化物を少量含む

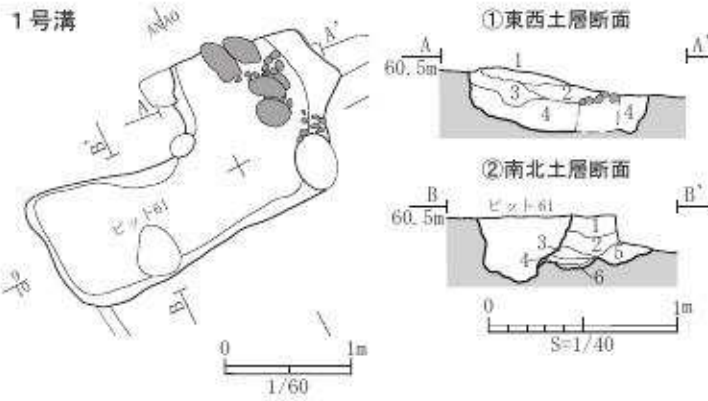
図33　Ⅰ期の遺構(12)
Fig.33 Features belonging to phase Ⅰ(12)

64号遺構



埋土１層 10YR4/3にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 白色・黄色土粒、炭化物を含む 礫を僅かに含む
埋土２層 10YR5/6黄褐色 粘土 粘性強・しまり強 灰黄褐色土を含む 白色・黄色土粒を僅かに含む

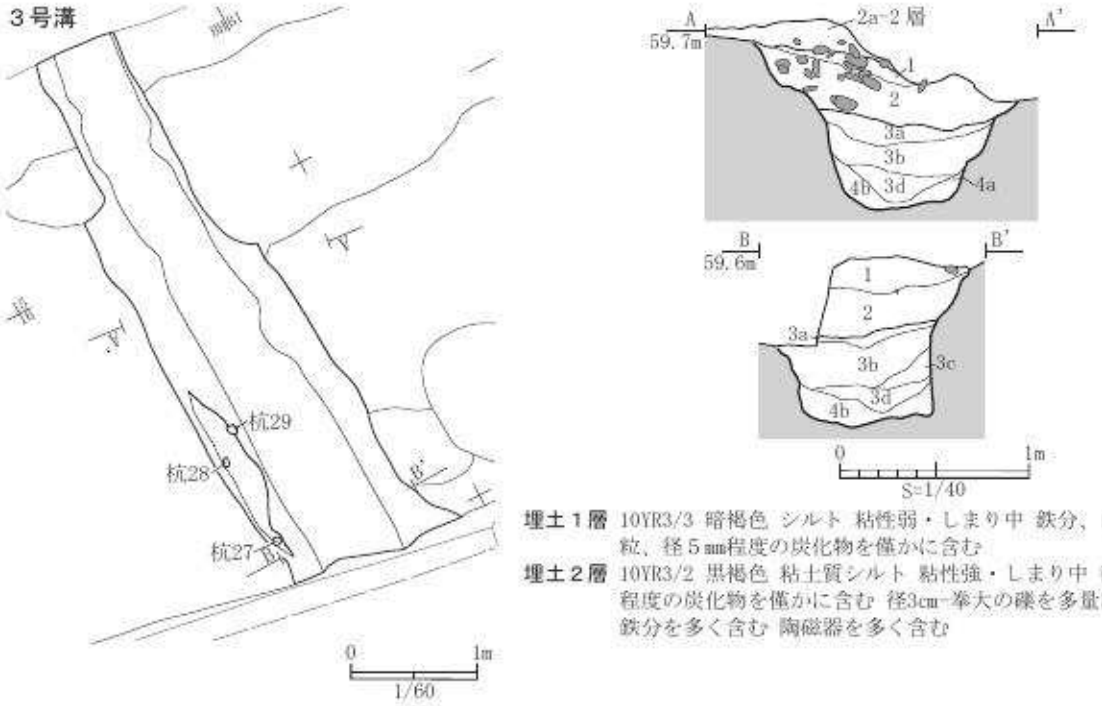
１号溝



①東西土層断面
埋土１層 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 炭化物、白色土粒を含む やや大きめの黄色土粒を含む
埋土２層 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性強・しまり中 鉄分、マンガン、白色土粒を含む
埋土３層 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性強・しまり中 砂をラミナ状に含む 鉄分、マンガン、白色・黄色土粒を含む
埋土４層 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 鉄分を僅かに含む 黄色・白色土粒を含む

②南北土層断面
埋土１層 10YR4/2灰黄褐色 粘土 粘性強・しまり中 砂をラミナ状に含む 白色土粒を含む 炭化物を極僅かに含む 黄色土粒を僅かに含む
埋土２層 10YR4/2灰黄褐色 粘土 粘性強・しまり中 鉄分を多く含む 白色土粒を極僅かに含む
埋土３層 10YR4/3にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 白色土粒 鉄分を含む
埋土４層 10YR4/3にぶい黄褐色 粘土 粘性強・しまり中
埋土５層 10YR3/3暗褐色 粘土 粘性中・しまり中 白色・黄色土粒、鉄分を含む 黄褐色土ブロックを斑に含む
埋土６層 10YR5/4 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 白色土粒を極僅かに含む

３号溝

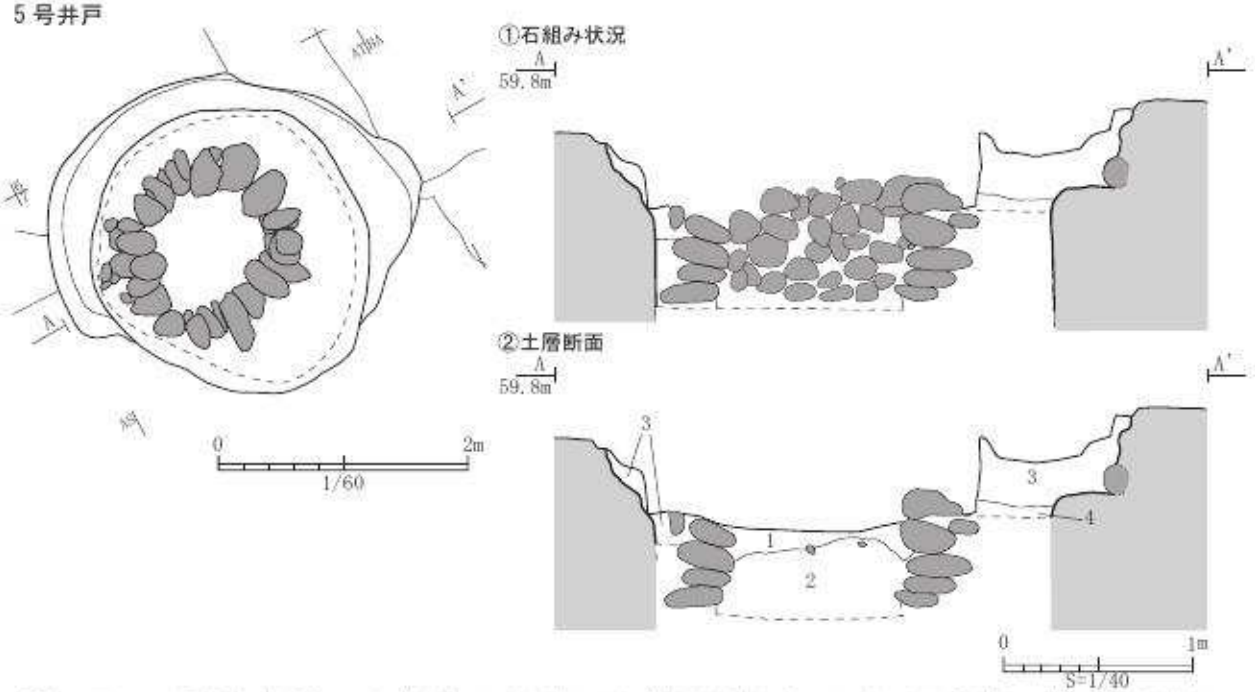


埋土１層 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱・しまり中 鉄分、白色土粒、径５㎜程度の炭化物を僅かに含む
埋土２層 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 径1cm程度の炭化物を僅かに含む 径3cm-拳大の礫を多量に含む 鉄分を多く含む 陶磁器を多く含む

埋土3a層 10YR3/3 暗褐色 粘土 粘性強・しまり強 径1-2㎜の炭化物、灰黄褐色粘土小ブロックを僅かに含む
埋土3b層 10YR3/2 黒褐色 粘土 粘性強・しまり強 白色土粒、鉄分を僅かに含む
埋土3c層 10YR3/2 黒褐色 粘土 粘性強・しまり強 灰黄褐色粘土小ブロックを僅かに含む
埋土3d層 10YR3/2 黒褐色 粘土 粘性極めて強・しまり強 鉄分を僅かに含む
埋土4a層 10YR7/4 にぶい黄橙色 粘土 粘性強・しまり中 壁の崩落土
埋土4b層 10YR3/2 黒褐色 粘土 粘性強・しまり中 僅かに砂をラミナ状に含む 鉄分、明黄褐色粘土小ブロックを僅かに含む

図34　Ⅰ期の遺構(13)
Fig.34 Features belonging to phase 1(13)

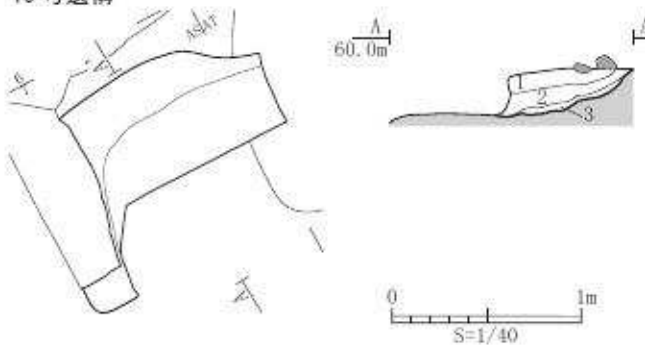
5号井戸



埋土１層 10Y3/2黒褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 にぶい黄橙土粘土小ブロックをかなり多く含む 白色土粒、鉄分を含む 径0.5-1cm程度の炭化物を含む
埋土２層 2.5Y3/1黒褐色 粘土 粘性強・しまり中 径1cm程度の炭化物、鉄分を僅かに含む 黄色・白色土粒を極僅かに含む
埋土３層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり強 オリーブ灰色粘土ブロックを含む 白色・黄色土粒、マンガンを含む
埋土４層 5Y3/2オリーブ黒 粘土 粘性強・しまり中 径1cm程度の炭化物を含む 白色・黄色土粒を含む オリーブ灰色粘土小ブロックを極僅かに含む

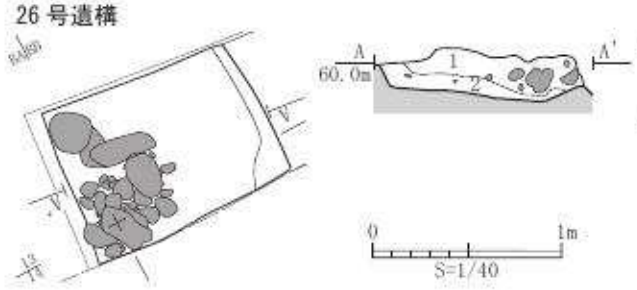
図35　Ⅰ期の遺構(14)
Fig.35 Features belonging to phase Ⅰ(14)

15号遺構



埋土１層 10YR3/2 黒褐色 粘土 粘性強・しまり中 径3-5mm程度の炭化物を含む 握り拳大の礫を含む 白色・黄色土粒を極僅かに含む
埋土２層 2.5Y3/1黒褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 オリーブ灰色粘土小ブロックを僅かに含む 白色土粒、木質等の有機質遺物を極僅かに含む
埋土３層 10Y5/2オリーブ灰色 粘土 粘性強・しまり中 オリーブ黒色粘土小ブロックを僅かに含む

26号遺構



埋土１層 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中・しまり強 北側に径5-20cm程度の円礫を多く含む その周囲はやや粘土質となる 褐色砂を斑状に含む
埋土２層 10YR3/4暗褐色 シルト質粘土 粘性中・しまり中 径5mm程度の炭化物を少量含む 径1-2mmの白色土粒を多く含む

図36　Ⅰ～Ⅱb期の遺構(1)
Fig.36 Features belonging to phase Ⅰ-Ⅱb(1)

【１号溝】（図34） AN・AO-９・10区に位置する。検出した位置は、ちょうど角の部分に当たる。南北軸は24.4度西偏する。最大幅は南北方向の溝で1.32mである。最大長は東西方向で2.4mである。北と南に更に伸びる可能性もあるが、削平を受けており判然としない。埋土は東西と南北で異なっていたが、どちらも粘土質の層であり、１・２層は類似する。南北土層断面では埋土１層に黄色の砂がラミナ状に混入する。遺物は出土していないが、４号建物（Ⅰ期）より古いことから、Ⅰ期（17世紀前葉～末葉以前）に時期比定した。

【３号溝】（図34） BH-12・13区に位置する深さのある底面の平らな溝である。基本層2a-2層下の2b層上面で確認した。南北軸は27.6度西偏する。最大幅は1.32mで、最大長は4.7mとなる。埋土は、大きく１～４層に分かれる。１・２層はシルト質の土壌で、礫や遺物を多量に含み、黄色粘土ブロックなども斑状に含む。３層以下は粘土層である。特に3b層以下は緻密で混入物の少ない粘土層である。最下層の4b層は、砂をラミナ状に含む。このような埋土の状況のほか、３層上面で東壁に段がつくことから、埋土３層上面堆積時点で溝を拡幅した可能性も考えられる。埋土３層からは、17世紀中葉～後葉の磁器が出土している。検出層位や出土遺物から、Ⅰ期の遺構とした。

【５号井戸】（図35） AT-６・７区に位置する石組みの井戸である。掘り方は長軸３m、短軸2.5mの楕円形を呈し、東側掘り方に段がある。井戸本体部は、川原石の長軸を井戸中心に向かって求心状に向けて組んで構築する。安全上の都合から、全て掘り上げていないが、内部、掘り方の埋土をそれぞれ２枚ずつ確認した。その掘り方埋土から出土した陶磁器から、Ⅰ期（17世紀初頭～後葉）と時期比定をした。なお、内部の埋土からは、18世紀代の遺物も出土していることから、その時期まで使用されていた可能性もある。

（２）Ⅰ～Ⅱb期の遺構

【15号遺構】（図36） AS・AT-７区に位置する長方形の遺構である。その殆どは撹乱を受けており、部分的にしか残存しておらず、遺構の詳細は不明である。確認できた埋土は３枚である。この埋土からは17世紀後葉～18世紀の陶磁器が出土している。また、５号井戸より新しいことから、Ⅰ～Ⅱb期の遺構として想定した。

【26号遺構】（図36） BB-13・14区に位置し、三方を撹乱によって破壊されている。埋土は２層に分かれ、うち上層には、大きめの円礫を含む。埋土下層から出土した陶器の年代と、10号柱列より新しいことから、Ⅰ～Ⅱb期（17世紀末葉～18世紀）と時期比定した。

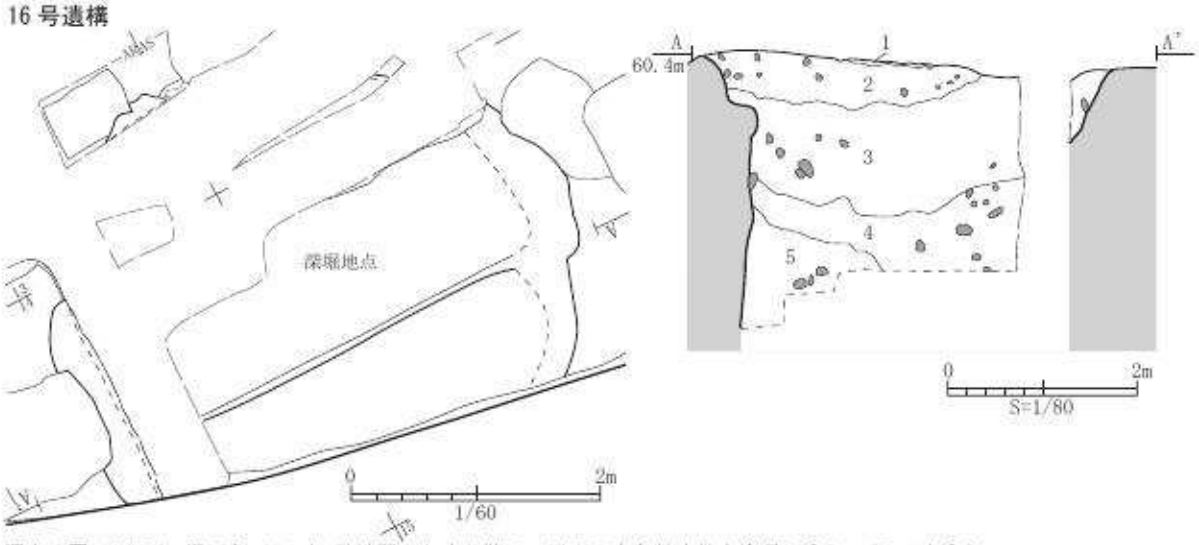
【16号遺構】（図37） AQ・AR-13・14区に位置し、径4.3m程の円形を呈する大型の遺構である。その上部は、米軍期に撹乱を受けている。最深部で３mほど掘り下げたが、底面は確認できなかった。それ以下の掘削に関しては、安全性を考慮して止めた。壁は垂直に立ち上がる。埋土は５枚確認されている。それらの全ての埋土は、円礫を少量含み、大きめの粘土ブロックを斑状に多量に含む。このような層の堆積状況からは、人為的に埋め戻された様相が見受けられる。このような形状と状況から、本遺構は井戸であり、内部の桶等の構造材を何らかの理由で撤去した可能性もある。底面までは確認していないが、埋土４層出土陶器が18世紀後葉の時期のものであったことから、本遺構の時期をⅠ～Ⅱb期（18世紀後葉以前）と推定した。

【35号遺構】（図37） BB-13区に位置する円形の遺構で、壁は垂直に近く急に立ち上がる。埋土は３層に分かれ、１・２層はシルト、３層は粘土質の土質となる。このうち埋土１層出土陶器の年代から、Ⅰ～Ⅱb期（18世紀後半以前）に時期比定した。

【46号遺構】（図37） AR-14区に位置する大きめの遺構である。そのほとんどが別の遺構や撹乱によって破壊されている。壁は緩やかに立ち上がり、溝のような断面形となる。このうち最下層の３層は、灰の可能性もある灰色土で、黒色土がラミナ状に混ざる。このような状況からすると、溝の一部であった可能性もある。遺物は出土していないが、16号遺構より古い遺構であることから、Ⅰ～Ⅱb期（18世紀後葉以前）に時期比定した。

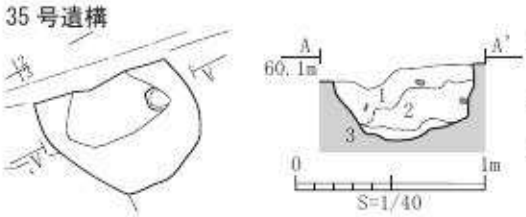
【47号遺構】（図37） AR-14区に位置し、浅くくぼんだ楕円形の遺構である。埋土は１層のみであり、炭化物や

16 号遺構



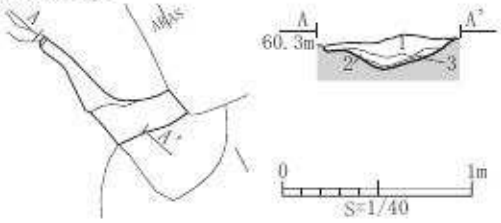
埋土１層 10YR5/1 褐灰色 シルト 粘性弱・しまり強 2mm以下の白色粘土粒を多量に含む パミスを含む
埋土２層 10YR7/1 灰白色 シルト 粘性弱・しまり強 鉄分を全体的に多く含む 2-5mm前後の白色粘土粒，パミスを多量に含む 径10cm以下の礫を所々に含む
埋土３層 10Y6/1灰色 シルト 粘性弱・しまり強 埋土2層との境に鉄分が多い 2mm前後の白色粘土粒、パミスを少量含む 径10-15cm前後の礫、黒色土を所々に含む
埋土４層 層状は、埋土３層と同様であるが黒色土の割合が多い
埋土５層 10GY7/1 明緑灰色 シルト 粘性中・しまり強 埋土３・４層より若干明るい 径1-2cmの白色土粒、パミスを少量含む 黒色土をあまり含まない

35 号遺構



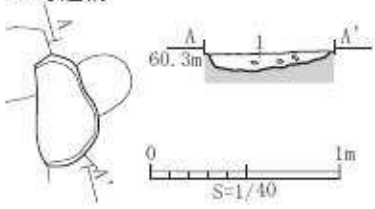
埋土１層 10YR4/4褐色 シルト 粘性弱・しまり中 径5mm程度の炭化物、パミス、径2-5cmの礫を僅かに含む
埋土２層 10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性中・しまり中 明黄褐色土を多く含む 白色土粒、パミスを僅かに含む
埋土３層 10YR6/4にぶい黄橙色 粘土 粘性強・しまり中 灰黄褐色粘土、パミスを含む

46 号遺構



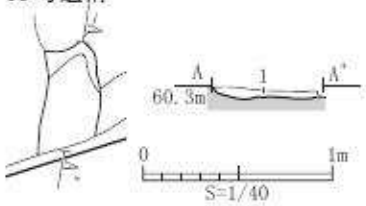
埋土１層 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱・しまり強 径1-5cmの黄色粘土ブロックを斑状に含む 黄色パミスを少量含む 白色・黄色土粒を多く含む
埋土２層 10YR3/2 黒褐色 粘土 粘性弱・しまり強 径0.5-1cmの炭化物を少量含む、黄色粘土ブロックを斑状に少量含む
埋土３層 10YR5/2 灰黄褐色 粘土 粘性弱・しまり強 黒色粘土を層状、ラミナ状に含む 灰の可能性がある

47 号遺構



埋土１層 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱・しまり強 径1-3cmの礫，白色・黄色土粒をやや多く含む　径1-5mmの炭化物を多く含む

58 号遺構



埋土１層 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性中・しまり強　径0.5-1cmの炭化物を少量含む 径5mm程度の黒色粘土を斑状に多く含む

図37　Ⅰ～Ⅱb期の遺構（2）
Fig.37 Features belonging to phase Ⅰ-Ⅱb(2)

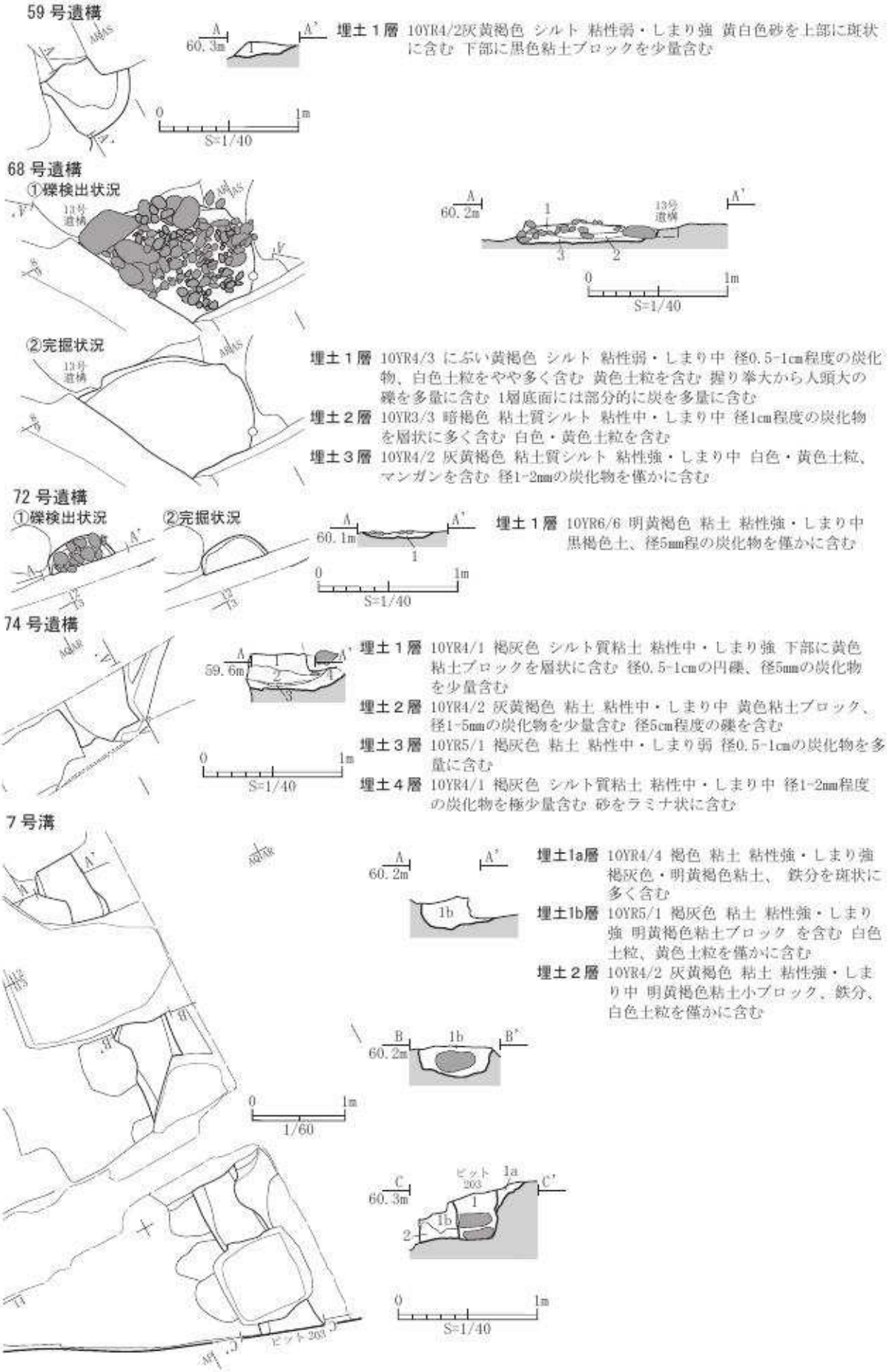


図38　Ⅰ～Ⅱb期の遺構(3)

Fig.38 Features belonging to phase Ⅰ-Ⅱb(3)

小礫等を多く含む。遺物は出土していないが、この遺構も16号遺構より古いことから、Ⅰ～Ⅱb期（18世紀後葉以前）に時期比定した。

【58号遺構】（図37） AR-14区に位置する浅い小型の遺構である。南端部は調査区外へと伸びる。その殆どが撹乱を受けているため、詳細は不明である。埋土は１層のみであり、基本層2a-2層に類似する土質である。遺物は出土していないが、16・47号遺構より古いことから、Ⅰ～Ⅱb期（18世紀後葉以前）に時期比定した。

【59号遺構】（図38） AR-14区に位置する遺構であるが、撹乱等が著しく詳細は不明である。埋土は１層のみある。遺物は出土していないが、46号遺構より古いことから、Ⅰ～Ⅱb期（18世紀後葉以前）に時期比定した。

【68号遺構】（図38） AT-８・９区に位置し、浅い皿状の遺構である。検出時より多数の礫が密集して検出された。この礫は、大きなものから各サイズの礫が揃い、焼けた痕跡などは認められない。礫は多数確認できたが、人工遺物は全く出土しなかった。隣接するⅡb期（18世紀後半）の13号遺構より古いことから、Ⅰ～Ⅱb期（18世紀後半以前）に時期比定をした。

【72号遺構】（図38） BC-12区に位置する浅い小型の遺構である。当初は礫が固まって検出されたため、集石遺構と命名した。掘り方は、これらの礫のサイズに合わせて掘られているようである。遺物は出土していないことから、機能や時期は全く不明である。ただし、基本層2a-2層下、基本層2b層上部で検出したことから、Ⅰ～Ⅱb期（19世紀初頭以前）に時期比定した。

【74号遺構】（図38） AQ・AR-13区に位置する遺構である。16号遺構より古い。その大部分は、米軍期のコンクリート下に広がっているため確認できなかった。埋土は、４層に分かれる。このうち３層は炭が主体となる層で、４層はシルト質の粘土層であった。この４層には砂がラミナ状に含まれており、池や溝等の遺構の一部である可能性もある。遺物は全く出土しておらず、重複関係からⅠ～Ⅱb期（18世紀後葉以前）に時期比定した。

【７号溝】（図38） AR-12～14区に位置する南北方向の溝である。その最大幅は1.18mである。壁はやや直立気味に立ち上がる。また、溝ではあるが、埋土に砂をラミナ状に含む等の特徴は認められず、どの埋土にも黄色粘土ブロックを多く含んでいることから、人為的に埋められた可能性が考えられる。遺物は全く出土していない。この溝も16号遺構より古いことから、Ⅰ～Ⅱb期（17世紀前葉～18世紀後葉）に時期比定した。

（３）Ⅰ～Ⅲ期の遺構

遺構の埋土の状況や重複関係から、近世あるいは近代初頭に属するが、遺物の出土等の積極的な根拠がない遺構を、この時期に含めた。

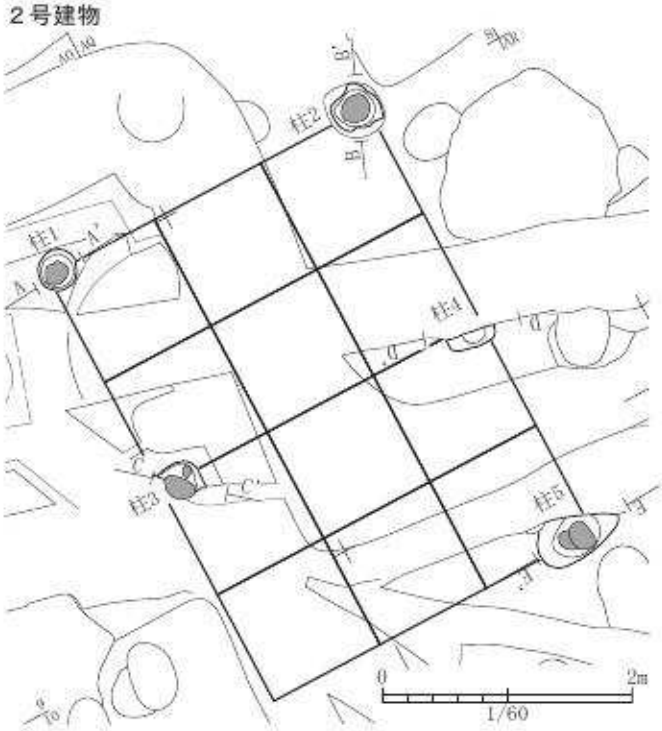
【２号建物】（図39） AO-８・９、AP-８～10区に位置し、２×1.5間（半間を0.5と表記する。以下同様）の小型の建物である。一間の寸法は６尺３寸で、軸角度は26.6度西偏する。柱４以外の柱穴には礎板石を伴う。柱の掘り方は大きくはなく、礎板石とおおむね同等のサイズである。遺物は出土していない。柱間寸法から、近世の遺構と考え、Ⅰ～Ⅲ期（17世紀以後）に時期を比定した。

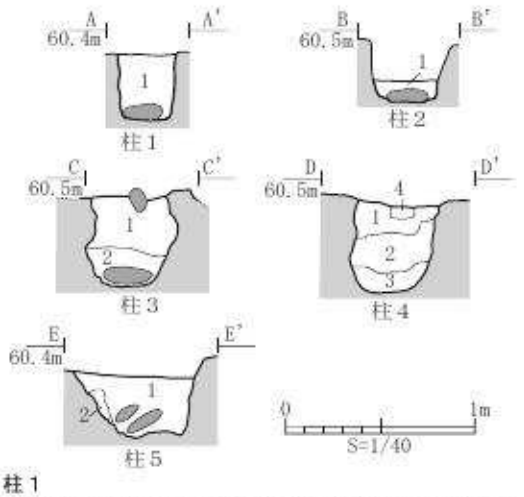
【５号建物】（図39） AP-12、AQ-12・13区に位置する、１間四方の小型の建物である。一間の寸法は６尺３寸であり、軸角度は23.9度西偏する。柱２・３の埋土１層からは、古銭（古寛永）や18世紀代の陶器が出土している。また、７号溝よりは新しい。これらの特徴から、18世紀代の遺構の可能性もあるが、根拠に乏しいことから、Ⅰ～Ⅲ期（17世紀前葉以降）に時期を比定した。

【７号建物】（図40） AO～AQ-７・８区に位置する、２×３間の建物である。一間の寸法は６尺で、軸角度は27.7度西偏する。柱２より古いピット38の埋土最上層から、17～18世紀の陶器が出土していることから、Ⅰ～Ⅲ期（17世紀～18世紀以後）の遺構とした。柱間寸法などからすると、より新しい時期の遺構である可能性もある。

【４号柱列】（図41） 調査区北端のAN～AP-６区に位置する、６間の柱列である。柱間寸法は４尺で、軸角度は115.9（25.9）度西偏する。出土遺物は、柱５・６から陶器等の少破片が出土しているのみである。より新し

２号建物





柱１

埋土１層 10YR4/2灰黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 明黄褐色粘土小ブロックを全体に含む 鉄分を多く含む 白色・黄色土粒を含む

柱２

埋土１層 2.5Y3/2黒褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 白色・黄色土粒を含む 灰褐色土小ブロックを僅かに含む

柱３

埋土１層 10YR4/4褐色 シルト 粘性中・しまり中 黄褐色・白色土粒を多く含む

埋土２層 10YR4/4褐色 粘土 粘性中・しまり強 黄褐色土粒を僅かに含む

柱４

埋土１層 10YR5/4にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 黒褐色土ブロックを斑に含む 白色・黄褐色土粒を全体に含む 炭化物を極僅かに含む

埋土２層 10YR3/2黒褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 灰褐色土ブロックを全体に斑に含む 白色・黄褐色土粒を含む

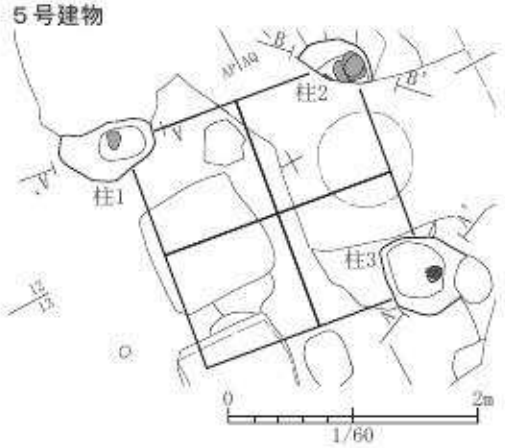
埋土３層 10YR5/6黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 黄色・白色土粒を極僅かに含む

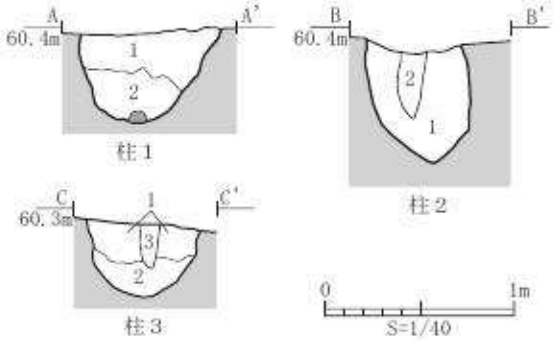
柱５

埋土１層 10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 黄褐色土粘土ブロックを斑に多く含む 褐灰色粘土ブロックを含む 白色・黄色土粒をやや多く含む 鉄分を多く含む

埋土２層 10YR4/4褐色 粘土 粘性強・しまり強 白色・黄色土粒を含む 褐灰色土小ブロックを僅かに含む 鉄分を含む

５号建物





柱１

埋土１層 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中・しまり強 明黄褐色土小ブロック、白色土粒、鉄分を多く含む 径5mm程度の炭化物を含む

埋土２層 10YR4/2灰黄褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 鉄分を含む 白色土粒を僅かに含む

柱２

埋土１層 10YR4/1褐灰色 粘土 粘性中・しまり強 黄褐色・褐灰色・黄橙色粘土ブロックを斑状に含む パミス、径1cmの炭化物を含む 鉄分、マンガンを多く含む

埋土２層 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱・しまり強 パミス、黄褐色粘土小ブロック、径1cmの炭化物を僅かに含む

柱３

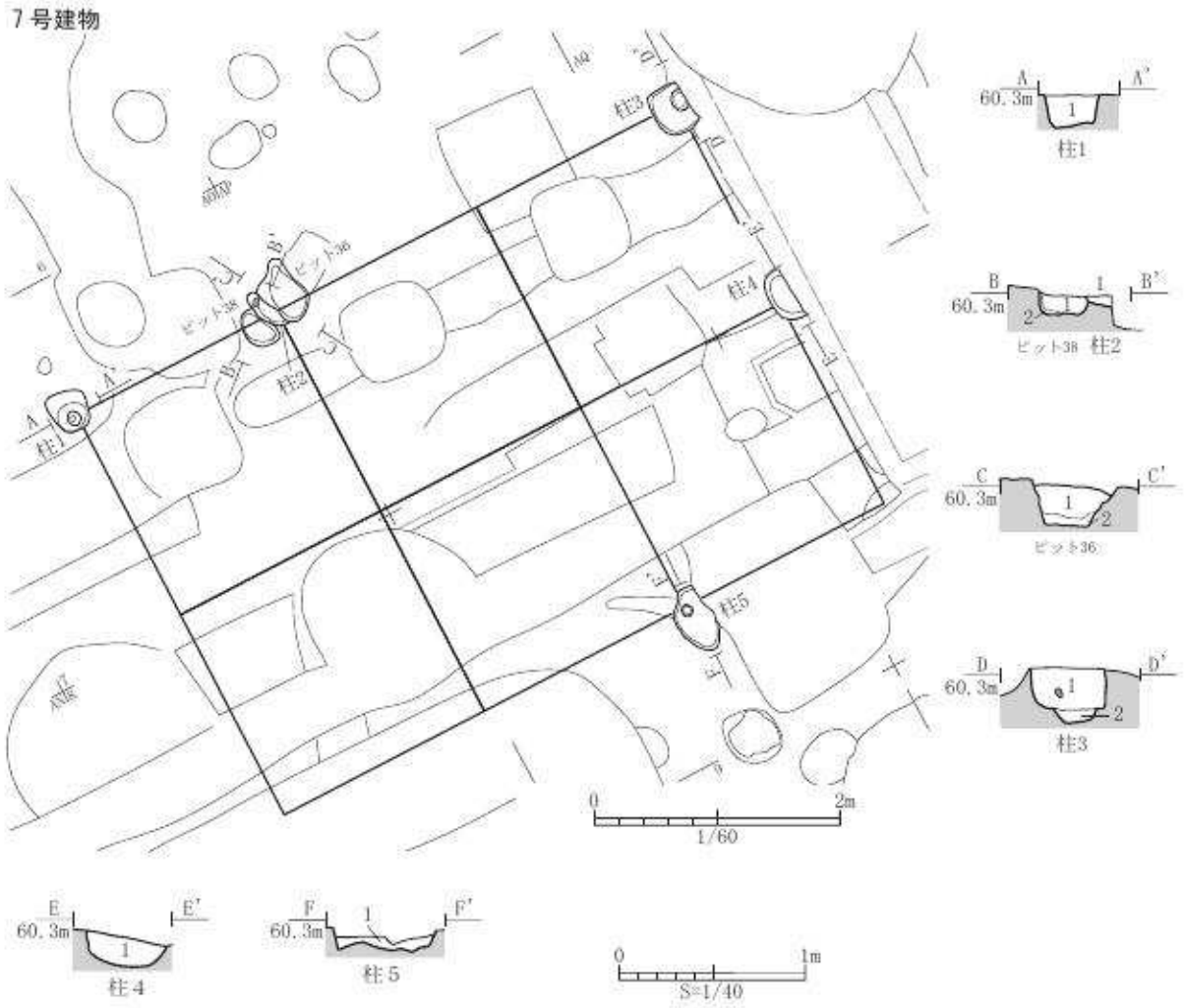
埋土１層 10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり強 明黄褐色粘土ブロック、鉄分、マンガンを多く含む 径1cm程度の炭化物を含む パミス、白色土粒を僅かに含む

埋土２層 10YR4/3にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり強 白色土粒、パミスを含む 径0.5-1cmの炭化物を僅かに含む

埋土３層 10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性中・しまり中 黄橙色粘土小ブロック、径3-5mmの炭化物、白色土粒を僅かに含む

図39　Ⅰ～Ⅲ期の遺構（１）

Fig.39 Features belonging to phase Ⅰ-Ⅲ(1)



柱1
　埋土１層　10YR4/4褐色　シルト　粘性弱・しまり中　明黄褐色粘土ブロックをやや多く含む　白色・黄色土粒を含む　径2-3mmの炭化物を僅かに含む

柱2
　埋土１層　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　粘性弱・しまり中　白色土粒、鉄分を含む　径1-3mm程度の炭化物を極僅かに含む　黄褐色のパミスをやや多く含む

柱3
　埋土１層　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　粘性中・しまり中　黄褐色粘土ブロックを全体に斑に含む　径5mm程度の炭化物を僅かに含む　白色・黄色土粒を全体に含む　径1-3cm程度の礫を極僅かに含む
　埋土２層　10YR6/4　にぶい黄橙　粘土　粘性強・しまり中　白色・黄色土粒を僅かに含む　マンガンを多く含む

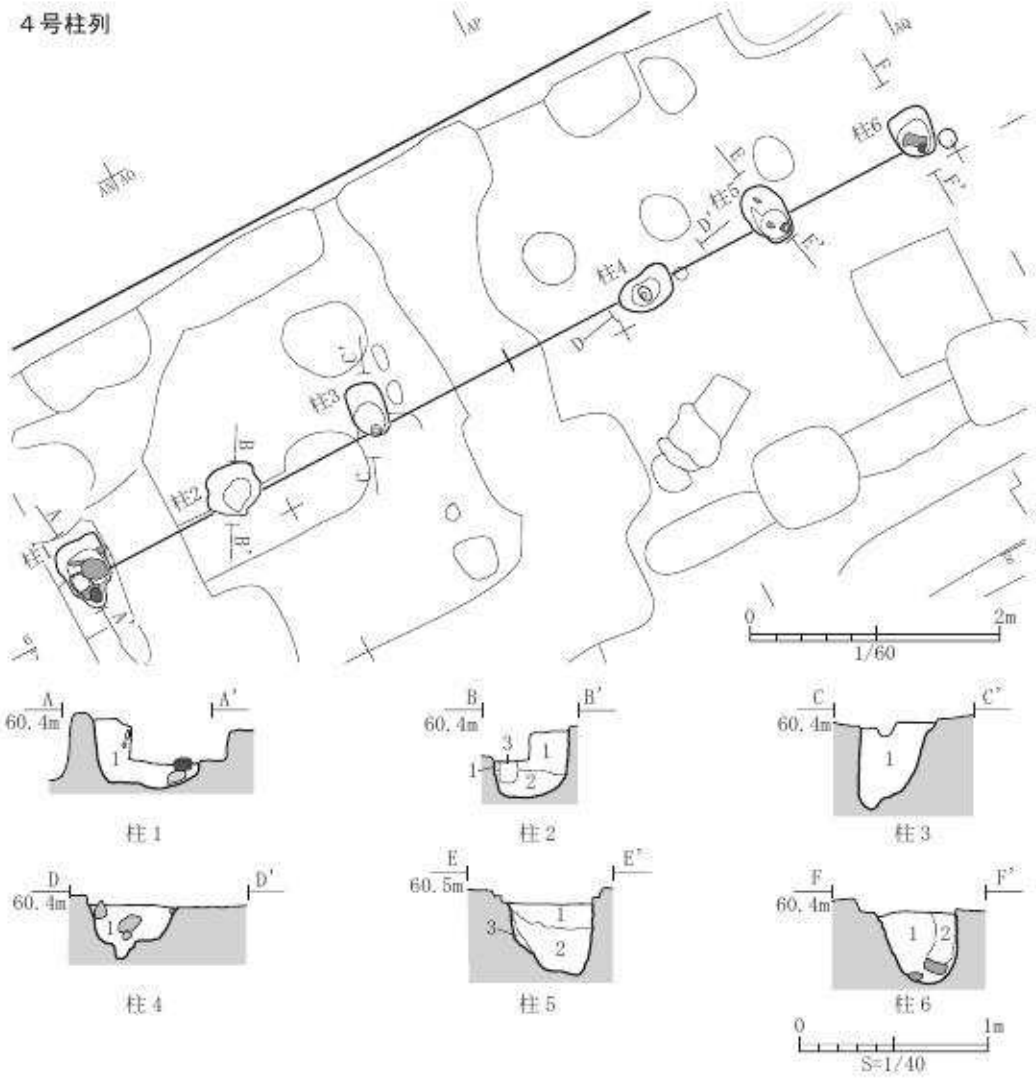
柱4
　埋土１層　10YR3/3暗褐色　粘土質シルト　粘性中・しまり中　径2-3mmの炭化物を含む　黄褐色・白色土粒を斑に含む　径1-5cm程度の礫を僅かに含む　灰白色土小ブロックを僅かに含む

柱5
　埋土１層　10YR3/3暗褐色　シルト　粘性中・しまり中　黄色・白色土粒を含む　径2-5mm程度の炭化物を含む　鉄分を僅かに含む

ピット36
　埋土１層　10YR3/3　暗褐色　シルト　粘性弱・しまりやや強　白色・黄色土粒・径2cm程度の円礫・径2-3mmの炭化物を極僅かに含む
　埋土２層　10YR4/4　褐色　粘土　粘性強・しまり中　白色土粒を極僅かに含む　鉄分を僅かに含む

ピット38
　埋土１層　10YR3/3　暗褐色　シルト　粘性弱・しまり中　白色土粒、径1-5mm程度の炭化物を含む　黄褐色土小ブロックを僅かに含む
　埋土２層　10YR5/6　黄褐色　粘土　粘性強・しまり強　白色土粒、鉄分を僅かに含む

図40　Ⅰ～Ⅲ期の遺構（２）
Fig.40 Features belonging to phase Ⅰ-Ⅲ(2)



柱１
　埋土１層 2.5Y3/2黒褐色 シルト 粘性中・しまり中 黄褐色粘土ブロックを僅かに含む 白色・黄色土粒を含む 黄褐色のパミスを僅かに含む径3-5cm程度の小礫を僅かに含む 径0.5-1cm程度の炭化物を含む 鉄分を僅かに含む

柱２
　埋土１層 2.5Y3/3暗オリーブ褐色 シルト 粘性弱・しまり中 黄褐色土ブロックを全体に斑に含む 鉄分を多く含む 白色・黄色土粒を含む 径5mm程度の炭化物を極僅かに含む
　埋土２層 10YR4/6粘土 粘性強・しまり中 灰黄褐色土ブロックと白色土粒を僅かに含む
　埋土３層 2.5Y3/3暗オリーブ褐色 粘土 粘性強・しまり中 柱痕跡 白色・黄色土粒を僅かに含む 黄褐色粘土ブロックを極僅かに含む

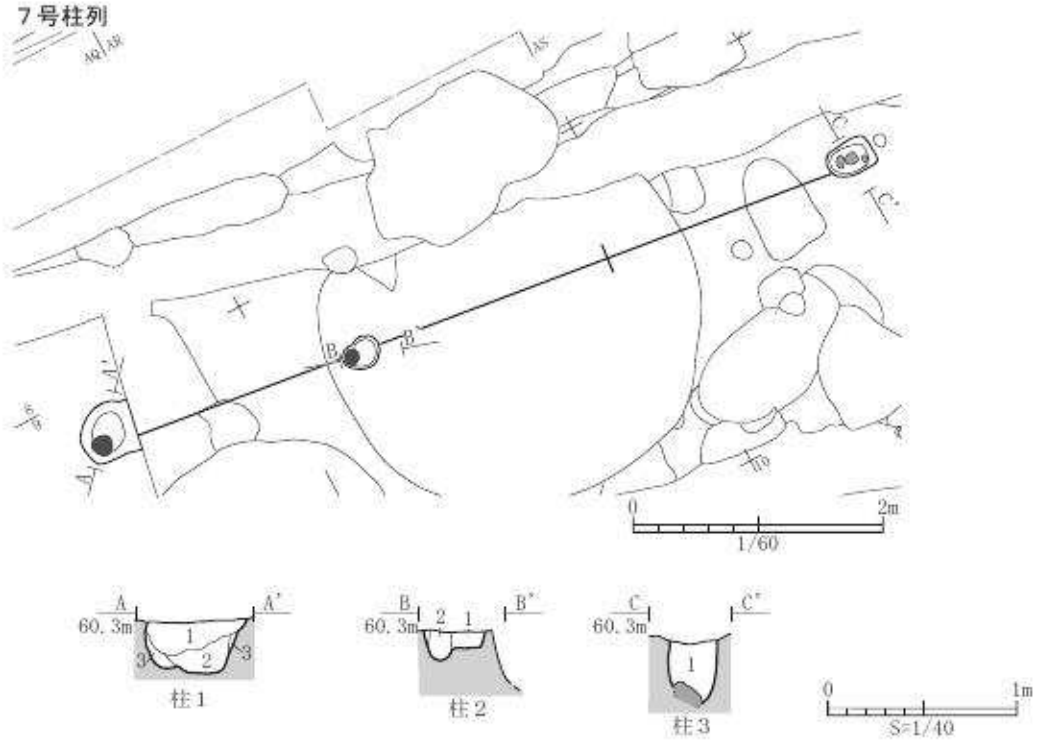
柱３
　埋土１層 2.5Y3/2黒褐色 粘土質シルト 粘性やや強・しまり中 オリーブ褐色粘土ブロックを僅かに含む 黄色・白色土粒を含む 径3-5cm程度の礫を極僅かに含む 径3-5mm程度の炭化物を僅かに含む 鉄分を多く含む

柱４
　埋土１層 2.5Y3/1黒褐色 シルト 粘性弱・しまり中 白色・黄色土粒を含む 径1-3mm程度の炭化物・黄褐色粘土ブロック・径5～10cm程度の礫、鉄分を僅かに含む

柱５
　埋土１層 2.5Y4/2暗灰黄 シルト 粘性弱・しまり中 径2-5mm程度の炭化物を極僅かに含む 白色土粒・鉄分を含む 径2-3cm程度の小礫を僅かに含む
　埋土２層 2.5Y3/1黒褐色 シルト 粘性中・しまり中 オリーブ褐色土ブロックを一部に含む 白色土粒・径0.2-1cm程度の炭化物・鉄分を僅かに含む
　埋土３層 2.5Y4/4オリーブ褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 白色土粒・鉄分を僅かに含む

柱６
　埋土１層 10YR3/1黒褐色 シルト 粘性弱・しまり強 にぶい黄橙色・にぶい黄褐色粘土ブロックを斑に含む 径2-5mm程度の炭化物と鉄分を僅かに含む 白色土粒を含む
　埋土２層 2.5Y3/2黒褐色 シルト 粘性弱・しまり中 柱痕跡 白色土粒を含む 2-5mm程度の炭化物を僅かに含む 黄褐色粘土ブロックを極僅かに含む

図41　Ⅰ～Ⅲ期の遺構（３）
Fig.41 Features belonging to phase Ⅰ-Ⅲ(3)



柱１
埋土１層 2.5Y3/1 黒褐色 粘土 粘性強・しまり中 オリーブ灰色の粘土ブロックを斑に多く含む 径2-3cmの円礫を含む 白色・黄色土粒を含む
埋土２層 2.5Y3/1 黒褐色 シルト 粘性中・しまり中 鉄分、白色・黄色土粒を含む 径2mm程度の炭化物を極僅かに含む
埋土３層 2.5Y3/2 黒褐色 粘土 粘性強・しまり強 オリーブ褐色粘土ブロックを含む 白色・黄色土粒を僅かに含む 鉄分を含む
柱２
埋土１層 10YR4/1 褐灰色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 灰オリーブ色粘土小ブロックを僅かに含む 鉄分、白色・黄色土粒を含む
埋土２層 7.5YR3/1 黒褐色 粘土 粘性強・しまり中 径3-5mm程度の炭化物を僅かに含む 白色土粒を含む 柱痕跡
柱３
埋土１層 5Y4/1 灰 粘土質シルト 粘性中・しまり中 径2-5mm程度の炭化物、明黄褐色粘土ブロック、鉄分、白色・黄色土粒を含む

図42　Ⅰ～Ⅲ期の遺構（４）
Fig.42 Features belonging to phase Ⅰ-Ⅲ(4)

い時期の遺構である可能性もあるが、Ⅰ～Ⅲ期（近世）に含めた。

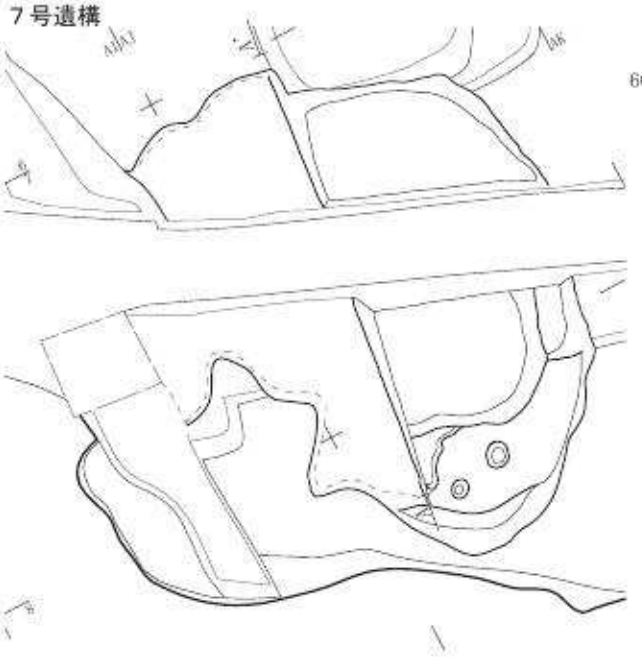
【７号柱列】（図42）　AQ～AS-９区に位置する。４間で、柱間寸法は７尺となり、東西方向の軸角度は110.9(20.9)度西偏する。４号柱列と同様に南北方向を想定すると、20.9度西偏することになる。遺物は出土していない。Ⅱb～Ⅲ期（19世紀～近代）の遺構である５号遺構よりは古い。これらの状況から、本柱列をⅠ-Ⅲ期（19世紀～近代以前）の遺構とした。

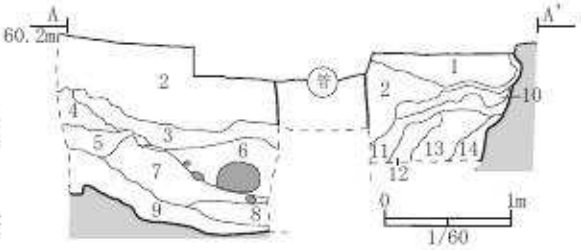
【７号遺構】（図43）　調査区西端のAI・AJ-７・８区に位置するやや大型の遺構である。当初は井戸の可能性も想定して半裁して掘り進めたが、検出面から1.5m程下で底面を確認した。本遺構上部に使用中の汚水管等もあることから、それ以上の掘削は止めた。

埋土は14層に細分したが、その殆どは、粘土質の埋土である。１～７層は大きめな礫や、黄色粘土を斑状に含み、人為的に埋め戻されたものと推定できる。一方で、８層から下位の埋土は、均質的な土壌が順に堆積しており、自然に埋没していった様相が窺える。ただし遺物はほとんど出土していない。近世とわかる少破片の磁器、漆椀等が出土している。このような状況を踏まえ、Ⅰ-Ⅲ期（近世）の時期に比定したが、より新しい時期の遺構である可能性もある。

【28号遺構】（図43）　AO-12区に位置する楕円形の小型の遺構である。壁はやや垂直気味に立ち上がる。埋土は

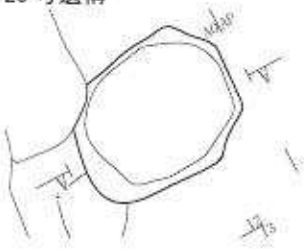
7号遺構

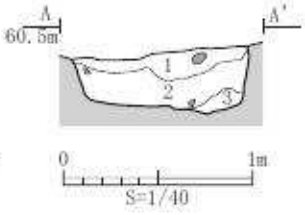




埋土１層 10YR4/6褐色 粘土 粘性強・しまり強 灰黄褐色粘土ブロックを僅かに含む
埋土２層 2.5Y3/1 黒褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり強 黄褐色・緑灰色のパミスを全体に含む 緑灰色の粘土小ブロックを極僅かに含む
埋土３層 2.5Y3/1黒褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり強 黄褐色・緑灰色のパミスを全体に含む 緑灰色の粘土小ブロックを極僅かに含む
埋土４層 2.5Y3/2黒褐色 粘土 粘性強・しまり中 黄色・緑灰色のパミスを全体に僅かに含む 白色土粒を含む 鉄分をやや多く含む
埋土５層 2.5Y4/4オリーブ褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 オリーブ灰色のパミスを極僅かに含む
埋土６層 2.5Y3/1黒褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 緑灰色の大きめの粘土ブロックを全体に斑に含む 白色土粒を極僅かに含む 径２-30cmの礫を僅かに含む
埋土７層 5Y3/1オリーブ黒色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 緑灰色粘土ブロック、緑灰色のパミス、径5cm-握り拳大の礫を極僅かに含む 白色・黄褐色土粒を含む
埋土８層 5Y3/1オリーブ黒色 粘土 粘性強・しまり中 白色土粒を僅かに含む 緑灰色のパミスを極僅かに含む
埋土９層 10Y5/1灰色 粘土 粘性強・しまり中 緑灰色のパミス、白色土粒を極僅かに含む
埋土10層 10YR4/1褐灰色 粘土 粘性強・しまり中 浅黄色の粘土ブロックを全体に斑に含む 径3-5mmの炭化物を極僅かに含む 白色土粒、鉄分を含む 黄褐色のパミスを僅かに含む 一部でグライ化している
埋土11層 10YR4/6褐色 砂 粘性なし・しまり中 黄褐色のパミスを多く含む
埋土12層 10YR4/3にぶい黄褐色 粘土 粘性強・しまり中 極小さいパミスを僅かに含む
埋土13層 10YR5/6黄褐色 粘土 粘性強・しまり中 灰白色粘土、マンガンを極僅かに含む
埋土14層 10YR5/4にぶい黄褐色 砂 粘性なし・しまり中 マンガンを僅かに含む

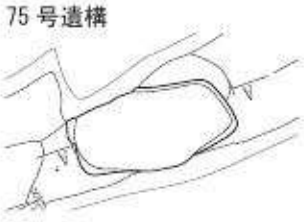
28号遺構

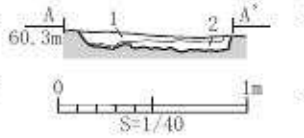




埋土１層 7.5YR4/6 褐色 粘土 粘性強・しまり強 パミス、褐灰色粘土を多く含む 径5mm程度の炭化物を僅かに含む
埋土２層 10YR4/2 灰黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり強 パミスを含む 径0.5-1cmの炭化物を僅かに含む
埋土３層 10YR5/8 黄褐色 シルト 粘性中・しまり弱 パミスを多く含む

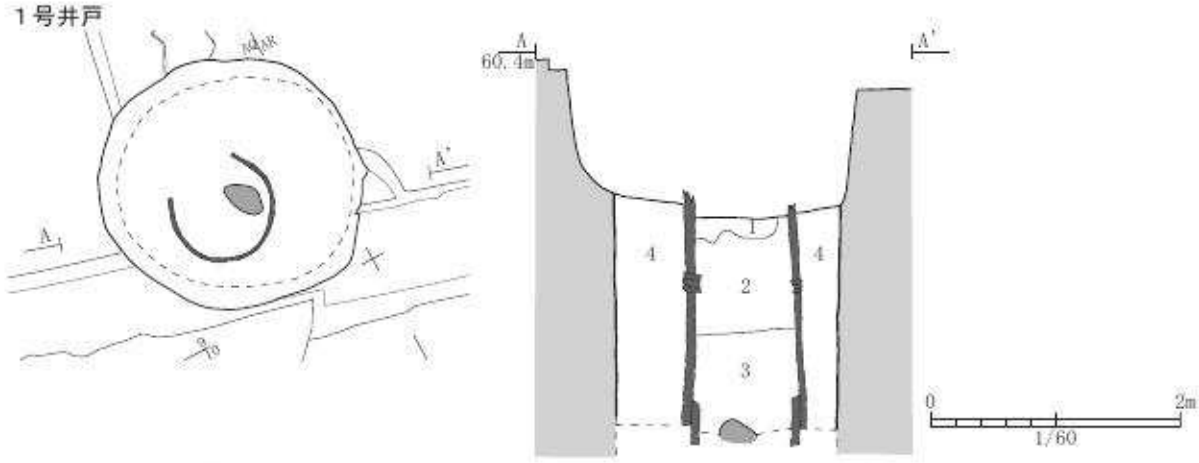
75号遺構





埋土１層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり中 径2-3mmの炭化物を含む 明黄褐色土小ブロックを僅かに含む 焼土粒を含む
埋土２層 径0.5-2cm程度の炭のみで構成される

図43　Ⅰ～Ⅲ期の遺構（５）
Fig.43 Features belonging to phase Ⅰ-Ⅲ(5)



埋土１層 10YR6/6 明黄褐色 粘土 粘性強・しまり中 鉄分、マンガンを含む 白色土粒、灰黄褐色土小ブロックを僅かに含む
埋土２層 2.5Y3/1 黒褐色 粘土 粘性強・しまり弱 鉄分、マンガン、有機質の木材等を含む 径1-2cm程度の小礫を僅かに含む
埋土３層 5Y3/1 オリーブ黒色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 径5mm程度の炭化物を含む 陶磁器、瓦、種子等の遺物を含む
埋土４層 7.5YR4/2 灰オリーブ色 粘土 粘性強・しまり中 オリーブ黒色粘土をブロック状に含む 堀方埋土

図44　Ⅰ～Ⅲ期の遺構（６）
Fig.44 Features belonging to phase Ⅰ-Ⅲ(6)

３層に分かれる。遺物は出土していない。重複するピット184からも遺物は出土していない。埋土の状況等から近世の遺構と考え、Ⅰ～Ⅲ期（近世）に時期を比定したが、積極的な根拠はない。

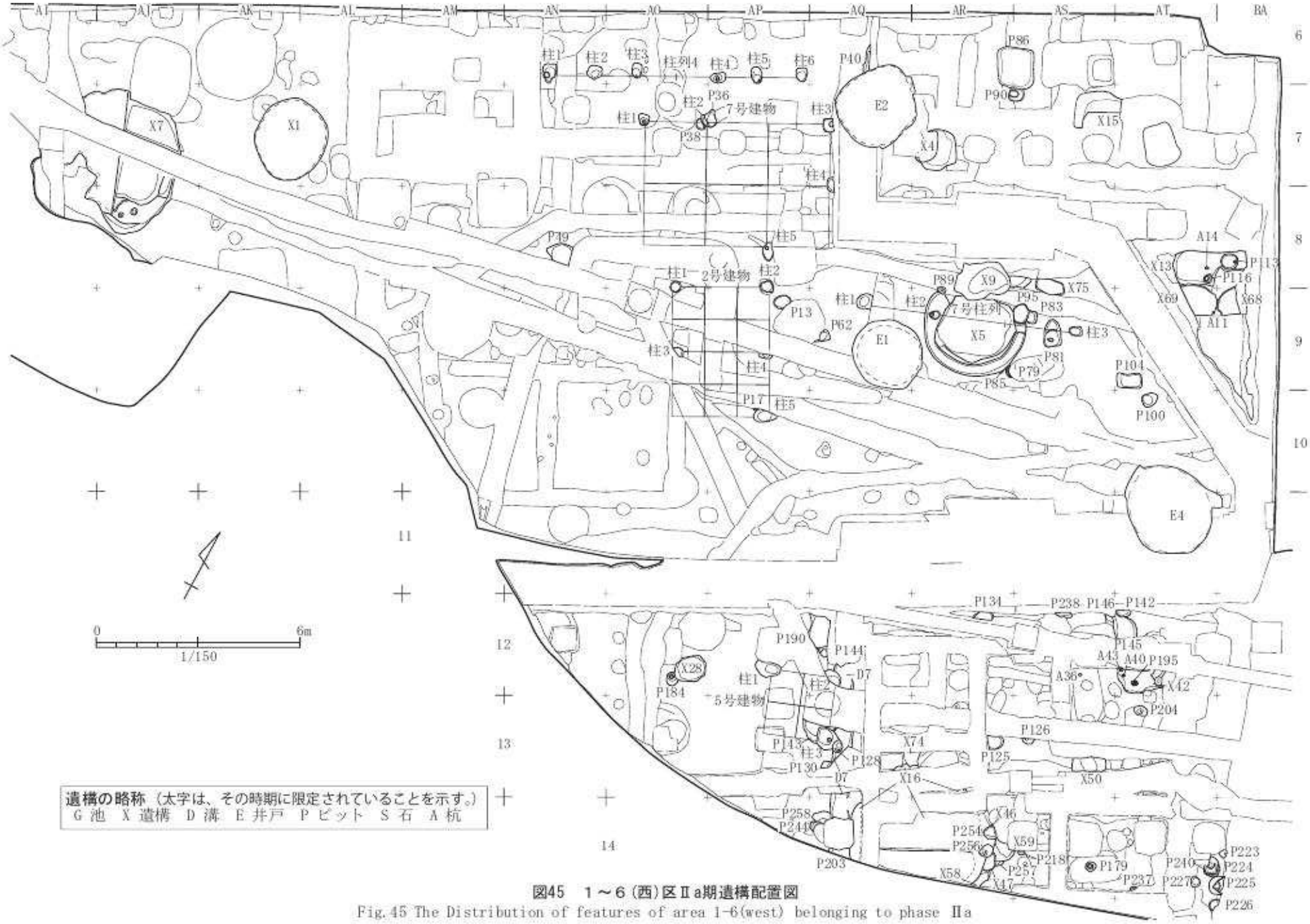
【75号遺構】（図43） AS-８・９区に位置する、長方形の浅い皿状の遺構である。検出時より炭層が顕著に認められたことから、当初は１号焼土遺構と命名した。埋土は２層に分かれ、２層は炭層で、１層には焼土粒等を含む。遺物は全く出土していない。Ⅰ期（17世紀）の10号遺構より新しい。積極的な根拠はないが、埋土の状況等を踏まえⅠ-Ⅲ期（17世紀以後）の遺構とした。

【１号井戸】（図44） AQ･AR-９区に位置する桶を利用した井戸である。最上部は撹乱を受けて破壊されていた。安全上の理由から完掘していないが、一段目の桶部分までは掘り下げることができた。掘り方はほぼ円形で、径２mほどである。内部の埋土には、木材や礫が多数混じる。それらの木材等でできた空隙の間から、完形に近い陶器や漆器類を多数確認することができた。この内部埋土出土の陶磁器は、19世紀中葉のものであることから、この時期には埋没完了に近い時期であったことがわかる。一方で、掘り方の埋土からは遺物が出土しておらず、構築時期は不明である。重複関係からⅠ期（17世紀初頭）の６号柱列よりは新しい。この様な状況から、ひとまず本遺構の構築時期をⅠ～Ⅲ期（17世紀初頭～19世紀中葉）としたが、正確な時期は不明である。

（４）Ⅱa期の遺構（図45・46）

【３号池状遺構】（図47） BD～BF-12・13区に位置する。Ⅰ期の４号池状遺構に接続している。その上部は１号池状遺構により削平されている。西側壁面の底面付近は抉られている。南東側に４号池状遺構との接続部と想定できる凹み部がある。４号池状遺構との底面のレベル差が約50cmあり、南側から北側に水が流れていたことがわかる。この東南部の接続部から、水が勢いよく流れ西側の壁面に水流がぶつかることにより抉られた状況も想定できる。遺構埋土は、４層確認できた。最下層には砂層が堆積し、その上部にはラミナ状の砂を含む埋土１層が存在する。

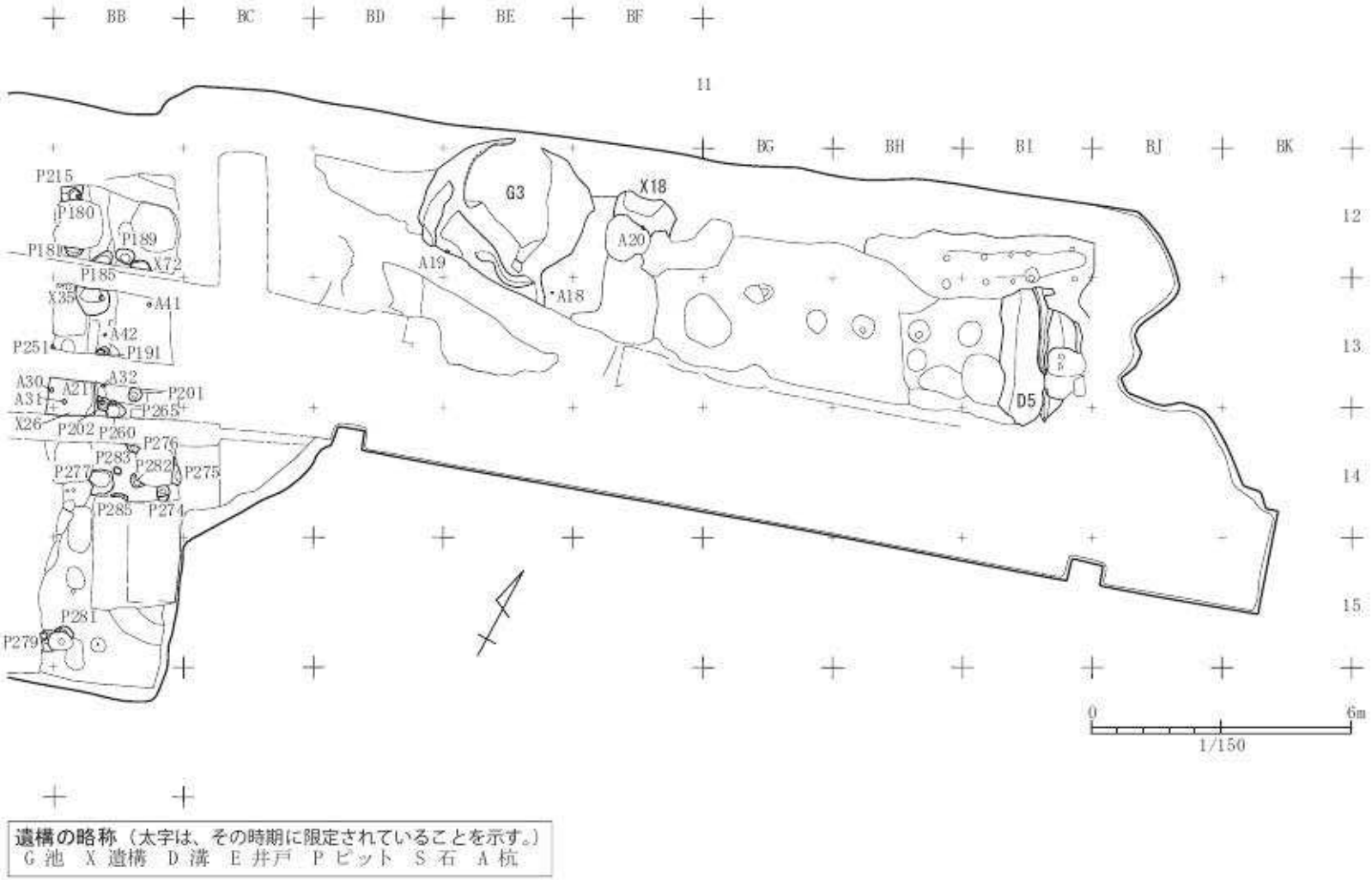
また、西側壁面上部には１号池状遺構のものとも考えられる集石が認められた。その部分には段があり、何らかの石積みがなされていたものと考えられる。検出した集石は、その石積みの裏込め石か、あるいは崩落した石と考えられる。この集石部分に関しては、埋土が薄いため、重複する１号池状遺構との関係が捉えることができなかった。そのため、本遺構の図にも表現した。しかし、後に述べるように１号池状遺構には石積み部が認めら



遺構の略称（太字は、その時期に限定されていることを示す。）
G 池　X 遺構　D 溝　E 井戸　P ピット　S 石　A 杭

図45　1～6（西）区Ⅱa期遺構配置図

Fig.45 The Distribution of features of area 1-6(west) belonging to phase Ⅱa

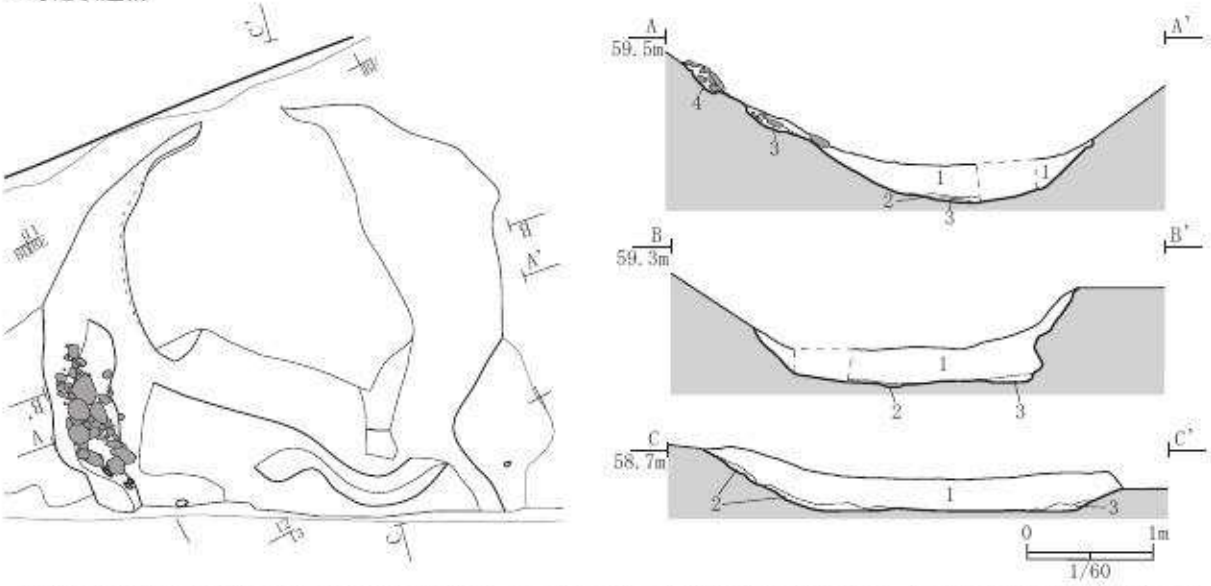


遺構の略称（太字は、その時期に限定されていることを示す。）
G 池　X 遺構　D 溝　E 井戸　P ピット　S 石　A 杭

図46　6（東）・7区Ⅱa期遺構配置図

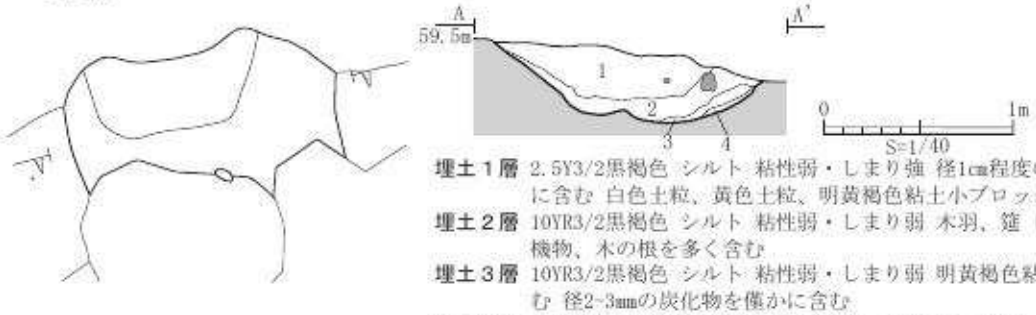
Fig.46 The Distribution of features of area 6(east)･7 belonging to phase Ⅱa

３号池状遺構



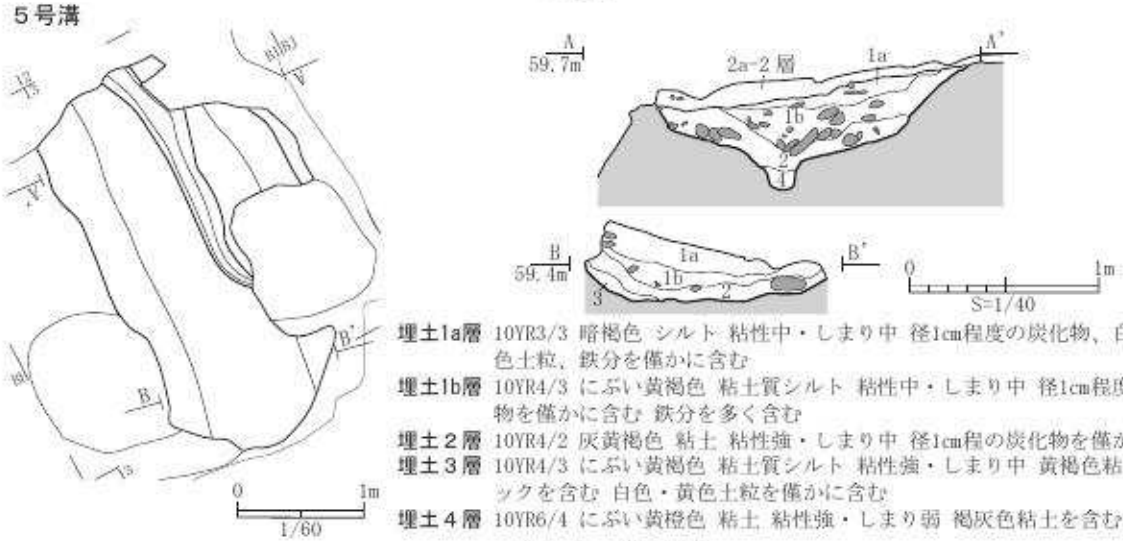
埋土１層 10YR4/1褐灰色 シルト質粘質土 粘性強・しまり中 径5mm以下の炭化物を少量含む パミスを中量含む 全体的にマンガンを含む 南端と北端にラミナ状の砂層を含む 西側には礫が認められる
埋土２層 10YR5/8黄褐色 砂 粘性なし・しまりなし
埋土３層 10YR6/6明黄褐色 シルト質粘質土 粘性強・しまり強 壁(地山)の崩落土
埋土４層 10YR5/1褐灰色 砂質シルト 粘性なし・しまり弱 径1-10cm前後の礫を多く含む 石積裏込の土層か

18号遺構



埋土１層 2.5Y3/2黒褐色 シルト 粘性弱・しまり強 径1cm程度の炭化物を僅かに含む 白色土粒、黄色土粒、明黄褐色粘土小ブロックを含む
埋土２層 10YR3/2黒褐色 シルト 粘性弱・しまり弱 木羽、筵（むしろ）等の有機物、木の根を多く含む
埋土３層 10YR3/2黒褐色 シルト 粘性弱・しまり弱 明黄褐色粘土ブロックを含む 径2-3mmの炭化物を僅かに含む
埋土４層 10YR7/4にぶい黄橙色 粘土 粘性強・しまり中 鉄分、黒褐色土ブロックを含む

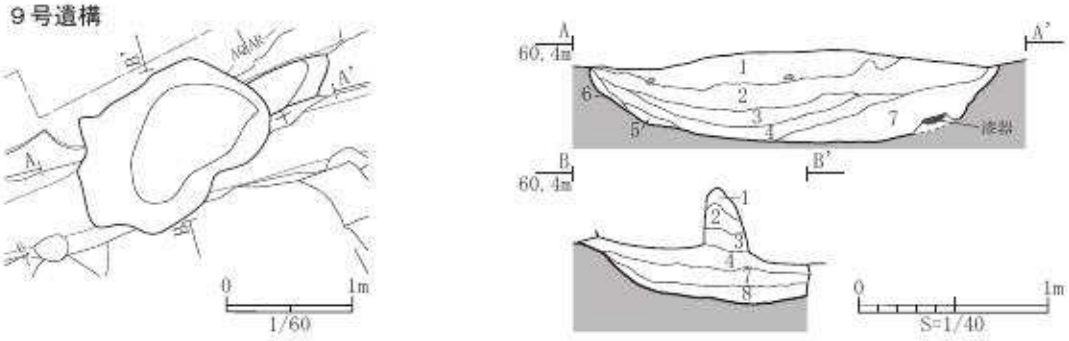
５号溝



埋土1a層 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中・しまり中 径1cm程度の炭化物、白色・黄色土粒、鉄分を僅かに含む
埋土1b層 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 径1cm程度の炭化物を僅かに含む 鉄分を多く含む
埋土２層 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性強・しまり中 径1cm程の炭化物を僅かに含む
埋土３層 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 黄褐色粘土小ブロックを含む 白色・黄色土粒を僅かに含む
埋土４層 10YR6/4 にぶい黄橙色 粘土 粘性強・しまり弱 褐灰色粘土を含む

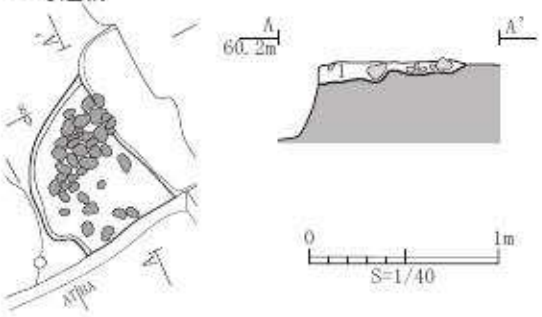
図47　Ⅱa期の遺構
Fig.47 Features belonging to phase Ⅱa

９号遺構



埋土１層 2.5Y3/1 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり中 径2-5mm程度の炭化物を含む 白色・黄色土粒を含む 黄褐色土小ブロックを斑に含む 径3-5cm程度の円礫を僅かに含む
埋土２層 2.5Y3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 径1cm程度の炭化物を含む 白色・黄色土粒、径1cm程度のパミス、黄褐色土小ブロックを僅かに含む
埋土３層 2.5Y3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 径1-2mmの炭化物、白色土粒、黄褐色・灰黄褐色土小ブロックを極僅かに含む
埋土４層 2.5Y3/1 黒褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 径0.5-１cm程度の炭化物を僅かに含む 白色・黄色土粒を極僅かに含む
埋土５層 2.5Y2/1 黒色 粘土 粘性強・しまり中 径2-3mmの炭化物、黄灰色土小ブロックを極僅かに含む
埋土６層 2.5Y4/1 黄灰色 粘土 粘性強・しまり中 黄色・白色土粒を含む 黒褐色土を極僅かに含む
埋土７層 2.5Y3/1 黒褐色 粘土 粘性強・しまり中 径1cm程度の炭化物を部分的に含む 灰オリーブ色・黒色粘土、極薄い木質をラミナ状に含む 白色・黄色土粒を僅かに含む
埋土８層 地山土(４層)に炭化物などがまじり、しまりが弱い

69 号遺構



埋土１層 10YR4/2 灰黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 径5cm-握り拳大の礫を多く含む 径0.3-1cm程度の炭化物をやや多く含む 白色土粒、鉄分を含む 黄色土粒を僅かに含む

２号井戸

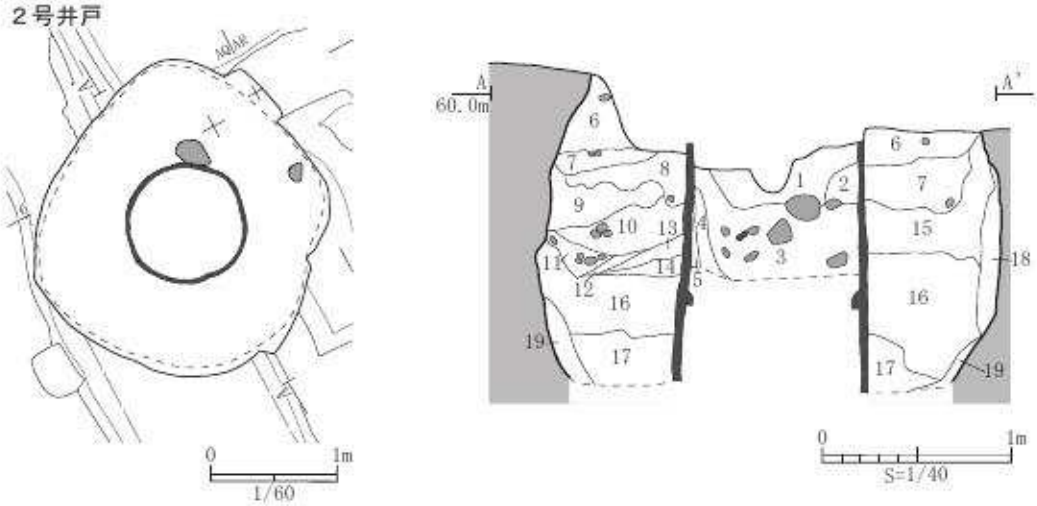
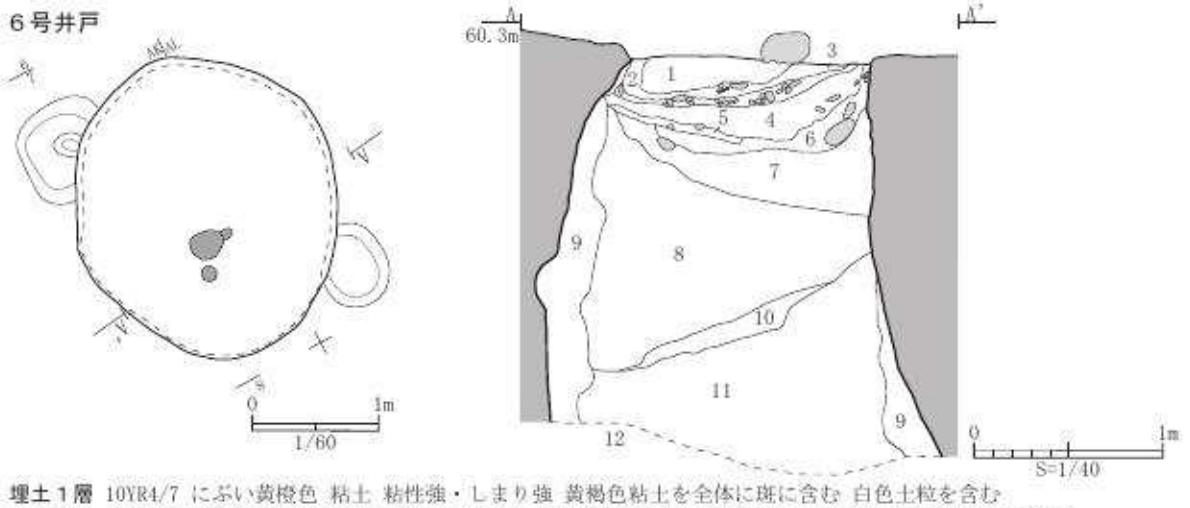


図48　Ⅱa～Ⅱb期の遺構（１）
Fig.48 Features belonging to phase Ⅱa-Ⅱb(1)

２号井戸

埋土１層 2.5Y3/1 黒褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 黄褐色土ブロック、オリーブ灰色土ブロック、径0.5-2cm程度の炭化物、白色・黄色土粒を含む 径2-3cm程度の礫を僅かに含む
埋土２層 2.5Y2/1 黒褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 灰オリーブ粘土ブロック、黄褐色土小ブロック、白色土粒を含む 径1-2cm程度の礫、径0.5-1cm程度の炭化物を僅かに含む
埋土３層 2.5Y3/1 黒褐色 粘土 粘性強・しまり中 径5mm程度の炭化物、径5cm-人頭大の礫を含む 灰オリーブ色粘土小ブロックを僅かに含む
埋土４層 2.5Y3/1 黒褐色 粘土 粘性極めて強・しまり弱 径5mm程度の炭化物を僅かに含む
埋土５層 2.5Y3/1 黒褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり弱 径3cm程度の礫を含む 白色・黄色土粒を僅かに含む
埋土６層 2.5Y3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 にぶい黄色粘土・黄褐色粘土ブロック、鉄分をやや多く含む 径0.2-1cm程度の炭化物を含む 白色・黄色土粒を多く含む 径1-5cm程度の礫を僅かに含む
埋土７層 2.5Y3/1 黒褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 灰黄色粘土小ブロック、径1-5cm程度の小礫、白色・黄色土粒を僅かに含む 鉄分をやや多く含む
埋土８層 2.5GY4/1 暗オリーブ灰 粘土 粘性強・しまり中 黒褐色土小ブロック、灰オリーブ粘土小ブロックを斑状に含む 白色・黄色土粒、径1-5cm程度の礫を極僅かに含む
埋土９層 5GY4/1 暗オリーブ灰 粘土 粘性強・しまり強 黒褐色土ブロック、オリーブ黒色土ブロックを僅かに含む 白色土粒を含む
埋土10層 7.5GY4/1 暗緑灰 粘土質シルト 粘性強・しまり強 オリーブ黒色粘土ブロックを斑に多く含む 径1cm程度の小礫と径3-5cm程度の円礫をやや多く含む 白色土粒を含む
埋土11層 2.5GY2/1 黒 粘土 粘性強・しまり弱 径3-10cm程度の礫をやや多く含む 白色土粒を僅かに含む
埋土12層 10GY5/1 緑灰色 粘土 粘性強・しまり中 均質な粘土層 極僅かにオリーブ黒色粘土ブロックを含む
埋土13層 5Y2/2 オリーブ黒 粘土質シルト 粘性強・しまり弱 白色・黄色土粒を含む
埋土14層 10Y4/2 オリーブ灰 粘土 粘性強・しまり中 白色土粒を含む オリーブ黒色粘土を僅かに含む
埋土15層 5Y2/1 黒 粘土 粘性強・しまり中 緑灰色粘土ブロックを斑に多く含む 白色・黄色土粒を極僅かに含む
埋土16層 10Y5/1 緑灰色 粘土 粘性強・しまり中 黒褐色土小ブロックを斑に含む
埋土17層 10Y5/1 緑灰色 粘土 粘性強・しまり中 白色土粒を含む オリーブ黒色土小ブロック、径1cmの小礫を僅かに含む
埋土18層 2.5Y5/4黄褐色 粘土 粘性強・しまり中 黒褐色土を僅かに含む 壁の崩落土
埋土19層 N2/0黒 砂 粘性なし・しまりなし

６号井戸



埋土１層 10YR4/7 にぶい黄橙色 粘土 粘性強・しまり強 黄褐色粘土を全体に斑に含む 白色土粒を含む
埋土２層 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり強 鉄分を含む 灰黄褐色土小ブロックを極僅かに含む
埋土３層 10YR4/4 褐色 砂 粘性なし・しまり中 鉄分を含む 炭化物を一部に含む 径5-10cm程度の円礫を非常に多く含む
埋土４層 2.5Y3/2 黒褐色 粘土 粘性強・しまり強 鉄分を含む 径2-3mm程度の炭化物、マンガンを僅かに含む 径3-5cm程度の円礫を極僅かに含む
埋土５層 10YR3/3 暗褐色 粘土 粘性強・しまり中 鉄分を含む 径1-2cmの炭化物を極僅かに含む にぶい黄橙粘土ブロックを多く含む
埋土６層 2.5Y3/1 黒褐色 粘土 粘性強・しまり中 黄色土粒を含む 径1-2cm程度の炭化物、にぶい黄橙粘土小ブロック、径5cm-人頭大の礫を僅かに含む
埋土７層 2.5Y3/1 黒褐色 粘土 粘性強・しまり中 オリーブ灰色粘土ブロック、遺物を僅かに含む 径1-2cm程度の炭化物、鉄分、白色土粒、握り拳大の礫を極僅かに含む
埋土８層 2.5Y2/1 黒色 粘土 粘性強・しまり弱 径3-5cm程度の礫、遺物を僅かに含む 鉄分、白色土粒、木材等の有機質を含む
埋土９層 10YR5/6 黄褐色 粘土 粘性強・しまり弱 褐灰色土を僅かに含む 壁際の崩落土
埋土10層 10YR1.7/1 黒色 粘土 粘性強・しまり中 オリーブ黒色粘土、灰オリーブ色粘土を層状に含む 木材等を僅かに含む
埋土11層 5Y3/1 オリーブ黒色 粘土 粘性強・しまり中 灰オリーブ色粘土ブロックを部分的に層状に含む 径1cm程度の炭化物を部分的に含む 木材等の有機質遺物漆器等をやや多く含む
埋土12層 10YR5/2オリーブ灰色 粘土 粘性強・しまり強 黒褐色土をブロック状に多く含む

図49　Ⅱa～Ⅱb期の遺構（２）
Fig.49 Features belonging to phase Ⅱa-Ⅱb(2)

れることから、そちらに属する可能性が高い。

本遺構の時期は、当初４号池状遺構と同時期のⅠ期と考えたが、４号池状遺構には見られない18世紀代の陶磁器が埋土から出土していることと、ちょうど間にあるピット164との重複関係から、Ⅱa期（18世紀前半）と判断した。もちろん、本遺構の構築時期は17世紀で、４号池状遺構と同時期に機能していた可能性もある。その場合、Ⅱa期に本遺構をさらい直し等の改修をした状況も想定できる。

【18号遺構】（図47） BF-12区に位置し、壁が緩やかに立ち上がる小規模な遺構である。そのほとんどを周辺遺構や撹乱によって破壊されており、その詳細は不明である。埋土は４枚確認できた。そのうち底面に近い埋土２層では、有機質の遺物等が確認されている。

重複関係は、２号池状遺構（Ⅰ期）が古く、１号池状遺構（Ⅱb期）との関係は近代の撹乱のため不明である。当初は、本遺構の位置から１号池状遺構の一部である可能性も想定したが、その底面や壁の形状、埋土の様子から、独立した個別の遺構として捉えた。また出土遺物は18世紀代の陶磁器に限られている。このような状況から、Ⅱb期の１号池状遺構と同時期に機能していた可能性も否定できないが、本遺構の時期をⅡa期（18世紀前葉～中葉）とした。

【５号溝】（図47） 調査区東端のBI-13・14区に位置し、壁が緩やかに立ち上がる幅の広い南北方向の溝である。ちょうど底面中央に、幅20cmほどの機能不明の細い溝がある。その形状から、２条の溝の重複である可能性も想定したが、平面プランや土層断面の状況から１条の溝として判断した。軸角度は22.6度西偏する。埋土は５枚確認できた。底面中央部の細い溝に堆積する層が４層であり、黄橙色の粘土層である。埋土２・３層は灰褐色を呈する粘土質の層、１層はシルト質の層となる。このうち1b層と２層上面には礫が多量に含まれており、遺物も比較的多い。埋土１層出土土器には、18世紀後半～19世紀初頭の遺物が多いことから、構築時期はそれより古い時期が想定できる。また、Ⅱb期の１・２号柱列より古いことから、本遺構の時期をⅡa期（18世紀中葉）に比定した。

（５）Ⅱa～Ⅱb期の遺構

【９号遺構】（図48） AR-８・９区に位置する、壁が緩やかに立ち上がる大きめの遺構である。上部は、撹乱や他の遺構によって破壊されている。重複関係は、10号遺構（１期）より新しく、５号遺構（Ⅲ期）より古い。埋土は８層に区分できる。全体的に炭化物が多いが、特に下層の７層に炭化物、木片、遺物等を含む。この７層と最下層の８層出土陶磁器からⅡa～Ⅱb期（18世紀）に時期比定した。

【69号遺構】（図48） BA-８・９区に位置し、多数の礫が検出された。二方を撹乱によって破壊されているが、円形を呈するものと推定できる。深さは浅いが、機能は不明である。埋土出土磁器から、Ⅱa～Ⅱb期（18世紀）に時期比定した。

【２号井戸】（図48・49） AQ・AR-６・７区に位置する、桶を用いた井戸である。上部は米軍期の共同溝により破壊されている。安全確保のため、桶の一段目近辺まで掘り下げて調査を終了した。掘り方の埋土である８層出土磁器からⅡa～Ⅱb期（18世紀）に時期比定した。

【６号井戸】（図49） AK・AL-７区に位置する円形素掘りの井戸である。当初は１号遺構と命名し調査を進めたが、その深さから井戸と判断した。安全確保のため、段階的に２m近く掘り下げて調査を終了した。埋土からは、多数の漆器等の有機質の遺物が確認されている。本遺構の構築時期は不明であるが、埋土10層出土の陶磁器から、Ⅱa～Ⅱb期（18世紀）には埋没していたことが判断できる。実際はそれ以前に構築された遺構であろう。

（６）Ⅱb期の遺構（図50・51）

【１号柱列】（図52） BG～BI-13区に位置する、径30cm程の柱穴５基によって構成される４間の柱列である。

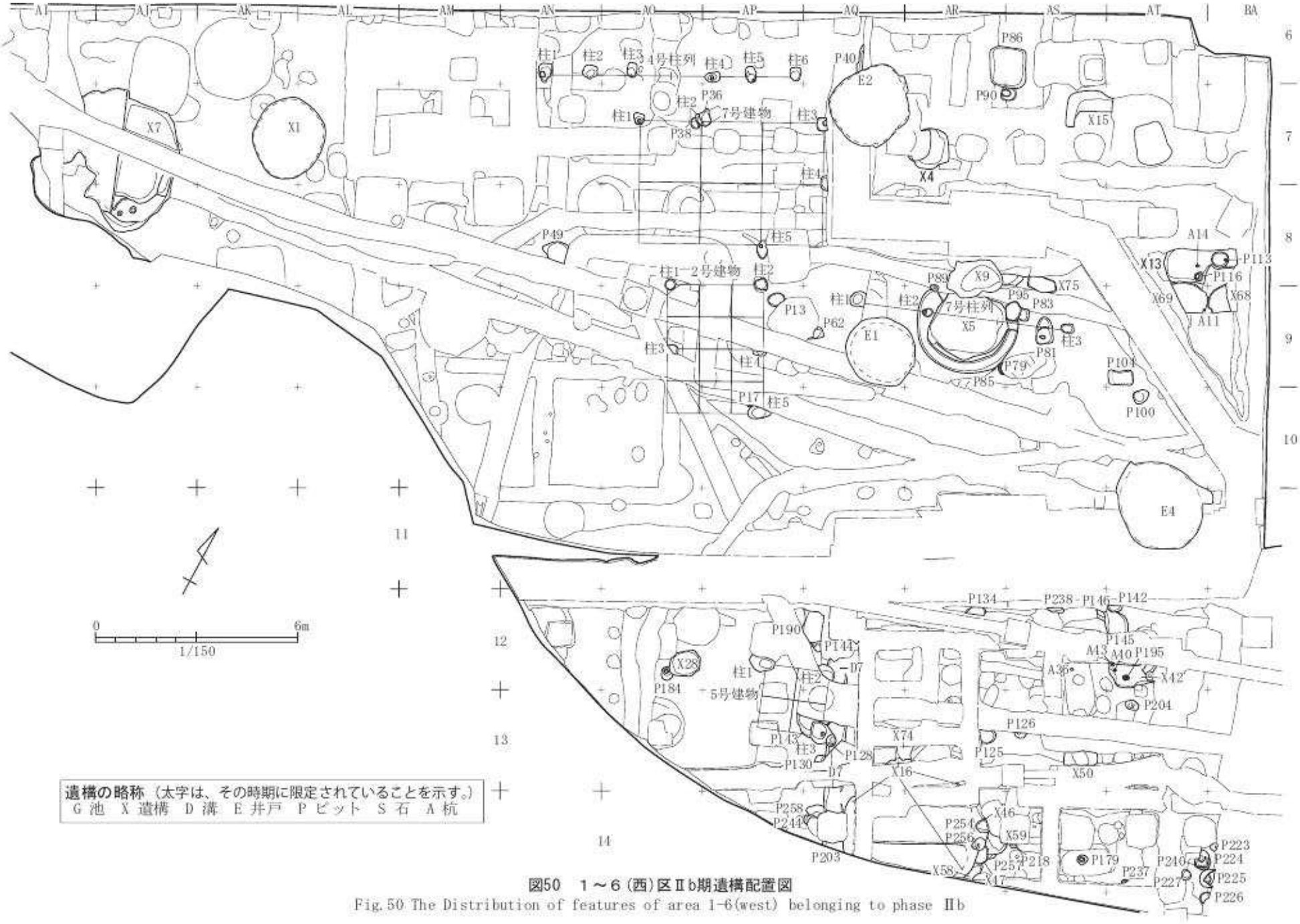
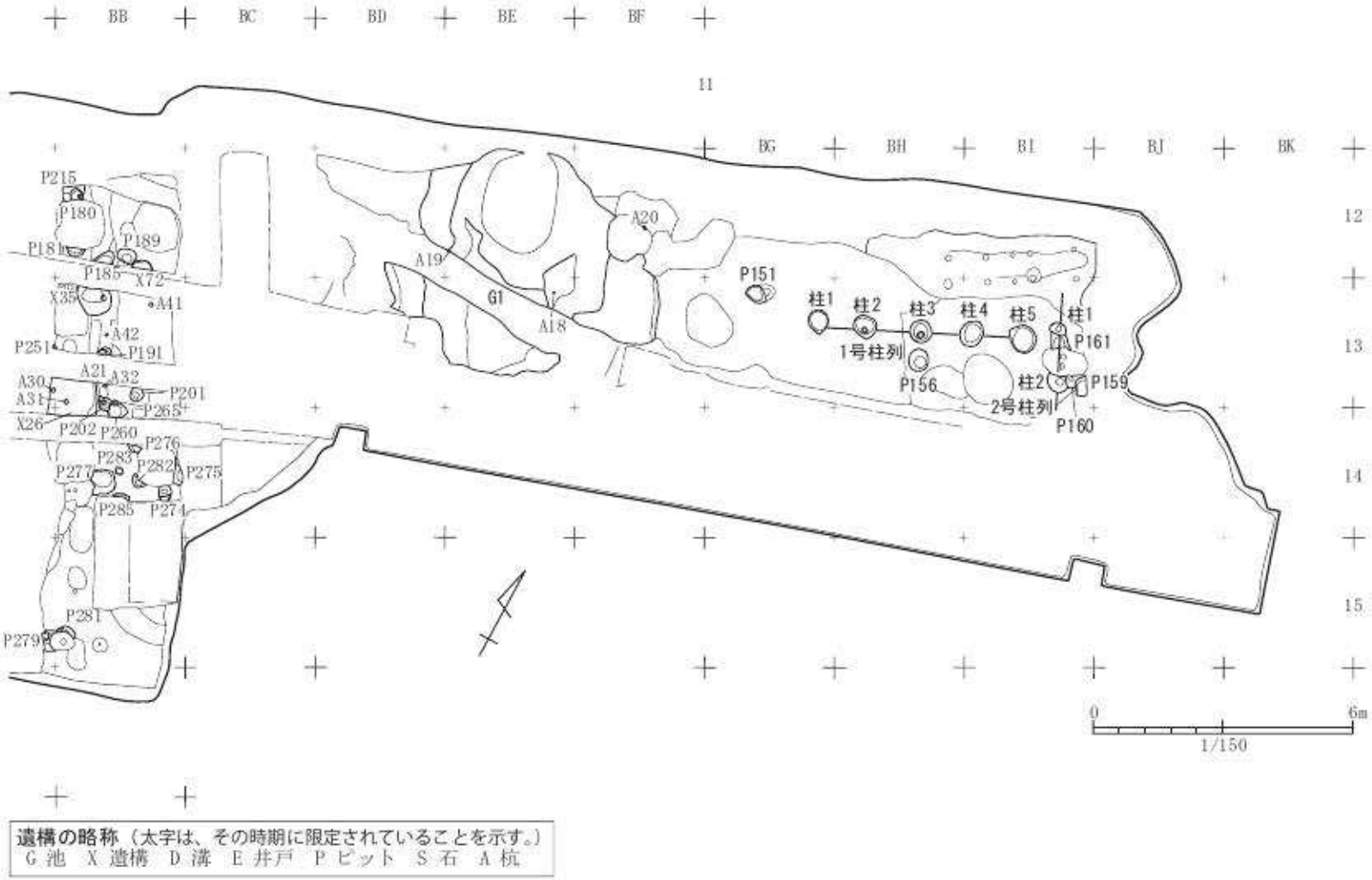


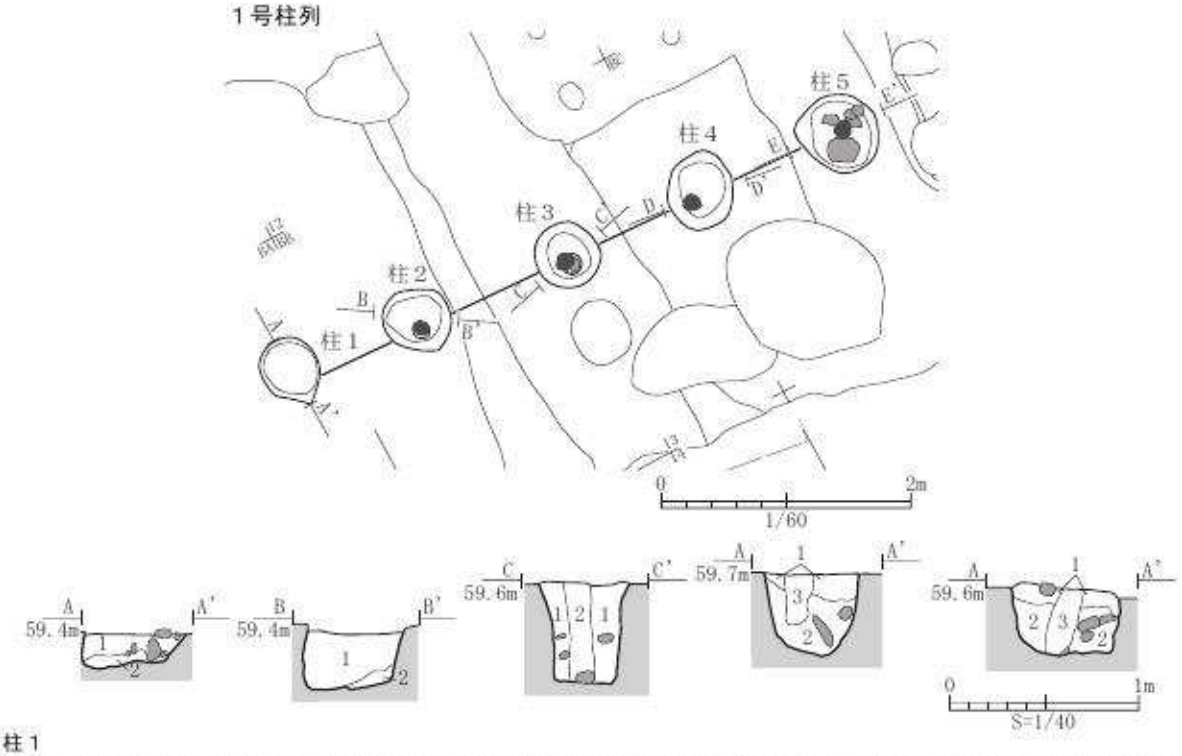
図50　1～6（西）区Ⅱb期遺構配置図

Fig. 50 The Distribution of features of area 1-6(west) belonging to phase Ⅱb

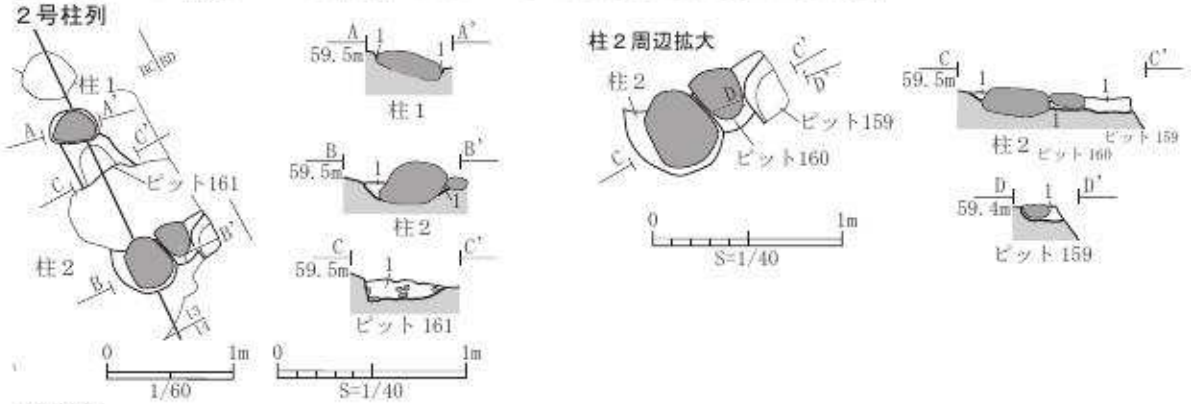


遺構の略称（太字は、その時期に限定されていることを示す。）
G 池　X 遺構　D 溝　E 井戸　P ピット　S 石　A 杭

図51　6（東）・7区Ⅱb期遺構配置図
Fig.51 The Distribution of features of area 6(east)･7 belonging to phase Ⅱb

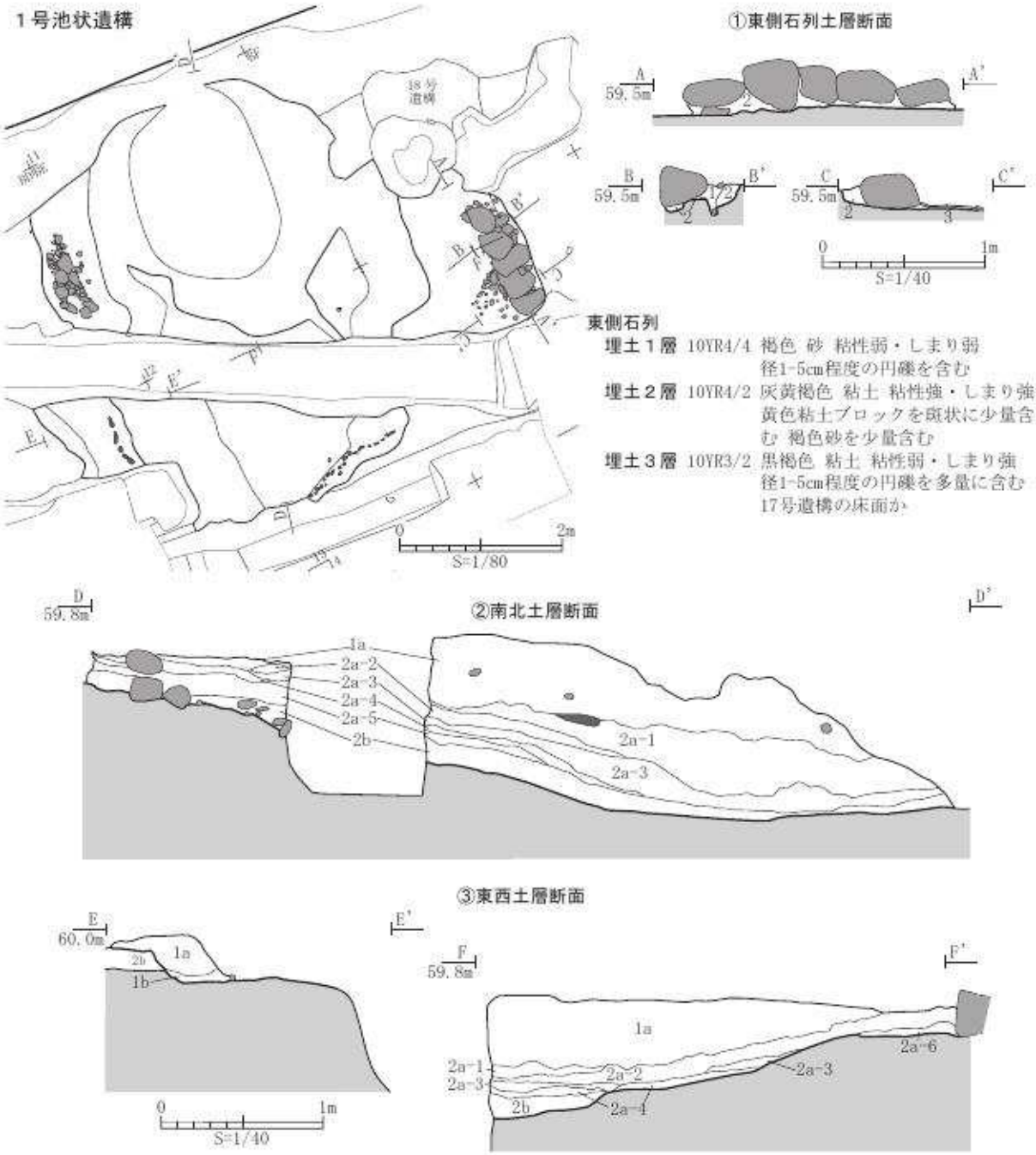


柱１
　埋土１層　10YR3/3暗褐色　シルト　粘性弱・しまり中　径1-3㎜の白色土粒を多く含む　径1-15㎝程度の円礫を含む　炭化物を多量に含む
　埋土２層　10YR2/1黒色　シルト　粘性弱・しまり弱　径1-3㎜の炭化物を少量含む
柱２
　埋土１層　10YR4/2灰黄褐色　シルト　粘性弱・しまり中　径1㎝程度の炭化物を多く含む　白色土粒、鉄分を含む
　埋土２層　10YR6/4にぶい黄橙色　粘土　粘性強・しまり中　径2㎝程度の炭化物、黒褐色土を含む
柱３
　埋土１層　2.5Y4/2暗灰黄色　粘土質シルト　粘性中・しまり弱　径5㎜程度の炭化物、鉄分を含む
　埋土２層　10YR3/2黒褐色　粘土質シルト　粘性中・しまりなし　柱痕跡
柱４
　埋土１層　10YR4/3にぶい黄褐色　シルト　粘性中・しまり中　白色・黄色土粒を含む　鉄分を多く含む
　埋土２層　10YR4/2灰黄褐色　粘土　粘性強・しまり強　拳大の礫を僅かに含む
　埋土３層　7.5YR3/2黒褐色　粘土質シルト　粘性中・しまり弱　柱痕跡
柱５
　埋土１層　10YR4/2灰黄褐色　シルト　粘性中・しまり中　径1㎝程度の炭化物を僅かに含む　鉄分を多く含む
　埋土２層　10YR4/2灰黄褐色　粘土質シルト　粘性中・しまり中　径5㎜程度の炭化物を僅かに含む　拳大の礫を含む
　埋土３層　10YR3/3暗褐色　シルト　粘性弱・しまりほぼなし　底面近くは粘土質になる　柱痕跡



２号柱列
　柱１　埋土１層　10YR3/3暗褐色　シルト　粘性中・しまり中
　柱２　埋土１層　10YR3/3暗褐色　シルト　粘性中・しまり中　径5㎜程度の炭化物、白色・黄色土粒を僅かに含む
ピット159
　埋土１層　10YR4/3にぶい黄褐色　シルト　粘性弱・しまり中　径5㎜程度の炭化物、鉄分、白色・黄色土粒を僅かに含む
ピット160
　埋土１層　10YR4/3にぶい黄褐色　シルト　粘性弱・しまり中　径5㎜程度の炭化物を僅かに含む
ピット161
　埋土１層　7.5YR4/2灰褐色　シルト　粘性弱・しまり中　径3-5㎜の炭化物、径2-3㎝の小礫を僅かに含む

図52　Ⅱb期の遺構（1）
Fig.52 Features belonging to phase Ⅱb(1)



埋土1a層 10YR7/1 灰白色 粘土質シルト 粘性弱・しまり強 径1-3mm前後の粘土粒を多量に含む 炭化物を少量含む 径2-8cm前後の礫を少量含む 全体的にマンガンを含む

埋土1b層 10YR6/1 褐灰色 粘土質シルト 粘性弱・しまり強 埋土１層と似るが礫、白色粘土粒を含まない 炭化物を微量に含む 全体的にマンガンを含む

埋土2a-1層 10YR7/1 灰白色 粘土質シルト 粘性やや強 全体的にマンガンを含む

埋土2a-2層 10YR6/1 褐灰色 砂質シルト 粘性なし・しまり中 黄褐色の砂を少量含む マンガンを全体的に含む

埋土2a-3層 10YR5/1 褐灰色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 マンガンを全体的に少量含む

埋土2a-4層 10YR4/1 褐灰色 粘土質シルト 粘性弱・しまり強 2a-3層によく似るが若干砂質

埋土2a-5層 10YR5/1 褐灰色 砂質シルト 粘性弱・しまり強 上部は黄褐色の砂を多く含む マンガンを全体的に多く含む 下部は粘質土で砂を少量含む

埋土2a-6層 10YR4/1 褐灰色 粘土質シルト(やや砂質) 粘性中・しまり弱 炭化物を少量含む 酸化した黄褐色の砂層を少量含む 2a-4層に対応する可能性あり

埋土2b層 10YR6/1 褐灰色 砂質土 粘性弱・しまり弱 炭化物を少量含む 特に2a-5層との境に径2-3cmの礫を多く含む その下には径1-2cmの小礫を含む 全体的にマンガンを含む 砂を主体とするラミナ層を複数含む

図53　Ⅱb期の遺構（２）

Fig. 53 Features belonging to phase Ⅱb(2)

一間の寸法は４尺で、軸角度は116.4（26.4）度西偏する。本遺構の上部には基本層2a-2層があり、基本層2b層上面で検出した。３号溝（Ⅰ期）・５号溝（Ⅱa期）より新しい。重複・層序関係、出土遺物からⅡb期（18世紀後半～19世紀初頭）に位置づけた。なお、柱３の南側に位置するピット156も、その形状などから一連のものである可能性が高い。

【２号柱列】（図52） BI-13区に位置し、礎石が確認できた柱穴２基で認定した柱列である。一間の寸法は４尺である。柱２の東側に続く礫（ピット160）も一連のものと推定できるが、遺存状況が悪くその詳細は不明である。その場合、さらに東側に位置するピット159は、礎石の抜き取り痕跡と考えられる。また、柱１の南側にあるピット161は、布掘りの一部あるいは礎石抜き取り痕跡である可能性もあるが、判断できない。

本柱列は、５号溝（Ⅱa期）より新しい。層序・重複関係も１号柱列とほぼ同様なので、当初１号柱列と接続する可能性も想定したが、きれいに接続できない。柱穴からの出土遺物や層序関係等から、Ⅱb期（18世紀後半～19世紀初頭）に時期比定した。

【１号池状遺構】（図53・54） BD-12・13、BE-11～13、BF-12・13区に位置する大型の池状遺構である。３号池状遺構（Ⅰ期）・４号池状遺構（Ⅱa期）の上位に位置する。これらの池が埋没した後、改めて構築された池である。東側に石積みが確認できた（図53-①）。西側にも同様の石列があったものと考えられるが、その大体は崩落している（図54-①）。この西側の石に関しては、３号池状遺構の項にて触れたように、より古い３号池状遺構の段階に属するとも考えられる。しかし、石を用いた区画あるいは護岸ということからすると、それが明確に確認されている本遺構に属する可能性が高い。また、南側にも崩落した石を多数確認している（図54-①）。この近辺にも、南側を区切る石列があった可能性が高いが、その正確な位置は不明である。

石積みの下部あるいは存在していたと推定される場所に、列状に並ぶ小穴が多数確認できた。当初は杭列のような遺構を想定したが、その痕跡は不整形であり、内部で繋がるものもあることから、木痕であると判断した。しかし、列状に連なっており、土留め遺構の一部である可能性も想定して記録を作成した（図54-②）。

埋土は大きく２層に分かれる。１層は粘度ブロックなどが多量に混ざることから、本遺構を埋め戻した土壌と考えた。２層は粘土質シルトを主体とする2a層と、砂礫が主体の2b層に分かれる。2b層が最下層となる。2a層には砂がラミナ状にかなり多く混じる層もあり、このあり方から更に１～６層に細分した。このような２層の堆積

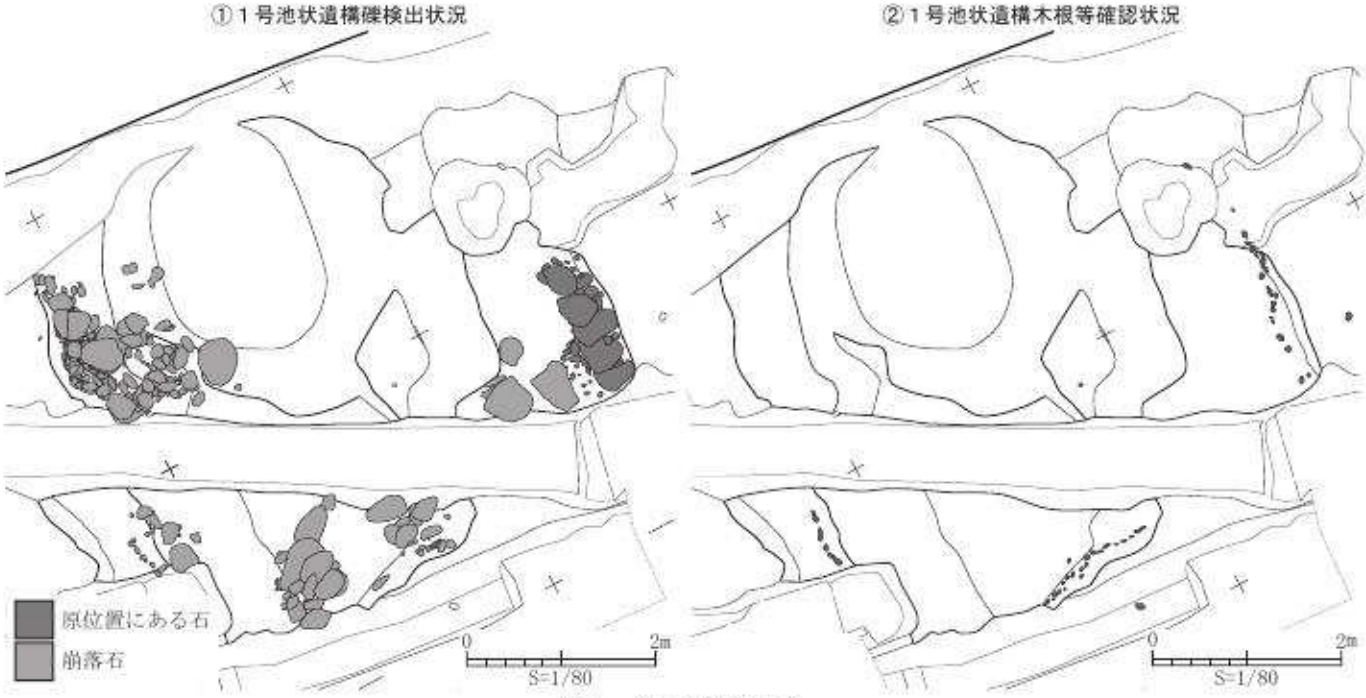
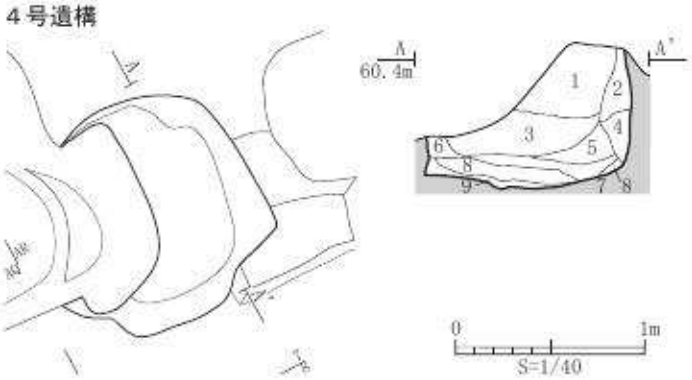


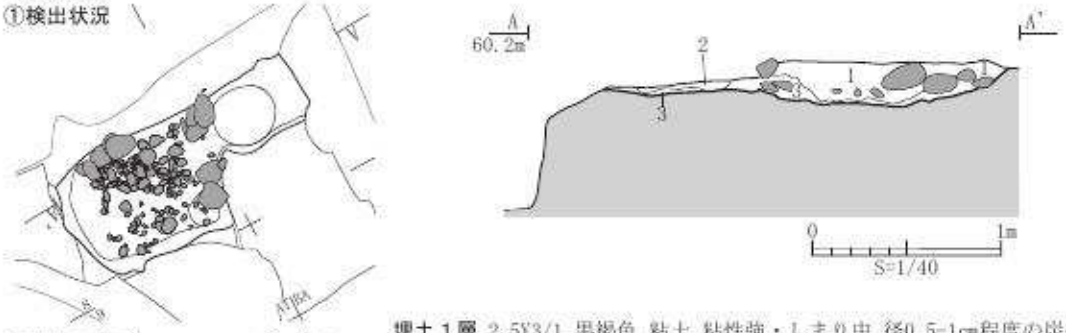
図54　Ⅱb期の遺構（３）
Fig.54 Features belonging to phase Ⅱb(3)

４号遺構



埋土１層 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり中 径0.5-1cm程度の炭化物を含む 径2-3cm程度の礫を僅かに含む 鉄分、白色・黄色土粒を含む
埋土２層 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 白色・黄色土粒、パミス、褐灰色土粘土ブロックを含む 径2mm程度の炭化物を僅かに含む
埋土３層 10YR3/1 黒褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり弱 径5mm程度の炭化物を多く含む 鉄分を含む 径2-3cm程度の礫、灰オリーブ色粘土小ブロックを僅かに含む
埋土４層 10YR5/6 黄褐色 粘土 粘性強・しまり中 黒褐色土小ブロックを僅かに含む 白色・黄色土粒を極僅かに含む
埋土５層 2.5Y3/1 黒褐色 粘土 粘性強・しまり弱 埋土下部に砂の層を含む 径5mm程度の炭化物を僅かに含む
埋土６層 10YR3/3 暗褐色 粘土 粘性強・しまり中 にぶい黄橙土粘土ブロックを含む 白色・黄色土粒、鉄分を僅かに含む
埋土７層 径2-5mm程度の炭の層 鉄分を僅かに含む
埋土８層 2.5Y3/1 黒褐色 粘土 粘性強・しまり弱 木質などの有機質を多量に含む
埋土９層 7.5Y5/1 灰色 粘土 粘性強・しまり中 オリーブ黒色粘土小ブロックを僅かに含む 白色土粒、鉄分を含む

13号遺構
①検出状況



②掘除去状況

埋土１層 2.5Y3/1 黒褐色 粘土 粘性強・しまり中 径0.5-1cm程度の炭化物、白色・黄色土粒を僅かに含む 明黄褐色粘土ブロックを極僅かに含む 握り拳大から人頭大の礫を含む
埋土２層 2.5Y6/3 にぶい黄色 砂 粘性なし・しまり中 白色・黄色土粒を含む 径5mm程度の炭化物を僅かに含む
埋土３層 2.5Y3/1 黒褐色 粘土 粘性強・しまり強 白色・黄色土粒、鉄分、径3-5mm程度の炭化物を含む 明黄褐色粘土小ブロックを斑に含む 握り拳大の礫を僅かに含む

図55　Ⅱb期の遺構（４）
Fig. 55 Features belonging to phase Ⅱb(4)

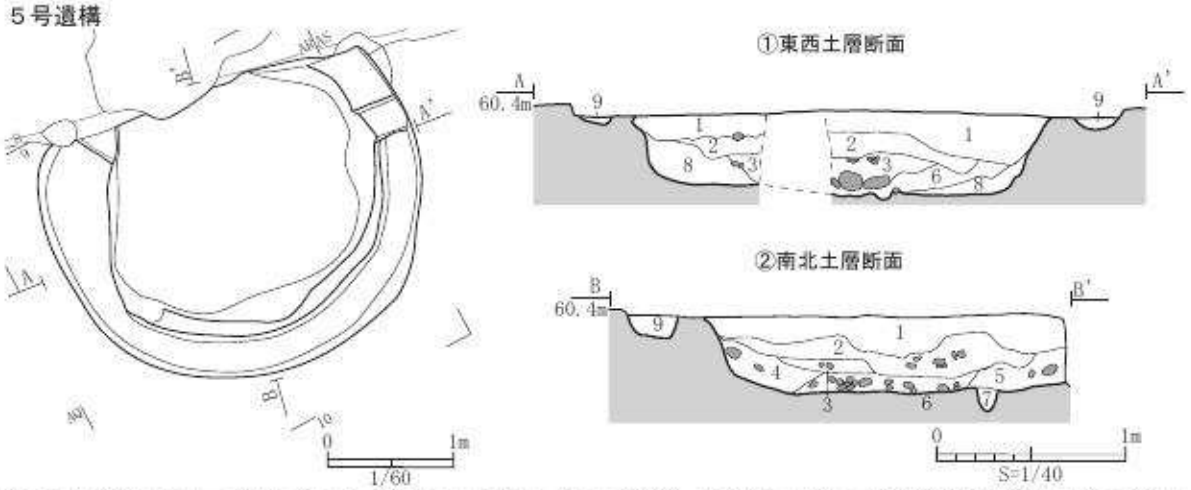
状況は、BK16地点（『調査報告』５）の堀（新段階）で認められた堆積状況と類似する。

埋土からは多数の遺物が確認されているが、近代以降の撹乱も多いため、そちらからの混入も多いようである。１層からは19世紀中葉～後葉の磁器が見つかっている。そして、2b層では18世紀～19世紀前半程の陶磁器が確認されている。重複関係やそれらの出土遺物の状況から、Ⅱb期（18世紀中葉）に時期を比定した。本遺構は、Ⅲ期以降、近代頃には埋められたと考えられる。

【４号遺構】（図55） AR-７区に位置し、そのほとんどが撹乱によって破壊されている。壁は垂直に立ち上がり、残存部位からすると円形に近い遺構であったと推測できる。埋土は９層に細分できる。その中には炭化物を多量に含む層なども見受けられる。埋土下方の出土遺物から、Ⅱb期（18世紀末葉～19世紀初頭）に位置づけた。

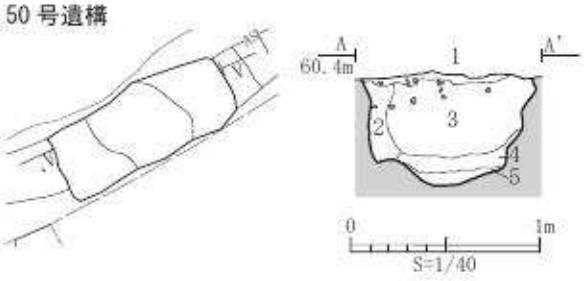
【13号遺構】（図55） AT・BA-８区に位置する、長方形を呈すると考えられる底の浅い遺構である。礫が多数含まれている。周辺には、類似する68号遺構（Ⅰ～Ⅱb期）・69号遺構（Ⅱa～Ⅱb期）が存在する。埋土１層出

5号遺構



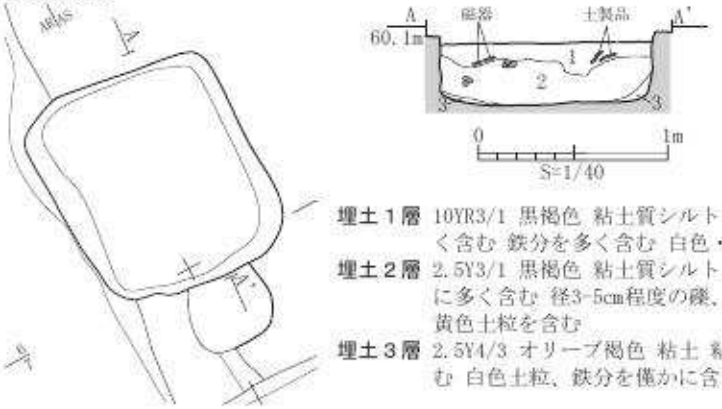
埋土１層 5Y3/2 オリーブ黒色 シルト 粘性弱・しまり中 オリーブ黄色、黄褐色土小ブロックを斑に多く含む 白色・黄色土粒を多く含む 径5mm程度の炭化物、1-3cm程度の礫を含む
埋土２層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 粘性中・しまり中 白色・黄色土粒 径0.5-1cm程度の炭化物を含む 径3-5cm程度の礫を部分的に含む 灰黄褐色粘土小ブロックを僅かに含む
埋土３層 2.5Y4/1 黄灰色 砂質シルト 粘性弱・しまり弱 白色土粒、径3-5cm程度の礫を含む
埋土４層 2.5Y3/1 黒褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり中 灰オリーブ色粘土ブロック、黄褐色粘土ブロックを斑に含む 白色・黄色土粒を含む 径3cm-握り拳大の礫を僅かに含む
埋土５層 5Y2/1 黒色 粘土 粘性強・しまり中 径3cm-握り拳大の礫を多く含む 白色・黄色土粒を含む
埋土６層 5Y3/1 オリーブ黒色 粘土質シルト 粘性中・しまり強 黄褐色土、灰オリーブ色粘土ブロックを斑に含む 径2cm-握り拳大の礫を僅かに含む 白色・黄色土粒を含む
埋土７層 5Y3/1 オリーブ黒色 砂質シルト 粘性弱・しまり中 径3-5cm程度の礫、黄色・白色土粒を僅かに含む
埋土８層 5Y4/1 灰色 粘土 粘性やや強・しまり中 灰オリーブ色粘土小ブロック、鉄分を含む 白色土粒を僅かに含む
埋土９層 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 径5mm程度の炭化物、白色・黄色土粒、鉄分を含む にぶい黄橙土を一部に含む

50 号遺構



埋土１層 10YR4/1 褐灰色 砂質シルト 粘性弱・しまり強 径1-5cmの炭化物、径1-3cmの円礫を多く含む 褐色砂をまばらに含む
埋土２層 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性弱・しまり強 空隙が認められる 下部には黄色粘土ブロックを少量含む
埋土３層 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり強 径1-3cm程度の黄色粘土ブロックを斑状に含む 炭化物を少量含む 下部には粘土分が強くなる
埋土４層 10YR3/4 暗褐色 粘土 粘性中・しまり強 白色土粒を少量含む 下部には黄色粘土ブロックを少量含む
埋土５層 10YR5/4 にぶい黄褐色 粘土 粘性強・しまり中 大きめの炭化物が混じる 基本層3b層の崩落土か

65 号遺構



埋土１層 10YR3/1 黒褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 径1cm程度の炭化物をやや多く含む 鉄分を多く含む 白色・黄色、遺物、径3-5cm程度の礫を含む
埋土２層 2.5Y3/1 黒褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 径1-2cm程度の炭化物を非常に多く含む 径3-5cm程度の礫、灰オリーブ色粘土ブロックを僅かに含む 白色・黄色土粒を含む
埋土３層 2.5Y4/3 オリーブ褐色 粘土 粘性強・しまり中 黄灰色土小ブロックを僅かに含む 白色土粒、鉄分を僅かに含む

図56　Ⅱb～Ⅲ期の遺構
Fig.56 Features belonging to phase Ⅱb-Ⅲ

土磁器から、Ⅱb期（18世紀後半）に位置づけた。

（7）Ⅱb～Ⅲ期の遺構

【5号遺構】（図56） AR・AS-9区に位置する円形の遺構である。中央部は深く掘り込まれるが、その周縁部には浅い溝が巡る。中央部の埋土は8層に分かれる。いずれの層も小礫などが混ざる。周辺の重複関係を有する遺構の中で最も新しい。出土遺物には18～19世紀の陶磁器のほか、埋土1層からは近代の磁器等も確認されている。これらの遺物から、Ⅱb～Ⅲ期（19世紀～近代）に時期比定した。

【50号遺構】（図56） AS-13区に位置する基本層2a-2層上面で確認した遺構であるが、その南北両端を撹乱によって破壊されている。埋土はシルト・粘土層が主体となり5層に分かれる。最上層の埋土1層から18～19世紀の磁器が出土している。検出層位と出土遺物から、本遺構をⅡb～Ⅲ期（19世紀）に時期比定した。

【65号遺構】（図56） AR・AS-6・7区に位置し、壁はほぼ垂直に立ち上がる箱型の遺構である。埋土は上下に分かれる。その内下部の埋土2層出土陶器から、Ⅱb～Ⅲ期（18世紀末葉～19世紀中葉）の時期に比定した。

（8）Ⅲ期の遺構（図57・58）

【6号建物】（図59） AR～AT-12・13区に位置する、柱穴8基で構成される0.5×3間の建物である。柱6・7・8の南側3基のピットはかなり深さがある。その柱穴の大きさから、より大きな建物であったことが推定できるが、周辺は撹乱等著しく、他のピットと組むことができなかった。軸角度は24.6度西偏し、一間の寸法は6尺3寸である。時期を決めることができるような出土遺物はない。基本層2a-2層を掘込面としている。重複関係では同じⅢ期の6号溝（19世紀前葉～中葉）より古いことから、本遺構の時期をⅢ期（19世紀前葉～中葉）とした。

【9号柱列】（図60） AP～AR-14区に位置する、柱穴3基で組んだ3間の柱列である。軸角度は116.7（26.7）度西偏していることになる。16号遺構の埋土最上面を検出面として柱2・3が構築されている。時期を比定できる遺物は出土していないが、重複関係からⅢ期（19世紀前葉～近代）の時期に位置づけた。

【2号遺構】（図61） AP・AQ-9区に位置する、径1.4m程の円形の遺構である。壁は緩やかに立ち上がる。中央部に礫や木材を廃棄している。埋土は4層に分かれ、そのうち下方の埋土3層出土陶器から、Ⅲ期（19世紀前葉～中葉）に時期を比定できる。

【14号遺構】（図61） AS・AT-8区に位置する楕円形と推定される遺構である。その多くは、米軍期の共同溝等の撹乱により破壊されている。埋土は7層に分かれる。中央部の1・2層は黒色土を多く含み、礫等を含む。出土磁器より、Ⅲ期（19世紀中葉～後葉）に位置づけた。

【20号遺構】（図61） BH・BI-13区の位置する楕円形の遺構である。基本層2a-2層上面で検出した。21号遺構・5号溝より新しい。埋土は上中下の3層に区分できる。そのうち埋土3層から近代の磁器が出土している。このことから、Ⅲ期（近代）に位置づけた。

【21号遺構】（図61） BH・BI-13区に位置し、20号遺構より古い楕円形の遺構である。基本層2a-2層上面で検出した。隣接20号遺構に比べ浅い。埋土は2層に分かれる。埋土1層出土陶器から、Ⅲ期（19世紀前葉～中葉）に位置づけた。

【23号遺構】（図62） BA・BB-13区に位置し、基本層2a-2層上面で検出した。皿状に浅く窪む遺構である。埋土は2層に分かれる。重複関係は、10号柱列（1期）、35号遺構（Ⅰ～Ⅱb期）より新しい。検出層位や埋土1層出土磁器・陶器から、Ⅲ期（19世紀前葉以後）に位置づけた。

【25号遺構】（図62） BB-13・14区に位置し、基本層2a-2層上面で検出した。壁面が内弯する遺構である。北・東側は撹乱により破壊されている。埋土は3層確認できた。検出層位や埋土出土磁器・陶器から、Ⅲ期（19世紀前葉?）に位置づけた。

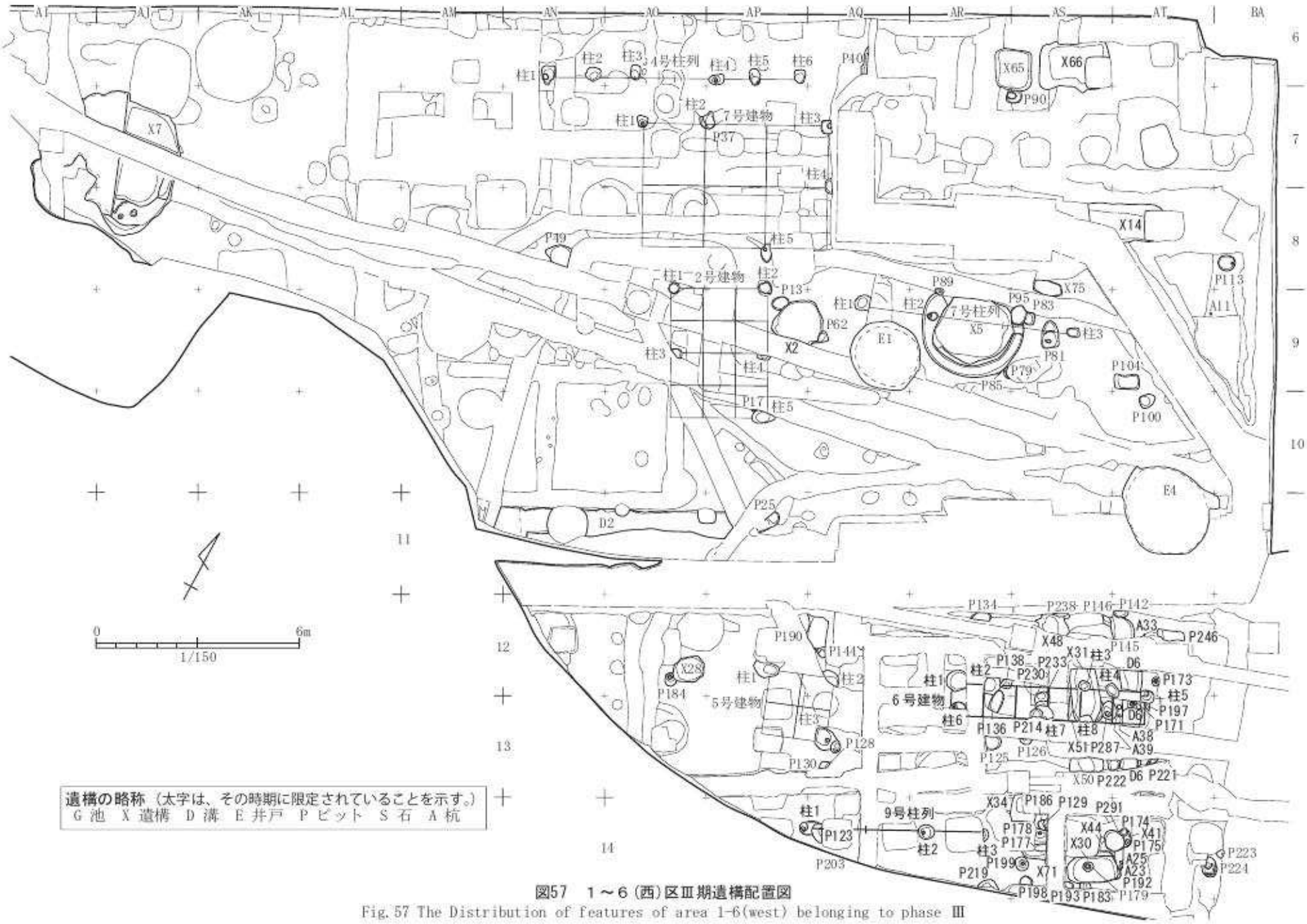
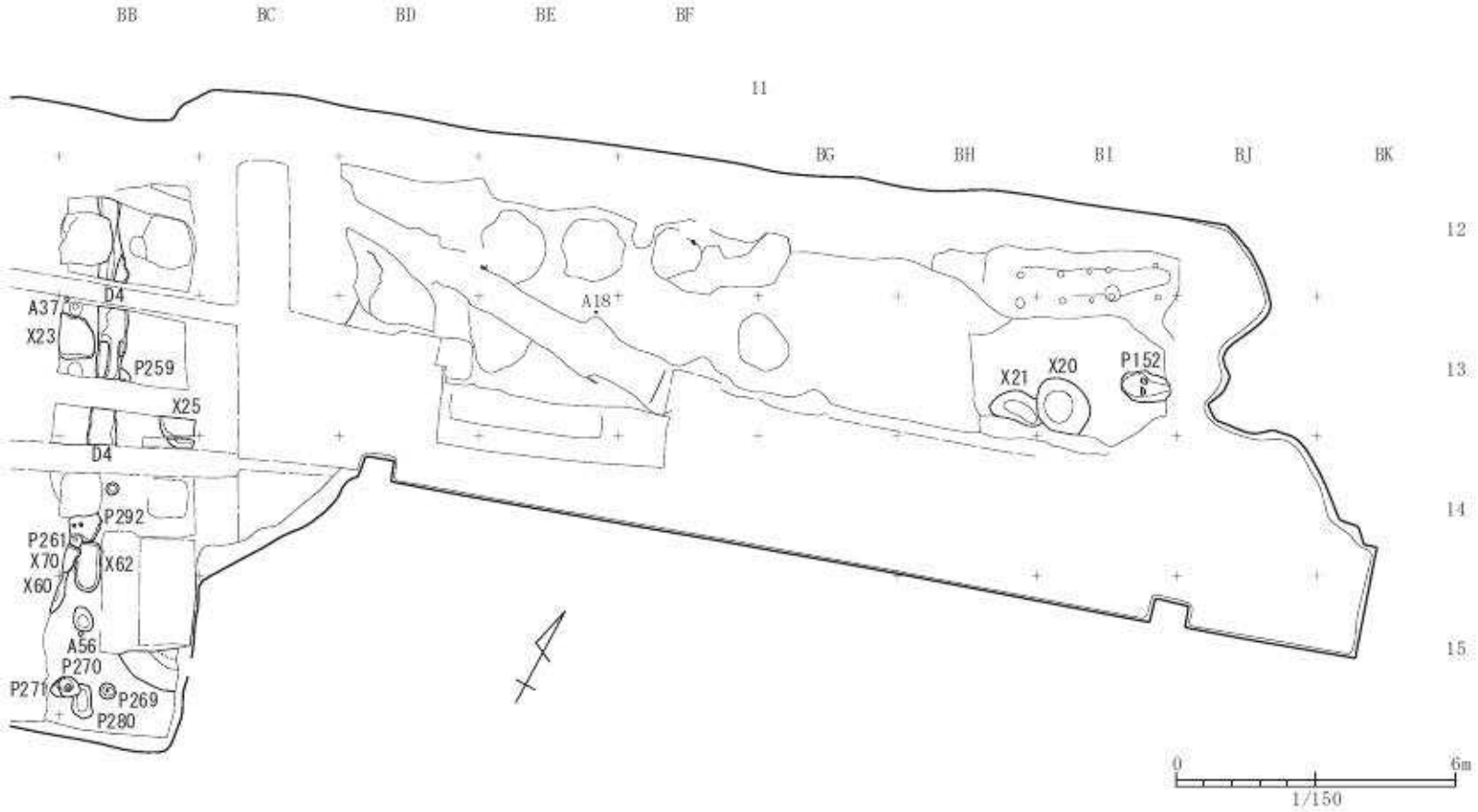


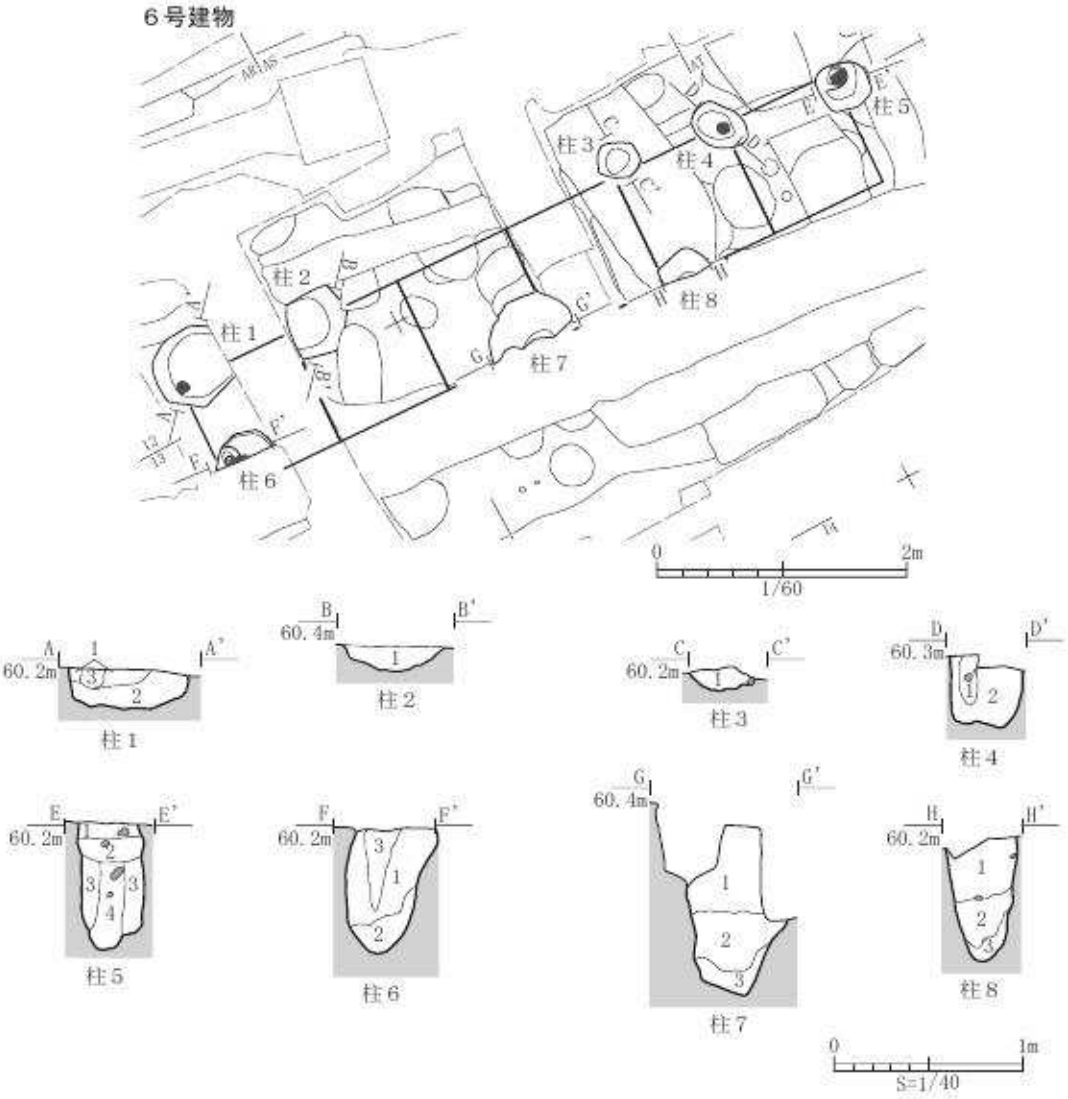
図57　1～6（西）区Ⅲ期遺構配置図

Fig. 57 The Distribution of features of area 1-6(west) belonging to phase Ⅲ



遺構の略称（太字は、その時期に限定されていることを示す。）
G 池　X 遺構　D 溝　E 井戸　P ピット　S 石　A 杭

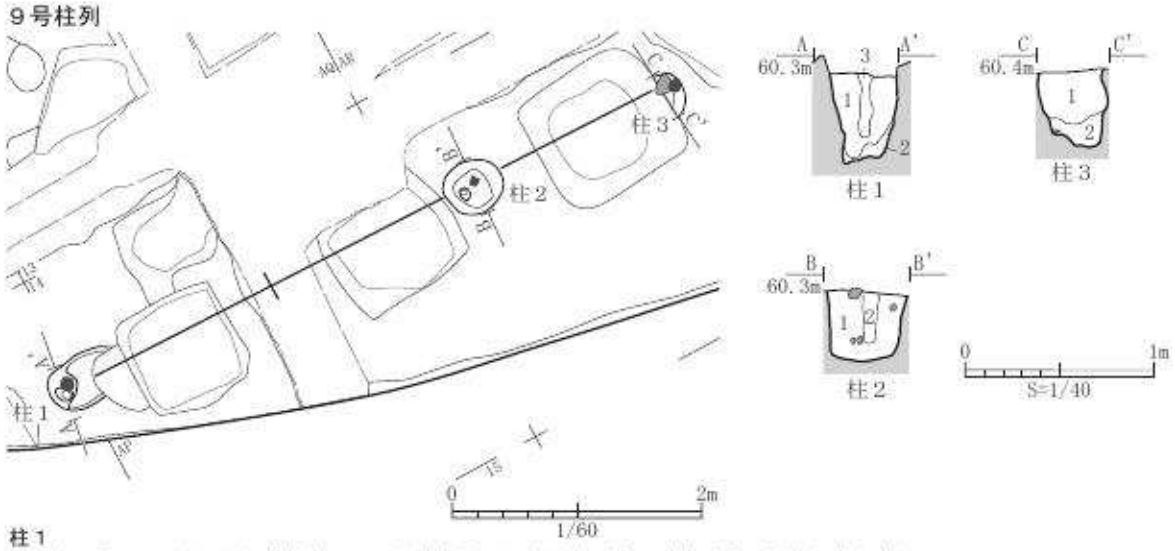
図58　6（東）・7区Ⅲ期遺構配置図
Fig. 58 The Distribution of features of area 6(east)･7 belonging to phase Ⅲ



柱１
　埋土１層 10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 白色土粒、鉄分、マンガン、径1-3㎜の炭化物を含む
　埋土２層 10YR4/3にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 黄褐色粘土小ブロック、鉄分を含む
　埋土３層 10YR4/2灰黄褐色 粘土 粘性中・しまり中 明黄褐色粘土小ブロック、径1㎜程度の炭化物、白色土粒を僅かに含む
柱２
　埋土１層 10YR4/3にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 褐色土を斑状に含む 白色・黄色土粒、炭化物、鉄分を僅かに含む
　埋土２層 2.5Y3/2黒褐色 シルト 粘性弱・しまり中 径1cm程度の炭化物を僅かに含む 白色・赤色土粒を僅かに含む
柱３
　埋土１層 10YR4/2灰黄褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり強 径0.5-3cm程度の黄色粘土ブロックを斑状に含む 径1-2㎜の黄色土粒を多く含む
柱４
　埋土１層 10YR3/2黒褐色 シルト 粘性中・しまり強 黄色粘土ブロックを斑状にやや多く含む 下部の方に灰褐色土が多く混じる
　埋土２層 10YR4/4褐色 シルト 粘性中・しまり強 径1-3cm程度の炭化物をやや多く含む 径1-3cm程度の円礫を少量含む 柱痕跡
柱５
　埋土１層 5Y5/1灰色 シルト 粘性弱・しまり弱 全体的にマンガンを含む 径2-3㎜の炭化物を少量含む パミスを少量含む
　埋土２層 5Y4/灰色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 径10㎜前後の白色粘土ブロック、黄色粘土ブロックを中量含む 径5㎜前後の炭化物を中量含む パミスを中量含む
　埋土３層 5Y4/1灰色 粘土質シルト 粘性強・しまり弱 径15㎜の小礫を少量含む 径0.5-1cmの黄色粘土粒を中量含む 炭化物を多量に含む
　埋土４層 5Y3/1オリーブ黒色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 径1-2㎜の炭化物を少量含む パミスを中量含む 柱痕跡
柱６
　埋土１層 10YR5/4にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 明黄褐色粘土ブロック、白色土粒、パミス、鉄分、マンガンを多く含む
　埋土２層 10YR4/2灰黄褐色 粘土 粘性強・しまり中 径1cm程度の炭化物、白色土粒、パミスを僅かに含む
　埋土３層 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中・しまり中 灰黄褐色土、明黄褐色土、褐色土を斑状に含む 炭化物、パミスを僅かに含む 柱痕跡
柱７
　埋土１層 10YR5/2灰黄褐色 シルト 粘性中・しまり強 径1-5cm程度の黄色粘土ブロックを斑状にやや含む 酸化鉄を斑状に含む
　埋土２層 10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性中・しまり強 径1-2㎜程度の白色土粒をやや多く含む 黄色粘土ブロックを斑状に少量含む
　埋土３層 10YR4/3にぶい黄褐色 粘土 粘性強・しまり弱 黄色粘土ブロックを多く含む
柱８
　埋土１層 10YR5/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり強 黄色粘土ブロックを斑状に少量含む 径1cm程度の礫、炭化物を少量含む
　埋土２層 10YR3/4暗褐色 粘土 粘性弱・しまり強 径1-3cmの黒色粘土を斑状に多く含む 径5㎜程度の礫を少量含む
　埋土３層 10YR5/4にぶい黄褐色 粘土 粘性中・しまり強 灰色の粘土ブロックを僅かに斑状に含む

図59　Ⅲ期の遺構（１）

Fig.59 Features belonging to phase Ⅲ(1)



柱１
埋土１層 10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり強 白色・黄色土粒、鉄分を多く含む
埋土２層 10YR5/4にぶい黄褐色 粘土 粘性中・しまり弱 黒色シルト質土を斑状に含む 径１㎜程度の白色土粒を多く含む
埋土３層 10YR4/3にぶい黄褐色 粘土 粘性強・しまり極めて弱 鉄分を含む 柱痕跡

柱２
埋土１層 10YR4/4褐色 シルト 粘性弱・しまり弱 径1cm程度の炭化物を少量含む 褐色砂を少量含む
埋土２層 10YR4/6褐色 粘土 粘性中・しまり強 径1-5cm程度の礫を少量含む 径3㎜程度の白色土粒を含む 柱痕跡

柱３
埋土１層 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱・しまり強 褐色シルト土を斑状に含む 径2-5㎜の小礫を含む
埋土２層 10YR4/3にぶい黄褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり強 黄色粘土ブロックを多く含む 酸化鉄粒を多く含む

図60　Ⅲ期の遺構（２）
Fig.60 Features belonging to phase Ⅲ(2)

【30号遺構】（図62） AS・AT-14区に位置し、基本層2a-2層上面で検出した長方形の遺構である。埋土は４層あり、最下層の埋土４層出土磁器・陶器と検出層位から、Ⅲ期（19世紀前葉）に位置づけた。

【44号遺構】（図62） AS-14区に位置し、撹乱や30号遺構等に破壊される。基本層2a-2層上面で検出した。深さはあまりなく、埋土は２層のみである。検出層位、重複関係から、Ⅲ期（19世紀前葉）に位置づけた。

【31号遺構】（図62） AS-12・13区に位置し、基本層2a-2層上面で検出した楕円形の遺構である。埋土は５層確認した。そのいずれの土層にも炭化物、焼土等を含む。溝の可能性もあるが、南端側が収斂する形状から遺構と判断した。最下層の埋土５層出土陶器から、Ⅲ期（19世紀前葉～中葉）に位置づけた。

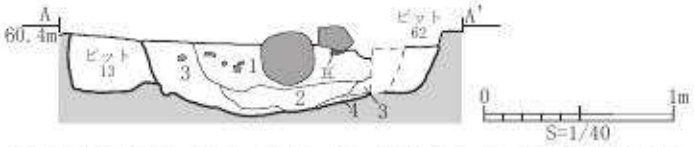
【34号遺構】（図63） AR・AS-14区に位置し、基本層2a-2層で検出した。そのほとんどを撹乱等により破壊されている。壁は緩やかに立ち上がり、長方形を呈していたようである。埋土は７層確認できている。ほとんどの層で、炭化物や灰を含んでいる。特に下方の６層では、灰が層状に含まれる。時期を比定できる遺物はないが、検出層位からⅢ期（19世紀前葉以後）に位置づけた。

【41号遺構】（図63） AT-14区に位置し、基本層2a-2層で検出した楕円形の遺構である。壁はやや垂直気味に立ち上がり箱状を呈する。埋土は３枚確認できた。遺物は出土していない。検出層位から、Ⅲ期（19世紀前葉以後）に位置づけた。

【48号遺構】（図63） AS-12区に位置する不整形な遺構である。埋土は４層確認した。埋土最上層の１層では、炭化物や小礫を多量に含んでいる。それ以下の層は、粘土が主体となる。埋土３層出土陶器から、Ⅲ期（19世紀中葉）に位置づけた。

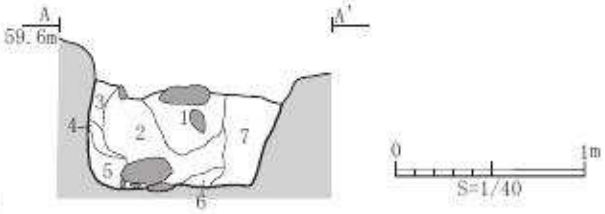
【51号遺構】（図63） AS-12･13区に位置し、基本層2a-2層上面で検出した。31号遺構の下に位置する遺構である。中央部はその31号遺構に、南北端は撹乱によって破壊されており、部分的にしか残っていない。検出層位と埋土１層出土陶器から、Ⅲ期（19世紀前葉～中葉）に位置づけた。

2号遺構



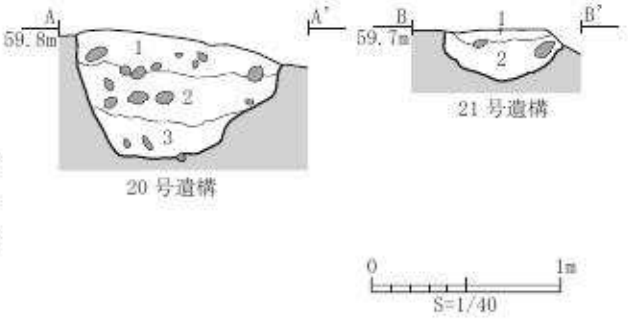
埋土１層 2.5Y4/4 オリーブ褐色 シルト 粘性中・しまり中 白色土粒を含む 浅黄色粘土ブロックを全体に斑に含む 黄色土粒を極僅かに含む 径3-5cm程度の礫を僅かに含む
埋土２層 10YR6/6 明黄褐色 粘土 粘性強・しまり中 褐灰色土ブロックを僅かに含む 白色土粒を極僅かに含む 鉄分をやや多く含む
埋土３層 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 明黄褐色粘土ブロックを斑に含む 白色・黄色土粒を含む
埋土４層 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 白色土粒を極僅かに含む

14号遺構



埋土１層 2.5Y3/2 黒褐色 粘土 粘性強・しまり中 オリーブ灰色粘土ブロックを斑に含む 白色土粒、径3cm-人頭大の礫を含む
埋土２層 2.5Y3/1 黒褐色 粘土 粘性強・しまり弱 径5mm程度の炭化物を含む 黄褐色粘土小ブロック、灰オリーブ色粘土小ブロックを僅かに含む 礫、白色・黄色土粒を極僅かに含む
埋土３層 10Y5/2オリーブ 灰色 粘土 粘性強・しまり中 黒褐色粘土ブロックを含む
埋土４層 2.5Y2/1 黒色 粘土 粘性強・しまり弱 木質等の有機質を含む
埋土５層 10Y4/2 オリーブ灰色 粘土 粘性強・しまり中 灰色粘土ブロックを含む
埋土６層 5Y3/1 オリーブ黒色 砂質シルト 粘性中・しまり中 礫を僅かに含む オリーブ灰色粘土ブロックを含む
埋土７層 10Y5/2 オリーブ灰色 粘土 粘性強・しまり強 白色・黄色土粒を僅かに含む 灰色粘土ブロックを一部に含む

20・21号遺構

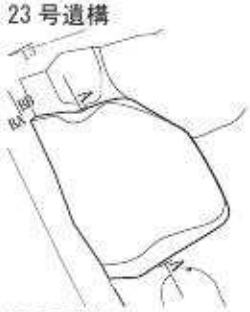


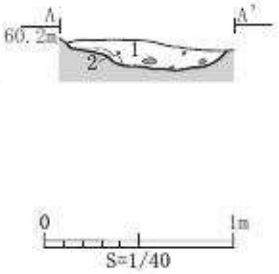
20号遺構
埋土１層 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性中・しまり中 明黄褐色土、褐灰色土を斑状に含む 径1-2cm程度の炭化物を僅かに含む 白色・黄色土粒、約3cm-拳大の礫を含む
埋土２層 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性中・しまり中 明黄褐色粘土ブロックを斑状に含む パミスをやや多く含む 拳大の礫を含む
埋土３層 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 黄褐色土小ブロック、径1cm程度の炭化物、径3-5cmの礫を極僅かに含む

21号遺構
埋土１層 10YR4/4 褐色 砂質シルト 粘性中・しまり中 明黄褐色粘土小ブロックを斑状に含む 径５mm程度の炭化物、褐灰色土を僅かに含む
埋土２層 10YR4/1 褐灰色 粘土 粘性強・しまり中 鉄分、径5mm程度の炭化物を僅かに含む

図61　Ⅲ期の遺構（３）
Fig.61 Features belonging to phase Ⅲ(3)

23 号遺構

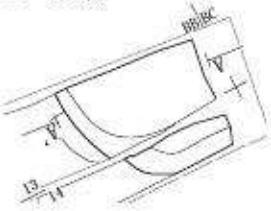


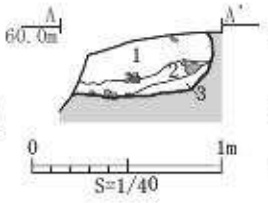


埋土１層 10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり強 径0.5-1cm程度の炭化物をやや多く含む 径1-5cmの円礫を少量含む

埋土２層 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり強 基本層2b層に類似する 径5mm程度の炭化物を少量含む

25 号遺構



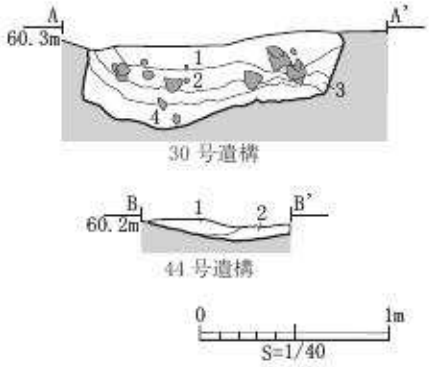


埋土１層 10YR3/3 暗褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり強 径1-3cm程度の円礫、径5mm程度の炭化物を少量含む 下部には遺物をやや多く含む

埋土２層 10YR2/3 黒褐色 粘土 粘性中・しまり中 径1-3cm程度の円礫、径1-2mm程度の炭化物を少量含む

埋土３層 10YR3/3 暗褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり強 径1mm程度の炭化物を少量含む

30・44 号遺構



30号遺構

埋土１層 7.5Y5/1 灰色 シルト質土 粘性なし・しまりなし 径5mm前後の炭化物を少量含む パミスを中量含む 径5-10cmの礫を少量含む

埋土２層 7.5Y4/1 灰色 シルト質土 粘性弱・しまり強 径2-3mmの炭化物を多量に含む 径5-10cmの礫を多量に含む 焼土粒を少量含む

埋土３層 7.5Y6/1 灰色 シルト質粘質土 粘性中・しまり強 部分的にラミナ層の砂質土が入る 炭化物を少量含む

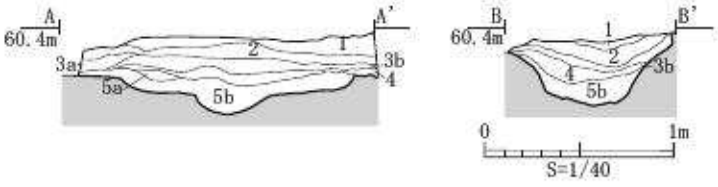
埋土４層 7.5Y5/1 灰色 シルト質土 粘性弱・しまり強 炭化物を中量含む 径2-3cmの小礫を少量含む

44号遺構

埋土１層 10YR6/1 褐灰色 シルト 粘性弱・しまり中 全体的にマンガンを含む 径2-3mmの白色粘土粒を多量に含む

埋土２層 10YR6/1 褐灰色 シルト 粘性弱・しまり強 径2-3mmの黄色粘土粒、炭化物を少量含む 灰様の土がラミナ状に入る

31 号遺構



埋土１層 10YR5/1 褐灰色 シルト質土 粘性なし・しまり強 径3-5cmの小礫、白色粘土粒を少量、炭化物を多量に含む

埋土２層 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質土 粘性なし・しまり強 埋土1層より粘土ブロックが多く、炭化物が多い

埋土3a・3b層 10YR5/2 灰黄褐色 シルト質粘質土 粘性なし・しまり強 径0.5-1cmの粘土ブロックを中量含む 焼土を含む 3b層は3a層より焼土粒が少ない

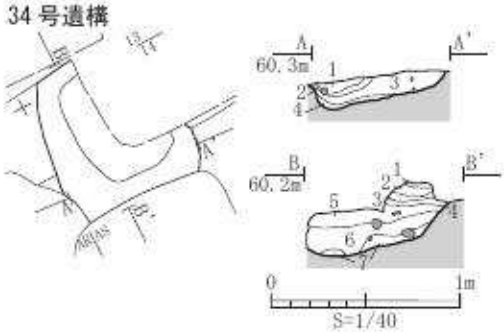
埋土４層 10YR1.7/1 黒色 炭層 粘性なし・しまりなし 中央が厚い

埋土5a・5b層 10YR4/1 褐灰色 シルト質粘質土 粘性弱・しまり強 黄褐色粘土ブロックを多く含む 径5mm前後の焼土粒を少量含む 5b層は5a層より黄褐色粘土の割合が少ない

図62　Ⅲ期の遺構（４）

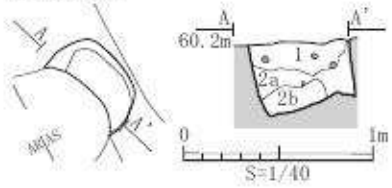
Fig.62 Features belonging to phase Ⅲ(4)

34 号遺構



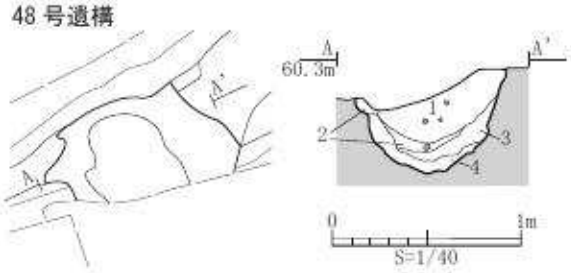
埋土１層 2.5Y7/2 灰黄色 シルト 粘性なし・しまり強 パミスを中量含む 焼土粒、炭化物を少量含む
埋土２層 2.5Y7/1 灰白色 シルト やや灰状で炭化物を多く含む
埋土３層 2.5Y6/1 黄灰色 シルト 全体的にマンガンを多く含む パミスを中量含む 焼土粒を少量含む
埋土４層 2.5Y7/1 灰白色 シルト 埋土２層と同様で灰状のものが多い
埋土５層 2.5Y6/1 黄灰色 シルト 粘性なし・しまりなし 埋土3層に類似する 径1-2mmの白色粘土粒を中量含む
埋土６層 2.5Y7/1 灰白色 シルト 層相は埋土４層と同じだが、灰が層状に含まれている。
埋土７層 2.5Y5/1 黄灰色 シルト 粘性弱・しまり中 径2-3mmの黄灰色粘土粒を中量含む 径1-2mmの炭化物を少量含む

41 号遺構



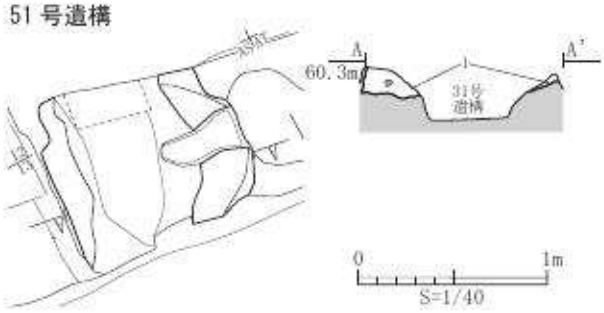
埋土１層 5YR5/1 褐灰色 シルト 粘性なし・しまり強 径2-3mmの炭化物、黄色・白色粘土粒、径1cmの礫を少量含む
埋土2a層 10YR5/1 褐灰色 粘土質シルト 粘性中・しまり強 径0.5-1cmの黄色・白色粘土粒を少量含む 全体的にマンガンを含む
埋土2b層 埋土2a層に比べ、径1-2cmの黄色粘土ブロックを多量に含む

48 号遺構



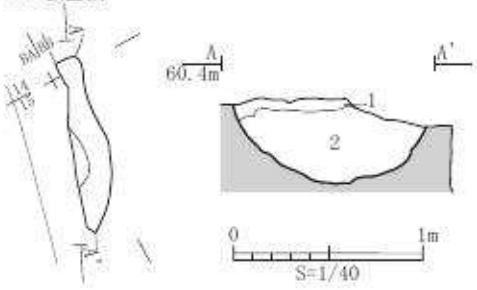
埋土１層 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり弱 径0.5-1cm程度の炭化物を多く含む 白色・黄色土粒、径2-3cmの礫を多く含む 砂を含む
埋土２層 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性強・しまり中 白色土粒、鉄分を僅かに含む
埋土３層 10YR3/2 黒褐色 粘土 粘性強・しまり強 白色・黄色土粒、鉄分を含む 径5mm程度の炭化物を極僅かに含む
埋土４層 10YR5/4 にぶい黄褐色 粘土 粘性強・しまり弱 褐灰色・黄褐色粘土、鉄分を僅かに含む

51 号遺構



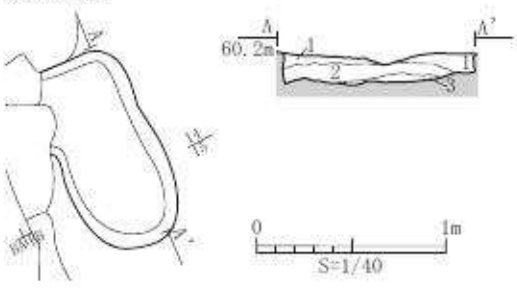
埋土１層 10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり強 径1-2cm程度の黄色のパミスを少量含む 径3cm程度の円礫を少量含む 黒褐色シルト質土を斑状に僅かに含む

60 号遺構



埋土１層 5YR6/1 褐灰色 シルト 粘性なし・しまり強 径0.5-1cmの炭化物、白色粘土粒を少量含む 径1-2cmの小礫を中量含む 全体的に鉄分を含む
埋土２層 5YR5/1 褐灰色 シルト 粘性なし・しまり強 径0.5-1cmの炭化物、白色土粒を多量に含む 径10mm以下の黄色粘土粒を多量に含む 全体的に鉄分を含む

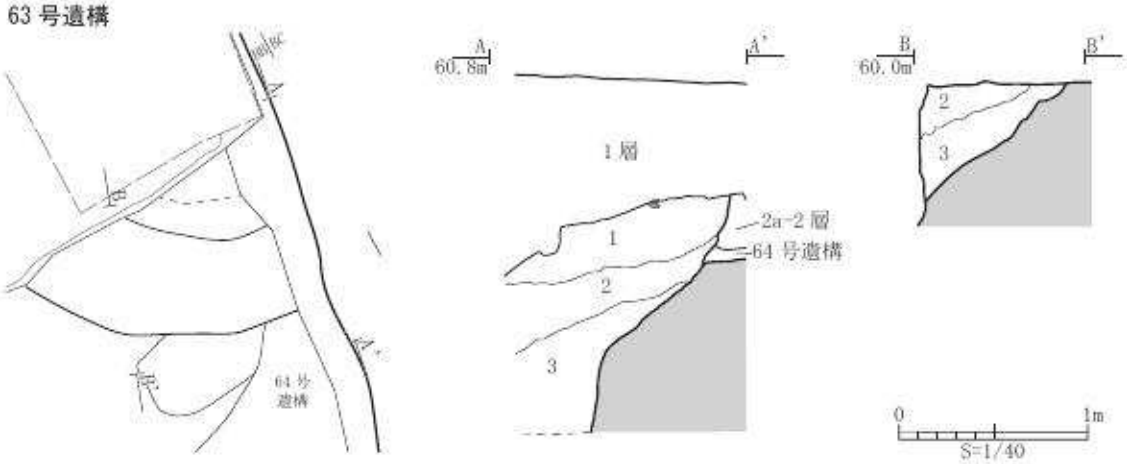
62 号遺構



埋土１層 10YR4/2 灰黄褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり強 南側がグライ化する 径2-3mm程度の炭化物を少量含む
埋土２層 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱・しまり強 径0.5-2cm程度の炭化物を多く含む 地山ブロックを斑状に少量含む
埋土３層 10YR5/2 灰黄褐色 粘土 粘性中・しまり強 径1-2mm程度の炭化物を少量含む 径1cm程度の黄色粘土ブロックを少量含む

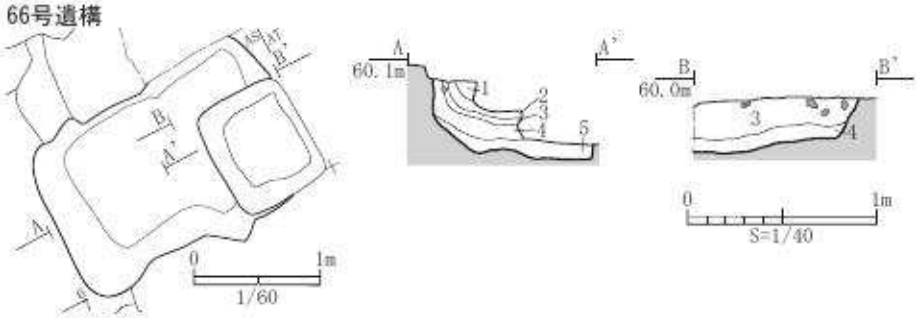
図63　Ⅲ期の遺構（５）
Fig.63 Features belonging to phase Ⅲ(5)

63 号遺構



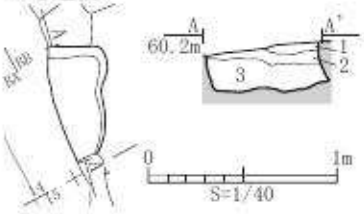
埋土１層 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 径0.5-1cmの炭化物を含む 白色・黄色土粒を多く含む 黄褐色粘土小ブロックを僅かに含む
埋土２層 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり弱 径1-3cmの炭化物、鉄分を含む 黄褐色粘土小ブロックを僅かに含む
埋土３層 2.5Y3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 鉄分、径5mm程度の炭化物、黄褐色土粒を僅かに含む

66号遺構



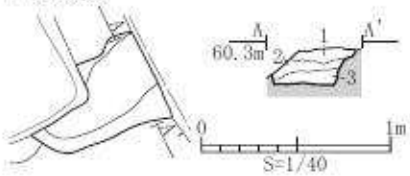
埋土１層 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 径0.5-1cm程度の炭化物を含む 白色・黄色土粒、鉄分を含む
埋土２層 5Y3/1 オリーブ黒色 粘土質シルト 粘性強・しまり弱 径0.5-1cm程度の炭化物、白色土粒、鉄分を極僅かに含む
埋土３層 5Y3/1 オリーブ黒色 粘土質シルト 粘性強・しまり弱 径0.5-1cm程度の炭化物を多く含む 白色土粒を含む 鉄分、径3cm程度の礫を僅かに含む
埋土４層 10YR3/1 黒褐色 粘土 粘性きわめて強・しまり弱 鉄分をやや多く含む 白色土粒、有機質の遺物を含む
埋土５層 5Y4/2 灰オリーブ色 粘土 粘性強・しまり中 灰色粘土ブロックを斑に含む 黄褐色粘土小ブロック、鉄分を僅かに含む 白色土粒を含む

70号遺構



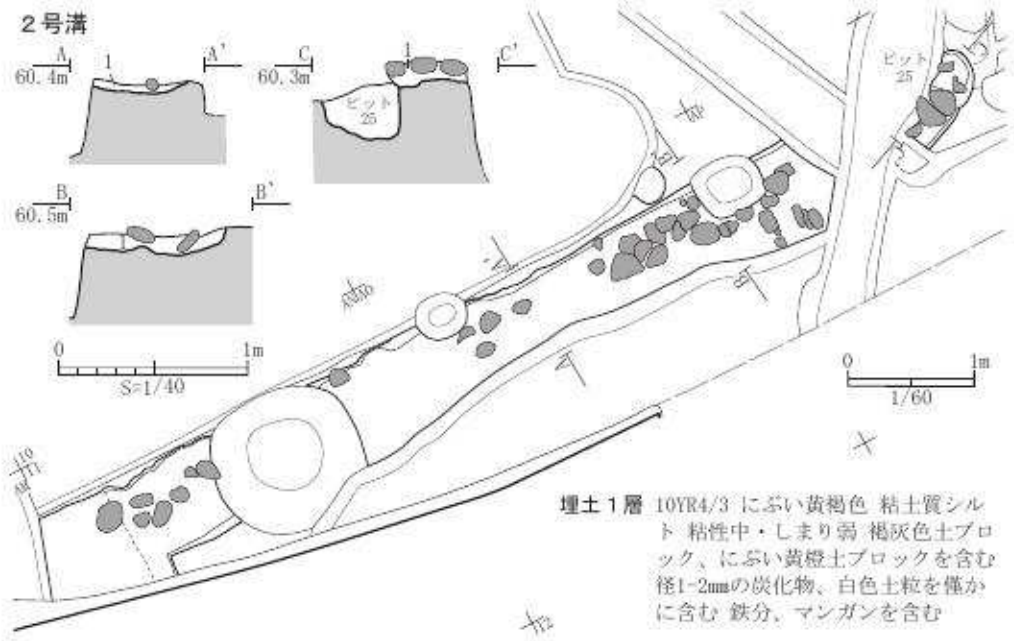
埋土１層 10YR5/1 褐灰色 シルト 粘性なし・しまり強 パミスを多量に含む 径1cm前後の小礫を多量に含む 径5mm前後の黄色粘土粒を少量含む
埋土２層 10YR7/4 にぶい黄橙色 シルト 粘性中・しまり強 淡橙色粘土ブロックが混じる
埋土３層 10YR5/1 褐灰色 シルト 粘性なし・しまり強 径1-2mmの白色・黄色粘土粒、径2-5mmの炭化物を多量に含む 径1-3cmの小礫を少量含む

71号遺構

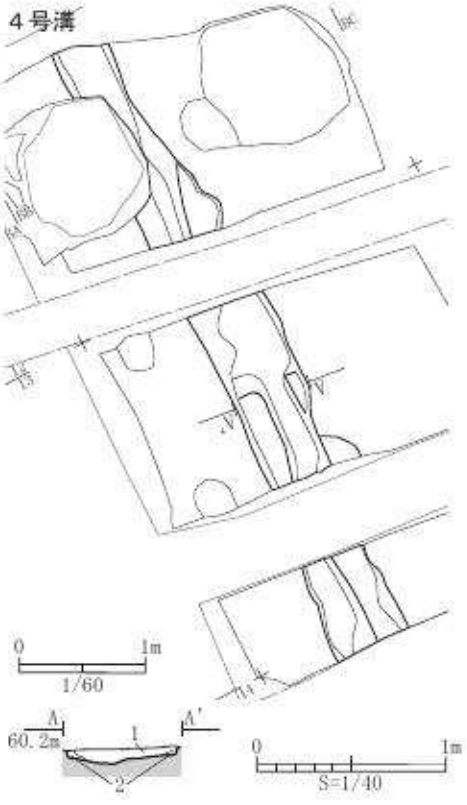


埋土１層 7.5YR6/1 褐灰色 シルト 粘性なし・しまり強 パミスを中量含む 径3-5mmの白色・黄色粘土粒を少量含む
埋土２層 7.5YR5/1 褐灰色 シルト 粘性なし・しまり強 全体的にマンガンを含む パミスを中量含む 径2-3mmの白色粘土粒を中量含む
埋土３層 7.5YR4/1 褐灰色 シルト 粘性なし・しまり強 径2-3cmの炭化物、白色・黄色粘土粒を中量含む

図64 Ⅲ期の遺構（6）
Fig.64 Features belonging to phase Ⅲ(6)

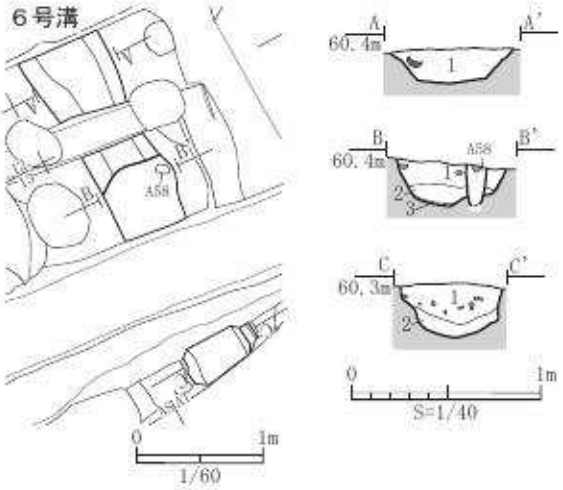


埋土１層 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり弱 褐灰色土ブロック、にぶい黄橙土ブロックを含む 径1-2㎜の炭化物、白色土粒を僅かに含む 鉄分、マンガンを含む



埋土１層 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり強 径0.5-1㎝程度の炭化物をやや多く含む 径1㎝程度の円礫を少量含む

埋土２層 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱・しまり弱 径1-3㎜程度の炭化物を少量含む 径1㎜程度の白色土粒をやや多く含む 埋土1層に類似するシルト質土を斑状にやや多く含む



埋土１層 2.5Y4/1 黄灰色 シルト質土 粘性なし・しまり強 径3-4㎝の小礫を少量含む 径1㎝前後の炭化物を多量に含む 径5㎜前後の焼土粒を少量含む パミスを中量含む

埋土２層 2.5Y5/1 黄灰色 シルト質土 粘性弱・しまり強 径5㎜前後の炭化物を少量含む パミスを少量含む

埋土３層 2.5Y5/1 黄灰色 シルト質土 粘性弱・しまり強 基本土層2b層由来のやや粘質な土

図65　Ⅲ期の遺構（7）

Fig.65 Features belonging to phase Ⅲ(7)

【60号遺構】（図63） BA・BB-14・15区に位置し、基本層2a-2層上面で検出した楕円形と推定される遺構である。そのほとんどを撹乱によって破壊される。底面は丸底となり、壁面は緩やかに立ち上がる。埋土は２層に区分できる。遺物は出土していないが、検出層位から、Ⅲ期（19世紀前葉以後）に位置づけた。

【62号遺構】（図63） BB-14・15区に位置し、基本層2a-2層上面で検出した楕円形の遺構である。壁は垂直に立ち上がり、浅い。遺物は確認されていないが、検出層位からⅢ期（19世紀前葉以後）に位置づけた。

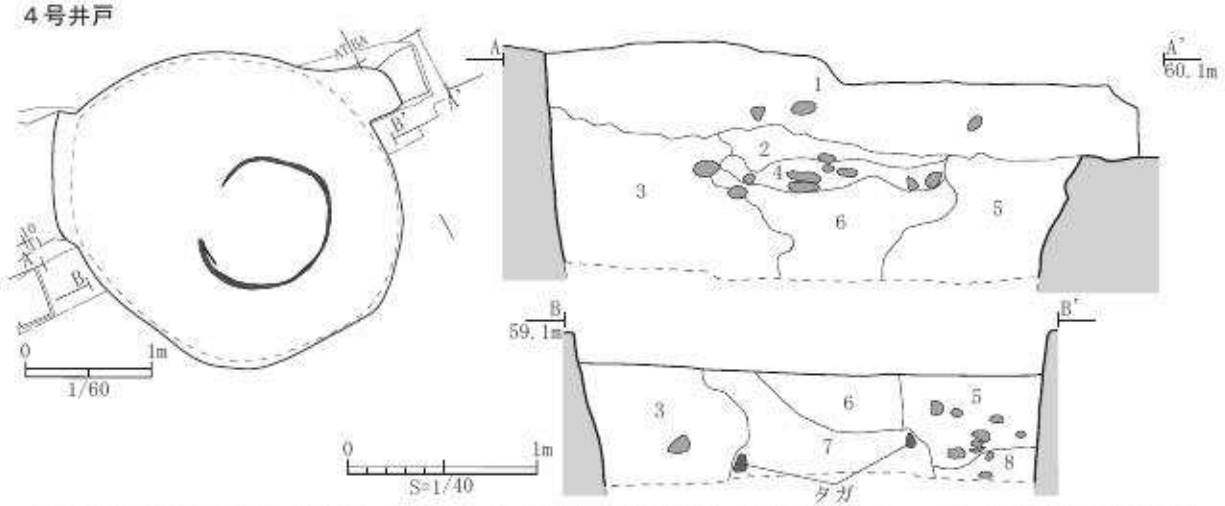
【63号遺構】（図64） 調査区南端のBB-15区に位置し、基本層2a-2層上面で検出した。北側は撹乱によって破壊され、東側は調査区外に伸びる。重複関係から、64号遺構（Ⅰ期）より新しい。埋土は３層確認でき、遺構中央部に向かって傾斜して堆積している。埋土１層から17世紀後半の磁器が出土しているが、検出層位から、この磁器は64号遺構からの混入と捉え、Ⅲ期（19世紀前葉）に位置づけた。

【66号遺構】（図64） AS-６・７区に位置する長方形の遺構である。上部は撹乱によってかなり破壊されている。壁はやや垂直気味に立ち上がり箱状を呈する。埋土は５層に分かれる。そのうち地山由来の最下層の５層以外は炭化物が混じり、礫等も含む。その埋土４層出土陶器から、Ⅲ期（19世紀前葉～中葉）に位置づけた。

【70号遺構】（図64） BB-14区に位置し、基本層2a-2層上面で検出した。壁は垂直気味に立ち上がり、長方形を呈すると考えられるが、その大部分は撹乱によって破壊されている。埋土は３層に分かれ、水平に堆積する。遺物は出土していないが、検出層位からⅢ期（19世紀前葉以後）に位置づけた。

【71号遺構】（図64） AS-14区に位置し、基本層2a-2層上面で検出した。撹乱が著しいが、壁は垂直気味に立ち上がり、楕円形を呈するものと推定される。遺物は出土していないが、検出層位からⅢ期（19世紀前葉以後）に位置づけた。

【２号溝】（図65） AM～AP-11区に位置し、西南-北東方向に伸びる溝である。東西方向の軸角度は、116.4(26.4)度西偏する。南側は撹乱によって大部分が破壊されているが、そのうち残存している場所で計測した最大幅は



埋土１層 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり強 にぶい黄褐色・灰黄褐色粘土ブロックを全体に斑にやや多く含む 白色・黄色土粒、鉄分を多く含む 径５㎜程度の炭化物をやや多く含む 径3cm-握り拳大の円礫を含む
埋土２層 10YR5/3 にぶい黄褐色 砂 粘性なし・しまり弱 にぶい黄橙色・褐灰色粘土小ブロックを僅かに含む 鉄分を極僅かに含む
埋土３層 10YR7/4 にぶい黄橙色 粘土 粘性強・しまり強 鉄分、マンガンを多く含む 黒褐色土、白色・黄色土粒を僅かに含む 径2-3cm程度の礫を僅かに含む
埋土４層 10YR2/1 黒色 粘土質シルト 粘性強・しまり弱 径1-2cm程度の炭化物をやや多く含む 径3cm-人頭大の礫を含む 赤色土粒を僅かに含む
埋土５層 7.5Y5/2 灰オリーブ色 粘土 粘性強・しまり強 黒褐色土を斑に含む 白色土粒、鉄分を含む
埋土６層 10YR6/4 にぶい黄橙色 砂 粘性なし・しまり弱 鉄分を多く含む マンガンを含む
埋土７層 10Y4/1 灰色 粘土 粘性強・しまり中 オリーブ黒色・黄褐色粘土ブロックを斑に含む
埋土８層 10Y6/2 オリーブ灰色 粘土 粘性強・しまり中 オリーブ黒色粘土ブロックを含む

図66 Ⅲ期の遺構（８）
Fig.66 Features belonging to phase Ⅲ(8)

78cmである。西側では南側に直角に曲がる。東側はピット25と重複しており、溝の東端が不明瞭である。溝の深さは非常に浅く、埋土は１層のみで、その埋土には多数の礫が確認された。時期が比定できるような遺物は出土 していない。ただし、重複関係が２号溝より古いピット25の埋土には、第二師団期以降に活発に利用される粘板岩が確認されている。そのことから、この本遺構もⅢ期（近代）と推定した。

【４号溝】（図65） BB-12～14区に位置し、基本層2a-2層上面で確認した北西-南東方向に伸びる溝である。その軸角度は25.9度西偏する。最大幅は、66cm程である。周辺の遺構よりおおむね新しい。深さはあまりなく、埋土は２層のみ確認できた。埋土からは18世紀後半～19世紀前葉の磁器・陶器が出土している。それらの出土遺物と検出層位から、Ⅲ期（19世紀前葉）と位置づけた。

【６号溝】（図65） AT-12～14区に位置し、基本層2a-2層上面で確認した北西-南東方向に伸びる溝である。その軸角度は27.5度西偏する。地点によっては段が形成される程、掘り込まれており、新規に溝を掘り直した可能性も考えられる。埋土は掘り込まれた最も深い場所で３枚確認できた。埋土上部には焼土粒、炭化物、小礫などを含んでいる。埋土１層出土磁器・陶器と検出層位から、Ⅲ期（19世紀前葉～中葉）に位置づけた。

【４号井戸】（図66） AT-10・11区に位置する円形の井戸である。上部は米軍期の撹乱により破壊されている。安全上の理由から、全てを掘り上げてはいない。井戸本体の構造材は見受けられず、土壌化したタガの痕跡のみが残っていた。埋土は、中央部が凹み、そこを埋めるような状況が確認された。この状況からすると、本遺構は桶を利用した井戸であり、何らかの理由でその材を撤去したものと推定される。埋土は８層に区分した。そのうち６層出土の陶器は19世紀前葉の年代が比定できる。この遺物の存在から、19世紀前葉には埋没していたことがわかる。構築・機能していた時期は、それ以前の時期と推定されるが、Ⅲ期に時期比定した。

（９）時期不明の遺構（図67・68）

【３号柱列】（図69） BA-12・13区に位置する、柱穴３基で構成される２間の柱列である。周辺の土層の大部分は削平されているため４層で検出した。柱間寸法は、４尺である。軸角度は16.5度西偏する。出土遺物等時期比定をするだけの根拠がないため、時期不明とした。

【55号遺構】（図69） BA-14区に位置し、北・東側を撹乱によって削平された遺構である。深さは浅く、埋土１層のみ確認できた。出土遺物等時期比定をするだけの根拠がないため、時期不明とした。

【56号遺構】（図69） BA-13区に位置し、55号遺構と同様に北・東側を撹乱によって削平された遺構である。深さは浅く、埋土も同様に１層のみ確認できた。出土遺物等時期比定をするだけの根拠がないため、時期不明とした。

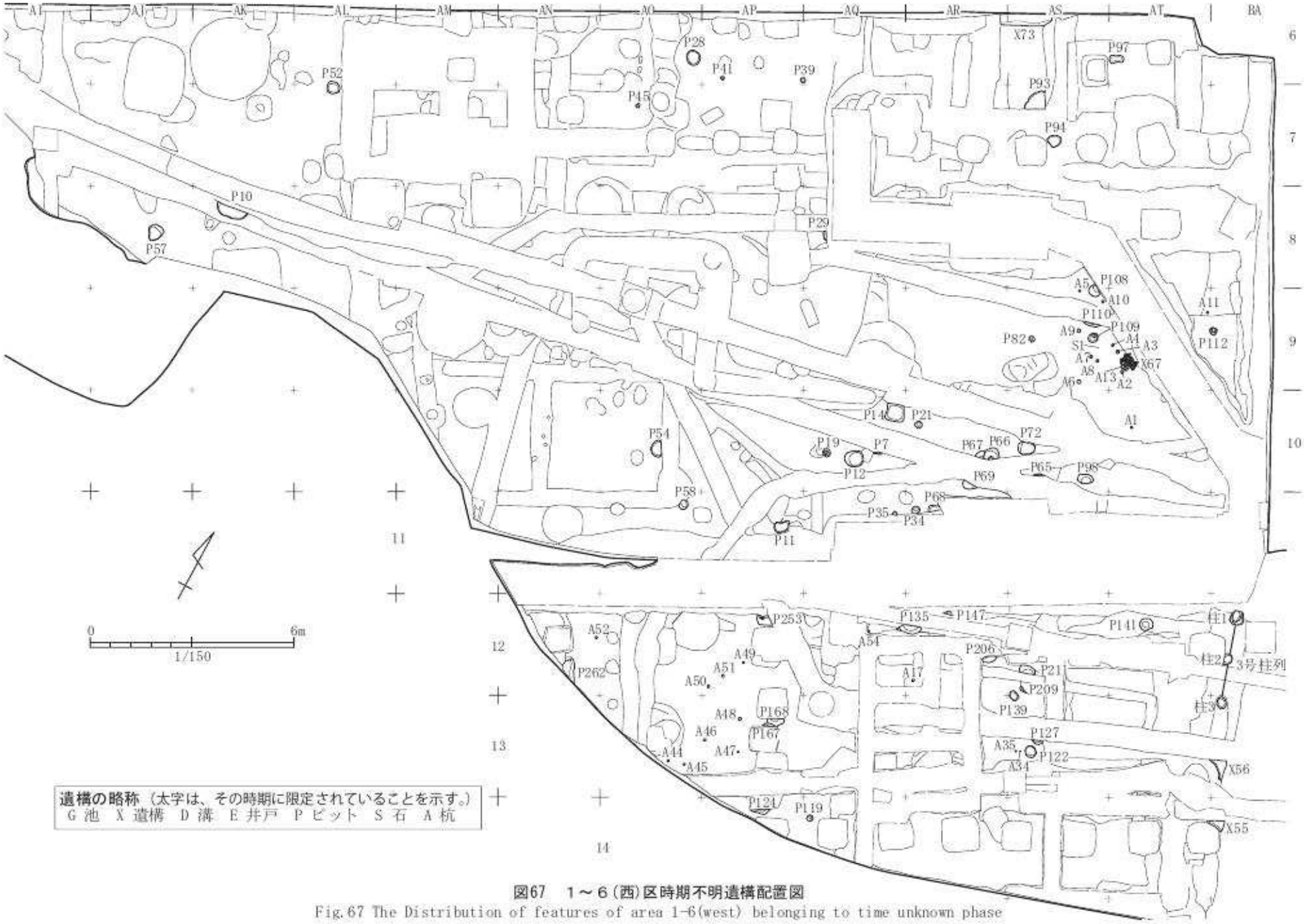
【67号遺構】（図69） AT-９区に位置し、ほぼ円形に礫が集合した遺構である。当初はピットと考え調査を行ったが、礫取り上げ後にプランなども確認できないため、遺構とした。この礫が乗る層は基本層2b層であり、何らかの理由で基本層2b層上面に礫を集めたものと考えられる。出土遺物等時期比定をするだけの根拠がないため、時期不明とした。

【73号遺構】（図69） 調査区北端のAR・AS-６区に位置し、東西両端は撹乱によって破壊され、北側は調査区外へと伸びる。埋土は４層確認でき、おおむね水平に堆積する。出土遺物等時期比定をするだけの根拠がないため、時期不明とした。

（10）関連区の遺構（図12～14）

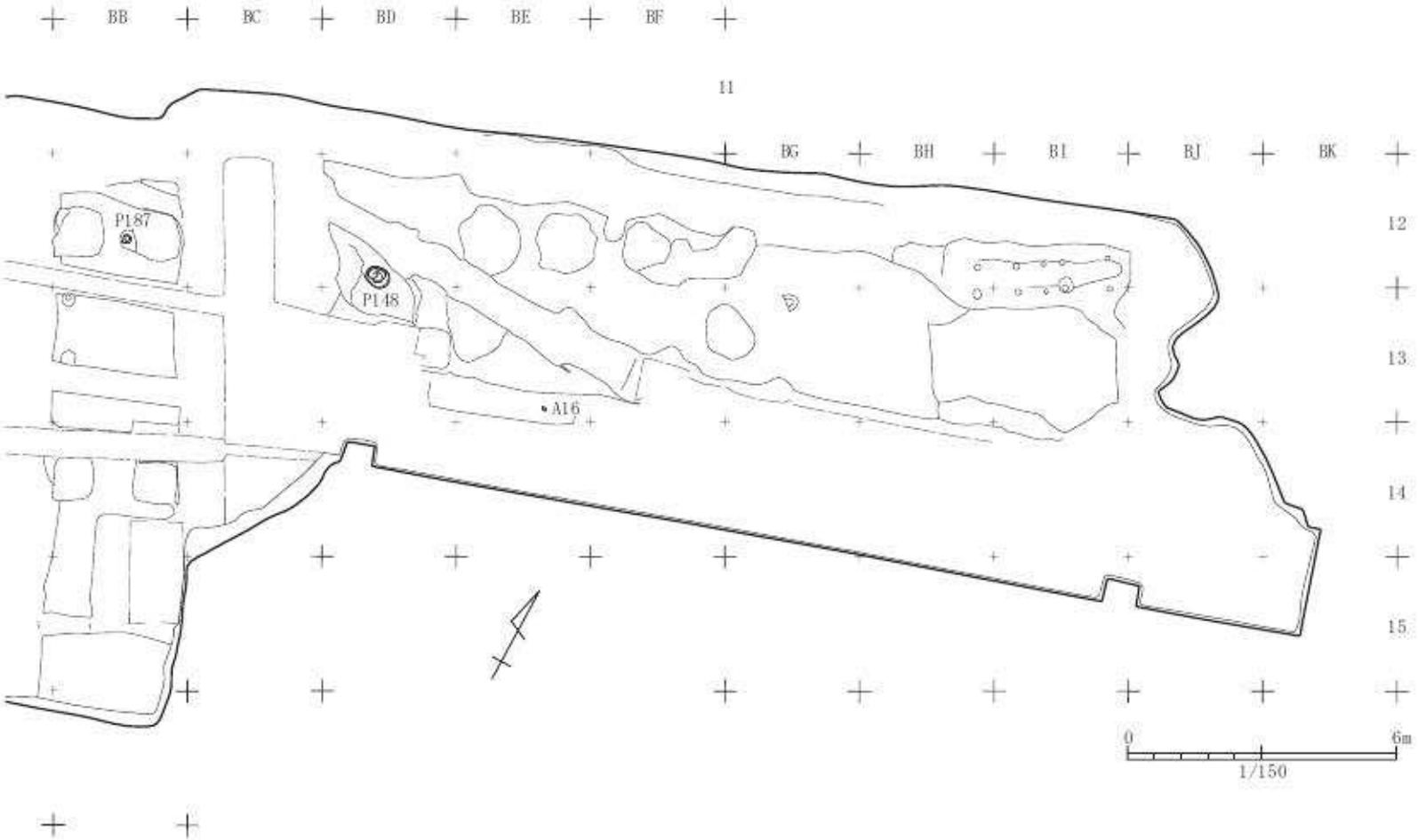
【関連１区遺構】 AL・AM-18・19区にて確認したが、調査面積が狭く詳細は不明である。埋土は５層に分かれ、うち２層は炭化物を多量に含む。出土遺物等時期比定をする根拠がないため、時期不明とした。

【関連２区遺構】 AT・AU-19・20区にて確認した、基本層2a層に相当する層の上面で検出している。この検出



遺構の略称（太字は、その時期に限定されていることを示す。）
G 池　X 遺構　D 溝　E 井戸　P ピット　S 石　A 杭

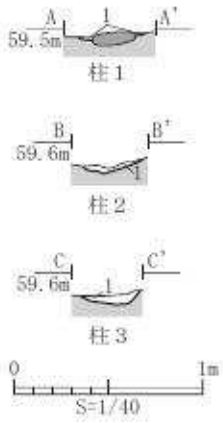
図67　1～6（西）区時期不明遺構配置図
Fig.67 The Distribution of features of area 1-6(west) belonging to time unknown phase



遺構の略称（太字は、その時期に限定されていることを示す。）
G 池　X 遺構　D 溝　E 井戸　P ピット　S 石　A 杭

図68　6（東）・7区時期不明遺構配置図
Fig.68 The Distribution of features of area 6(east)･7 belonging to time unknown phase

３号柱列

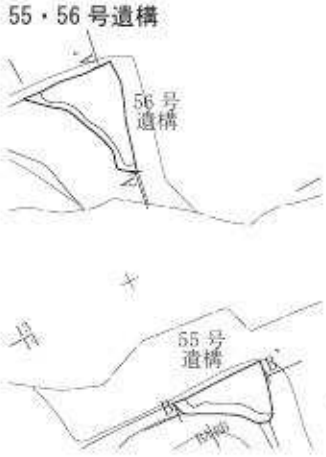


柱１
埋土１層 10YR5/4にぶい黄褐色 砂 粘性弱・しまり強 径1-3cm程度の褐色粘土ブロックを少量含む 白色・黄色土粒を多く含む

柱２
埋土１層 10YR5/4にぶい黄褐色 砂 粘性弱・しまり強 径1-5mm程度の炭化物を少量含む 白色・黄色土粒を多く含む

柱３
埋土１層 10YR5/6黄褐色 砂 粘性弱・しまり中 黄色粘土ブロックを上部に含む

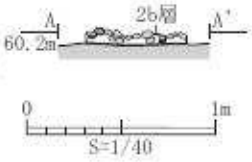
55・56 号遺構



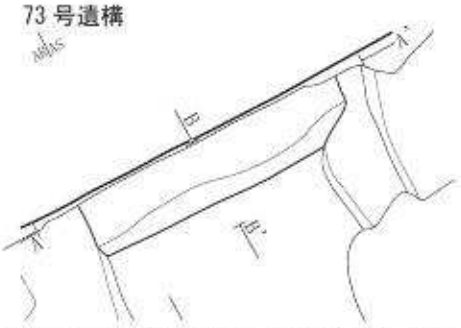
埋土１層 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質粘土 粘性弱・しまり強 径1-3mmの炭化物、白色・黄色土粒をやや多く含む 褐色砂を斑状に含む

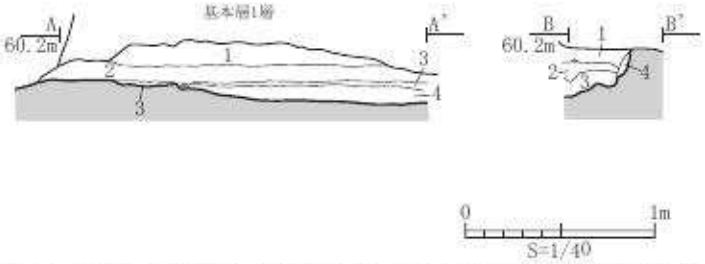
埋土１層 10YR4/6 褐色 粘土 粘性中・しまり中 径1-5cmの礫、炭化物を少量含む 黄色粘土ブロックを斑状に少量含む

67 号遺構



73 号遺構





埋土１層 2.5Y3/1 黒褐色 粘土質シルト 粘性やや強・しまり中 白色土粒をやや多く含む 黄色土粒を僅かに含む 鉄分を含む 径5mm程度の炭化物を極僅かに含む
埋土２層 10YR4/4 褐色 砂 粘性なし・しまり中 黄色土粒、鉄分を含む 径1cm程度の炭化物を僅かに含む
埋土３層 2.5Y4/2 暗灰黄色 粘土 粘性極めて強・しまり中 鉄分を多く含む 白色・黄色土粒を極僅かに含む
埋土４層 2.5Y4/3 オリーブ褐色 粘土質シルト 粘性やや強・しまり中 白色・黄色土粒、鉄分を含む

図69　時期不明の遺構
Fig.69 Features belonging to time unknown phase

層位と埋土の出土陶磁器から、Ⅲ期（18世紀後葉～19世紀前葉）に位置づけた。

【関連４区遺構】　AI・AJ-40・41区で確認した。その本土は調査区外へと広がることから、形状などは不明である。壁は緩やかに立ち上がり、底面は平らである。機能は不明である。埋土は、ほぼ水平に堆積した４層が確認できた。この埋土から17世紀前半の陶器が出土している。この出土遺物の時期から、Ⅰ期（17世紀前半）に位置づけた。

【関連５区遺構】　調査区全体の堆積層が、基本層としてこれまで認識していた土層とは異なるため、遺構の埋土と考えた。埋土は５層に区分できる。遺物は出土しておらず、これが遺構かどうかということも含めて不明である。

３．小結

本調査では、様々な遺構が多数確認できた。その中でも、４基の池状遺構は、今回の調査において特筆される遺構である。２号池状遺構は、土手等を用いて場所を区切り、それぞれを水が流れるような構造としており、園庭における池のイメージと合致する。一方で、１・３・４号池状遺構は壁も高く、段差をもって南から北へと水を流す施設であることが推定される。壁が抉られるような水流も生じていたようであり、その流れは２号池状遺構と比べ急であった様子も窺える。本報告では、これらの遺構をまとめて池状遺構と命名はしたが、本調査区における機能は異なっていたものと考えられる。そして、１・３・４号池状遺構は、本調査区の北側に位置する武家屋敷地区第７地点の池状遺構に繋がっており、そちらの成果と合わせて検討する必要がある。

また、建物７棟や柱列10条を認定した。本調査区では多数のピットを検出したが、撹乱や重複が著しくなかなか組むことが難しかった。おそらくは、その組ませ方によって、より多くの建物を復元することができるものと考えている。この点については、これまで当室で調査してきた各調査区についても同様で、継続して検討を試みる必要があるものと考えている。

本報告では、本調査に関する基礎的な事項と、遺構に関する事実報告のみに止めた。次年度刊行予定の『調査報告』８における遺物の成果と共に、遺構の詳細な時期的変遷やその機能に関する考察を試みたい。

註）軸角度は、基本的に南北の軸角度を計測し提示した。東西に伸びる柱列に関しては、それに直行する南北軸を想定し、その角度も提示している。その際の表記は、「南北軸角度（東西軸角度）」と表記する。

引用・参考文献

東北大学埋蔵文化財調査室・仙台市教育委員会の報告書に関しては、直接引用したもの以外は省略した。

【東北大学埋蔵文化財調査室刊行報告書関連】

東北大学埋蔵文化財調査委員会　1992『東北大学埋蔵文化財調査年報』4・5
東北大学埋蔵文化財調査委員会　1993『東北大学埋蔵文化財調査年報』6
東北大学埋蔵文化財調査委員会　1994『東北大学埋蔵文化財調査年報』7
東北大学埋蔵文化財調査研究センター　1997『東北大学埋蔵文化財調査年報』8
東北大学埋蔵文化財調査研究センター　1998『東北大学埋蔵文化財調査年報』9
東北大学埋蔵文化財調査研究センター　2006～2010『東北大学埋蔵文化財調査年報』19 第1～5分冊
東北大学埋蔵文化財調査室　2011『仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点・第12地点』
東北大学埋蔵文化財調査室調査報告1
東北大学埋蔵文化財調査室　2016『仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第16地点』
東北大学埋蔵文化財調査室調査報告5
東北大学埋蔵文化財調査室　2017『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告』2015

【仙台市教育委員会刊行報告書関連】

佐藤　淳ほか　2008『若林城跡－第5次発掘調査報告書－』仙台市文化財調査報告書323
佐藤　洋ほか　1985『仙台城三の丸跡』仙台市文化財調査報告書76
金森安孝・渡部　紀　2009『仙台城跡第1次調査 第1分冊 本文編』仙台市文化財調査報告書349
佐藤　淳ほか　2010『若林城跡－第8次・第9次発掘調査報告書－』仙台市文化財調査報告書377
主濱光朗ほか　2011a『桜ヶ岡公園遺跡－仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅳ－』仙台市文化財調査報告書384
主濱光朗ほか　2011b『仙台城跡－仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅵ－』仙台市文化財調査報告書386

【その他の報告書・論文等（50音順）】

阿刀田令造編　1930『仙台萩』　無一文館
阿刀田令造　1976（初出1936）『仙台城下絵図の研究』斎藤報恩会博物館図書部研究報告4　東洋書院
小林清春監修　1994『絵図・地図で見る仙台』　今野印刷
小林博範ほか　2000『汐留遺跡Ⅱ』東京都埋蔵文化財センター調査報告書78　東京都埋蔵文化財センター
坂田　啓編　1995『私本　仙台藩士事典』　創栄社
渋谷優子　2011「仙台城下絵図にみる屋敷拝領者変遷と階層性－川内地区の事例に基づいて－」『仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点・第12地点』東北大学埋蔵文化財調査室調査報告1　東北大学埋蔵文化財調査室　pp.266-298
仙台市科学館編　1985『仙台市地形区分図』　仙台市科学館
平　重道責任編集　1973『伊達治家記録』二　宝文堂
平　重道責任編集　1974『伊達治家記録』四　宝文堂
本田　勇　2003『史料仙台伊達氏家臣団事典』　丸善仙台出版サービスセンター制作
吉岡一男編　2005『絵図・地図で見る仙台　第二輯』　今野印刷

東北大学埋蔵文化財調査室刊行報告書一覧

《東北大学埋蔵文化財調査年報》

書　名	刊行年	掲載内容	刊行主体
東北大学埋蔵文化財調査年報１	1985	昭和58年度（1983年度）事業概要	東北大学 埋蔵文化財調査委員会
		仙台城跡二の丸第１地点（ＮＭ１）	
		仙台城跡二の丸第２地点（ＮＭ２）	
		仙台城跡二の丸第３地点（ＮＭ３）	
東北大学埋蔵文化財調査年報２	1986	昭和59年度（1984年度）事業概要	東北大学 埋蔵文化財調査委員会
		青葉山Ｂ遺跡第１次調査（ＡＯＢ１）	
		青葉山Ｂ遺跡第２次調査（ＡＯＢ２・旧称ＡＯＦ）	
		青葉山Ｅ遺跡第１次調査（ＡＯＥ１）	
東北大学埋蔵文化財調査年報３	1990	昭和60年度（1985年度）事業概要	東北大学 埋蔵文化財調査委員会
		仙台城跡二の丸第６地点（ＮＭ６）	
		芦ノ口遺跡第１次調査（ＴＭ１）	
		芦ノ口遺跡1976年考古学研究室による調査（ＴＫ）	
		研究編－東北地方における近世窯業と陶磁器をめぐる問題ほか	
東北大学埋蔵文化財調査年報４・５	1992	昭和61年度（1986年度）事業概要	東北大学 埋蔵文化財調査委員会
		昭和62年度（1987年度）事業概要	
		仙台城跡二の丸第４地点（ＮＭ４）	
		仙台城跡二の丸第７地点（ＮＭ７）	
		仙台城跡二の丸第８地点（ＮＭ８）	
東北大学埋蔵文化財調査年報６	1993	昭和63年度（1988年度）事業概要	東北大学 埋蔵文化財調査委員会
		仙台城跡二の丸第５地点（ＮＭ５）	
東北大学埋蔵文化財調査年報７	1994	平成１年度（1989年度）事業概要	東北大学 埋蔵文化財調査委員会
		仙台城跡二の丸第５地点（ＮＭ５）付帯施設部分	
		仙台城跡二の丸第５地点（ＮＭ５）調査成果の検討	
		仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第５地点（ＢＫ５）	
		川渡農場町西遺跡第１地点（ＫＷ１）	
東北大学埋蔵文化財調査年報８	1997	平成２年度（1990年度）事業概要	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		仙台城跡二の丸第９地点（ＮＭ９）	
東北大学埋蔵文化財調査年報９	1998	平成３年度（1991年度）事業概要	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		仙台城跡二の丸第10地点（ＮＭ10）	
		芦ノ口遺跡第２次・３次調査（ＴＭ２・ＴＭ３）	
		考察編－仙台城二の丸跡の考古学的調査－	
東北大学埋蔵文化財調査年報10	1998	平成４年度（1992年度）事業概要	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		仙台城跡二の丸第13地点（ＮＭ13）	
		青葉山地区分布調査	
		研究編－相馬藩における近世窯業生産の展開	
東北大学埋蔵文化財調査年報11	1999	平成５年度（1993年度）事業概要	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		仙台城跡二の丸第12地点（ＮＭ12）	
		仙台城跡二の丸第14地点（ＮＭ14）	
		青葉山Ｅ遺跡第２次調査（ＡＯＥ２）	
東北大学埋蔵文化財調査年報12	1999	平成６年度（1994年度）事業概要	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		仙台城跡二の丸第15地点（ＮＭ15）	
		青葉山Ｅ遺跡第３次調査（ＡＯＥ３）	
東北大学埋蔵文化財調査年報13	2000	平成７年度（1995年度）事業概要	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		仙台城跡二の丸第11地点（ＮＭ11）	
		仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第４地点（ＢＫ４）	
		青葉山Ｅ遺跡第４次調査（ＡＯＥ４）	
		研究編－東北大学構内（仙台城二の丸跡）遺跡出土漆器資料の材質と製作技法	
東北大学埋蔵文化財調査年報14	2001	平成８年度（1996年度）事業概要	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第６地点（ＢＫ６）	
		青葉山Ｅ遺跡第５次調査（ＡＯＥ５）	
		芦ノ口遺跡第４次調査（ＴＭ４）	
東北大学埋蔵文化財調査年報15	2001	平成９年度（1997年度）事業概要	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		仙台城跡二の丸第16地点（ＮＭ16）	
		青葉山Ｅ遺跡第６次調査（ＡＯＥ６）	
東北大学埋蔵文化財調査年報16	2001	平成10年度（1998年度）事業概要	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		研究編－難アルコール含浸法における予備実験	
東北大学埋蔵文化財調査年報17	2002	平成11年度（1999年度）事業概要	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
東北大学埋蔵文化財調査年報18	2005	平成12年度（2000年度）事業概要	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		仙台城跡二の丸第17地点（ＮＭ17）	

書　名	刊行年	掲載内容	刊行主体
東北大学埋蔵文化財調査年報19 第１分冊	2006	平成13年度（2001年度）事業概要 芦ノ口遺跡第５次調査（ＴＭ５） 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第７地点（ＢＫ７） 遺構	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
東北大学埋蔵文化財調査年報19 第２分冊	2009	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第７地点（ＢＫ７） 陶磁器・土器・土製品・瓦	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査年報19 第３分冊	2007	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第７地点（ＢＫ７） 木簡・墨書ある木製品	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査年報19 第４分冊	2008	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第７地点（ＢＫ７） その他の遺物	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査年報19 第５分冊	2010	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第７地点（ＢＫ７） 分析・考察	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査年報20	2006	平成14年度（2002年度）事業概要 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第８地点（ＢＫ８） 青葉山Ｅ遺跡第７次調査（ＡＯＥ７） 青葉山Ｅ遺跡第８次調査（ＡＯＥ８）	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
東北大学埋蔵文化財調査年報21	2007	平成15年度（2003年度）事業概要 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第９地点（ＢＫ９） 芦ノ口遺跡第６次調査（ＴＭ６）	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査年報22	2008	平成16年度（2004年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査年報23	2009	平成17年度（2005年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査年報24	2010	平成18年度（2006年度）事業概要 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第10地点（ＢＫ10） 青葉山新キャンパス地区試掘調査	東北大学埋蔵文化財調査室

《東北大学埋蔵文化財調査室調査報告》

シリーズ名	書名	刊行年	掲載内容	刊行主体
東北大学 埋蔵文化財調査室 調査報告１	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点・第12地点 －仙台市高速鉄道東西線機能補償関係調査報告書－	2011	東西線補償関係埋蔵文化財調査の概要 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点（ＢＫ11） 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第12地点（ＢＫ12） 川内地区の絵図記載人名の検討 川内地区における江戸時代の道路の復元	東北大学 埋蔵文化財調査室
東北大学 埋蔵文化財調査室 調査報告２	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第13地点	2013	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第13地点（ＢＫ13）	東北大学 埋蔵文化財調査室
東北大学 埋蔵文化財調査室 調査報告３	芦ノ口遺跡第７次調査・第８次調査	2014	芦ノ口遺跡第７次調査（ＴＭ７）・第８次調査（ＴＭ８）	東北大学 埋蔵文化財調査室
東北大学 埋蔵文化財調査室 調査報告４	芦ノ口遺跡第９次調査・青葉山Ｅ遺跡第９次調査－東日本大震災復旧事業関係調査報告書－	2015	芦ノ口遺跡第９次調査（ＴＭ９）・青葉山Ｅ遺跡第９次調査（ＡＯＥ９）	東北大学 埋蔵文化財調査室
東北大学 埋蔵文化財調査室 調査報告５	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第16地点	2016	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第16地点（ＢＫ16）	東北大学 埋蔵文化財調査室
東北大学 埋蔵文化財調査室 調査報告６	仙台城跡二の丸地区第18地点	2017	仙台城跡二の丸地区第18地点（ＮＭ18）	東北大学 埋蔵文化財調査室
東北大学 埋蔵文化財調査室 調査報告７	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点 第１分冊	2019	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点（ＢＫ14） 本報告	東北大学 埋蔵文化財調査室

《東北大学埋蔵文化財調査室年次報告》

書　名	刊行年	掲載内容	刊行主体
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2007	2010	平成19年度（2007年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2008	2010	平成20年度（2008年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2009	2012	平成21年度（2009年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2010	2012	平成22年度（2010年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2011	2013	平成23年度（2011年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2012	2014	平成24年度（2012年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2013	2015	平成25年度（2013年度）事業概要 芦ノ口遺跡第10次調査（TM10）	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2014	2016	平成26年度（2014年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2015	2017	平成27年度（2015年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2016	2018	平成28年度（2016年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2017	2019	平成29年度（2017年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室

＊これらの刊行物は、東北大学機関リポジトリTOURおよび全国遺跡報告総覧で全て公開している。
東北大学機関リポジトリTOUR　https://tohoku.repo.nii.ac.jp
全国遺跡報告総覧　http://sitereports.nabunken.go.jp/ja

RESEARCH REPORTS
IN ARCHAEOLOGY ON THE CAMPUS OF TOHOKU UNIVERSITY
No. 7 MARCH 2019

The Archaeological Research office
On the Campus, Tohoku University
2-1-1, Katahira, Aoba-ku Sendai-shi, Miyagi,
980-8577, JAPAN

Summary

On the campus of Tohoku University a lot of archaeological sites are known. Among them, Sendai Castle is the most famous and largest one. Almost all of the south part of Kawauchi campus is located on its secondary citadel area. The north part of Kawauchi campus is located on the sites of samurai residences.

In Japan, if existing circumstances need to be changed in the known site area, excavation research on the buried cultural properties must be carried out. The Office mainly carries out salvage excavations of archaeological sites on campus.

This report discusses the research results of salvage excavations of BK14 (Loc.14 of samurai residences located at the side of north outer moat of Ninomaru, i.e. Secondary Citadel of Sendai Castle), located on the Kawauchi campus, conducted by the Archaeological Research Office in 2011 and 2015.

As the result of the excavation, a lot of structures of pond, some ditches, colonnades, and buildings were found. These features of structure are classified into temporal phases I-III.

Phase I is the stage at the 17th century including the beginning of 16th century.

Phase IIa is the stage from the beginning to the middle portion of 18th century.

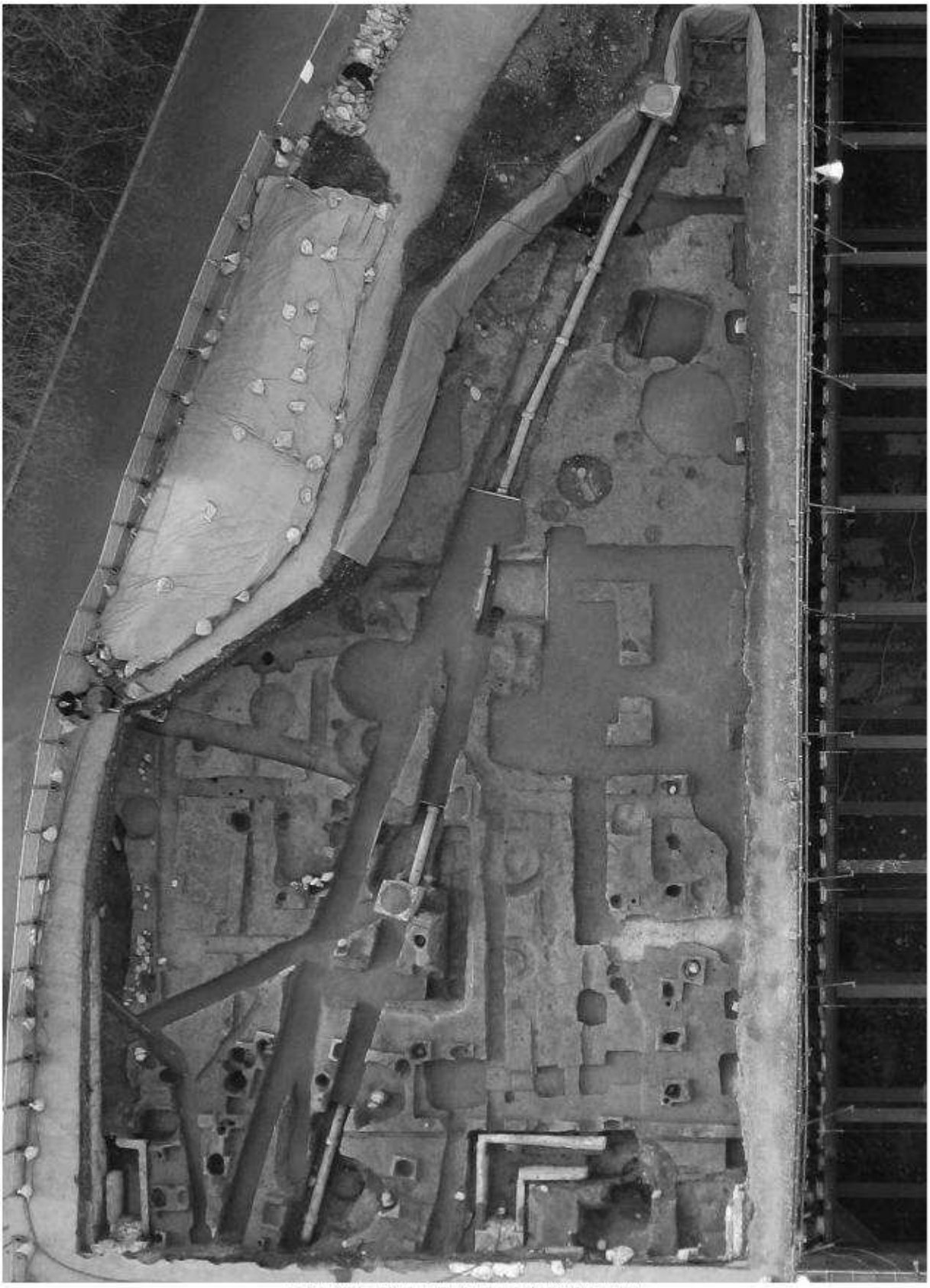
Phase IIb is the stage from the latter portion of 18th century to the beginning of 19th century.

Phase III is the stage from the early to the latter potion of 19th century.

写　真　図　版

撹乱除去状況全景 2011年11月９日撮影(右側が北)

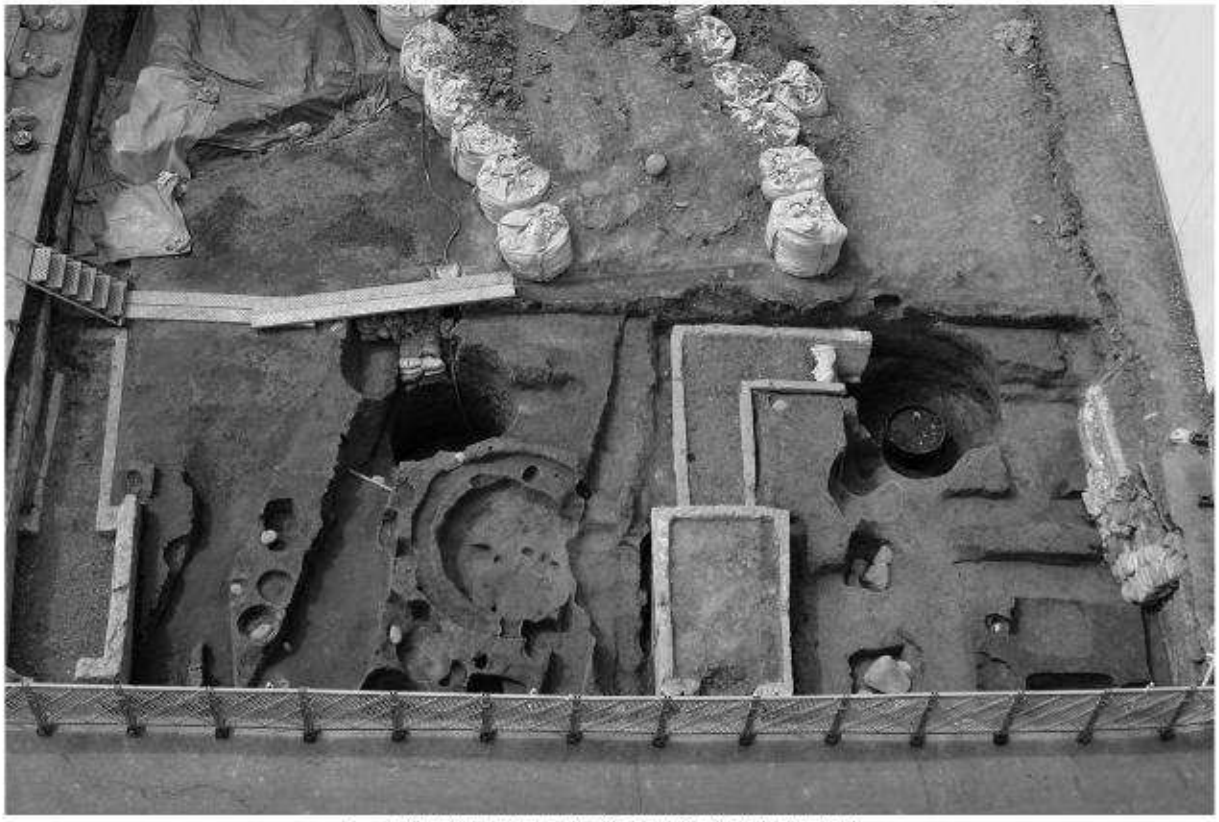
図版１　１・２区全景(１)
Pl.1 Views of area 1・2(1)



調査最終状況全景 2011年12月7日撮影(右側が北)

図版２　１・２区全景(２)
Pl.2 Views of area 1・2(2)

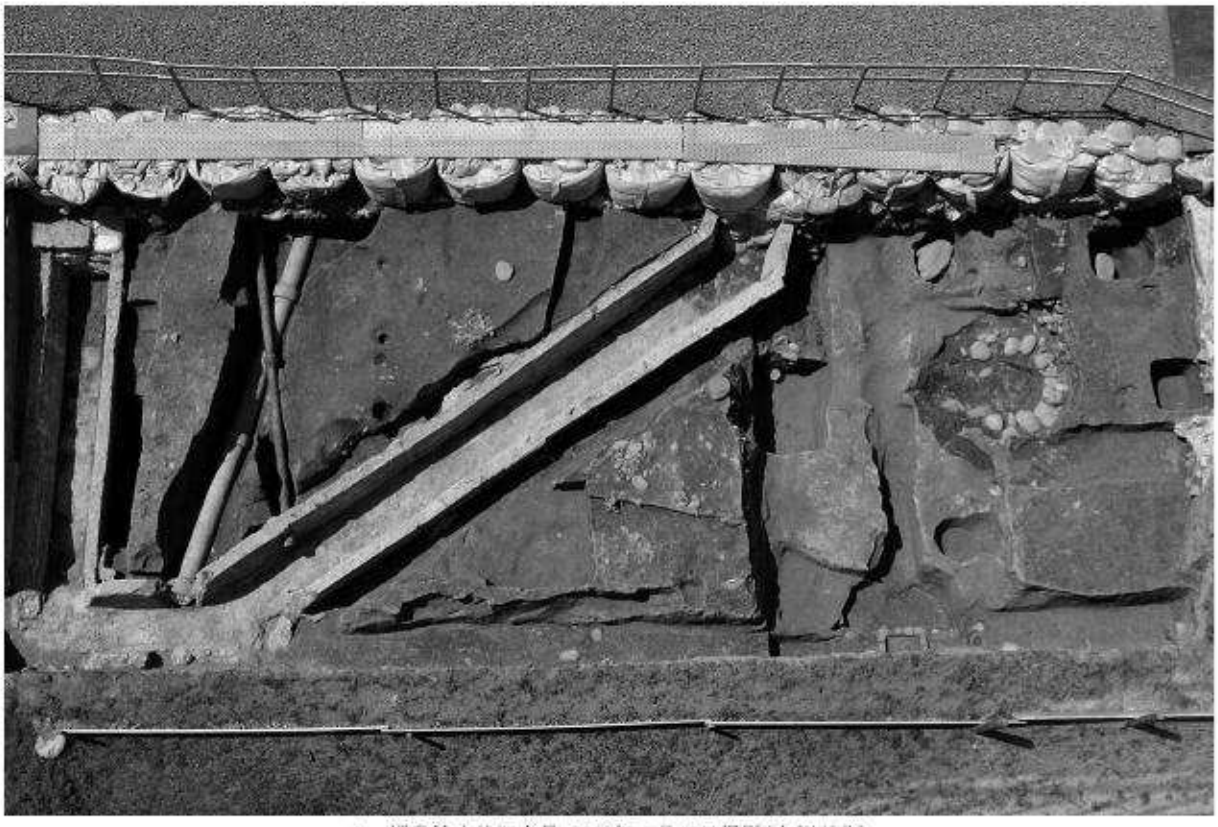
1．搅乱除去状況全景 2011年12月21日撮影(右側が北)



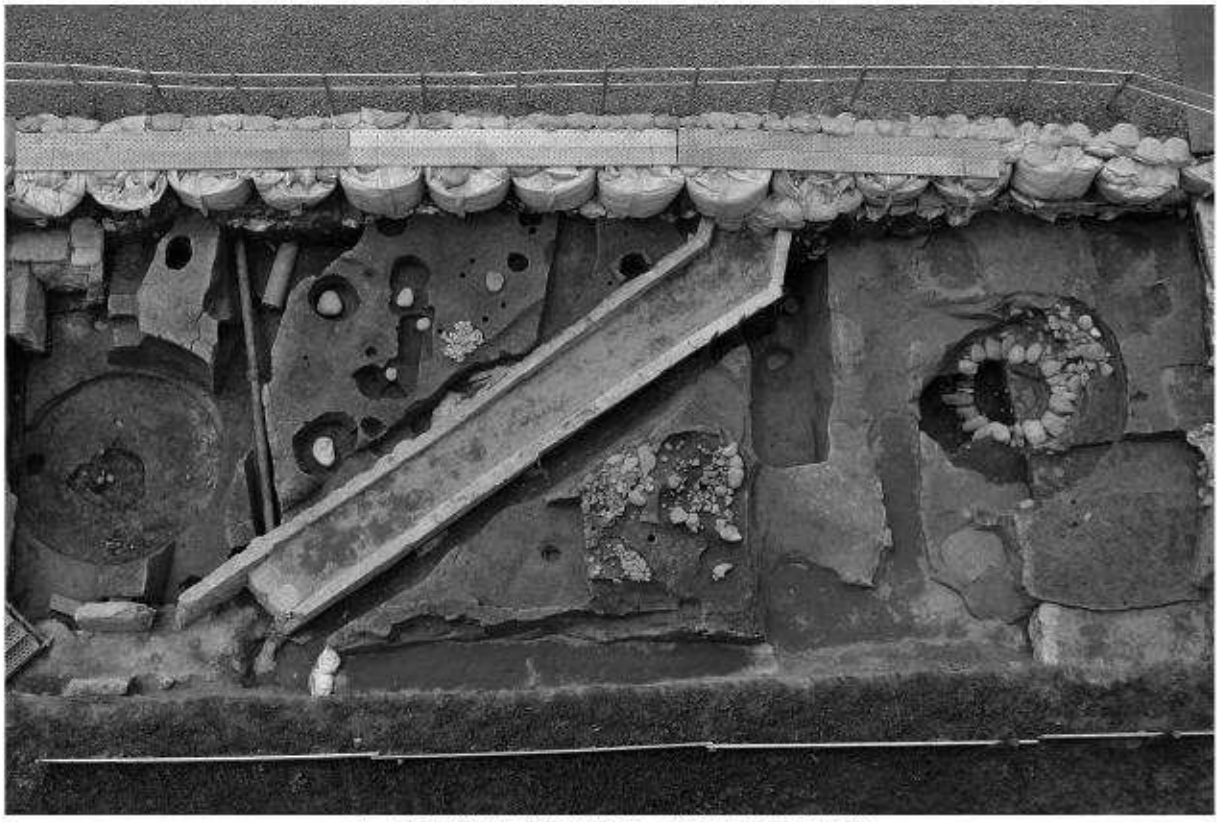
2．調査最終状況全景 2012年３月22日撮影(右側が北)

図版３　３区全景

Pl.3 Views of area 3



1．撹乱除去状況全景 2012年4月13日撮影(右側が北)



2．調査最終状況全景 2012年4月25日撮影(右側が北)

図版4　4区全景
Pl.4 Views of area 4

1．撹乱除去状況全景 2015年３月23日撮影（下が北）

2．調査最終状況全景 2015年６月８日撮影（下が北）

図版５　５・６区全景
Pl.5 Views of area 5・6

1．BB-12・13区2b層上面検出全景(下側が北)

2．BB-12・13区2b層完掘全景(下側が北)

3．BB-14～16区2b層完掘全景(下側が北)

4．BB-14～16区調査最終状況全景(下側が北)

5．BB-14～16区調査最終状況全景(上側が北)

図版６　６区全景

Pl.6 Views of area 6

撹乱除去状況全景 2015年３月26日撮影(右側が北)

図版７　７区全景(１)
Pl.7 Views of area 7(1)

1．BH・BI-12～14区撹乱除去状況全景(右側が北)

2．BH・BI-12～14区調査最終状況全景(右側が北)

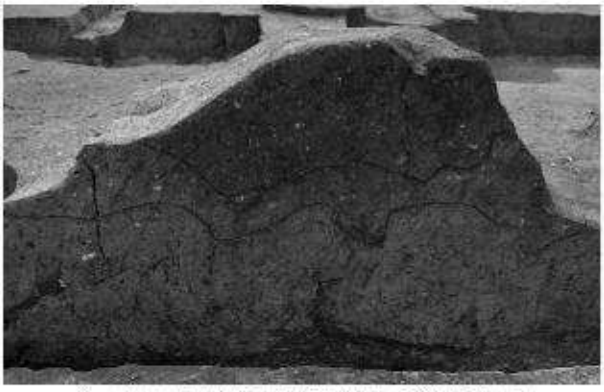
図版８　７区全景(２)
Pl.8 Views of area 7(2)

調査最終状況全景 2015年6月24日撮影(右側が北)

図版９　５～７区全景
Pl.9 Views of area 5-7

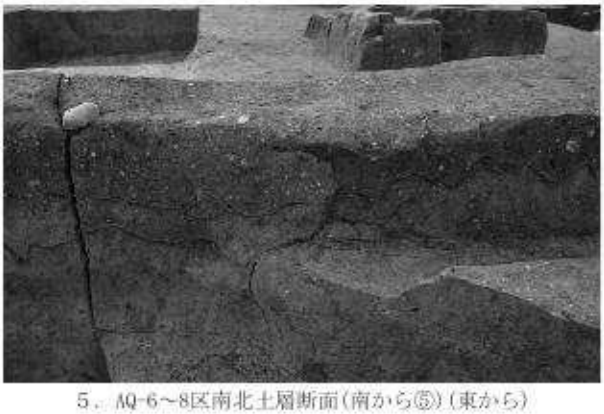
1．AQ-6～8区南北土層断面(南から①)(東から)

2．AQ-6～8区南北土層断面(南から②)(東から)



3．AQ-6～8区南北土層断面(南から③)(東から)

4．AQ-6～8区南北土層断面(南から④)(東から)



5．AQ-6～8区南北土層断面(南から⑤)(東から)

6．AQ-6～8区南北土層断面(南から⑥)(東から)

7．AQ-8・9区南北土層断面(南半分)(東から)

8．AQ-8・9区南北土層断面(北半分)(東から)

図版10　1 ～ 4区土層断面(1)

Pl.10 Cross section of area 1-4(1)

1．AQ-10・11区南北土層断面(南から①)(東から)

2．AQ-10・11区南北土層断面(南から②)(東から)

3．AQ-10・11区南北土層断面(南から③)(東から)

4．AS・AT-10・11区東西土層断面(西から①)(南から)

5．AS・AT-10・11区東西土層断面(西から②)(南から)

6．AS・AT-10・11区東西土層断面(西から③)(南から)

7．AS・AT-10・11区東西土層断面(西から④)(南から)

8．AP～AR-10区東西土層断面(東から①)(北から)

図版11　1 ～ 4区土層断面(2)

Pl.11 Cross section of area 1-4(2)

1．AP～AR-10区東西土層断面(東から②)(北から)

2．AP～AR-10区東西土層断面(東から③)(北から)

3．AN～AP-10区東西土層断面(東から①)(北から)

4．AN～AP-10区東西土層断面(東から②)(北から)

5．AN～AP-10区東西土層断面(東から③)(北から)

6．AN～AP-10区東西土層断面(東から④)(北から)

7．AN～AP-10区東西土層断面(東から⑤)(北から)

8．AN～AP-10区東西土層断面(東から⑥)(北から)

図版12　1 ～ 4区土層断面(3)

Pl.12 Cross section of area 1-4(3)

1．BA・BB-13区東西土層断面(西から①)(北から)

2．BA・BB-13区東西土層断面(西から②)(北から)

3．AS・AT-13区東西土層断面(西から①)(北から)

4．AS・AT-13区東西土層断面(西から②)(北から)

5．AS・AT-13区東西土層断面(西から③)(北から)

6．AR・AS-13区東西土層断面(西から①)(北から)

7．AR・AS-13区東西土層断面(西から②)(北から)

8．AQ・AR-13区東西土層断面(西から①)(北から)

図版13　5 ～ 7 区土層断面(1)

Pl.13 Cross section of area 5-7(1)

1．AQ・AR-13区東西土層断面(西から②)(北から)

2．AP・AQ-13区東西土層断面(西から①)(北から)

3．AP・AQ-13区東西土層断面(西から②)(北から)

4．AP-12～14区南北土層断面(北から①)(西から)

5．AP-12～14区南北土層断面(北から②)(西から)

6．AP-12～14区南北土層断面(北から③)(西から)

7．AP-12～14区南北土層断面(北から④)(西から)

8．AP-12～14区南北土層断面(北から⑤)(西から)

図版14　5 ～ 7 区土層断面(2)

Pl.14 Cross section of area 5-7(2)

1．A0・AP-13区東西土層断面(南から①)(東から)

2．A0・AP-13区東西土層断面(南から②)(東から)

3．BB12～14区南北土層断面(北半分)(東から)

4．BB12～14区南北土層断面(南半分)(東から)

5．BB-14区南北土層断面(2a-2層部分)(西から)

6．BB-14区南北土層断面(2b層部分)(西から)

7．BB-15・16区南北土層断面(2a-2層部分)(西から)

8．BB-15・16区南北土層断面(2b層部分)(西から)

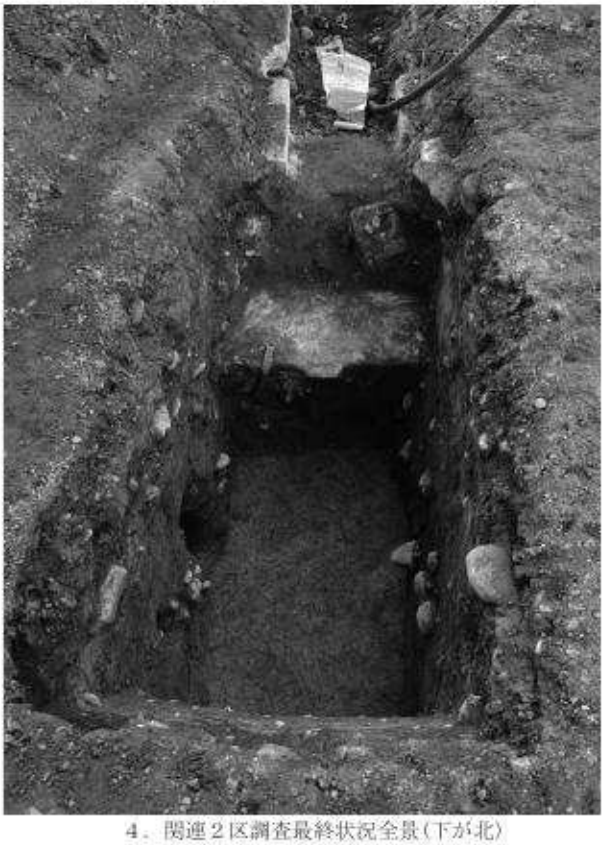
図版15　5 ～ 7 区土層断面(3)

Pl.15 Cross section of area 5-7(3)

1．BB・BC-13区東西土層断面(北から)

2．BB-13区南北土層断面(東から)

3．関連１区調査最終状況全景(右側が北)



4．関連２区調査最終状況全景(下が北)

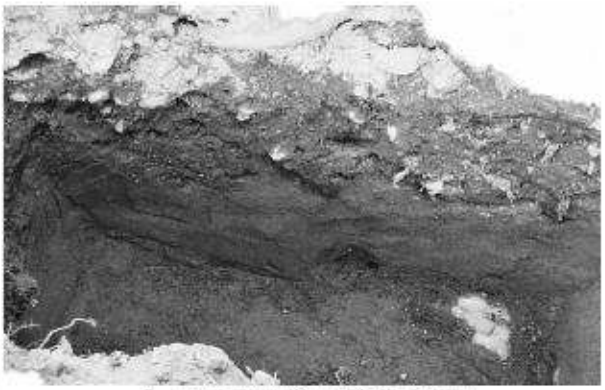
5．関連１区東壁土層断面(西から)

6．関連２区西壁土層断面(東から)

図版16　５～７区土層断面(４)・関連調査区全景・土層断面

Pl.16 Views and cross section of area 5-7 and around excavated area

1．関連３区調査最終状況全景(上が北)



2．関連３区東壁土層断面(西から)

3．関連４区遺構検出全景(下が北)

4．関連４区遺構断面(南から)

5．関連４区調査最終状況全景(右側が北東)

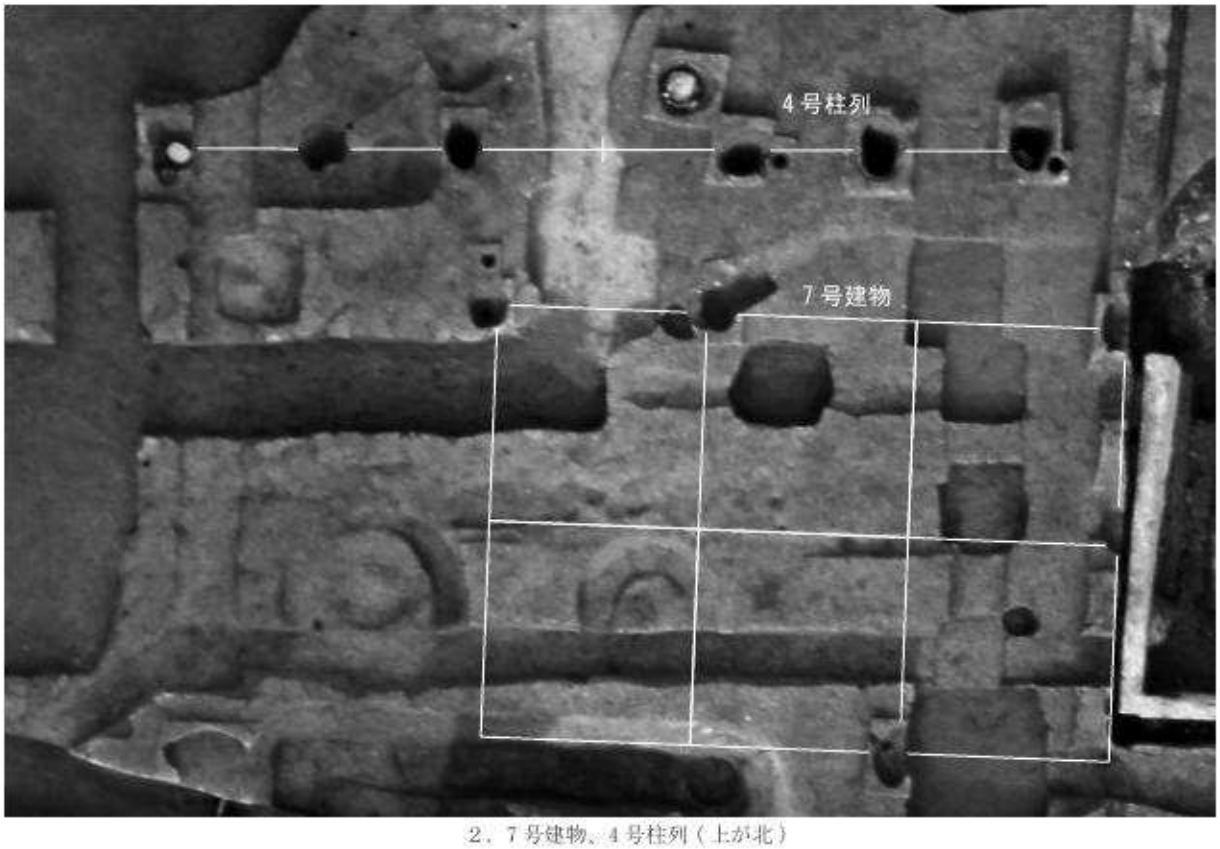
6．関連５区調査最終状況全景(右側が北)

7．関連５区北壁土層断面(南から)

図版17　関連調査区全景・土層断面

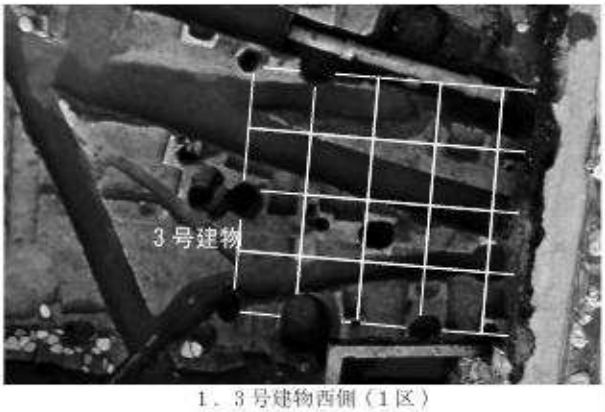
Pl.17 Views and cross section of around excavated area

1．1号建物北側（1区）、4号建物（上が北）

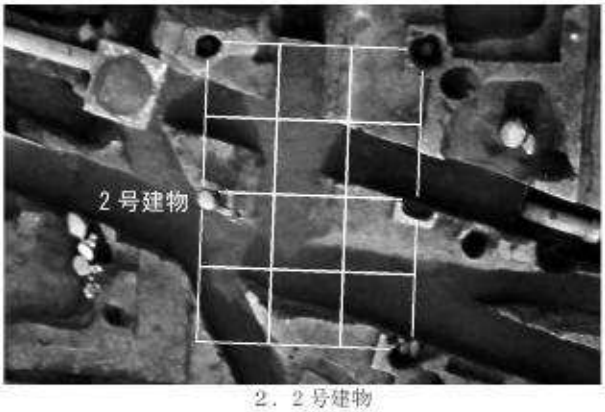


2．7号建物、4号柱列（上が北）

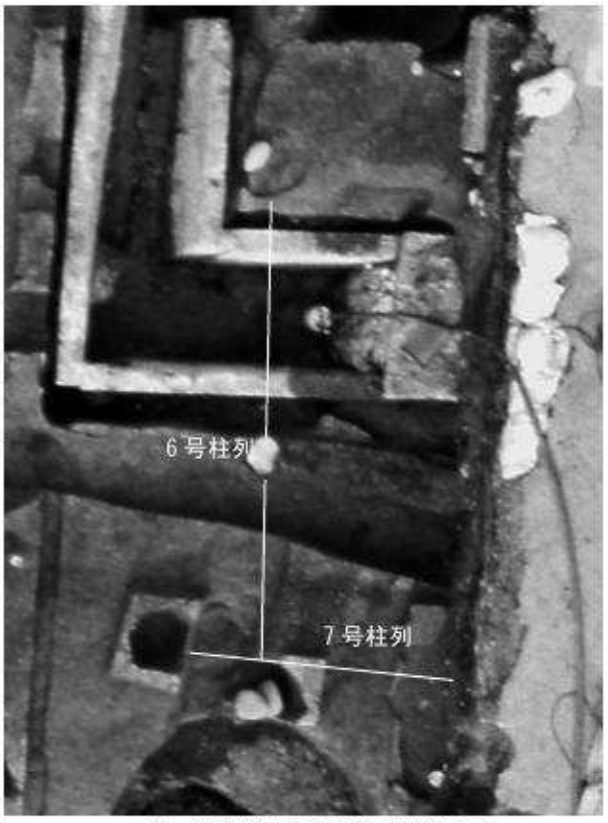
図版18　1・2区の建物・柱列
Pl.18　Building and line of pillars of area 1 and 2



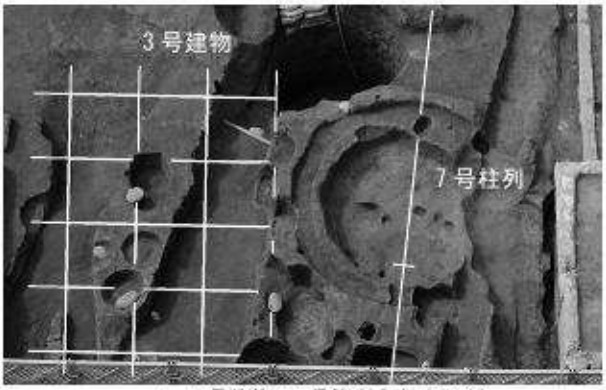
1．3号建物西側（1区）



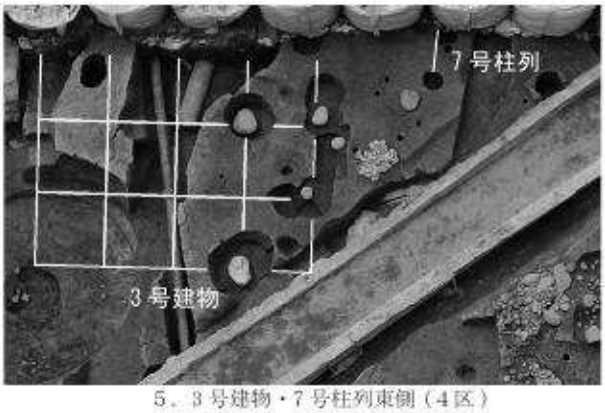
2．2号建物



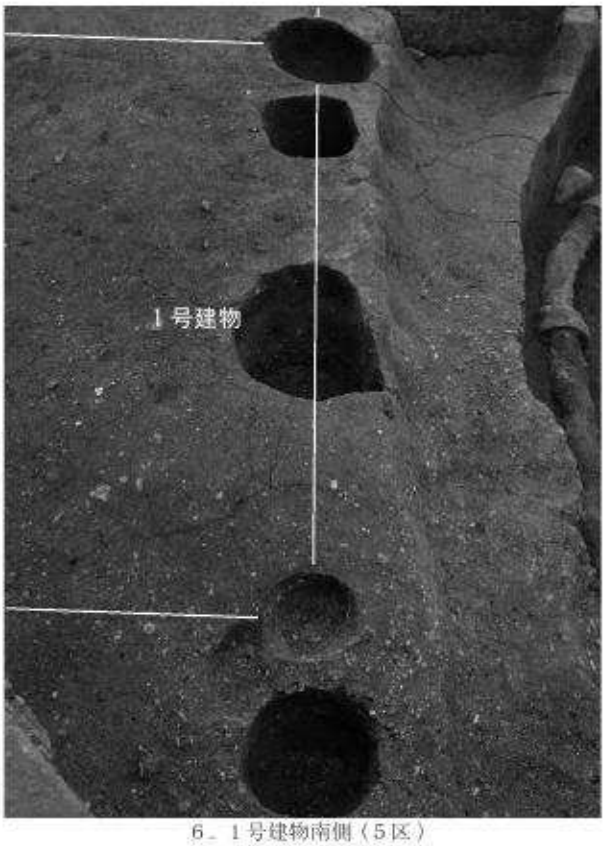
3．6号柱列、7号柱列西側（1区）



4．3号建物・7号柱列中央（3区）



5．3号建物・7号柱列東側（4区）



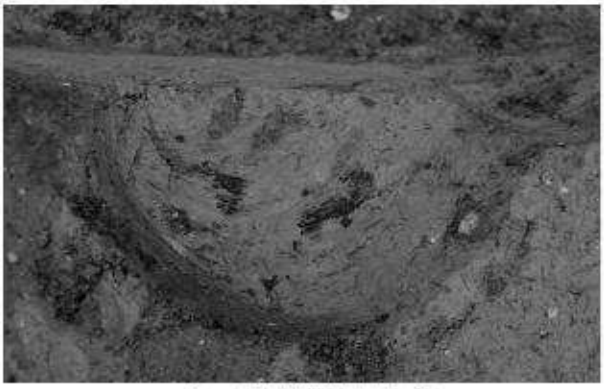
6．1号建物南側（5区）

1～3・6上が北、4・5は右が北

図版19　1～5区の建物・柱列

Pl.19　Building and line of pillars of area 1-5

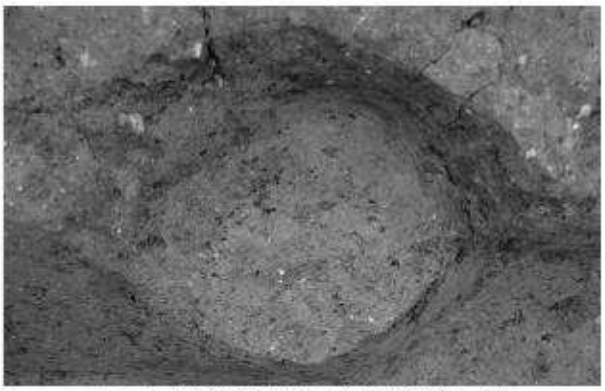
1．５区の建物・柱列（下が北）



2．１号建物柱１(北から)

3．１号建物柱１断面(南から)

4．１号建物柱２(北から)

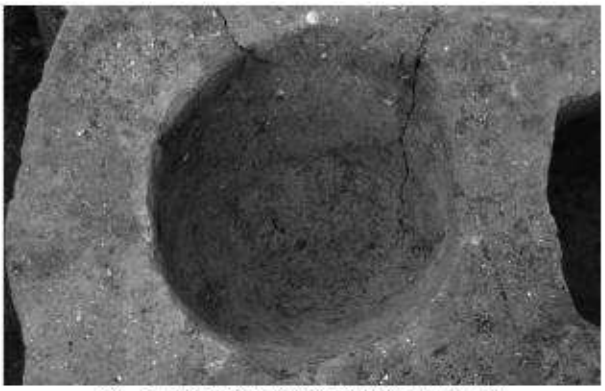


5．１号建物柱２礎板石除去状況(南から)

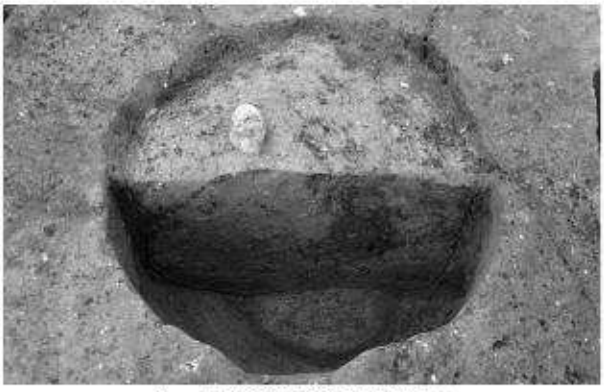
図版20　５区の建物・柱列・Ⅰ期の遺構(１)

Pl.20 Building and line of pillars of area 5. Features of phase I(1)

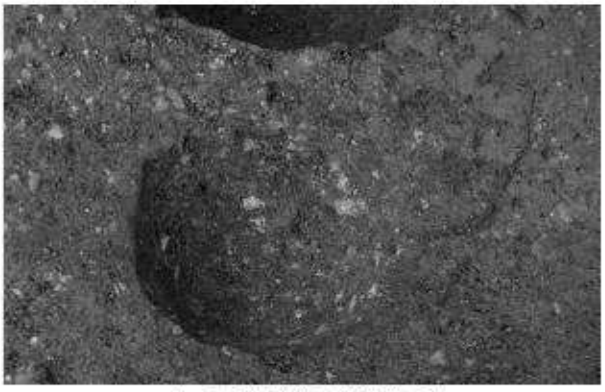
1．１号建物柱３(西から)



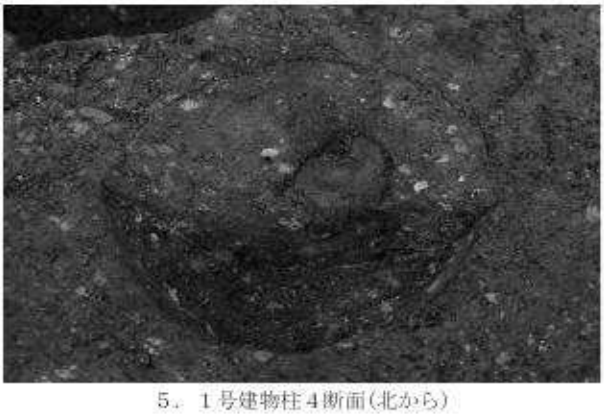
2．１号建物柱３礎板石除去状況(西から)



3．１号建物柱３断面(西から)



4．１号建物柱４(北西から)



5．１号建物柱４断面(北から)

6．３号建物柱１(西から)

7．３号建物柱１断面(北から)

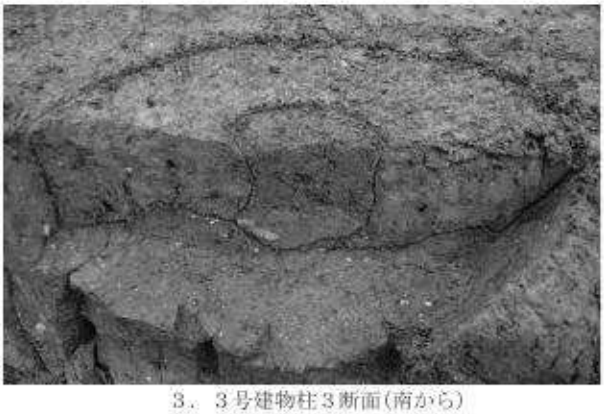
8．３号建物柱２(北から)

図版21　Ⅰ期の遺構(２)

Pl.21 Features of phase Ⅰ(2)

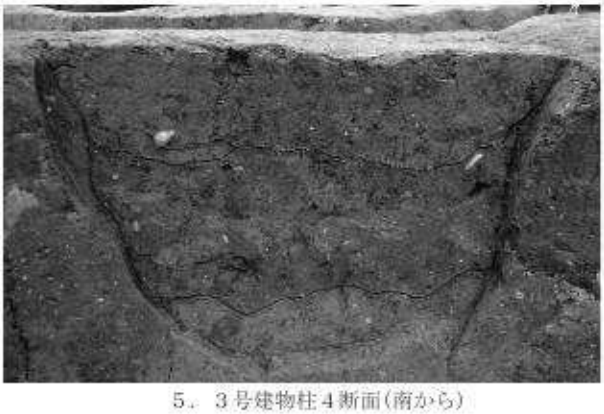
1．３号建物柱２断面(北から)

2．３号建物柱３(北から)



3．３号建物柱３断面(南から)

4．３号建物柱４(南から)



5．３号建物柱４断面(南から)

6．３号建物柱５(北から)

7．３号建物柱５断面(北から)

8．３号建物柱６(北から)

図版22　Ⅰ期の遺構(３)

Pl.22 Features of phase Ⅰ(3)

1．３号建物柱６断面(南から)

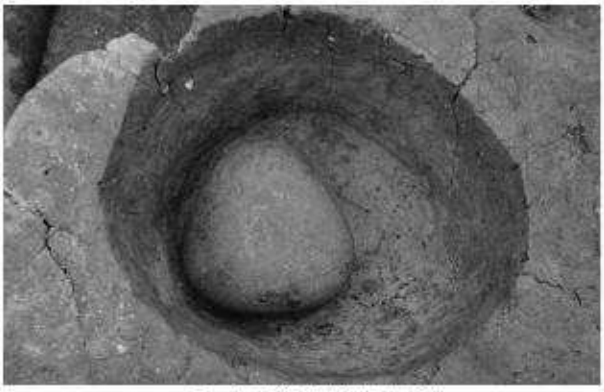
2．３号建物柱６木材検出状況(北から)

3．３号建物柱７(西から)

4．３号建物柱７断面(東から)

5．３号建物柱８(南から)

6．３号建物柱８断面(南から)

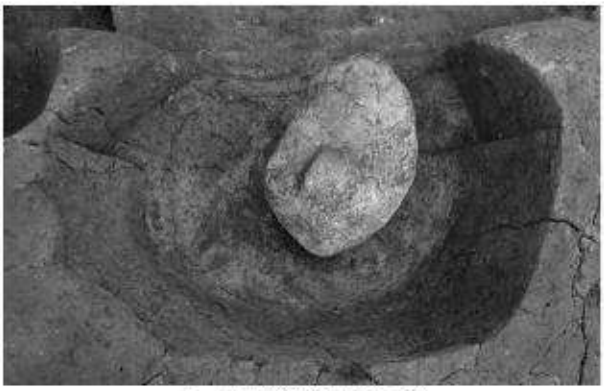


7．３号建物柱９(北から)

8．３号建物柱９断面(西から)

図版23　Ⅰ期の遺構(４)

Pl.23 Features of phase Ⅰ(4)



1．３号建物柱10(西から)

2．３号建物柱10断面(東から)

3．３号建物柱11(左側)(南から)

4．３号建物柱11断面(南から)

5．３号建物柱12(北から)

6．３号建物柱12断面(南から)

7．３号建物柱13(東から)

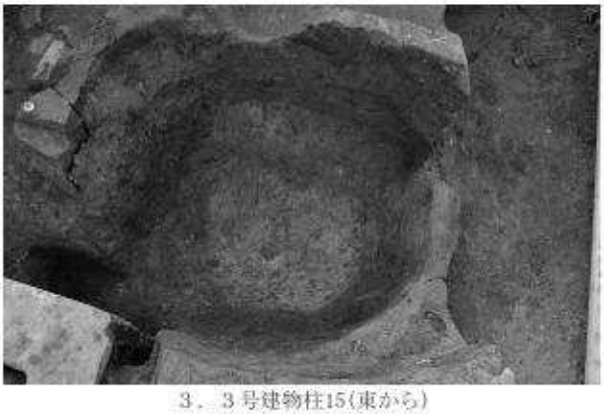
8．３号建物柱13断面(北から)

図版24　Ⅰ期の遺構(５)

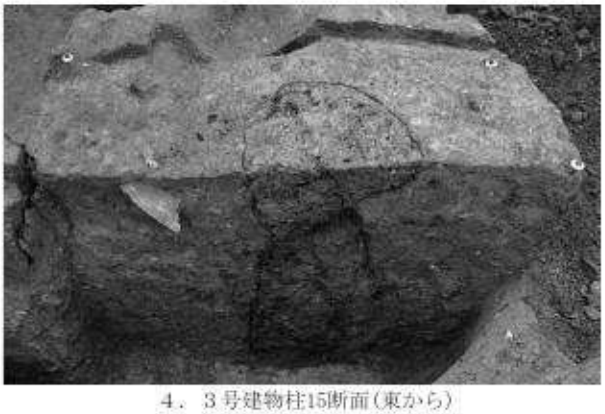
Pl.24 Features of phase Ⅰ(5)

1．３号建物柱14(東から)

2．３号建物柱14断面(北西から)



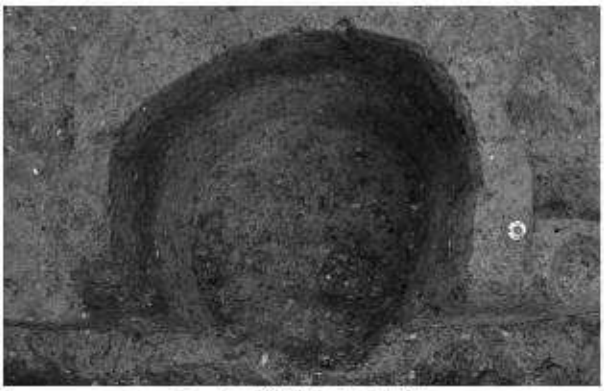
3．３号建物柱15(東から)



4．３号建物柱15断面(東から)

5．３号建物柱16(北から)

6．３号建物柱16断面(南から)

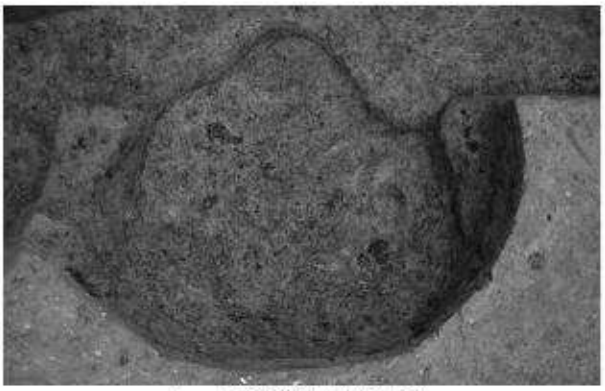


7．３号建物柱17(南から)

8．３号建物柱17断面(南から)

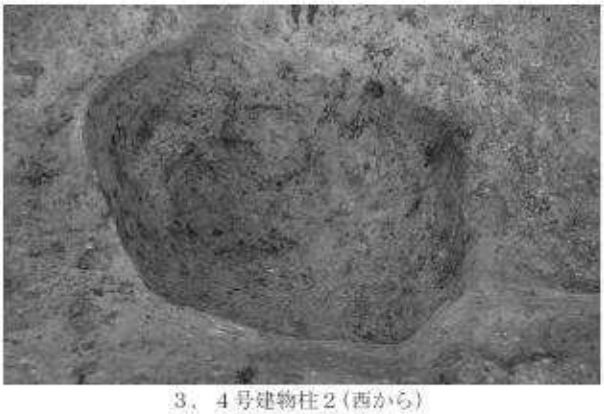
図版25　Ⅰ期の遺構(６)

Pl.25 Features of phase Ⅰ(6)

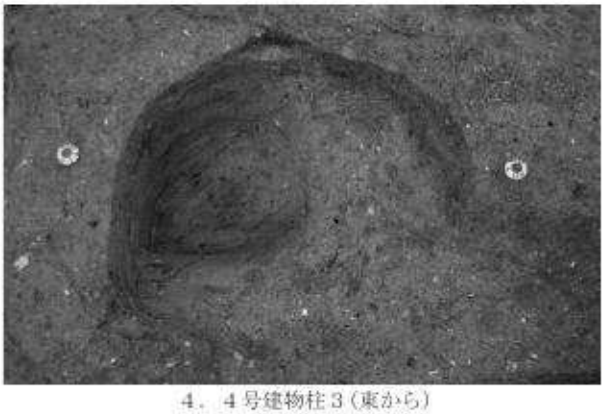


1．４号建物柱１(東から)

2．４号建物柱１断面(西から)

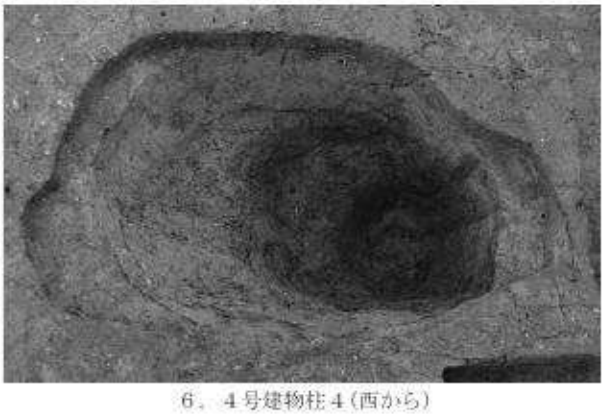


3．４号建物柱２(西から)



4．４号建物柱３(東から)

5．４号建物柱３断面(東から)



6．４号建物柱４(西から)

7．４号建物柱４断面(東から)

8．４号建物柱５(南から)

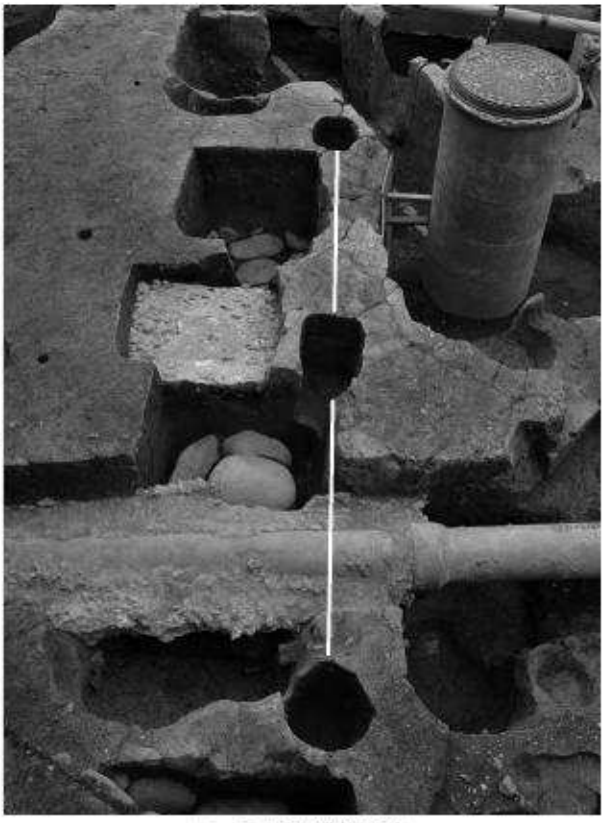
図版26　Ⅰ期の遺構(７)

Pl.26 Features of phase Ⅰ(7)

1．４号建物柱５断面(南から)

2．４号建物柱６(西から)

3．４号建物柱６断面(西から)



5．５号柱列(南から)

4．５号柱列柱１(西から)

6．５号柱列柱１断面(西から)

7．５号柱列柱２(北から)

図版27　Ⅰ期の遺構(８)

Pl.27 Features of phase Ⅰ(8)

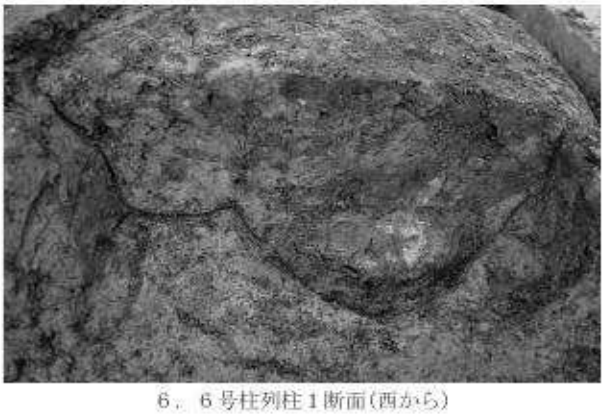
1．５号柱列柱２礎板石除去状況(北から)

2．５号柱列柱２断面(北から)

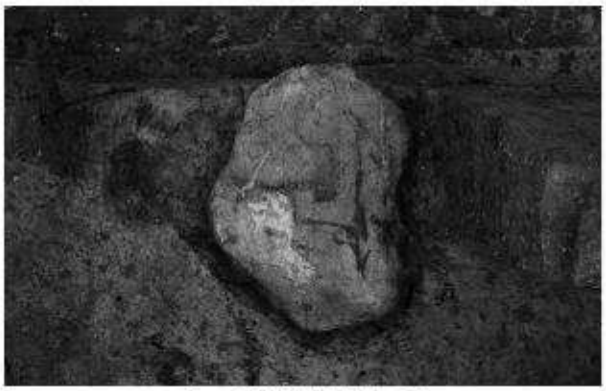
3．５号柱列柱３(南から)

4．５号柱列柱３断面(西から)

5．６号柱列柱１(西から)



6．６号柱列柱１断面(西から)



7．６号柱列柱２(南から)

8．６号柱列柱２断面(北から)

図版28　Ⅰ期の遺構(９)

Pl.28 Features of phase Ⅰ(9)

1．6号柱列柱3(北から)

2．6号柱列柱3断面(南西から)

3．8号柱列柱1(西から)

4．8号柱列柱1断面(南から)

5．8号柱列柱2(北から)

6．8号柱列柱2断面(南から)

7．8号柱列柱3(南から)

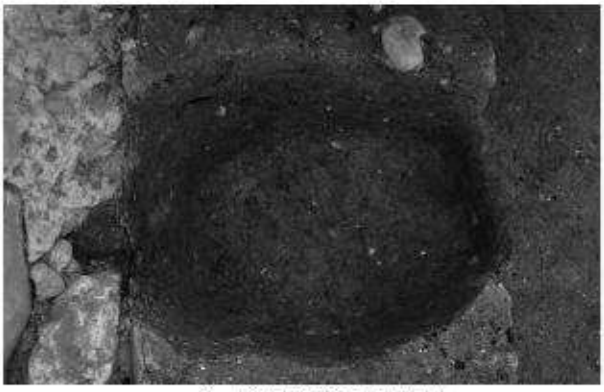
8．8号柱列柱3断面(北から)

図版29　Ⅰ期の遺構(10)

Pl.29 Features of phase Ⅰ(10)

1．10号柱列柱１(西から)

2．10号柱列柱１断面(西から)



3．10号柱列柱２(東から)

4．10号柱列柱２断面(北から)

5．２号池状遺構(南から)

図版30　Ⅰ期の遺構(11)
Pl.30 Features of phase I(11)